

福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告

雀居遺跡 2

福岡市埋蔵文化財調査報告書第406集

1995

福岡市教育委員会

雀居遺跡 2

福岡市埋蔵文化財調査報告書第406集



遺跡調査番号 9241

遺跡略号 SAS 4

1995

福岡市教育委員会



▲(1)雀居遺跡第4次調査全景（西から）

▼(2)雀居遺跡第4次調査全景（北から）



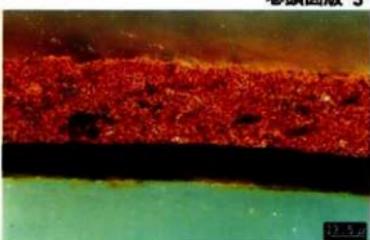
巻頭図版 2



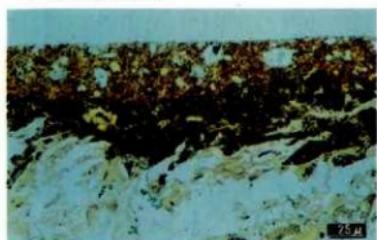
1-12: SX12 4-6: SX08 2-10-11: II区SD03下層 3-5: I区SD03下層 7:B4包含層10層 8-9: I区SD03上層



1 No.1 把手付容器



5 No.4 弓



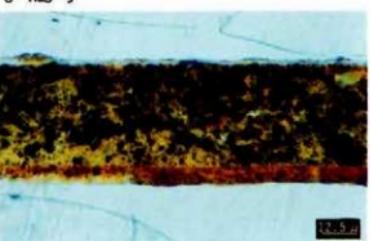
2 No.2 垂直?



6 No.5 弓



3 No.3 弓



7 No.6 弓

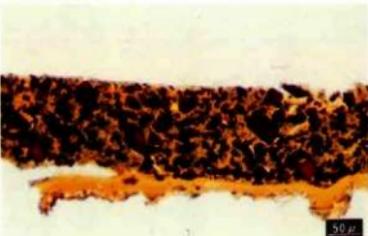


4 No.4 弓

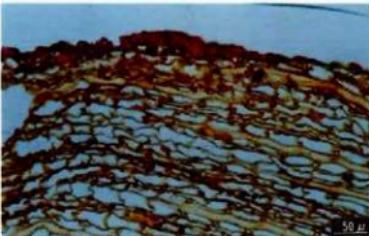


8 No.7 弓

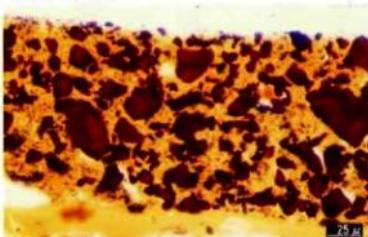
塗膜図版 4



9 No.8 把頭飾



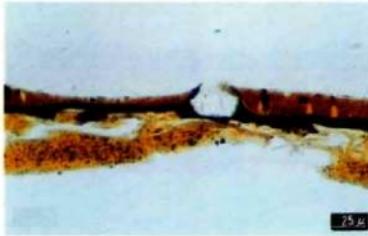
13 No.10 杓



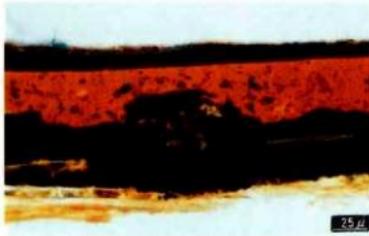
10 No.9 把頭飾



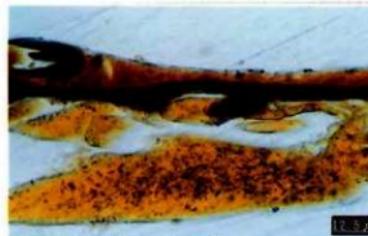
14 No.11 筒形容器の蓋



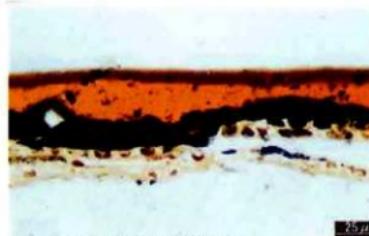
11 No.9 容器？（漆膜のみ）



15 No.12 筒形容器の蓋（外面）



12 No.9 容器？（漆膜のみ）



16 No.12 筒形容器の蓋（内面）

序

福岡空港は、国の拠点空港のひとつであり、近年、乗降客数、航空貨物輸送とも著しい伸びを示しています。また、アジア・太平洋の経済・文化などの交流の窓口として、今後ますます重要な役割を果たすことが期待され、現在整備が進められているところです。

このたび、国際線整備に伴い防衛関係施設が移転することになり、移転先の雀居遺跡の一部を発掘調査いたしました。

調査の結果、縄文晩期終末の農工具類や漆製品、弥生後期の環濠に囲まれた大型掘立柱建物、環濠内からは農工具類とともに机や木のよろい、盾、銅鑓などわが国の弥生文化を考える上で重要な遺構・遺物が数多く発見されました。

本書は、これらの発掘調査の成果を収録したものです。本書が、埋蔵文化財に対する市民の方々のご理解、さらには学術研究上役立つことができれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理に至るまで福岡防衛施設局をはじめ、多くの方々のご理解とご協力を賜わりましたことに対し、心より感謝の意を表します。

平成7年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 尾花剛

例　　言

1. 本書は、福岡空港西側整備事業に伴い、福岡防衛施設局の受託事業として福岡市教育委員会が1992（平成4）年10月19日から1993年3月31日にかけて発掘調査を実施した、雀居遺跡の第4次緊急発掘調査の報告書である。
2. 第4次調査によって出土した遺物は膨大で、期間内に充分整理することができなかった。したがって割愛せざるを得なかつた遺物も多い。木製品についてはまとめて別途報告したいと考えている。
3. 遺構の呼称は記号化し、掘立柱建物→SB、竪穴住居址→SC、土坑→SK、溝→SD、その他の遺構→SX、ピット→SPとした。なお、遺構番号は種類に関係なく連番とした。ただし、SPはSPだけで番号を付している。
4. 本書に使用した遺構図作成及び現場写真撮影、遺物実測図作成は、下村智、吉留秀敏、宮井善朗、菅波正人、長家伸、池田祐司、榎本義嗣、屋山洋、上方高弘、井英明、吉田香代、佐田裕一があたつた。石器については埋蔵文化財センターの小畠弘己氏にお願いした。製図は、下村智、上方高弘、鳥飼悦子、末次由紀恵、若林由紀子、茨木式子、酒井香代子、吉田香代が行なつた。遺物写真的撮影は、埋蔵文化財センターの二宮忠司氏、小畠弘己氏と上方高弘による。
5. 本書で用いる遺構図の方位は全て磁北である。また。レベル高は、第四港湾建設局博多港工事事務所が空港内に設置したH=6.001mから移動した。
6. 大型建物の建築技法、木製品の年代推定、漆製品の塗膜についてはそれぞれ専門の立場での分析をお願いし、分析結果を収録している。
7. 雀居遺跡第4次調査に係る遺物・記録類（図面、写真、スライドなど）は、報告終了後、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・管理される予定である。
8. 本書の執筆・編集は、関係者と協議のうえ下村が行なつた。

遺跡調査番号	9241		遺跡略号	SAS 4	
調査地地籍	博多区大字雀居（福岡空港内）		分布地図番号	022	
開発面積	100,000m ²	調査対象面積	2,983m ²	調査実施面積	2,560m ²
調査期間	1992年10月19日～1993年3月31日		事前審査番号	3-1-417	

本文目次

Iはじめに	
1 調査に至る経過	1
2 調査の組織	1
II遺跡の立地と環境	3
III調査の記録	
概要	5
1 掘立柱建物（SB）	6
2 土坑（SK、SX、SC）	25
3 溝（SD）	50
4 出土遺物	119
1) 土器	119
2) 石器（小畠弘己）	153
3) 石製品（小畠弘己）	166
4) 青銅器	173
5) 鉄器	173
6) 土製品	173
7) ガラス製品	174
8) 骨製品	174
9) 木製品	174
IV特論	
1 弥生時代後期における大型建物の建築技法（九州大学工学部建築学科 山本輝雄）	175
2 年輪年代法による雀居遺跡出土木製品の年代推定（奈良国立文化財研究所 光谷拓実）	179
3 雀居遺跡第4次調査出土漆製品の漆膜について（鶴京都市埋蔵文化財研究所 岡田文男 福岡市埋蔵文化財センター 本田光子 宮内庁正倉院事務所 成瀬正和）	181
Vおわりに	185

挿 図 目 次

Fig. 1	周辺遺跡分布図 (1/50,000)	2
Fig. 2	調査地点周辺旧地形図 (明治33年)	4
Fig. 3	遺跡周辺地形測量図 (1/40,00)	5
Fig. 4	土層断面実測図 (1/60)	6
Fig. 5	第4次調査遺構分布図	7
Fig. 6	第4次調査掘立柱建物配置図	8
Fig. 7	SB07遺構実測図 (1/60)	9
Fig. 8	SB09遺構実測図 (1/60)	10
Fig. 9	SB47遺構実測図 (1/60)	10
Fig. 10	SB48遺構実測図 (1/60)	11
Fig. 11	SB49遺構実測図 (1/60)	12
Fig. 12	SB50遺構実測図 (1/100)	折込①
Fig. 13	SB51遺構実測図 (1/60)	折込①
Fig. 14	SB52遺構実測図 (1/60)	折込①
Fig. 15	SB53遺構実測図 (1/60)	13
Fig. 16	SB54遺構実測図 (1/60)	13
Fig. 17	SB55遺構実測図 (1/60)	14
Fig. 18	SB56遺構実測図 (1/60)	14
Fig. 19	SB57遺構実測図 (1/60)	15
Fig. 20	SB58遺構実測図 (1/60)	15
Fig. 21	SB60遺構実測図 (1/60)	16
Fig. 22	SB61遺構実測図 (1/60)	16
Fig. 23	SB63遺構実測図 (1/60)	16
Fig. 24	SB62遺構実測図 (1/60)	17
Fig. 25	SB64遺構実測図 (1/60)	17
Fig. 26	SB65遺構実測図 (1/60)	18
Fig. 27	SB66遺構実測図 (1/60)	18
Fig. 28	SB68遺構実測図 (1/60)	18
Fig. 29	SB67遺構実測図 (1/60)	19
Fig. 30	SB69遺構実測図 (1/60)	20
Fig. 31	SB70遺構実測図 (1/60)	20
Fig. 32	掘立柱建物群出土遺物実測図 (1/4)	21
Fig. 33	SX06・14~18, SK19・22・24~27遺構実測図 (1/60)	26
Fig. 34	SK20・29~31・36~38・40~43・45遺構実測図 (1/60)	27
Fig. 35	SK19出土遺物実測図 (1/4)	28
Fig. 36	SK20出土遺物実測図① (1/4)	29

Fig. 37	SK20出土遺物実測図② (1 / 4)	30
Fig. 38	SK32遺構実測図 (1 / 30)	30
Fig. 39	SK22・24出土遺物実測図 (1 / 4)	31
Fig. 40	SK25・26・28出土遺物実測図 (1 / 4)	32
Fig. 41	SK30・32・43出土遺物実測図 (1 / 4)	33
Fig. 42	SX04・08・11・12遺物出土状況実測図 (1 / 150)	34
Fig. 43	SX04出土遺物実測図① (1 / 4)	35
Fig. 44	SX04出土遺物実測図② (1 / 4)	36
Fig. 45	SX04出土遺物実測図③ (1 / 4)	37
Fig. 46	SX06出土遺物実測図 (1 / 4)	38
Fig. 47	SX11出土遺物実測図 (1 / 4)	38
Fig. 48	SX08出土遺物実測図 (1 / 4)	39
Fig. 49	SX12出土遺物実測図 (1 / 4)	40
Fig. 50	SX13出土遺物実測図① (1 / 4)	41
Fig. 51	SX13出土遺物実測図② (1 / 4)	42
Fig. 52	SX13出土遺物実測図③ (1 / 4)	43
Fig. 53	SX13出土遺物実測図④ (1 / 4)	44
Fig. 54	T15下部遺構出土遺物実測図① (1 / 4)	45
Fig. 55	T15下部遺構出土遺物実測図② (1 / 4)	46
Fig. 56	SX18・SK20出土遺物実測図 (1 / 4)	47
Fig. 57	SC05遺物出土状況実測図 (1 / 150)	48
Fig. 58	SC05土層断面実測図 (1 / 60)	48
Fig. 59	SC05出土遺物実測図 (1 / 4)	49
Fig. 60	I区SD02内壌状遺構実測図 (1 / 60)	51
Fig. 61	I区SD02土層断面実測図 (1 / 60)	51
Fig. 62	I区SD02遺物出土状況実測図 (1 / 150)	51
Fig. 63	I区SD02出土遺物実測図① (1 / 6)	53
Fig. 64	I区SD02出土遺物実測図② (1 / 4)	54
Fig. 65	I区SD02出土遺物実測図③ (1 / 4・1 / 6)	55
Fig. 66	I区SD02出土遺物実測図④ (1 / 4・1 / 6)	56
Fig. 67	I区SD02出土遺物実測図⑤ (1 / 4)	57
Fig. 68	I区SD02出土遺物実測図⑥ (1 / 4)	58
Fig. 69	I区SD02出土遺物実測図⑦ (1 / 4)	59
Fig. 70	I区SD02出土遺物実測図⑧ (1 / 4)	60
Fig. 71	I区SD02出土遺物実測図⑨ (1 / 4)	61
Fig. 72	I区SD02出土遺物実測図⑩ (1 / 4)	62
Fig. 73	I区SD03遺物出土状況実測図 (下層①) (1 / 150)	64
Fig. 74	I区SD03土層断面実測図 (1 / 60)	64
Fig. 75	I区SD03遺物出土状況実測図 (下層②) (1 / 150)	65
Fig. 76	I区SD03出土遺物実測図 (1 / 4)	66

Fig. 77	I 区SD03出土遺物実測図② (1 / 4)	67
Fig. 78	I 区SD03出土遺物実測図③ (1 / 4 · 1 / 6)	68
Fig. 79	I 区SD03出土遺物実測図④ (1 / 4)	69
Fig. 80	I 区SD03出土遺物実測図⑤ (1 / 4)	70
Fig. 81	I 区SD03出土遺物実測図⑥ (1 / 4)	71
Fig. 82	I 区SD03出土遺物実測図⑦ (1 / 4)	72
Fig. 83	I 区SD03出土遺物実測図⑧ (1 / 4 · 1 / 6)	73
Fig. 84	T 8 拡張区包含層・崩土出土遺物実測図 (1 / 4)	74
Fig. 85	II 区SD03土層断面実測図 (1 / 60)	74
Fig. 86	II 区SD03遺物出土状況実測図 (上層下①) (1 / 150)	75
Fig. 87	II 区SD03遺物出土状況実測図 (上層下②) (1 / 150)	75
Fig. 88	II 区SD03出土遺物実測図① (1 / 6)	77
Fig. 89	II 区SD03出土遺物実測図② (1 / 6)	78
Fig. 90	II 区SD03出土遺物実測図③ (1 / 6)	79
Fig. 91	II 区SD03出土遺物実測図④ (1 / 6)	80
Fig. 92	II 区SD03出土遺物実測図⑤ (1 / 4)	81
Fig. 93	II 区SD03出土遺物実測図⑥ (1 / 4)	82
Fig. 94	II 区SD03出土遺物実測図⑦ (1 / 4)	83
Fig. 95	II 区SD03出土遺物実測図⑧ (1 / 4)	84
Fig. 96	II 区SD03出土遺物実測図⑨ (1 / 4)	85
Fig. 97	II 区SD03出土遺物実測図⑩ (1 / 4)	86
Fig. 98	II 区SD03出土遺物実測図⑪ (1 / 4)	87
Fig. 99	II 区SD03出土遺物実測図⑫ (1 / 4)	88
Fig. 100	II 区SD03出土遺物実測図⑬ (1 / 4)	89
Fig. 101	II 区SD03出土遺物実測図⑭ (1 / 4)	90
Fig. 102	II 区SD03出土遺物実測図⑮ (1 / 4)	91
Fig. 103	II 区SD03出土遺物実測図⑯ (1 / 4)	92
Fig. 104	II 区SD03出土遺物実測図⑰ (1 / 4)	93
Fig. 105	II 区SD03出土遺物実測図⑱ (1 / 4)	94
Fig. 106	II 区SD03出土遺物実測図⑲ (1 / 4)	95
Fig. 107	II 区SD03出土遺物実測図⑳ (1 / 4)	96
Fig. 108	II 区SD03出土遺物実測図㉑ (1 / 4)	97
Fig. 109	II 区SD03出土遺物実測図㉒ (1 / 4)	98
Fig. 110	II 区SD03出土遺物実測図㉓ (1 / 4)	99
Fig. 111	II 区SD03出土遺物実測図㉔ (1 / 4)	100
Fig. 112	II 区SD03出土遺物実測図㉕ (1 / 4)	101
Fig. 113	II 区SD03出土遺物実測図㉖ (1 / 4)	102
Fig. 114	II 区SD03出土遺物実測図㉗ (1 / 4 · 1 / 6)	103
Fig. 115	II 区SD03出土遺物実測図㉘ (1 / 4)	104
Fig. 116	II 区SD03出土遺物実測図㉙ (1 / 4)	105

Fig. 117 II区SD03出土遺物実測図⑩ (1/4・1/6)	106
Fig. 118 II区SD03出土遺物実測図⑪ (1/4・1/6)	107
Fig. 119 II区SD03出土遺物実測図⑫ (1/4)	108
Fig. 120 II区SD03出土遺物実測図⑬ (1/4)	109
Fig. 121 II区SD03出土遺物実測図⑭ (1/4)	110
Fig. 122 II区SD03出土遺物実測図⑮ (1/4)	111
Fig. 123 II区SD03出土遺物実測図⑯ (1/4・1/6)	112
Fig. 124 SD21出土遺物実測図 (1/4)	114
Fig. 125 SD34出土遺物実測図 (1/4・1/6)	114
Fig. 126 SD35出土遺物実測図 (1/4・1/6)	115
Fig. 127 SD39出土遺物実測図 (1/4)	115
Fig. 128 各遺構出土彩文土器実測図① (1/2)	117
Fig. 129 各遺構出土彩文土器実測図② (1/2・1/4)	118
Fig. 130 各遺構・包含層出土遺物実測図① (1/4)	120
Fig. 131 各遺構・包含層出土遺物実測図② (1/4)	121
Fig. 132 各遺構・包含層出土遺物実測図③ (1/4・1/6)	122
Fig. 133 各遺構出土石製品・金属製品・ガラス製品・骨製品実測図 (1/1・1/2)	123
Fig. 134 各遺構出土土製品実測図① (1/2)	124
Fig. 135 各遺構出土土製品実測図② (1/2)	125
Fig. 136 各遺構出土土製品実測図③ (1/2)	126
Fig. 137 石器実測図① (2/3)	154
Fig. 138 石器実測図② (2/3)	155
Fig. 139 石器実測図③ (2/3)	156
Fig. 140 石器実測図④ (2/3)	157
Fig. 141 石器実測図⑤ (2/3)	158
Fig. 142 石器実測図⑥ (1/2)	159
Fig. 143 石器実測図⑦ (1/2)	160
Fig. 144 石器実測図⑧ (1/2)	162
Fig. 145 石器実測図⑨ (1/2)	163
Fig. 146 石器実測図⑩ (1/2)	164
Fig. 147 石器実測図⑪ (1/2)	165
Fig. 148 石器実測図⑫ (1/2)	166
Fig. 149 石器実測図⑬ (2/3)	167
Fig. 150 石器実測図⑭ (2/3)	168
Fig. 151 石器実測図⑮・石製品実測図 (2/3)	169
Fig. 152 組合式案(机)部材実測図① (1/3)	折込②
Fig. 153 組合式案(机)部材実測図② (1/3)	折込③

図版目次

- 卷頭図版 1 (1) 第4次調査区全景（西から）
(2) 第4次調査区全景（北から）

- 卷頭図版 2 (1) 漆塗り弓
(2) 漆塗り弓
(3) 漆塗り弓
(4) 漆塗り把頭飾盤部
(5) 漆塗り堅桶？
(6) 漆塗り弓
(7) 漆塗り容器？
(8) 漆塗り容器蓋
(9) 漆塗り容器蓋
(10) 丹塗り鉢
(11) 赤彩浅鉢
(12) 彩文壺

- 卷頭図版 3 (1) №1 把手付容器
(2) №2 堅桶？
(3) №3 弓
(4) №4 弓
(5) №4 弓
(6) №5 弓
(7) №6 弓
(8) №7 弓

- 卷頭図版 4 (1) №8 把頭飾
(2) №9 把頭飾
(3) №9 容器？（漆膜のみ）
(4) №9 容器？（漆膜のみ）
(5) №10案
(6) №11筒形容器の蓋
(7) №12筒形容器の蓋（外面）
(8) №12筒形容器の蓋（内面）

- PL. 1 (1) 第4次調査区全景（北から）
(2) 第4次調査区全景（西から）
PL. 2 (1) SB50大型掘立柱建物出土状況（北から）

- (2) SP18la (SB50) 中央柱穴出土状況（西から）
- PL. 3 (1) SP79 (SB50) 磁板出土状況
- (2) SP143 (SB50) 磁板出土状況
- (3) SP80 (SB50) 磁板出土状況
- (4) SP182 (SB50) 磁板出土状況
- (5) SP144 (SB50) 磁板出土状況
- (6) SP167 (SB50) 磁板出土状況
- PL. 4 (1) SB67~70出土状況（北から）
- (2) SB07出土状況（南から）
- PL. 5 (1) SP02 (SB07) 柱出土状況
- (2) SP24 (SB67) 磁板出土状況
- (3) SP03 (SB07) 柱出土状況
- (4) SP25 (SB67) 磁板出土状況
- (5) SP01 (SB07) 柱出土状況
- (6) SP52 (SB68) 磁板出土状況
- PL. 6 (1) SP43 (SB68) 磁板出土状況
- (2) SP71 (SB64) 磁板出土状況
- (3) SP42 (SB69) 磁板出土状況
- (4) SP70 (SB64) 磁板出土状況
- (5) SP78 (SB69) 磁板出土状況
- (6) SP66 (SB67) 磁板出土状況
- PL. 7 (1) SP16 (SB63) 磁板出土状況
- (2) SP13磁板出土状況
- (3) SP09 (SB63) 磁板出土状況
- (4) SP72 (SB65) 木屑出土状況
- (5) SP64 (SB69) 磁板・柱出土状況
- (6) SP506植物纖維出土状況
- PL. 8 (1) SB51出土状況（南から）
- (2) SB54出土状況（南から）
- PL. 9 (1) SP116 (SB51) 磁板出土状況
- (2) SP128 (SB54) 磁板出土状況
- (3) SP119 (SB51) 磁板出土状況
- (4) SP127 (SB54) 磁板出土状況
- (5) SP136 (SB51) 磁板出土状況
- (6) SP126 (SB54) 磁板出土状況
- PL. 10 (1) SB55・56・58出土状況（東から）
- (2) SB55~58出土状況（東から）
- PL. 11 (1) SP104 (SB55) 柱出土状況
- (2) SP95 (SB56) 磁板出土状況
- (3) SP97 (SB55) 柱出土状況

- (4) SP94 (SB56) 碇板・柱出土状況
 - (5) SP101 (SB55) 柱出土状況
 - (6) SP94 (SB56) 碇板・柱出土状況
- PL. 12 (1) SP122 (SB57) 碇板出土状況
- (2) SP110 (SB58) 碇板出土状況
 - (3) SP270 (SB49) 碇板出土状況
 - (4) SP113 (SB58) 碇板出土状況
 - (5) SP96 (SB58) 碇板出土状況
 - (6) SP109 (SB58) 碇板出土状況
- PL. 13 (1) SP83 (SB47) 碇板出土状況
- (2) SP149 (SB48) 碇板出土状況
 - (3) SP199 (SB47) 碇板出土状況
 - (4) SP114板状柱出土状況
 - (5) SP191礎板・柱出土状況
 - (6) SP463板状柱出土状況
- PL. 14 (1) 調査区北西壁土層堆積状況
- (2) 調査風景—通常の日—（南から）
- PL. 15 (1) SX04・08出土状況（南東から）
- (2) SC05出土状況（北から）
- PL. 16 (1) SX06出土状況（南から）
- (2) SX04・08出土状況（西から）
- PL. 17 (1) SX11出土状況（南から）
- (2) SX12出土状況（東から）
- PL. 18 (1) SX13杭列出土状況（北西から）
- (2) SX14出土状況（北から）
- PL. 19 (1) SX16出土状況（東から）
- (2) SK32出土状況（南から）
- PL. 20 (1) SX04鉛出土状況
- (2) SC05平鋸出土状況
 - (3) SX08木槌出土状況
 - (4) SC05組合式案（机）部材出土状況
 - (5) SX08三又鍊出土状況
 - (6) SX11二又鍊出土状況
- PL. 21 (1) SX12櫛状木製品出土状況
- (2) SX12鉛出土状況
 - (3) SX08細形銅劍把頭飾盤部出土状況
 - (4) SX12建築部材出土状況
 - (5) SX12赤漆塗り弓出土状況
 - (6) SX12彩文土器出土状況
- PL. 22 (1) I 区SD02出土状況（北から）

- (2) SD02土層堆積状況（南から）
- PL. 23 (1) I 区SD02下層杭列出土状況
(2) I 区SD02下層鉢出土状況
- PL. 24 (1) I 区SD02鍼柄出土状況
(2) I 区SD02堅杵出土状況
(3) I 区SD02木槌出土状況
(4) I 区SD02把手槽出土状況
(5) I 区SD02木槌出土状況
(6) I 区SD02椀出土状況
- PL. 25 (1) I 区SD02盤出土状況
(2) I 区SD02組合式案（机）脚出土状況
(3) I 区SD02高環脚部出土状況
(4) I 区SD02銅鏡出土状況
(5) I 区SD02容器出土状況
(6) I 区SD02編籠出土状況
- PL. 26 (1) II区SD03上層下遺物出土状況（南から）
(2) II区SD03上層下遺物出土状況（西から）
- PL. 27 (1) II区SD03上層下遺物出土状況（北から）
(2) II区SD03上層下木材出土状況（北から）
- PL. 28 (1) II区SD03上層下組合式案（机）出土状況（北から）
(2) II区SD03上層下剝製式案出土状況（北から）
- PL. 29 (1) II区SD03土層堆積状況（東から）
(2) II区SD03上層下木甲出土状況
- PL. 30 (1) II区SD03土器出土状況
(2) II区SD03二又鍼出土状況
(3) II区SD03紙・容器・建築部材出土状況
(4) II区SD03二又鉢出土状況
(5) II区SD03平鍼出土状況
(6) II区SD03エブリ出土状況
- PL. 31 (1) II区SD03エブリ出土状況
(2) II区SD03柱材出土状況
(3) II区SD03堅杵出土状況
(4) II区SD03三又鉢出土状況
(5) II区SD03容器出土状況
(6) II区SD03弥生前期壺出土状況
- PL. 32 (1) I 区SD03下層遺物出土状況（北東から）
(2) I 区SD03下層遺物出土状況（南東から）
- PL. 33 (1) I 区SD03下層遺物出土状況（東から）
(2) I 区SD03下層磨製石斧出土状況
- PL. 34 (1) I 区SD03下層平鍼出土状況

	(2) I 区SD03下層エブリ出土状況
PL. 35	(1) I 区SD03下層櫛状木製品（鷲）出土状況
	(2) I 区SD03下層鋸状木製品出土状況
PL. 36	(1) I 区SD03下層堅杵出土状況
	(2) I 区SD03下層漆塗り弓出土状況
PL. 37	(1) I 区SD03平鉢出土状況
	(2) I 区SD03堅杵出土状況
	(3) I 区SD03把手容器出土状況
	(4) I 区SD03諸手鍼未成品出土状況
	(5) I 区SD03把手付櫛出土状況
	(6) I 区SD03建築部材出土状況
PL. 38	(1) II区SD03下層漆塗り容器把手出土状況
	(2) I 区SD03深鉢出土状況
	(3) I 区SD03丹塗り壺・深鉢出土状況
	(4) I 区SD03壺・磨製石斧出土状況
	(5) I 区SD03浅鉢出土状況
	(6) I 区SD03イノシシ下顎骨出土状況
PL. 39	出土遺物 土器①
PL. 40	出土遺物 土器②
PL. 41	出土遺物 土器③
PL. 42	出土遺物 土器④
PL. 43	出土遺物 土器⑤
PL. 44	出土遺物 土器⑥
PL. 45	出土遺物 石器①
PL. 46	出土遺物 石器②・石製品・金属製品・ガラス製品・骨製品
PL. 47	出土遺物 土製品
PL. 48	出土遺物 木製品

表目次

Tab. 1 出土遺構一覧表.....	23
Tab. 2 出土遺物観察表	127
Tab. 3 石器・石製品観察表	170

付図目次

付図 1 鶴居遺跡第4・5次調査遺構全体図 (1/200)

I はじめに

1 調査に至る経過

福岡市教育委員会では、文化財保護行政の円滑化を図るために各公共機関に対し、次年度以降の事業計画について照会を行なっているところである。平成2年8月16日付、福市教理第288号で各公共機関に対し事業の照会を行なったところ、平成2年9月27日付、春基601号で航空自衛隊春日基地司令から、運輸省の第6次空港整備事業の実施に伴う施設移転の計画書が回答された。福岡市教育委員会では、平成2年10月12日付、福市教理第403号で、春日基地司令宛に「平成3年度所轄事業計画実施に係る埋蔵文化財の取扱いについて（依頼）」の文書を提出し、埋蔵文化財が認められる事業の実施にあたっては、文化財保護法第57条の3の規定により教育委員会埋蔵文化財課との協議方をお願いした。これを受けて平成3年2月22日付、春基第63号で埋蔵文化財の有無確認の依頼があり、埋蔵文化財課では、平成3年4月16日から17日にかけて事業地内の試掘調査を実施した。試掘の結果、弥生前期から古式土器段階の土器が出土し、何れもローリングを受けていないため近くに遺構の存在が想定された。試掘の結果は、平成3年4月23日付、福市教理第707号で春日基地司令宛に回答された。さらに、東側部分は平成3年5月29日に追加試掘を行い、同様の結果が得られたので、平成3年6月5日付、福市教理第183号で補足調査の回答を行なった。また、平成3年6月19日付、福市教理第196号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」の文書を渡している。平成3年10月30日付、施福第7496号（FCP）で、福岡防衛施設局長から福岡市教育委員会に当該工事区域内の埋蔵文化財について本調査の依頼があった。平成4年10月1日に埋蔵文化財調査に関する協定書を締結し、同年10月12日付で、福岡防衛施設局長と福岡市長との間で委託契約書を締結した。調査に至るまでは航空自衛隊春日基地関係者及び福岡防衛施設局関係者と度重なる協議を重ねた。本調査は、平成4年10月19日に着手し、平成5年3月31日に終了した。

2 調査の組織

調査委託：福岡防衛施設局 福岡防衛施設局長 粟 咸之

調査主体：福岡市教育委員会 教育長 井口雄哉（前任） 尾花 刚

調査統括：埋蔵文化財課長 折尾 学

埋蔵文化財第2係長 塩屋勝利（前任） 山崎純男

調査庶務：埋蔵文化財第1係長 飛高憲雄（前任） 横山邦継

埋蔵文化財第1係 入江幸男

事前審査：主任文化財主事 井澤洋一 文化財主事 吉武 学

試掘調査：井澤洋一 文化財主事 灑本正志 常松幹雄 吉武 学 宮井善朗

調査担当：埋蔵文化財第2係 下村 智 宮井善朗

調査補助：上方高弘 井 英明（現古賀町教育委員会）

調査作業：高田 茂 徳永榮彦 藤野雅基 安高精一 山部増人 鶴津重光 吉浦作次 蒲池雅徳

閔 義穂 田出橋和男 中川敏夫 藤野保夫 吉川 均 村山市次 野中辰雄 吉住作美

宮原政之 石川洋子 内山和子 永川カツエ 江越初代 江嶋光子 奥田弘子 尾崎澄子

武田潤子 川上すぎえ 黒瀬千鶴 鳴 ヒサ子 菅野シゲ 関 加代子 高野瑛子 永松



Fig.1 周辺遺跡分布図(1/50,000)

1 鶴居遺跡第4・5次調査地点	6 席田大谷遺跡	11 諸岡B遺跡群
2 鶴居遺跡第2・3次調査地点	7 宝満尾遺跡	12 五十川遺跡群
3 席田青木遺跡	8 下月隈天神森遺跡	13 那珂遺跡群
4 席田久保園遺跡	9 金根遺跡	14 比恵遺跡群
5 席田赤穂ノ浦遺跡	10 板付遺跡	15 博多遺跡群

トミ子 長浦美美子 西本スミ 野口ミヨ 日尾野典子 広川道枝 本多ナツ子 村田ト
モヨ 村上エミカ 村上エミ子 室 以佐子 森山キヨ子 安高久子 山下智子 山村ス
ミ子 山本后代 吉浦明日代 他

整理作業：上方高弘 佐田裕一 吉田香代 持原良子 松永由美 室 以佐子 長浦美美子 若林由

紀子 島飼悦子 英木式子 酒井香代子 木次由紀恵 宮原つや子 塩沢美子

なお、調査期間中、宮崎大学教授藤原宏志氏、大阪市立大学名誉教授島越憲三郎氏、建築家若林弘子氏、東京国立文化財研究所宮本長次郎氏、福岡大学教授小田富士雄氏、九州大学教授西谷 正氏、渡辺正氣氏、福岡市博物館長横山浩一氏、九州大学建築学科山本輝雄氏、東京国立博物館松浦有一郎氏、別府大学教授賀川光夫氏、奈良国立文化財研究所光谷拓実氏などの諸先生のご来訪を受けご指導を賜わった。また、現場では、松村道博氏現場の作業員の方々、山崎龍雄氏現場、佐藤一郎氏現場の作業員の方々に応援頂いた。埋蔵文化財課の松村道博、吉留秀敏、宮井善朗、皆波正人、長家伸、池田祐司、榎本義嗣、屋山洋氏をはじめ、埋蔵文化財課の方々には多大なご協力とご援助を賜わった。井 英明、福本美智子、野口未幾、木村絹子、田中克子氏らにも現場及び整理報告でご協力とご援助を賜わった。記して感謝申し上げたい。

II 遺跡の立地と環境

雀居遺跡第4次調査地点は、福岡平野を北流する御笠川の右岸に位置し、標高は現況で6.5m前後である。1944(昭和19)年の旧陸軍席田飛行場建設の際盛土されており、遺構は地表から-1.5~2m下がった標高5.0~4.5mのシルト質土の沖積微高地に分布する。一帯は1972(昭和47)年まで米軍の板付基地となっていて、民間人の立ち入りは厳しく制限されていたため、遺跡の分布についてはまったく分からなかった。最近、試掘などで標高が低い平野部でも沖積微高地の埋没しているのが確認され、遺跡の存在が徐々に明らかにされている。

周辺の遺跡は、四王寺山から派生する東側の月隈丘陵や平野部南側の残丘、西側の春日丘陵から伸びた那珂・比恵台地などに密度濃く分布する。雀居遺跡は、月隈丘陵と那珂・比恵台地に挟まれた平野部のほぼ真中に位置することになる。

東方1kmの月隈丘陵に分布する遺跡群には主要なものが多い。弥生時代を中心見てみると、席田青木遺跡、席田大谷遺跡、久保園遺跡、赤穂ノ浦遺跡、宝満尾遺跡などが広がっている。席田青木遺跡では160基を超える甕棺墓・木棺墓が調査され、集団の消長が見て取れる。大谷遺跡では、弥生後期の住居址内で小型鉄斧と青銅鋤先が発見されている。また、第2次調査のA区から中国舶載鏡と考えられる鏡片も出土している。最近では石製鏡支錠型模造品が出土している。久保園遺跡では、弥生時代から古墳時代の竪穴住居址5軒、掘立柱建物2棟、祭祀遺構と見られる土器溜りなどが発見されている。中でも弥生中期後半の大型建物跡は桁行が8.50~8.74m、桁行が14.1mと規模が非常に大きく、梁行側の柱間が5間(ま)、桁行側の柱間が8間で、建物中央部に棟持柱を持つという構造になっている。全く同様の建物が那珂遺跡第23次調査で出土しており、雀居遺跡からも発見されている。最近では佐賀県の袖比本村遺跡で最大規模の同タイプ建物が検出されている。久保園遺跡の南側隣接地には赤穂ノ浦遺跡が位置し、鹿の文様を持つ横帯文鏡鐸の鏡型が出土している。さらに南側丘陵上には宝満尾遺跡が広がり、弥生時代の甕棺墓・土壙墓群が調査されている。その中の4号土壙墓から舶載の内行花文明光鏡が完形で発見されている。宝満尾遺跡の1km南側には下月隈B(宮ノ後)遺跡、上月隈遺跡などの甕棺墓地が分布し、さらに2km南側には金隈遺跡が位置している。450基を超える土壙墓・甕棺墓が発見され、ゴホウラ製貝輪の副葬は弥生時代における南西諸島との繋がりを解き明かす重要な発見になった。

月隈丘陵に分布する遺跡群は、幾重にも延びた舌状丘陵や独立丘陵上に分布しており、遺跡の範囲は狭い。雀居遺跡を含む平野部の遺跡と密接な関係のもとに成立しているものと考えられる。

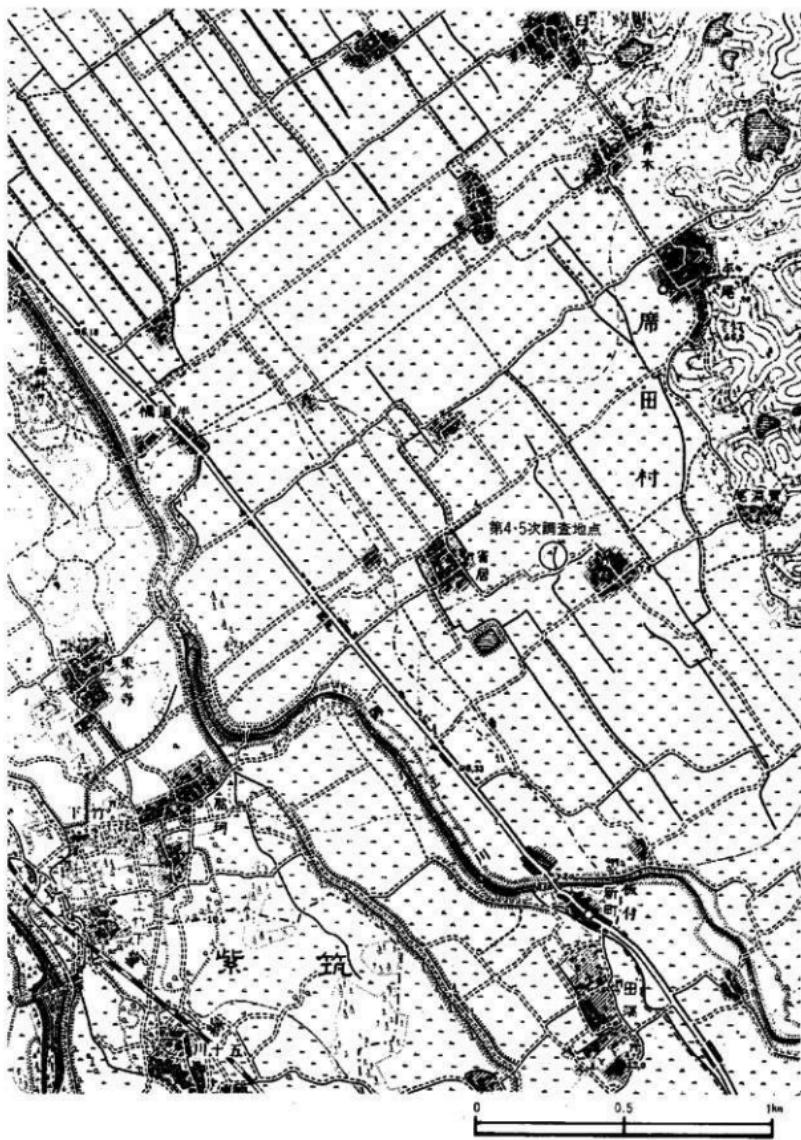


Fig.2 調査地点周辺旧地形図 (明治33年)

III 調査の記録

概要

第4次調査で出土した遺構は、掘立柱建物26棟、土坑22基、不定形土坑11基、竪穴状の大型土坑1基、溝10条である。遺構は基盤となる第11層のシルト質土上に掘り込まれている。調査は西側部分から開始し、中央部に位置する環濠（SD02）を含めて西側をI区、環濠内側の東側部分をII区として便宜的に区分している。26棟の掘立柱建物群は東側のII区に集中するが、環濠外側のI区にも数棟分分布している。土坑群は東側のII区に多く出土している。不定形の土坑群は西側や南側に集中してみられ、遺跡の縦辺部に位置していると考えられる。調査区内には、環濠も含め3条の大溝が確認されている。主に南北方向と東西方向に走っているが、時期はすべて異なっている。その他の溝は集落に伴うと考えられる小溝で、II区の東側に分布している。

遺物の出土量は極めて多い。縄文晩期終末から古墳時代前期にかけての土器、石器、石製品、土製品、青銅器、鉄器、ガラス製品、骨製品、木製品などがバンケージ換算で1300箱以上出土している。溝や土坑からは完形に近い土器が特に多くまとまって出土している。木製品も各時期のものが豊富に

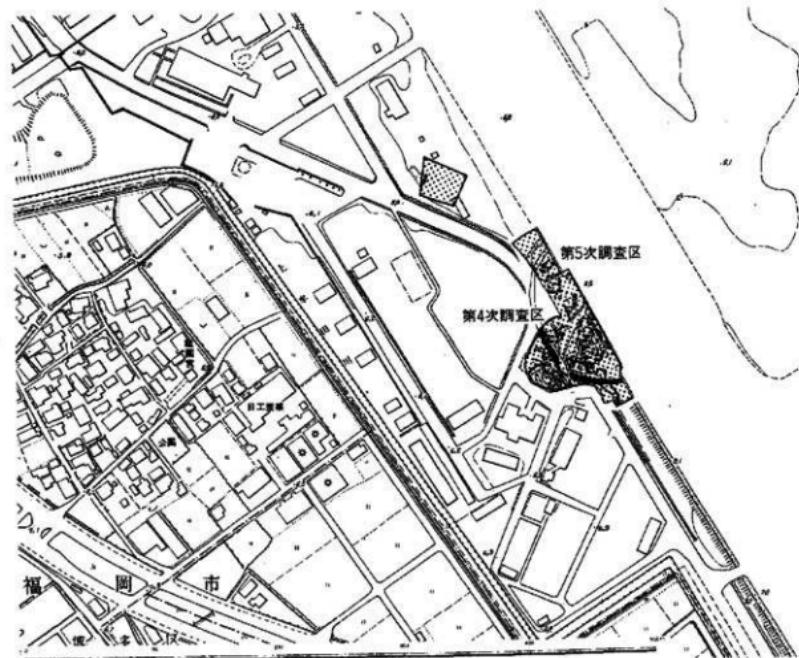


Fig.3 道路周辺地形測量図 (1/4,000)

出土している。標高が低く水分の多い土壌に埋没していたため保存良好なものが多い。木製品については、量が多く多岐にわたっているので整理が追いつかず、今回の報告には一部しか収録していない。今後追加報告する予定であるが、種類だけ簡単に記しておくと、縄文晩期終末には諸手鉤、諸手鉤未成品、平鉤2種類、エブリ、エブリ未成品、鋤2種類、停泥、石斧柄、豊作、把手付容器、槽、漆塗り弓、白木の丸木弓、豊作状の漆製品、建築部材などがある。弥生前期から中期初頭にかけては、平鉤、又鉤、鋤、横櫛、漆塗り弓、白木弓、細形銅劍の把頭盤部、豊作、脚の付いた盤、木錘、杓子未成品、櫻状木製品、建築部材などがある。弥生後期後半では、平鉤、又鉤、鋤、エブリ、鏡のクサビ、横櫛、斧柄、木甲、木鎌、組合式案(机)、剣貯式案、剣物の鉢、高坏、盤、漆塗りの筒形容器の蓋、豊作、把手付槽、杓文字形木製品、木錘、紡錘車、網代編みの籠、ネズミ返し、各種の建築部材などが出土している。

その他、掘立柱建物の柱や基礎構造の礎板が良好な状態で数多く残っていた。

1 掘立柱建物

掘立柱建物は26棟分確認しているが、それ以外に礎板や柱材が残った柱穴がいくつか存在しており、本来はもっと多くの建物が建っていたと考えられる。

SB07 (Fig. 7, PL. 4・5) I区SC05と重複しており、SC05が埋没した後に建てられた桁行1

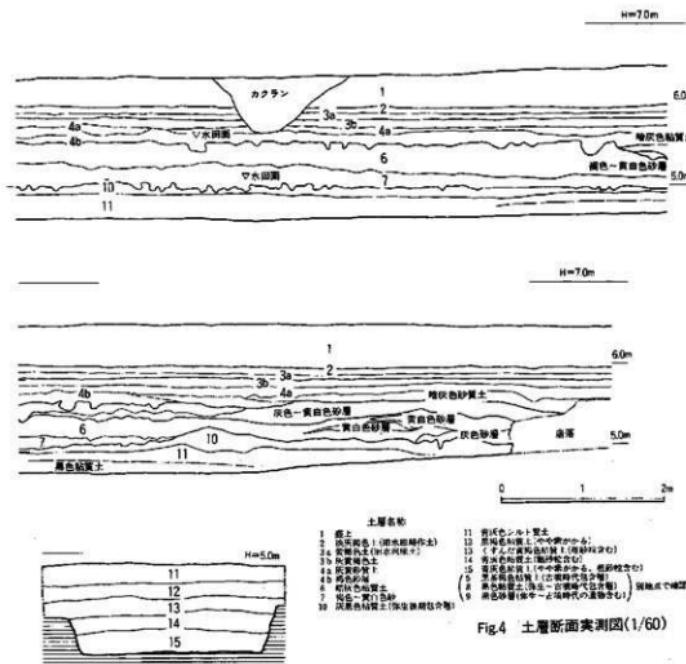




Fig.5 第4次調査遺構分布図

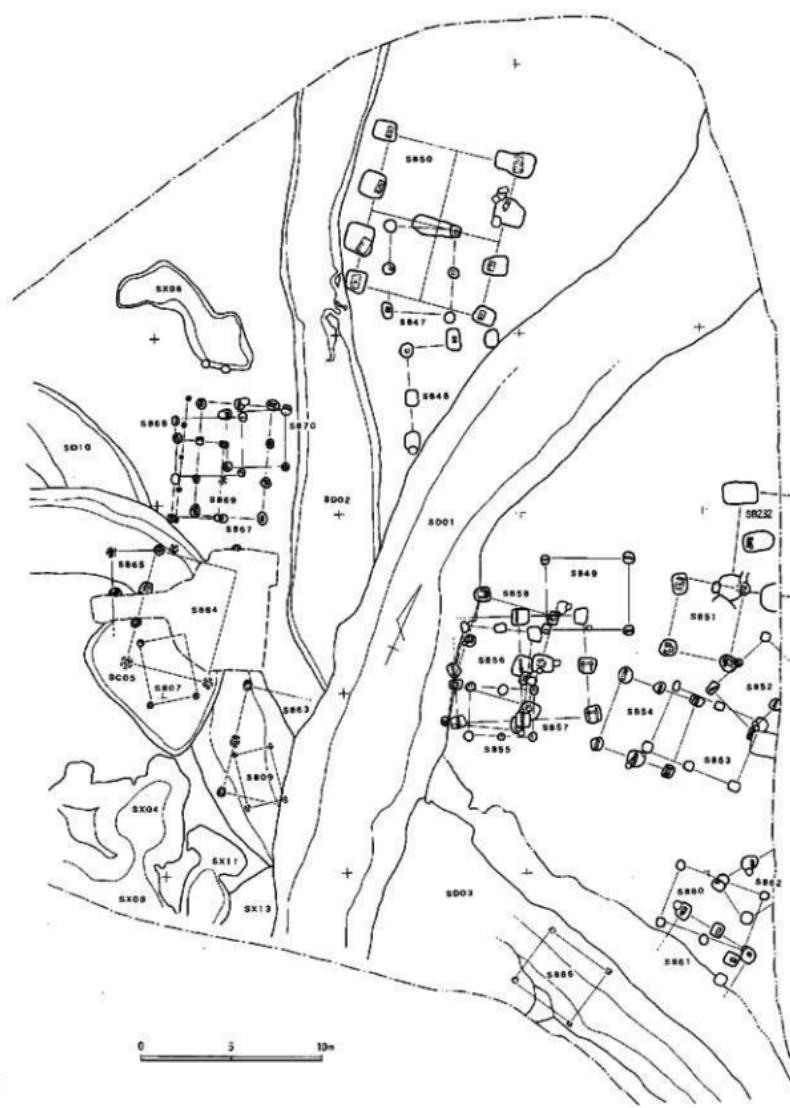


Fig.6 第4次調査掘立柱建物配置図

間、梁行1間の建物である。桁行は3.45m、梁行は2.60mを測る。柱穴は柱よりもやや大き目に掘られ、3つの柱穴から柱材が立ったまま出土した。北東隅の柱はNo.8 トレンチ(T-8)による崩落で確認できなかったが、柱材だけは採取している。柱材は±15cm前後で面取り加工が施されている。また、柱材の下には礎板が敷かれていなかった。時期は、SC05が弥生後期後半なのでそれ以降ということになるが、上にのる古式土師器を含む包含層から掘り込まれていないので、弥生時代の範囲内に収まるものと考えられる。

SB09 (Fig. 9) I区SD03の調査時に柱材が立って出土したので、桁行1間3.15m、梁行1間2.10mの建物と判断した。柱の径は10cm強で、樹種ははっきりしなかったが広葉樹が使用されていた。この建物もSB07と同様礎板は敷かれていなかった。柱の掘り方は確認していない。時期は、弥生後期後半から終末にかけてのものであろう。

SB47 (Fig. 9・32, PL. 13) II区北側の大型掘立柱建物SB50と重複している桁行2間4.64m、梁行1間3.44mの建物である。切り合い関係ははっきり認めなかった。礎板は板材を1枚敷くものと井桁状に組み合わせるものとがある。SP83の礎板はスギ材であった。Fig. 32-1はSP83から出土した甕の口縁部から胴部、2はSP82から出土した甕の底部である。12はSP199から出土した網彫壺の口縁部である。3は建物近くのビットから出土した甕である。甕は平底がしかかりしているものが多い。後期後半代のものであろう。

SB48 (Fig. 10・32, PL. 13) SB47の南側に位置する。SD01で切られているので桁行2間、梁行2間分まですか確認できていないが、本来はそれ以上の規模であったと考えられる。柱穴の掘り方は大きく、長方形のクリ材の礎板を敷く。SP149にはその上に厚さ1cmの板材を2枚並べて敷いている。高さを調節したものであろうか。Fig. 32-6はSP200から出土した甕形に近い鉢形土器である。弥生後期後半代のものであろう。

SB49 (Fig. 11, PL. 12) II区中央部に位置する桁行1間4.52m、梁行1間4.06mの建物である。南側の桁行中央部には、東柱の柱穴と考えられる小穴があるので、他の柱間にも東柱が存在した可能

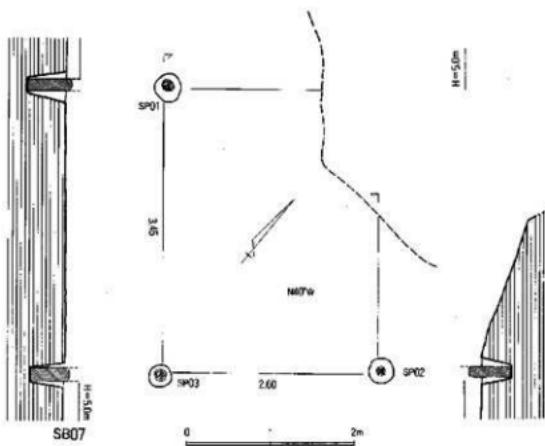


Fig. 7 SB07遺構実測図(1/60)

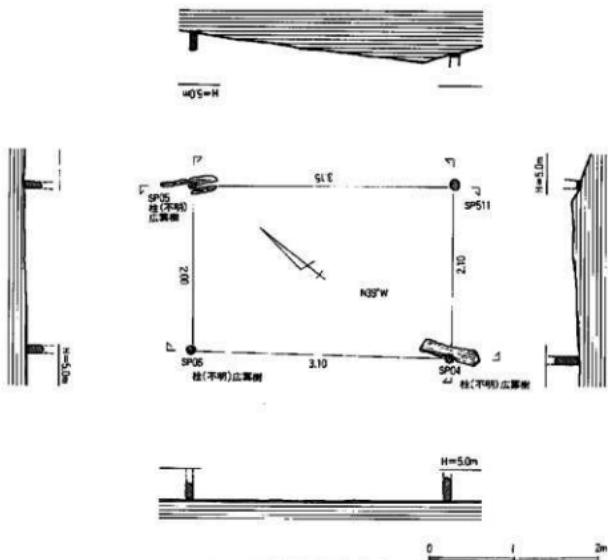


Fig.8 SB09遺構実測図(1/60)

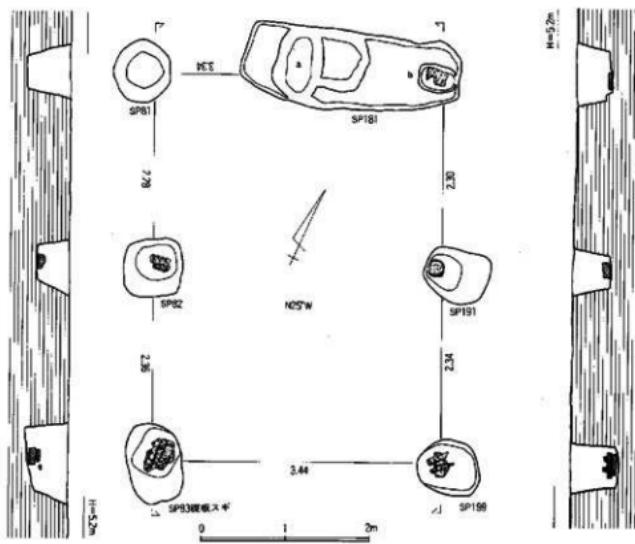


Fig.9 SB47遺構実測図(1/60)

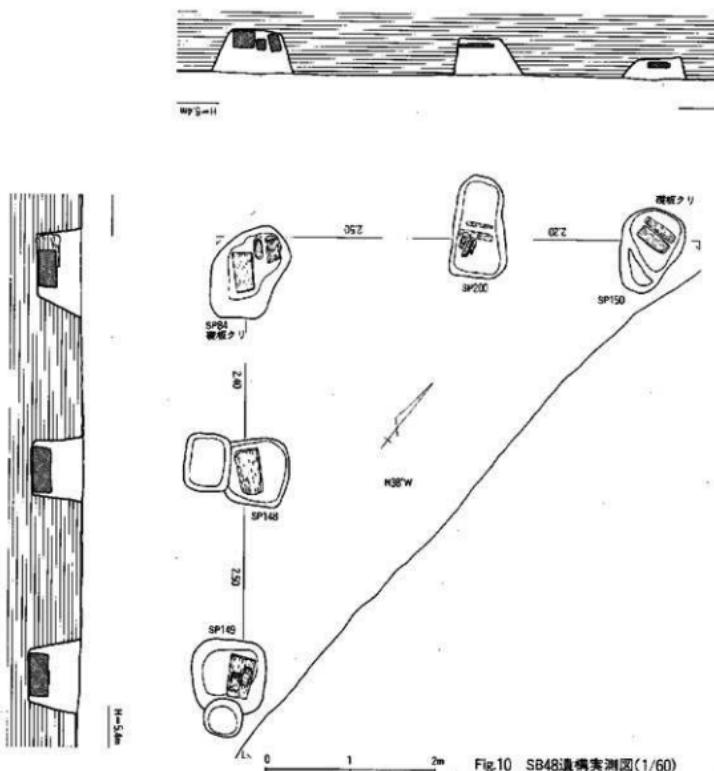


Fig.10 SB48遺跡実測図(1/60)

性がある。礎板は棒材に割りを入れたものである。柱材にも割り込みを入れ噛み合わせるタイプになると考えられる。SP115とSP118の礎板はツブラジイであった。柱穴からの出土遺物は、夜臼式土器の深鉢・丹ぬり壺、弥生前期の甌・壺、弥生後期後半の甌・壺・高杯などがある。古い遺物は混入品と考えられるので、建物の時期は弥生後期後半であろう。

SB50 (Fig. 12・32, PL. 2・3) II区北側に位置する桁行3間、梁行1間の大型建物である。桁行総長は9.0mで、柱間隔は平均3.0mである。梁行は1間で7.0mあり、中央部に東柱の存在を考える必要があろう。柱穴の深さは50~60cm程度しか残存していないので、浅いものであったとすれば削平された可能性がある。柱穴の掘り方は方形に近く、1.4m四方前後である。SP80やSP167は柱穴の掘り方が階段状になっており、柱を落し込んで引き立てたと考えられる。各柱穴にはクリやスダジイの礎板が敷かれ、SP143の礎板は長さ80cm、幅50cm、厚さ7cmを測る。SP80には2枚の礎板を敷く。SP502の礎板には径25cmの樹液による柱の当り痕跡が確認され、針葉樹の柱が使われていた可能性がある。SP182には柱材と小振りの礎板が残っていた。柱は腐植していたがもともと30cm前後のものであったと

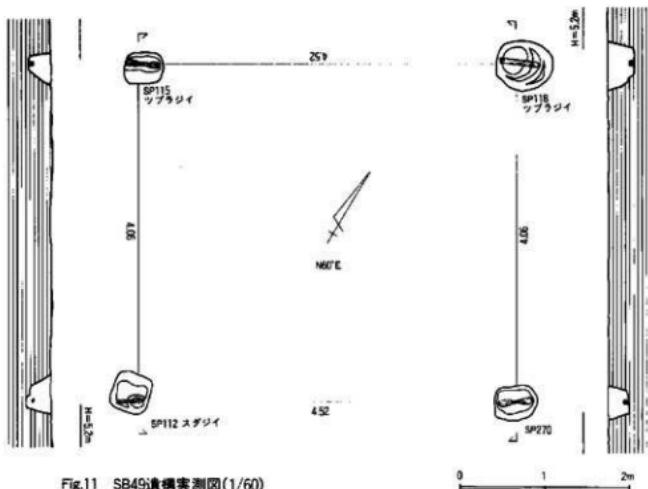


Fig.11 SB49遺構実測図(1/60)

0 1 2m

みられる。柱の位置が中心からズレており、礎板の形状も異なることから補修用の柱ではなかったかと考えられる。建物の中央部には長方形を呈した棟持柱の柱穴ではないかとみられる大型の柱穴が存在する。柱穴の一番深い所は中心よりやや西側にズレしており、建築家の若林弘子氏のご教示によれば、ここに床桁を支える床下までの心柱が立っていたらしい。棟持柱は、その心柱の東側に接して棟下通りに立っていた可能性がある。建物の内側には添え束と考えられる小さな柱穴が存在する。遺物は、夜白式土器や弥生前期から中期にかけての甕や壺が混入しているが、大部分は弥生後期後半の大甕・甕・高杯・豊前地方の高杯・鉢・器台などである。Fig. 32-4はSP502から出土した甕の口縁部である。7はSP181から出土した甕の口縁部である。9はSP182から出土した甕の底部である。平底で稜がはっきりしている。出土した他の底部もしっかりした平底が多い。時期は弥生後期後半でも古い時期に相当すると考えられる。

SB51 (Fig. 13, PL. 8・9) II区中央部東側に位置する梁行1間3.44m、桁行1間3.98mの建物である。大型の柱穴を持ち、板状の礎板を敷く。SP119は長軸を直交させて2枚敷く。材はSP136がクリ材である以外は全てスギ材である。柱穴内からは後期後半代の甕片が出土している。

SB52 (Fig. 14) SB51を切って東南側に位置する梁行1間3.15m、桁行2間4.00mの建物である。礎板は棒状の材で、柱をその上に乗せている。SP134と137の礎板はアカガシ並属、SP135は不明広葉樹、SP139には柱材が残っており、材はスダジイである。遺物は、弥生後期後半代の甕片が出土している。

SB53 (Fig. 15・32) II区東側で検出され、SB52やSB54と重複している。柱穴の切り合いからSB52よりも古くなるが、SB54との関係は分らない。東西棟で梁行1間3.60m、桁行2間5.00mである。柱穴内からは弥生後期後半の甕・鉢・器台などが出土している。Fig. 32-10はSP440から出土した甕の底部である。平底はしっかりしている。

SB54 (Fig. 16・32, PL. 8・9) II区中央部SB53と重複して西側に位置する。梁行1間4.18m、桁行2間4.20mでほとんど正方形を呈する。礎板は長方形の板材で、南北方向に揃えて配置されてい

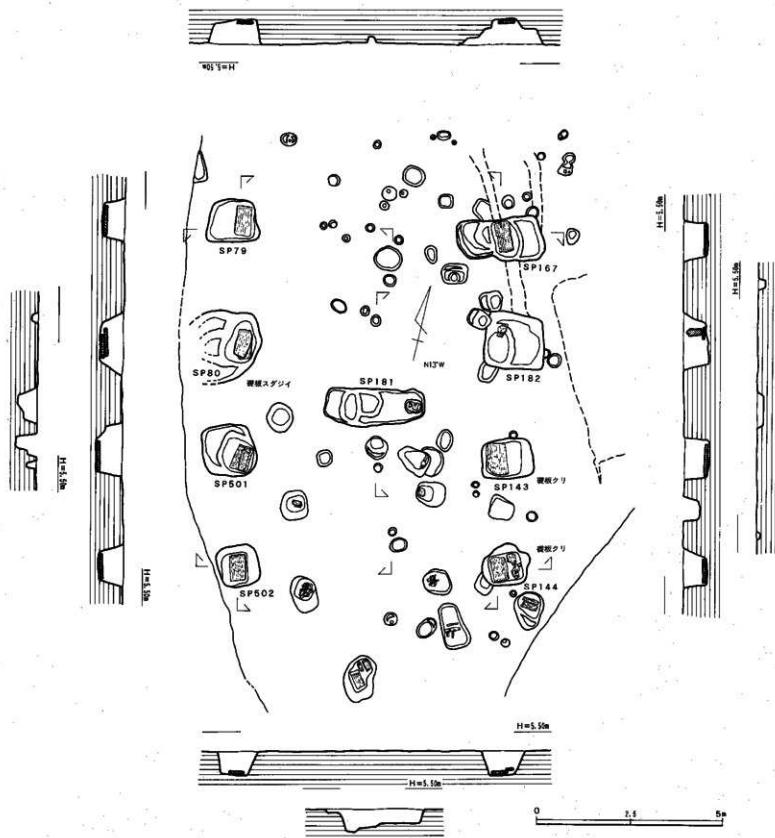


Fig.12 SB50遺構実測図(1/100)

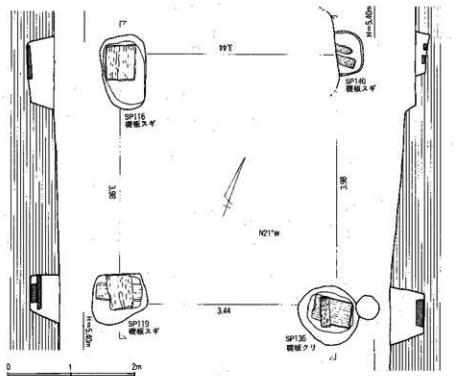


Fig.13 SB51遺構実測図(1/60)

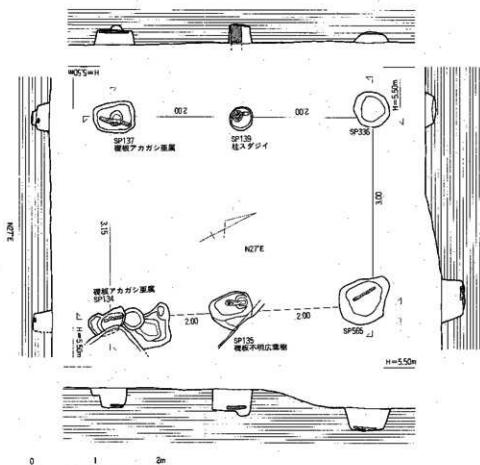


Fig.14 SB52遺構実測図(1/60)

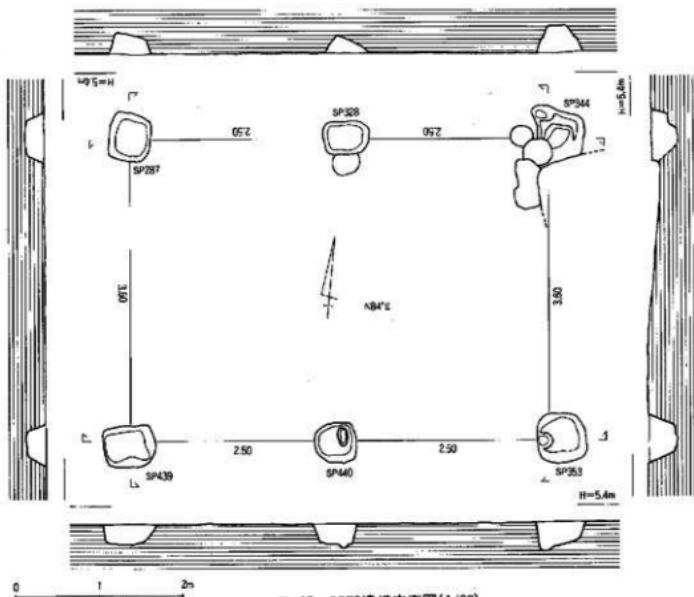


Fig.15 SB53造構実測図(1/60)

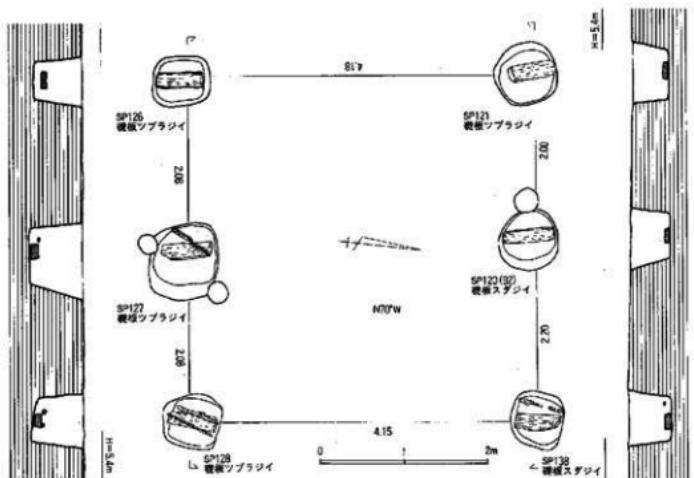


Fig.16 SB54造構実測図(1/60)

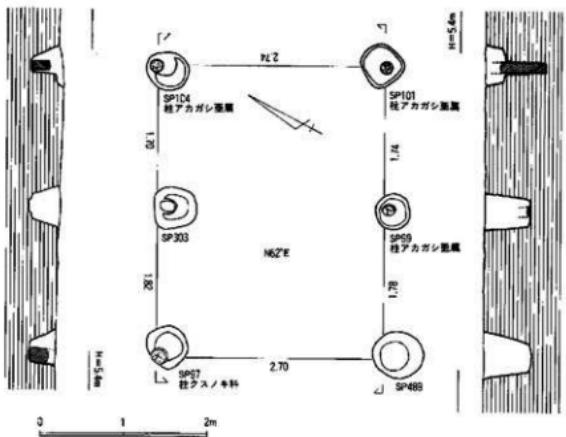


Fig.17 SB55遺構実測図(1/60)

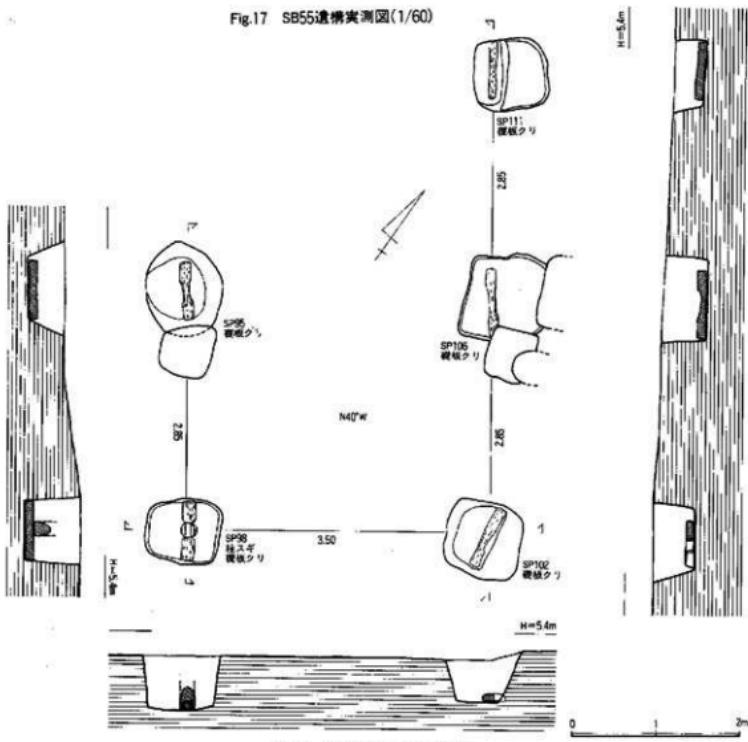


Fig.18 SB56遺構実測図(1/60)

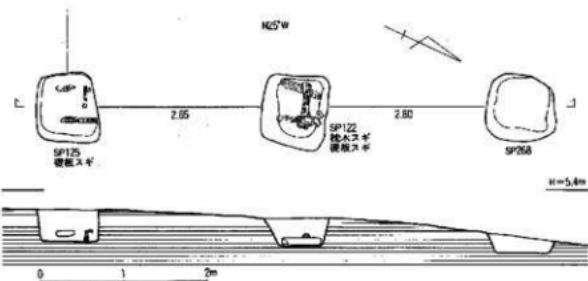


Fig.19 SB57遺構実測図(1/60)

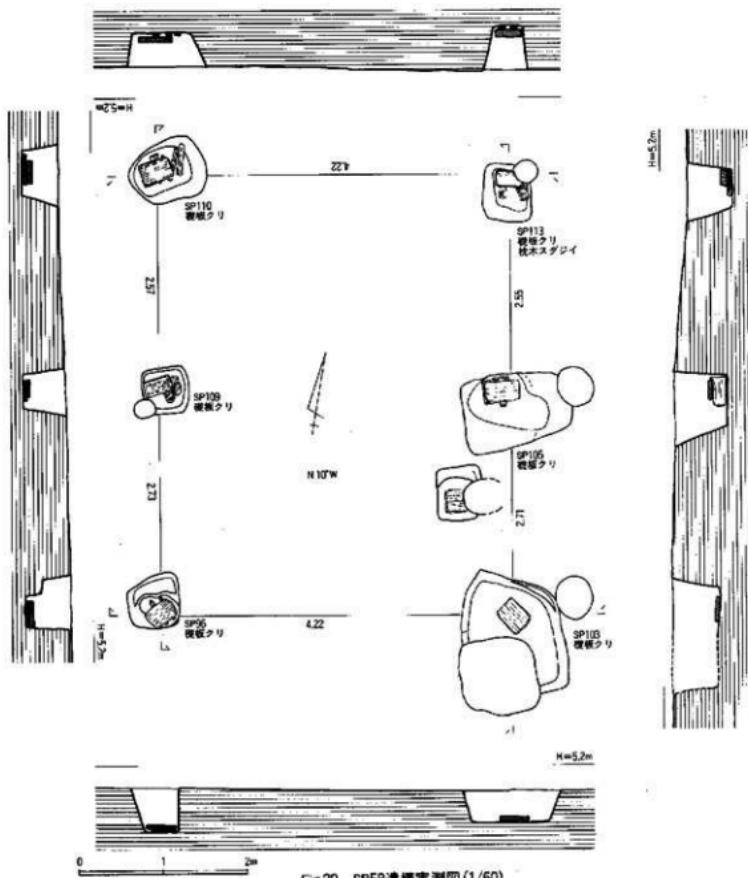


Fig.20 SB58遺構実測図(1/60)

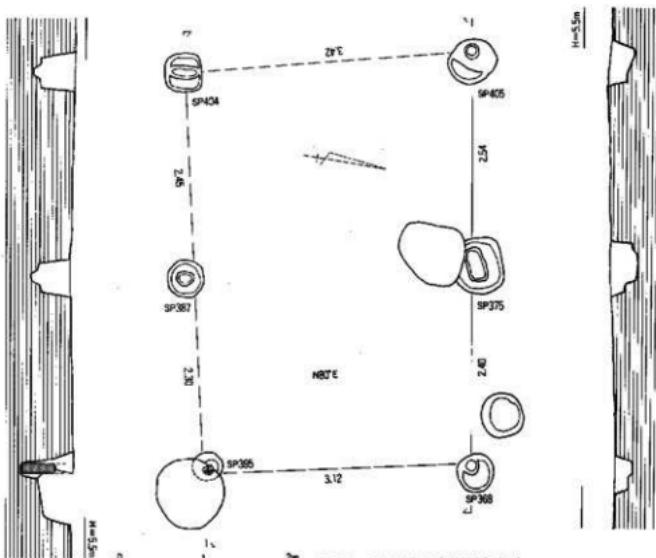


Fig.21 SB60造構実測図(1/60)

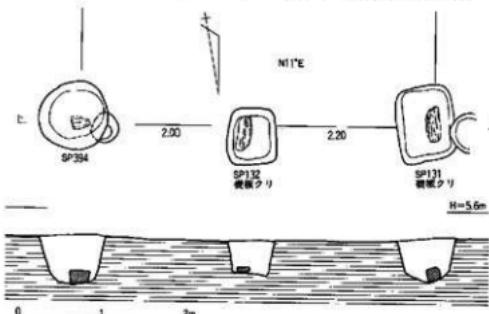


Fig.22 SB61造構実測図(1/60)

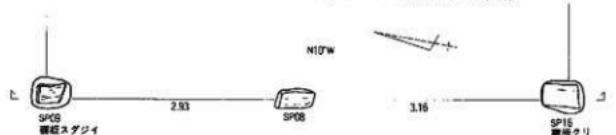


Fig.23 SB63造構実測図(1/60)

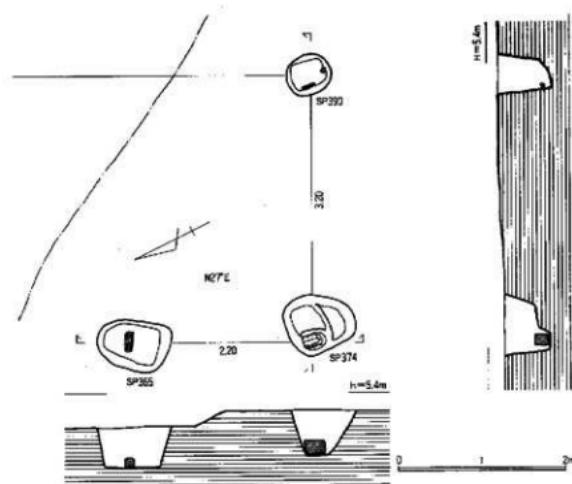


Fig.24 SB62造構実測図(1/60)

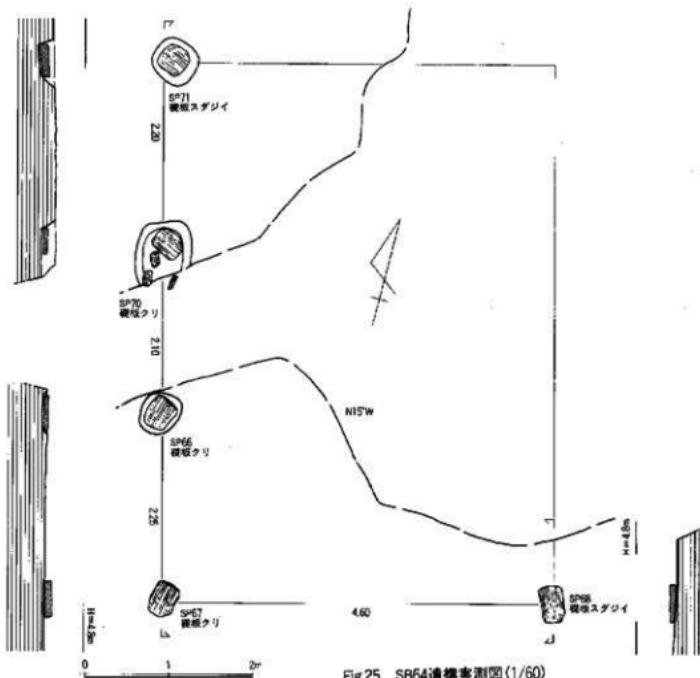


Fig.25 SB64造構実測図(1/60)

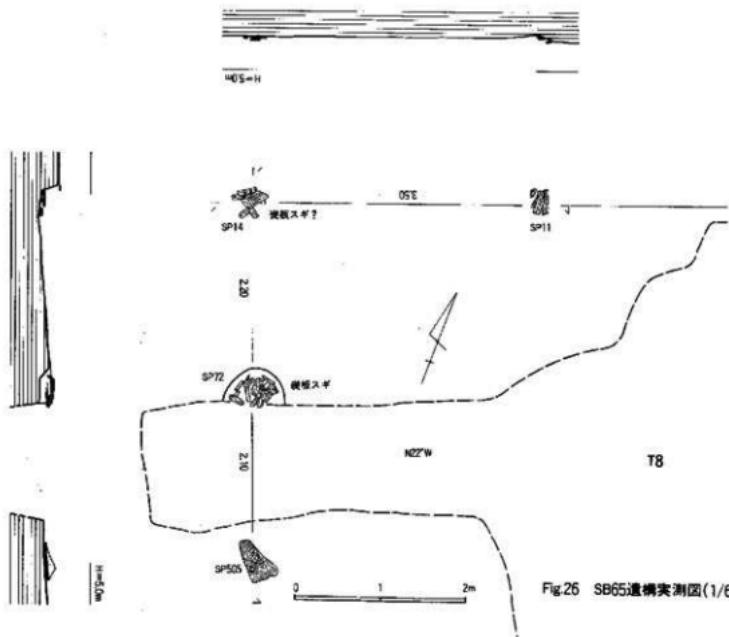


Fig.26 SB65遺構実測図(1/60)

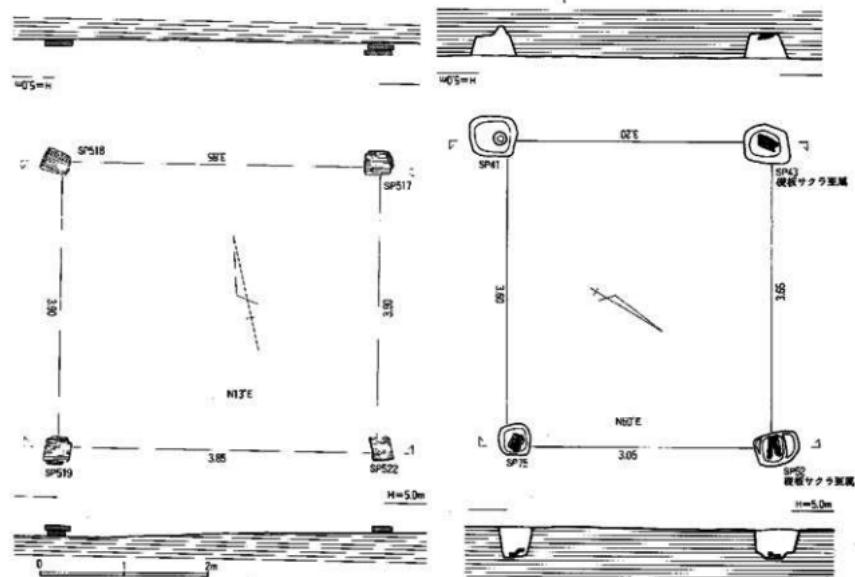


Fig.27 SB66遺構実測図(1/60)

Fig.28 SB68遺構実測図(1/60)

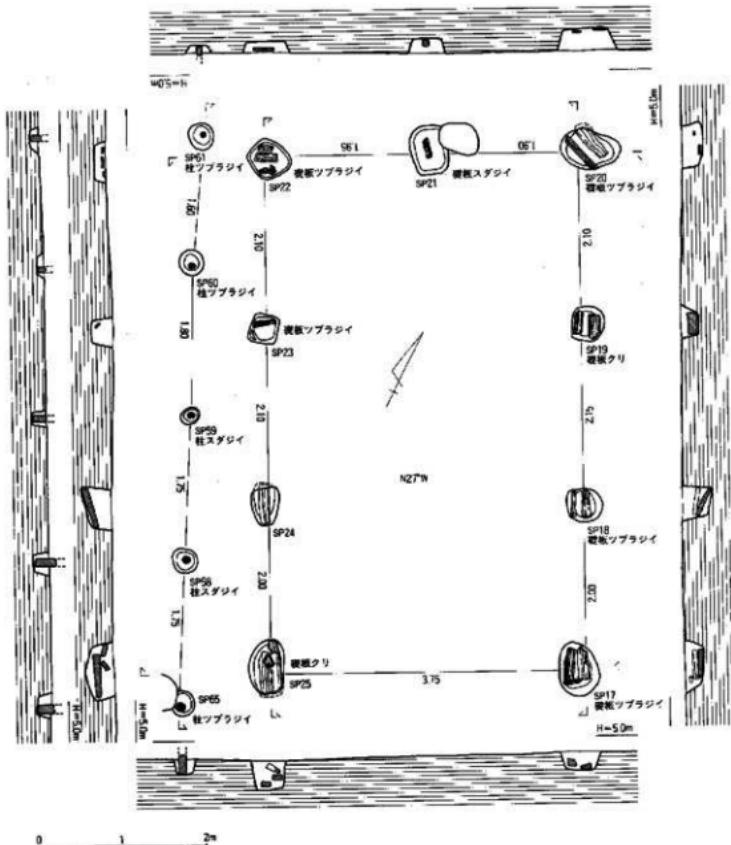


Fig.29 SB67遺構実測図(1/60)

る。材は、SP120とSP138がスダジイ、それ以外はすべてツブライである。遺物は弥生後期以前の混入品も多数あるが、主体は後期後半である。甕・壺・高坏・器台・細頸壺などが出土している。Fig. 32-11・13はSP126から出土した細頸壺と複合口縁の壺である。

SB55 (Fig. 17, PL. 10・11) II中央部の掘立柱建物群の切り合いが激しい部分に位置している。梁行1間2.74m、桁行2間3.52mの建物である。柱穴の掘り方は円形基調で、桁行側の柱間隔が狭く、他の掘立柱建物群とは異質な感じを受ける。柱穴内には礎板を施さず、柱はそのまま埋め立てている。4つの柱穴から柱根が検出された。SP99・101・104はアカガシ亜属、SP97はクスノキ科の材が柱として使用されている。柱穴からの出土遺物は、弥生時代後期後半の甕・豊前地方の高坏・器台に混じってSP97で古式土師器の甕、SP303で古式土師器の甕と高坏が出土している。古墳時代前期に属する建物であろう。この時期の整穴住居址は第5次調査で出土している。

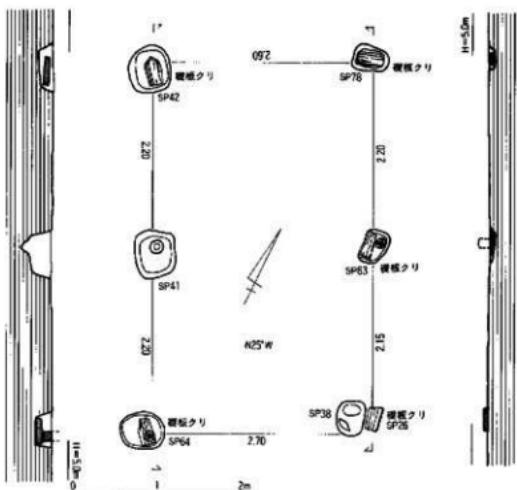


Fig.30 SB69遺構実測図(1/60)

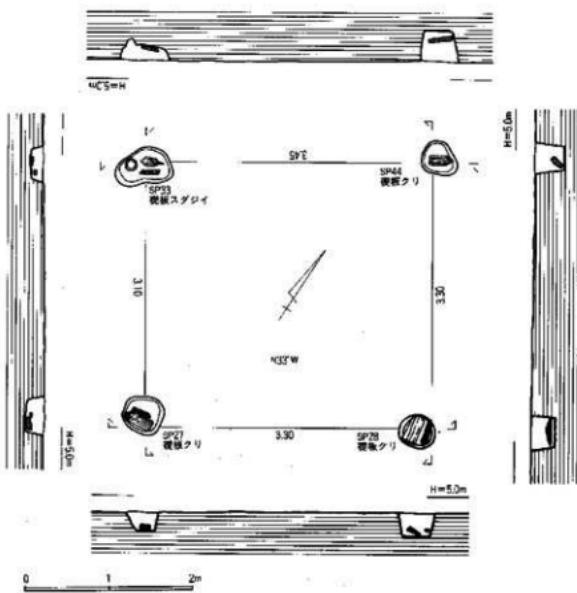


Fig.31 SB70遺構実測図(1/60)

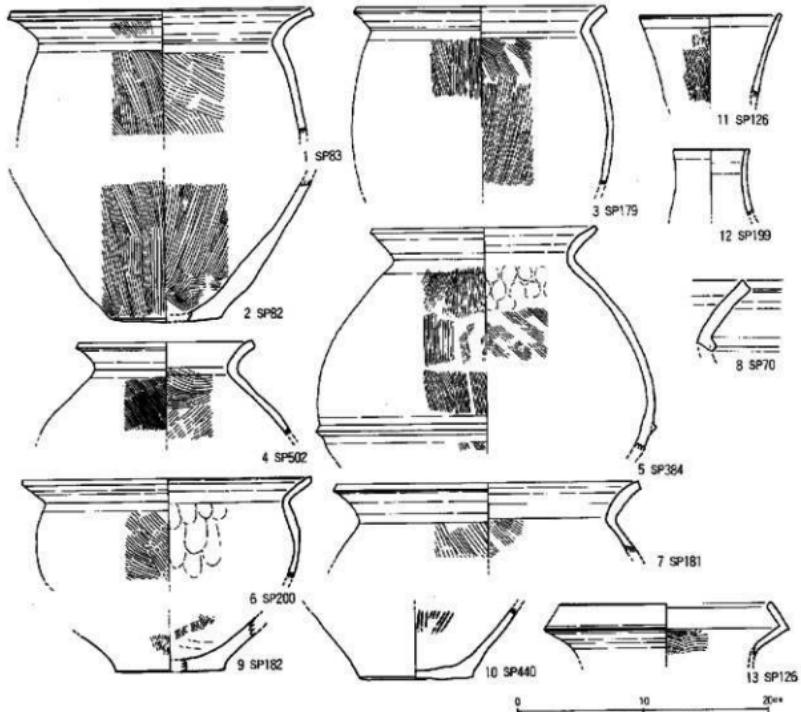


Fig.32 据立柱建物群出土遺物実測図(1/4)

1~3, 12: SB47 4~9: SB50 5: SB62 6: SB48 8: SB60 10: SB53 11~13: SB54

SB56 (Fig. 18, PL. 10・11) II区中央部に位置し、SB55・57・58と重複している。切り合い関係ではSB57・58を切っておりそれらよりも新しい。梁行1間3.50m、桁行2間5.70mを測る。北西隅の柱穴はSD01に切られており存在しない。柱穴の掘り方は方形基調で大きく、柱材を半割再加工して中央部に刺り込みを入れた礎板を桁方向に揃えて敷いている。SP94には幅23cmで面取り加工を施し、噛み合わせの刺り込みを入れたスギ材の柱が残っていた。礎板はすべてクリ材である。遺物は弥生後期後半の甕・高环・器台などが出土している。

SB57 (Fig. 19, PL. 10・12) II区中央部に位置し、西側の柱穴はすべてSB56に切られている。梁行1間3.50m(推定)、桁行2間5.25mの建物である。基礎構造は、枕木の上に中央部を削り込んだ横木を渡している。材はすべてスギである。遺物は、弥生後期後半の甕・壺・高环・器台・鉢などが出士している。

SB58 (Fig. 20, PL. 10・12) II区中央部に位置する梁行1間4.22m、桁行2間5.30mの建物である。柱穴にはスダジイの枕木を2~4本並べ、その上にクリ板の礎板を敷く。柱穴からの出土遺物は、弥生後期後半の甕・壺・高环・器台・鉢・支脚などが出土している。

SB60 (Fig. 21・32) 調査区南東隅で検出した梁行1間3.42m、桁行2間4.94mの東西棟である。SP395に柱材が残っている以外基礎は検出されなかった。Fig. 32-8は弥生後期後半代の甕の口縁部片である。その他、鉢も出土している。混入した夜白式土器や前期の土器が多く出土している。

SB61 (Fig. 22) SB60を切って重複している。建物は南側に広がっていると考えられ、梁行1間、桁行2間の規模であろう。北側の桁行は4.20mである。柱穴にはクリ材の基礎を敷く。遺物は弥生後期後半の甕・高坏・器台などが出土している。

SB62 (Fig. 24・32) SB60を切って北側に位置する。梁行は1間3.20mで、桁行は1間分しか確認していない。柱穴内には板状の基礎が残っていた。出土遺物には弥生後期後半代の甕がある。

Fig. 32-5は当初建物に關係する柱穴のひとつと考えていた柱穴から出土した甕である。

SB63 (Fig. 23, PL. 7) I区SD03の溝堆積土中で基礎を確認した建物である。東側はSD01に切られており梁行の規模は分らない。梁行1間、桁行2間にになると考えられ、桁行は6.09mである。SP16の基礎はクリ材で、中央部を柱の大きさに合わせて径30cmほど浅く掘り窪められている。SP09はスダジイの基礎である。遺物にはSP08から出土した弥生後期後半の甕がある。

SB64 (Fig. 25, PL. 6) I区中央部に位置する梁行1間4.60m、桁行3間6.55mの建物である。東側は試掘トレンチとその崩落によって失われている。基礎は四隅を面取り加工して均一に仕上げている。SP68と71がスダジイで、残りはクリ材である。SC05との切り合いは分らなかったが、柱穴から弥生後期後半の甕・鉢・高坏などが出土している。

SB65 (Fig. 26, PL. 7) I区中央部に位置しSD03、SC05を切り、SB64と重複している。一部分しか確認できなかったが、梁行の柱間が3.50m、桁行の柱間が2.10~2.20mである。柱の基礎には木屑や植物の繊維を敷き詰めている。柱穴の検出時に古式土器が出土していることから時期的には新しい可能性がある。基礎構造の多様性からいうと興味深い建物である。

SB66 (Fig. 27) II区SD03の調査時に確認した梁行1間3.40m、桁行1間3.85mの建物である。SD03がある程度埋まった段階で建てられたものであろう。小振りの方形基礎が残っていた。

SB67 (Fig. 29, PL. 4~6) I区中央部で4棟切り合っているうち最も規模の大きい建物である。梁行2間3.85m、桁行3間6.25mである。建物西側には柱筋は通らないが柱列が伴うとみられる。柱穴はあまり大きくなく、ツブラジイ、スダジイ、クリ材の基礎が敷かれる。基礎は丸太を半割りにして平面を上に向けて並べたものが多い。西側の柱は径10cm前後で、ツブラジイかスダジイである。柱穴からの遺物は弥生後期以前の土器と共に後期後半代の甕や器台などが出土している。

SB68 (Fig. 28, PL. 4~6) I区を中心部に位置する梁行1間3.20m、桁行1間3.65mの建物である。基礎は、2枚の板材を並べて両端を緊縛するタイプで、両端の外側に割り込みが入っている。材はSP43と52はサクラ亜属であった。時期は弥生後期後半代であろう。

SB69 (Fig. 30, PL. 4~6・7) SB67・68と重複する梁行1間2.7m、桁行2間4.4mの比較的小型の建物である。柱穴内には板状の基礎と柱材が残っていた。基礎はすべてクリ材である。柱の径は15cm前後であった。柱穴からの出土遺物は、弥生後期後半の甕と鉢などがある。

SB70 (Fig. 31, PL. 4) SB67・68と重複しているが柱穴の切り合いがないので先後関係は明らかでない。梁行1間3.30m、桁行1間3.45mでは正方形を呈している。柱穴内には板材の基礎が残り、SP33はスダジイ、それ以外はすべてクリ材であった。柱穴からは、弥生後期後半代の甕・壺・高坏・器台などが出土している。

なお、SB67から70にかけての建物群は、かなり削平を受けているが、遺構を覆う古式土器を含む層からは掘り込まれていない（断面観察による）ので、弥生時代の範囲内に収まると考えられる。

Tab. I 出土遺構一覧表

遺構番号	種類	略号	時期	遺構の概要・出土遺物	Fig.	PL
01	溝	SD	古代～現代	幅6.9m、深さ1.46m、延長50m検出、内黒土跡器、瓦礫・青磁器など	5	I
02	溝	SD	弥・後期後半	幅3.0～5.0m、深さ0.6～0.8m、断面逆台形、各種の弥生土器・木器など	60～72	22～25
03	溝	SD	弥・後期終末	幅5.5m、深さ0.6m、自然流路、II区上層はSD02の延長、夜白式土器・木器など	73～123	26～38
04	不定形土坑	SX	弥・前期～後期	長さ6.0m以上、幅6.0m、深さ1.12m、下層は弥生前期が主軸、浦水点がある	42～45	15～16・20
05	(堅穴住居跡)	SC	弥・後期後半	長さ8.05m、幅4.6m以上、深さ0.22m、漆・甕・高坏・器台など	57～59	15・20
06	不定形土坑	SX	弥・後期後半	長さ8.5m、幅3.15m、深さ0.28m、甕・甕・高坏・縫合・複底文土器	33～46	16
07	獨立柱建物	SB	弥・後期後半	調査1回3.45m、桁行1間2.60m、SC05を切っている	7	4・5
08	不定形土坑	SX	弥・前期～後期	長さ9.0m以上、幅6.5m、深さ1.02m	42～48	15～16・20
09	獨立柱建物	SB	弥・後期後半	調査1間2.00～2.10m、桁行1間3.10～3.15m、I区SD03内で検出	8	
10	(溝)	SD	弥・後期後半	幅4.0m、深さ0.37m、延長12m検出、後期土器少量	5	
11	不定形土坑	SX	弥・前期～後期	長さ5.0m以上、幅2.8m、深さ0.34m、上層は後期、下層は前期が主体	42～47	17～20
12	不定形土坑	SX	弥・前期～後期	長さ13.0m以上、幅8.0m以上、深さ0.86m、下層は前期後半が主体、浦水点がある	42～49	17～21
13	不定形土坑	SX	弥・前期後半	長さ4.5m以上、幅2.7m以上、深さ0.34m以上、傾斜がある。甕が多量に出土	42～50・53	18
14	不定形土坑	SX	弥・後期後半	長さ1.65m、幅0.9m、深さ0.11m、後期後半の土器と火葬出土	33	18
15	長槽円形土坑	SX	弥・後期後半	長さ1.4m、幅0.4m、深さ0.3m、後期後半の甕などが出土	33	
16	長槽円形土坑	SX	弥・後期後半	長さ1.4m、幅0.4m、深さ0.26m、天板や坑が打ち込まれている	33	19
17	略長方形土坑	SX	弥・後期後半	長さ1.1m、幅0.75m、深さ0.16m、SX14～17は被覆群に伴うものか。	33	
18	略長方形土坑	SX	弥・後期後半	長さ1.1m、幅0.75m、深さ0.15m、SX12と重複して出土	33～56	
19	不定形土坑	SK	弥・前期後半	長さ1.7m、幅1.5m、深さ0.34m、夜白式土器・板付式土器出土	33～35	
20	長槽円形土坑	SK	弥・前期後半	長さ6.1m、幅1.85m、深さ0.18m、夜白式土器・板付式土器出土	34・36 37・56	
21	溝	SD	古墳・前期	幅0.45m、深さ0.14m、延長8.6m確認、前期後半の甕・甕・中期の甕・土器等	5・124	
22	略方形土坑	SK	弥・後期後半	長さ1.4m、幅1.2m、深さ0.79m、後期後半の甕、SH232の柱穴か	33・39	
23	略長方形土坑	SK	弥・前期後半?	長さ2.0m以上、幅1.5m、深さ0.28m、前期後半の甕・甕・(後期の甕・高坏・縫合)	5	
24	略方形土坑	SK	弥・後期後半	長さ1.7m、幅1.1m、深さ0.26m、後期の甕・甕・甕・高坏・支脚など	33・39	
25	略長方形土坑	SK	弥・前期後半	長さ1.45m、幅1.0m、深さ0.28m、前期の甕	33・40	
26	椭円形土坑	SK	弥・前期後半	長さ2.3m、幅1.5m、深さ0.28m、夜白式土器、前期の甕・甕・(後期の甕)	33・40	
27	略長方形土坑	SK	弥・前期後半	長さ2.2m、幅1.3m、深さ0.14m、前期の甕・甕	33	
28	略長方形土坑	SK	弥・後期後半	長さ3.2m以上、幅1.5m、深さ0.2m、夜白式土器から後期後半までの土器出土	5・40	
29	椭円形土坑	SK	弥・前期後半	長さ1.4m以上、幅1.05m、深さ0.35m、前期の甕	34	
30	不定形土坑	SK	弥・前期後半	長さ2.75m、幅0.9m以上、深さ0.12m、前期の甕・甕・高坏など	34・41	
31	略方形土坑	SK	弥・後期後半?	長さ1.45m、幅1.2m、深さ0.26m、前期の甕・甕・(後期後半の甕)	34	
32	円形土坑	SK	古墳・前期前半?	長径1.84m、短径1.45m、深さ0.67m、土器等甕・高坏・縫合など	38・41	19
33	土坑	SK	弥・前期後半?	SK30と31にこれらより漏洩がはっきりしない。前期甕・(後期後半の甕)	5	
34	溝	SD	弥・前期前半	幅0.8m、深さ0.35m、延長6.45m確認、前期甕・甕・高坏など	5・125	
35	溝	SD	弥・後期後半	幅0.9m、深さ0.37m、延長5.5m確認、後期後半の甕・高坏・器台	5・125	

Tab. I 出土遺構一覧表

遺構 番号	種類 略号	時期	遺構の概要・出土遺物	Fig.	PL
36	不定形土坑	SK	弥・前期後半 長さ1.55m以上、幅1.3m、深さ0.22m、底面は小さな穴で覆む、前期後半の甕・壺	34	
37	略方形土坑	SK	弥・後期後半? 長さ1.4m、幅1.3m、深さ0.21m、後期後半の甕・壺・高环・鉢・小型甕など	34	
38	不定形土坑	SK	弥・前期後半 長さ3.8m、幅1.65m、深さ0.19m、前期後半の甕	34	
39	溝	SD	弥・中期前半? 幅0.9m、深さ0.5m、延長3.5m確認、前期後半の甕・壺・高环・中期前半の甕	5 - 127	
40	横円形土坑	SK	弥・前期後半 長さ1.25m、幅1.0m、深さ0.09m、前期後半の甕	34	
41	長方形土坑	SK	弥・前期後半 長さ1.5m以上、幅1.35m、深さ0.08m、前期後半の甕・壺	34	
42	略長方形土坑	SK	弥・前期後半 長さ1.95m、幅1.4m、深さ0.1m、前期後半の甕・壺	34	
43	略長方形土坑	SK	弥・前期後半? 長さ3.05m、幅2.25m、深さ0.16m、前期後半の甕・壺・(中期前半の甕・高环?)	34 - 41	
44	溝	SD	弥・後期後半? 幅0.3m、深さ0.1m、延長5.05m確認、後期後半の甕・小型甕・(前期の甕・壺)	5	
45	略長方形土坑	SK	弥・前期後半 長さ1.9m、幅1.15m、深さ0.18m、前期後半の甕・高环	34	
46	溝	SD	弥・前期後半 幅0.45m、深さ0.18m、延長3.6m確認、前期後半の甕・壺・高环	5	
47	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.44m、桁行2間4.64m、大甕・甕・鉢・器台・縦頭蓋	9 - 32	2 - 13
48	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行2間4.70m?、桁行2間4.90m以上、大甕・甕・鉢・器台	10 - 32	13
49	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間4.06m、桁行1間4.52m、甕・鉢・高环	11	12
50	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間7.0m、桁行3間9.0m、棟持柱あり、大甕・甕・高环・鉢・器台・壺	12 - 32	2 - 3
51	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.44m、桁行1間3.98m、甕・壺・(夜臼式土器、前期の甕・壺)	13	8 - 9
52	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.0~3.15m、桁行2間4.0m、甕・(夜臼式土器、前期の甕・壺・片旋り臺)	14	
53	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.60m、桁行2間5.0m、甕・壺・鉢・器台	15 - 32	
54	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間4.15~4.18m、桁行2間4.16~4.20m、甕・壺・高环・器台・縦頭蓋	16 - 32	8 - 9
55	樹立柱建物	SB	古墳・前期 桁行1間2.70~2.74m、桁行2間3.52m、後期の甕・高环・器台・土葺器の甕・高环	17	10 - 11
56	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.50m、桁行2間6.7m、甕・高环・器台・鉢	18	10 - 11
57	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間?、桁行2間5.25m、SB56に西側切られる。甕・壺・高环・器台	19	10 - 12
58	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間4.22m、桁行2間5.26~5.30m、甕・壺・高环・器台・鉢・支脚	20	10 - 12
59	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間、桁行2間、「宝居3」に收録 SB232に変更		
60	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.12~3.42m、桁行2間4.75~4.94m、甕・壺・(後削以前の插入土器多い)。	21 - 32	
61	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間?、桁行2間4.20m、南側は未確認、甕・高环・器台	22	
62	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.20m、桁行2間?、北側は未確認、甕	24 - 32	
63	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間?、桁行2間6.09m、東側はSD01と試掘で切られる。甕	23	7
64	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間4.60m、桁行3間6.55m、東側はT-8崩落で不明、甕・鉢・高环	25	6
65	樹立柱建物	SB	古墳・前期? 桁行1間3.50m?、桁行2間4.30m以上、古式土器甕	26	7
66	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.40m、桁行1間3.85m、II区SD03内で検出	27	
67	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行2間3.75~3.85m、桁行3間6.20~6.25m、西側に柱列、甕・器台	29	4 - 6
68	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.05~3.20m、桁行1間3.60~3.65m、SB67-69-70と重複	28	4 - 6
69	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間2.60~2.70m、桁行2間4.35~4.40m、甕・鉢	30	4 - 6 - 7
70	樹立柱建物	SB	弥・後期後半 桁行1間3.10~3.30m、桁行1間3.30~3.45m、甕・壺・高环・器台	31	4

2. 土坑 (SK、SX、SC)

土坑として取り上げた遺構には、不定形を呈するもの、略方形を呈するもの、楕円形を呈するものなどがある。略方形や略長方形、楕円形を呈するいわゆる生活遺構としての土坑をSK、それ以外の不定形を呈する大型の土坑や小型の土坑をSXとして遺構番号を付けたが、厳密な区分にはなっていない。SC05も当初方形の遺構プランを確認できたので、駄穴住居址として調査を進めたが、柱穴や炉址は確認されず、壁の立ち上がりも緩やかな部分があるなど大型の土坑として考えた方が良いのではないかという結果を得た。そこで、ここでは略号に関係なくこれらの遺構を一括して主要なものについてのみ報告しておきたい。

SK19 (Fig. 33・35・56) II区中央部に位置する不定形の土坑である。柱穴によって切られており、もともとは略方形に近い形ではなかったかとみられる。長さ1.7m、幅1.5m、深さ0.34mを測る。遺物は、夜臼式土器から板付II式土器まで含んでいる。Fig. 35-14~18は壺である。14~16は同一個体で、口縁部は外反して外側が肥厚する。肩部には1条の沈線を巡らす。17は肩部に5条の横沈線とその下に重弧文を施す。19・20は外反する口縁の甕である。19は端部全面に刻み目を施す。21は甕蓋である。22は接合しないが同一個体と考えられる高坏である。脚は細くて高い。23~26は夜臼式土器の深鉢である。胴部が「く」字形に屈曲するものと、口縁から底部へ単純にすぼまるタイプの深鉢がある。外面は粗いカイガラ条痕調整が施され、口縁端部近くにヘラなどによる刻目突帯を施す。

SK20 (Fig. 34・36・37) SK19の東側で検出された大型の長楕円形土坑である。包含層の途中でおぼろげながら遺構の存在を確認したが、最終的に基盤層まで下げなければプランは確定できなかった。長さ6.10m、幅1.85m、深さ約0.18mである。夜臼式土器を中心に板付II式土器の壺まで含んでいる。Fig. 36-29・30は壺、31は浅鉢である。27・28・42~48、Fig. 37-49~59は夜臼式土器の深鉢である。カイガラ条痕調整が主体であるが28はハケ目調整が施される。器形は胴部が「く」字形に屈曲するものと、口縁から底部へ単純にすぼまるタイプがある。刻み目突帯の刻みは爪で施されるものもあるが、ヘラなどの工具によって付けられているものが多い。胴部で屈曲する深鉢は、立ち上りがあまり内傾せず、屈曲部から口縁部までの幅が広い。夜臼式土器の中でも新しい時期に属するものであろう。32は弥生前期の高坏、33は甕、35~41は壺である。壺は肩部から胴部にかけて、横沈線文や重弧文が施される。Fig. 56-303も前期後半の壺口縁部である。

SK22 (Fig. 33・39) II区中央部東側に位置する。長さ1.4m、幅1.2m、深さ0.79mを測り、略方形を呈する。遺物は夜臼式土器の深鉢、弥生前期後半の甕・壺、中期前半の甕、後期後半の甕などが出土している。後期後半代の遺構であろう。第5次調査で礎板を持つ掘立柱建物SR232が検出されているが、この建物の柱筋にのり、柱穴の可能性もある。ただ、この遺構からは礎板は出ておらず、柱穴と重複した土坑の可能性も残されている。Fig. 39-60~62は混入した夜臼式土器の深鉢片である。粗いカイガラ条痕調整で、胴部が「く」字形に屈曲するものと単純な深鉢のタイプがある。

SK24 (Fig. 33-39) II区中央部東側に位置する略方形の土坑である。長さ、幅ともに1.1m、深さ0.26mを測る。遺物は、夜臼式土器、弥生前期後半の甕、中期の壺、後期後半の甕・壺・高坏・鉢・支脚などが出土している。Fig. 39-63は後期後半の甕である。64・65は、豊前地方にみられる口縁端部が短く内渦する高坏である。66は短頸の壺で、口唇部上端に2条の沈線を巡らす。外米系の土器であろうか。67は弥生前期の終りから中期初頭に属するとみられる甕である。口縁部は逆L字状に短く屈折し、端部下方に刻み目を施す。口縁下にも刻み目突帯を貼付する。71・72は前期後半の壺である。71には有輪羽状文、72には横沈線文が施される。68・69は夜臼式土器の深鉢、70は煤付着の深鉢形土器で

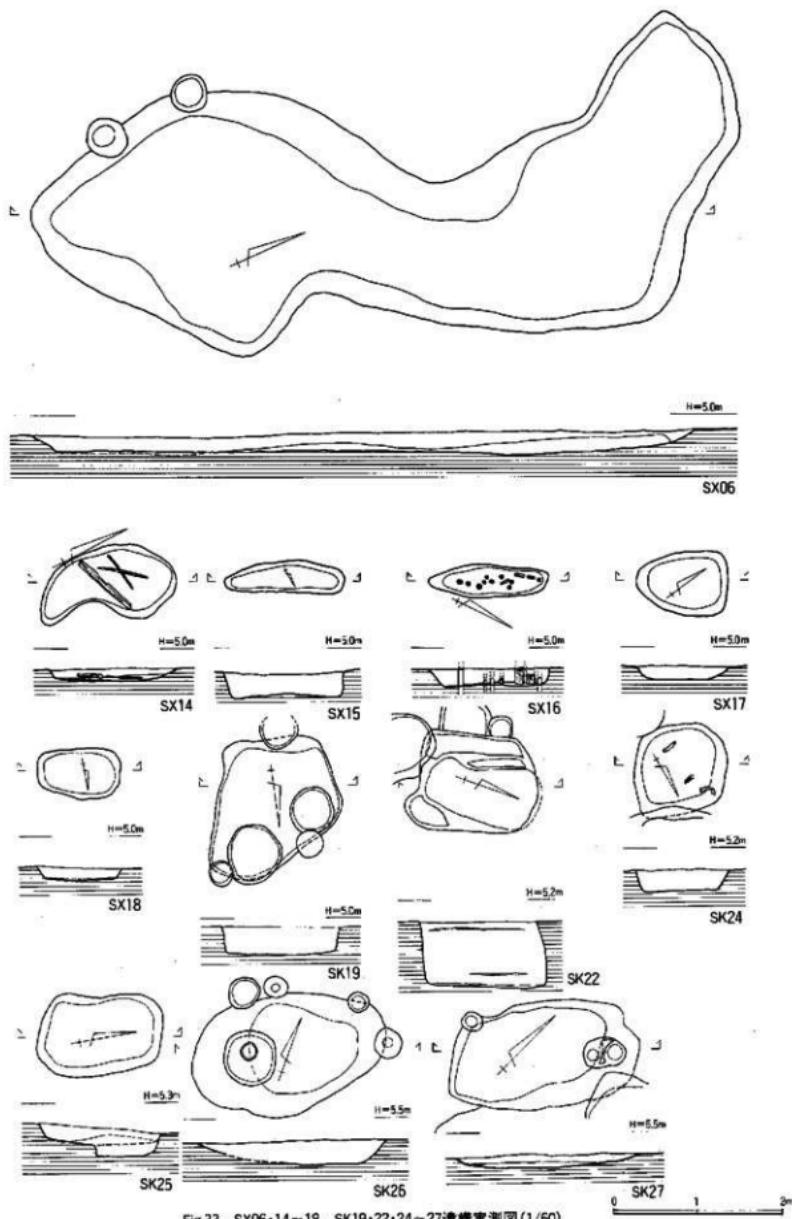


Fig.33 SX06~14~18, SK19~22~24~27遺構実測図(1/60)

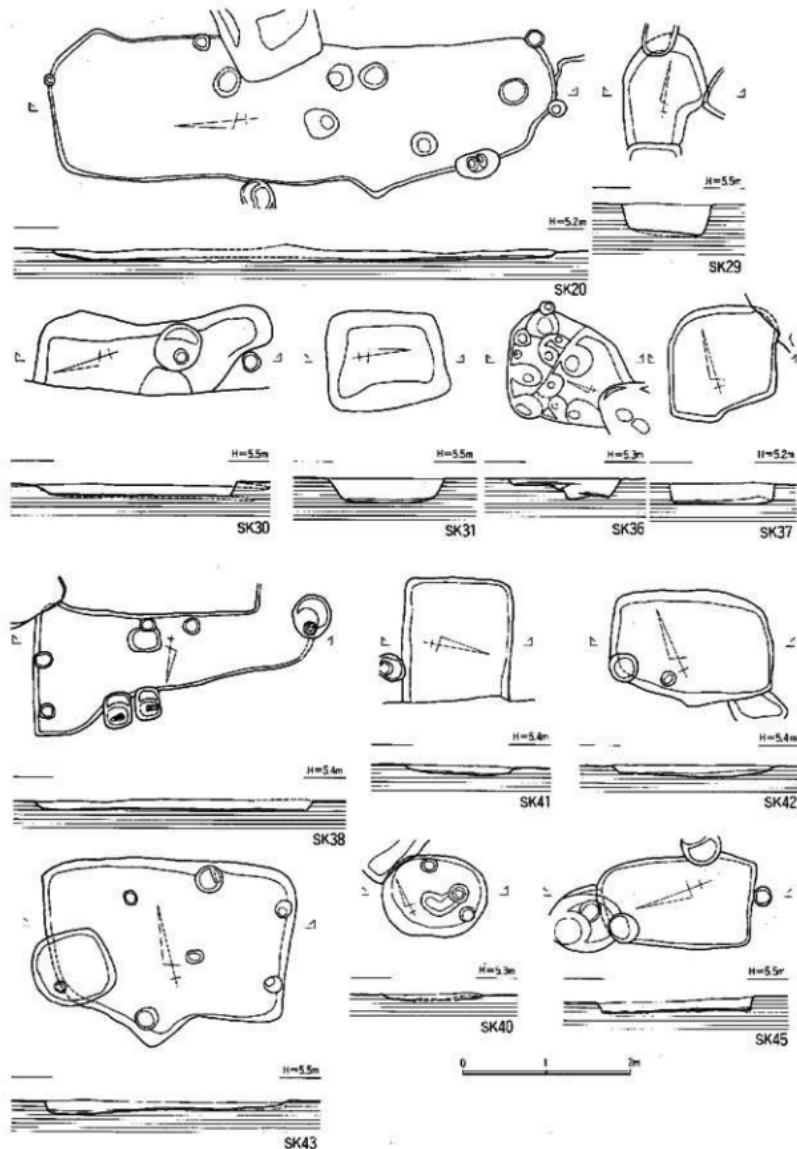


Fig.34 SK20・29～31・36～38・40～43・45遺構実測図(1/60)

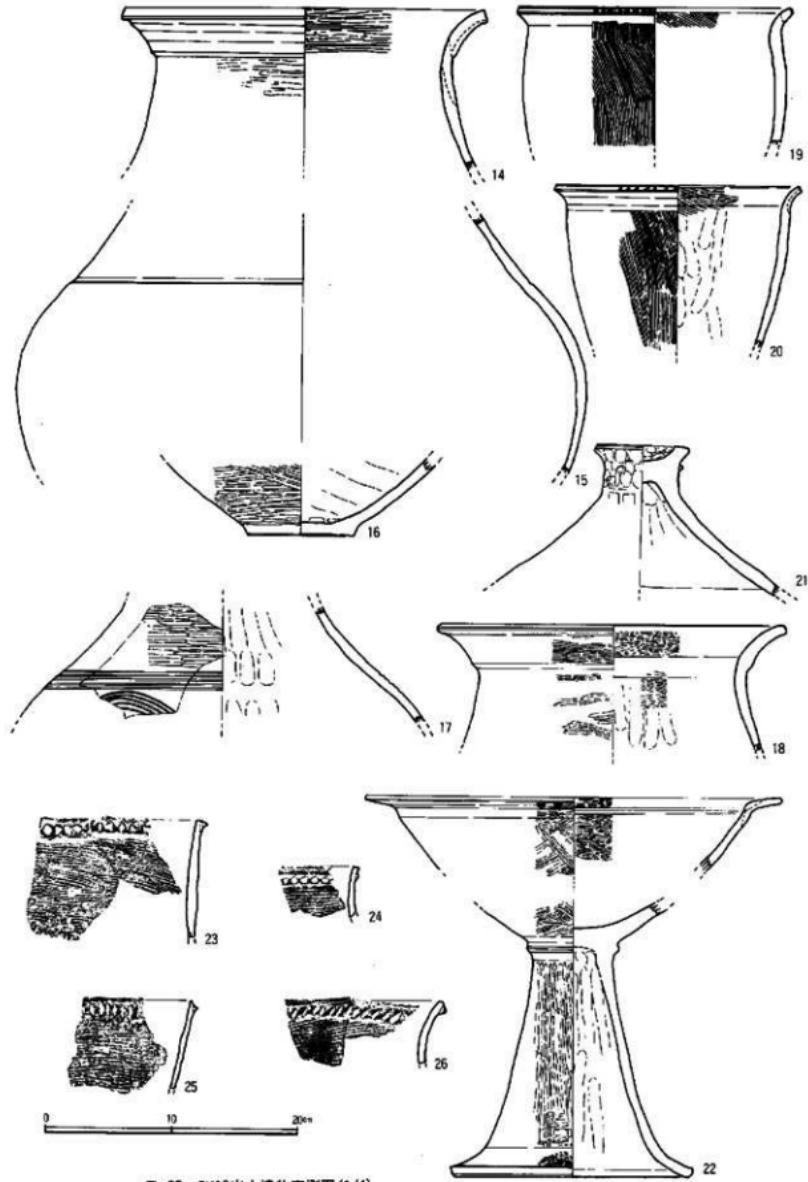


Fig.35 SK19出土遺物実測図(1/4)

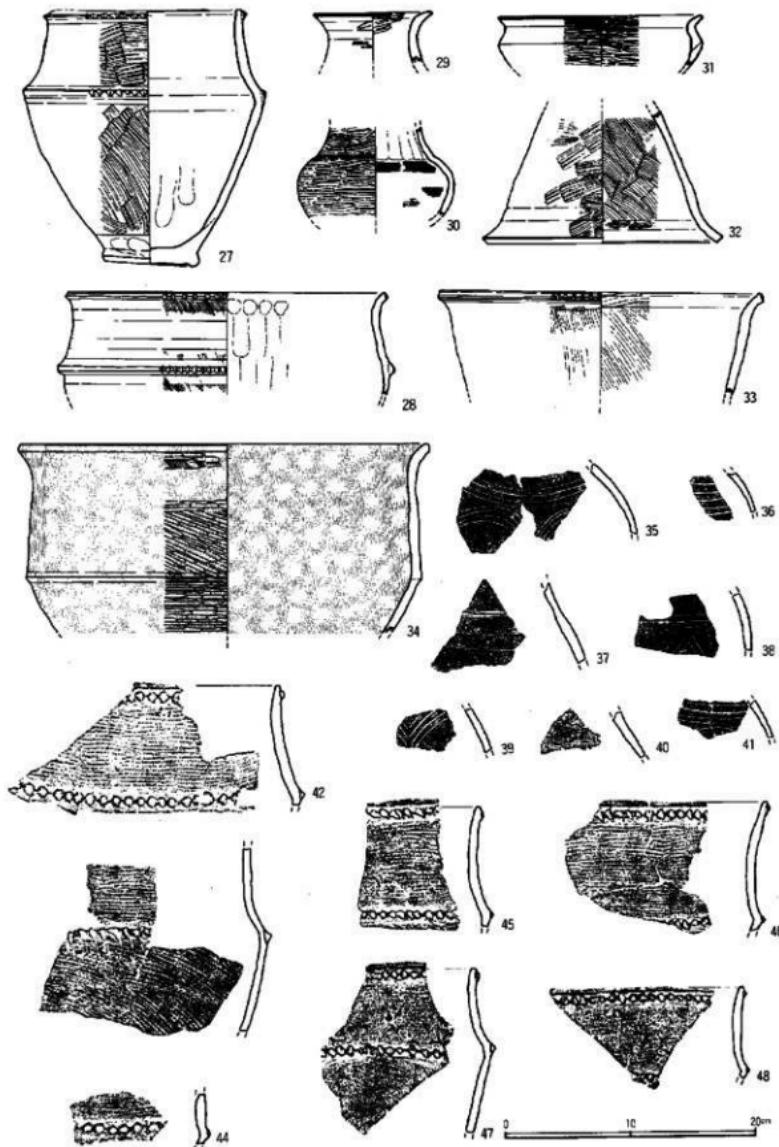


Fig.36 SK20出土遗物实测图① (1/4)

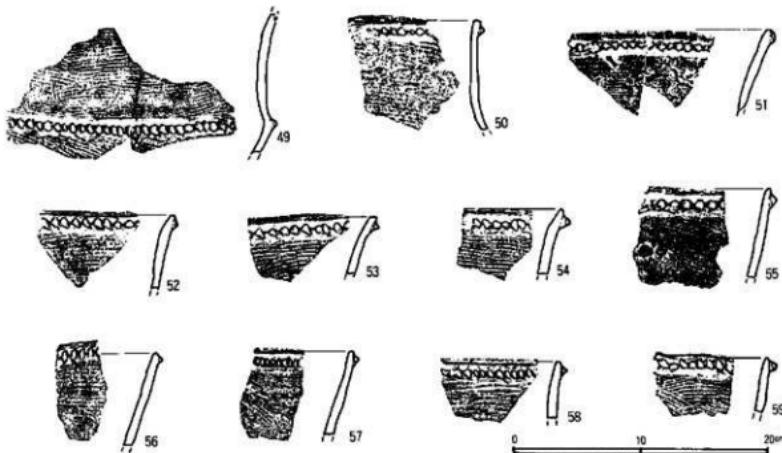


Fig. 37 SK20出土遺物実測図②(1/4)

ある。

SK25 (Fig. 33-40) SK24のすぐ南側に隣接する略長方形土坑である。長さ1.45m、幅1.0m、深さ0.28mを測る。Fig. 40-73は弥生前期後半の甕底部である。75は高環の環部で、口縁部を肥厚させている。74は溝入した夜白式土器の深鉢胴部である。

SK26 (Fig. 33-40) II区南東寄りに位置する楕円形を呈する土坑で、長さ2.30m、幅1.50m、深さ0.28mを測る。夜白式土器の深鉢、壺、弥生前期の甕・壺、中期の甕、後期の甕・壺・高環などが出土している。中期以降の土器は切り合った柱穴や見落した柱穴から出土したものであろう。

Fig. 40-76は弥生前期前半の研磨された鉢である。肩部が肥厚し段が付く。77は夜白式土器の壺である。78は口縁部から底部にかけて単純にすばまる深鉢で、外面は細かいカイカラ条痕で調整されている。口縁端部に接して大きな目で三角突帯を貼付し刻み目を施す。色調は灰褐色味を帯びる。79-91は夜白式土器の深鉢である。肩部が「く」字状に屈曲するものと単純にすばまる深鉢がある。90には口縁端部に刻み目を施さない。91には底面

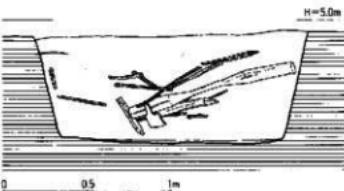
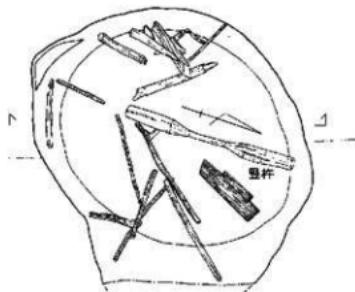


Fig. 38 SK32遺構実測図(1/30)

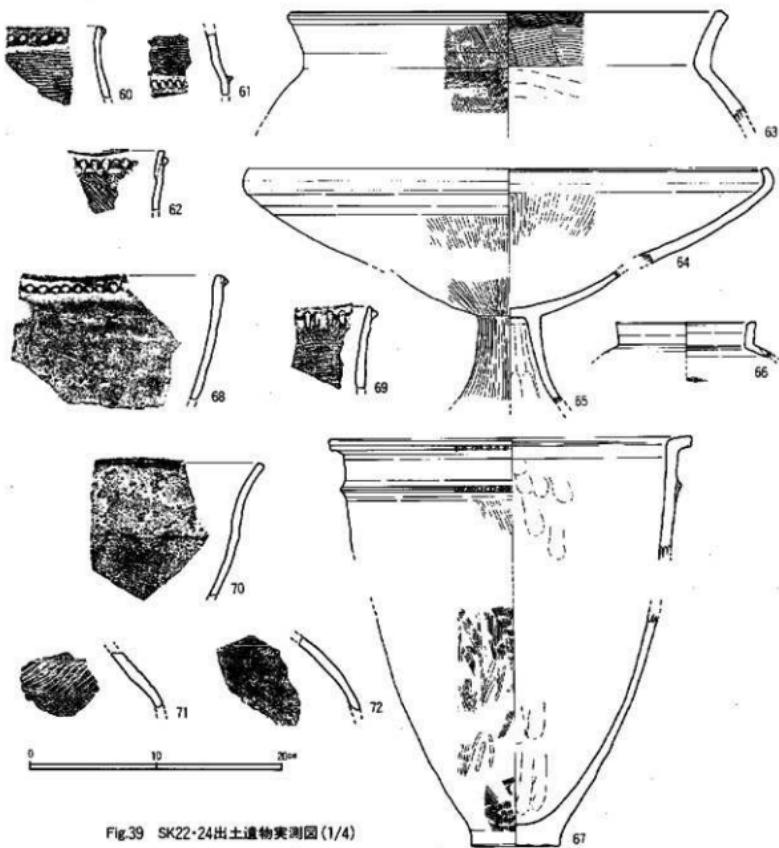


Fig.39 SK22-24出土遺物実測図(1/4)

SK22: 60~62 SK24: 63~67

に木ノ葉の圧痕がある。

SK28 (Fig. 5・40) SK26の南側に位置する略長方形土坑である。長さ3.20m以上、幅1.50m、深さ0.20mを測る。遺物は夜臼式土器の壺、前期後半の甕・壺、中期前半の甕、後期後半の甕などが出土している。Fig. 40-92は混入した夜臼式土器の壺、93は高坏である。甕の内外面、高坏の外面には丁寧なヘラミガキが施されている。

SK30 (Fig. 34・41) II区南側で検出された不定形の土坑である。SD34に切られており、本来は略長方形土坑に近い形ではなかったかと思われる。長さ2.75m、幅0.90m以上、深さ0.12mである。遺物は夜臼式土器、前期の甕・高坏・壺などである。弥生後期後半の甕も少量出土しているが、柱穴などで混入したものであろう。Fig. 41-95は夜臼式土器の壺である。口縁端部の外反が強いので時期的に

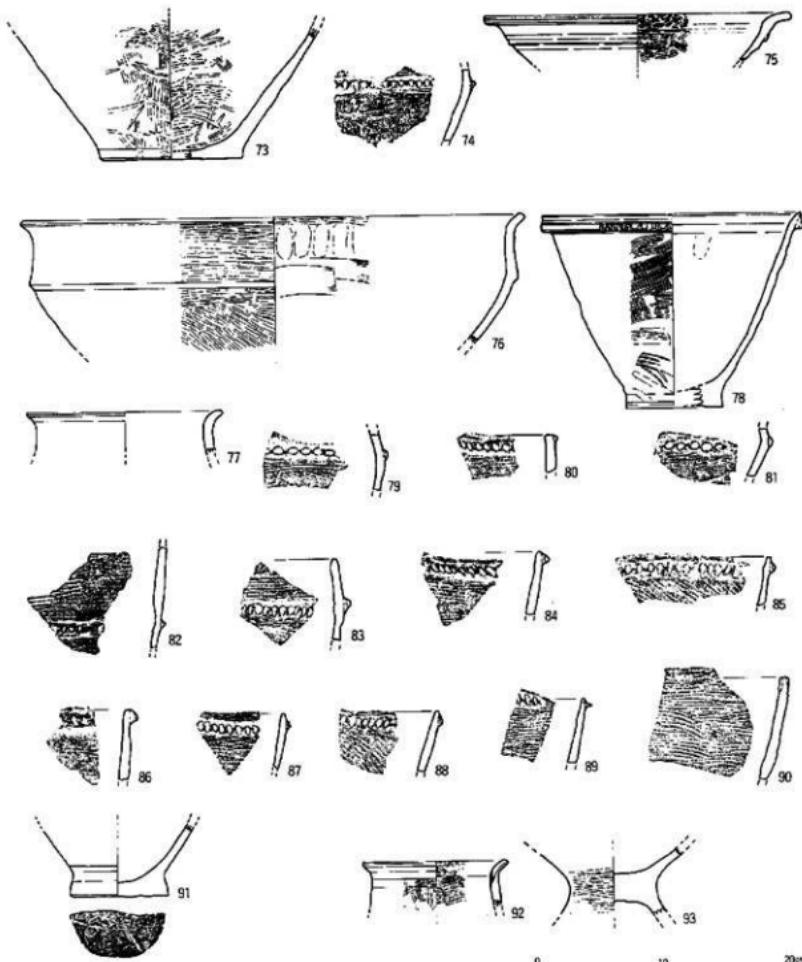


Fig.40 SK25・26・28出土遺物実測図(1/4)

SK25 : 73~75 SK26 : 76~91 SK28 : 92~93

は新しくなると考えられる。96は黒色研磨の浅鉢である。94・97~103は深鉢である。粗いカイガラ条痕で調整され、口縁端部近くに刻み目突帯を施す。刻みは爪で施したのが一部、あとはヘラなどの工具によって付けられている。器形は胴部が「く」字状に屈曲するものと、口縁部から底部に向って単純にすばまるものがある。胴部の屈曲には刻み目突帯を施す。弥生前期の土器は図示していないが、土坑の時期は前期後半代に属すると考えられる。

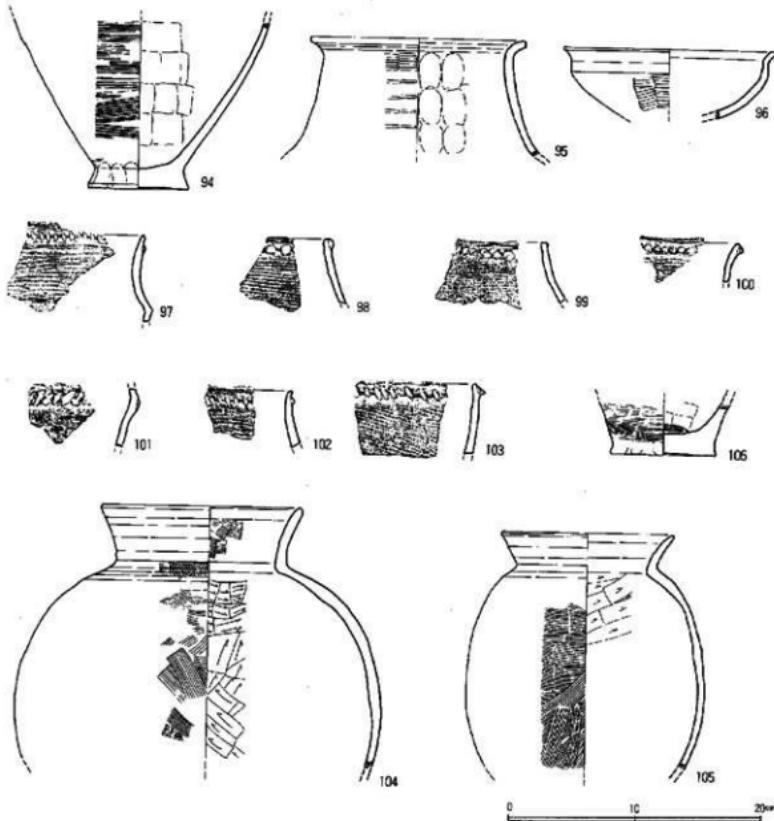


Fig.41 SK30-32-43出土遺物実測図(1/4)

SK30:94~103 SK32:104~105 SK43:106

SK32 (Fig. 38・41) II区東南隅で検出されたやや楕円形を呈する円形土坑である。長径1.84m、短径1.45m、深さ0.67mを測る。遺物は土師器壺・高环、木製の豎杆、平たい柄の付いた銀状（ただし刀は付いていない）の不明木製品などが出土している。Fig. 41-104・105は出土した土師器の壺である。外側はハケ目、内面はヘラケズリ調整が施されている。布留式の新しいタイプに属するものであろうか。古墳時代の遺構は4次調査では少ないが、東側の5次調査で出土している。古墳時代の遺構は東側に分布しているものと考えられる。

SK43 (Fig. 34・41) II区中央部南寄りに位置する略長方形土坑である。長さ3.05m、幅2.25m、深さ0.16mを測る。出土遺物は、夜白式土器、弥生前期後半の壺・高环などが主体で、中期前半の壺・高环などが少量ある。中期の遺物は柱穴などで混入したものであろう。Fig. 41-106は夜白式土器の深鉢底部である。これも時期的に古いので混入したものと考えられる。

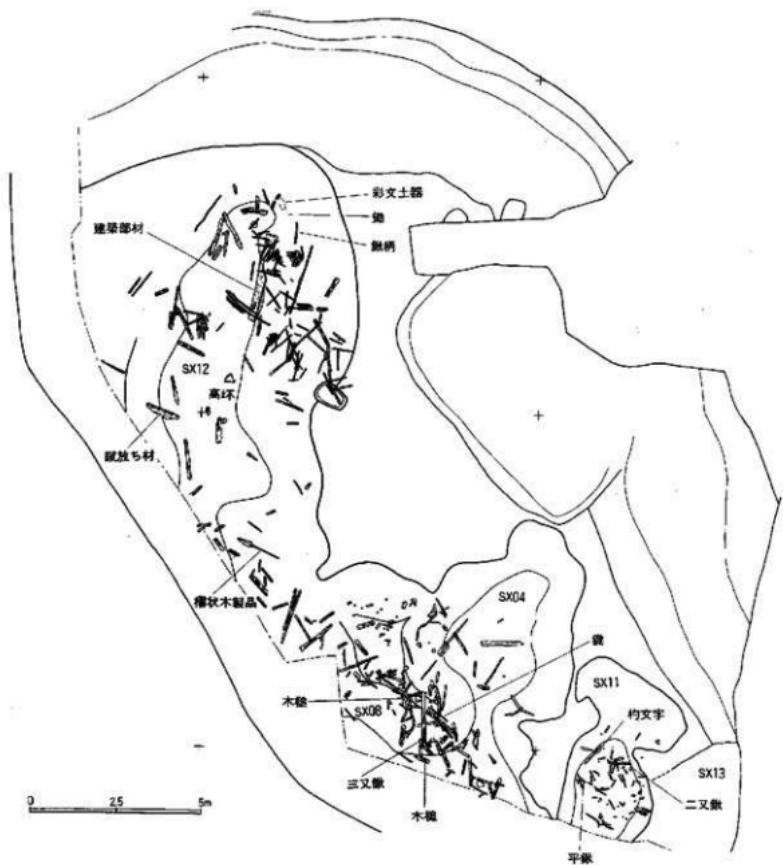


Fig.42 SX04・08・11～13遺物出土状況実測図(1/150)

SX04 (Fig. 42~45, PL. 15・16・20) I区南側にはSX04・08・11・12などの不定形土坑群が分布している。これらは明確な境界がなく、一連の遺構の可能性があるが、ここではある一定のまとまりごとに説明を加えたい。SX04は長さ6.0m以上、幅5.0m、深さ1.12mで、夜臼式土器から弥生後期後半までの遺物が出土している。後期の遺物は上層に多く、下層は前期が主体となる。中央部には湧水点があり、湧き出す水で細かな層分けができるなかった。したがって、下層にも新しい時期の遺物が若干混入している。遺物は土器の他に、鉄、銀、木櫛、杓子、台付の皿など木製品も多量に出土している。また、南側の狭くなった所には杭を打って横木を渡し樋状の施設を設けていた。取水施設との関連があるかも知れない。

Fig. 43-107は弥生中期前半の中型の甕、109は同時期の壺である。108は中期後半の月塗りの甕であ

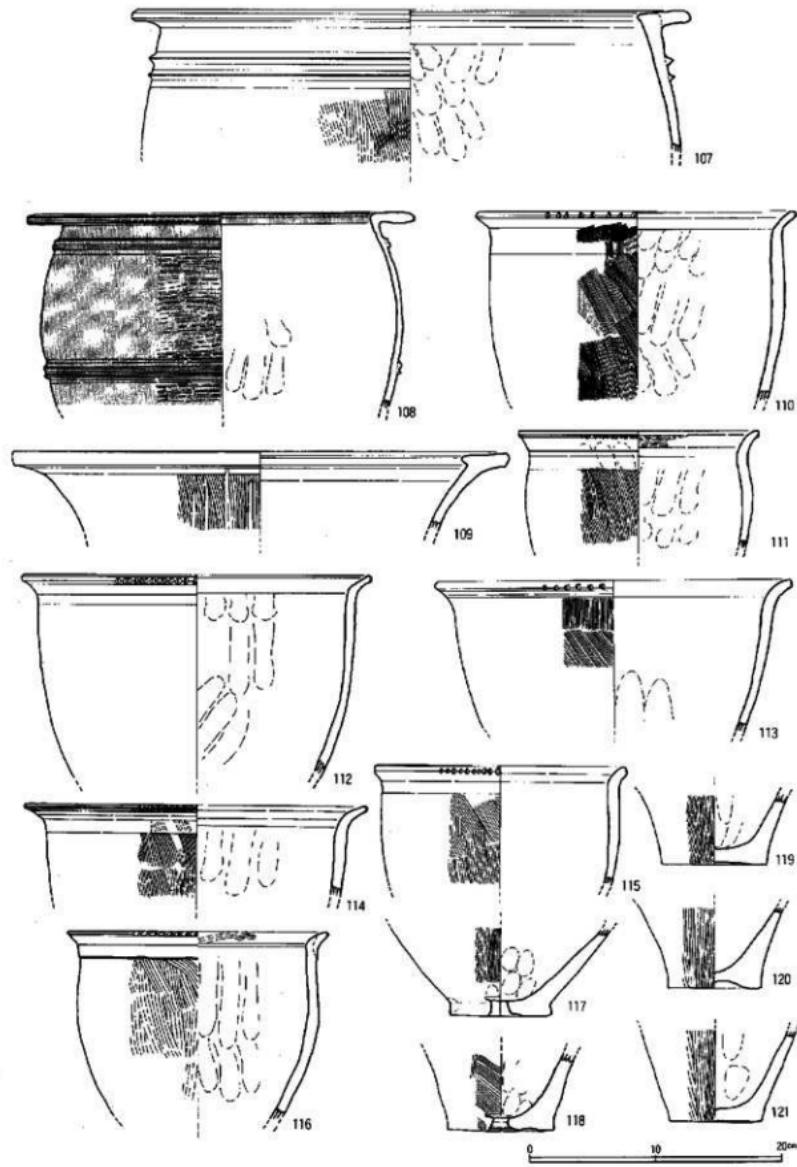


Fig.43 SX04出土遺物實測圖①(1/4)

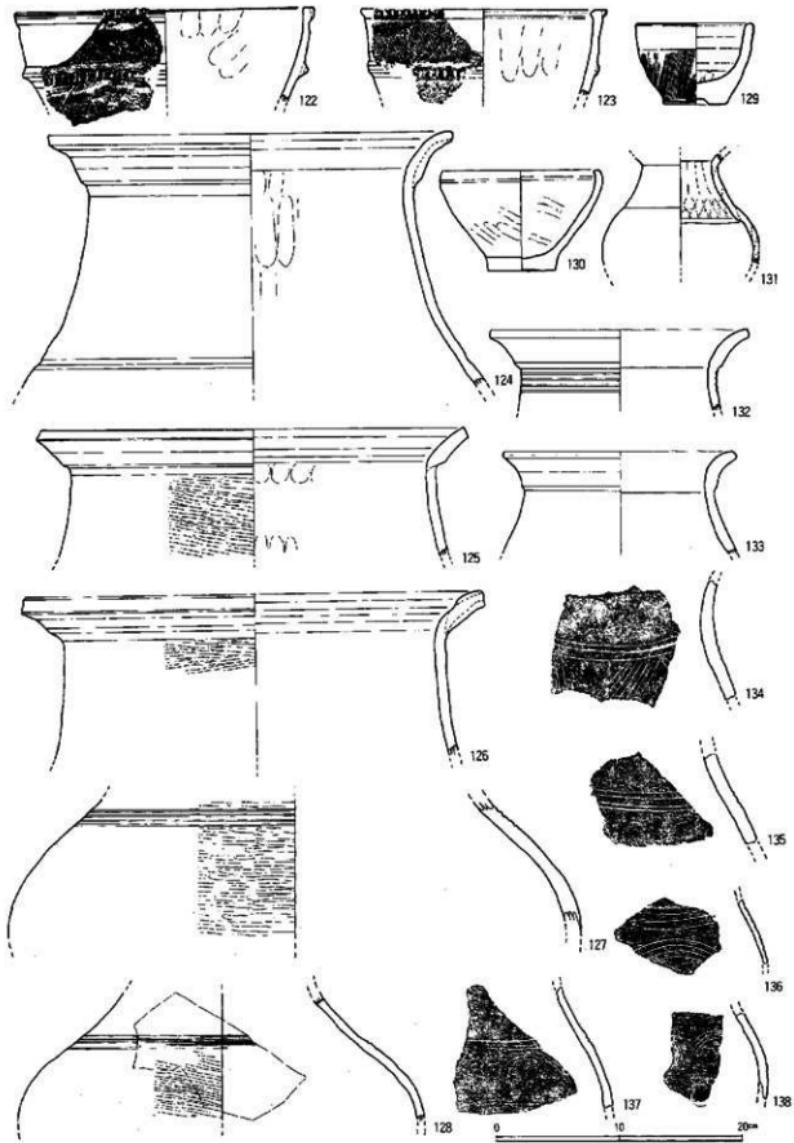


Fig.44 SX04出土遺物実測図②(1/4)

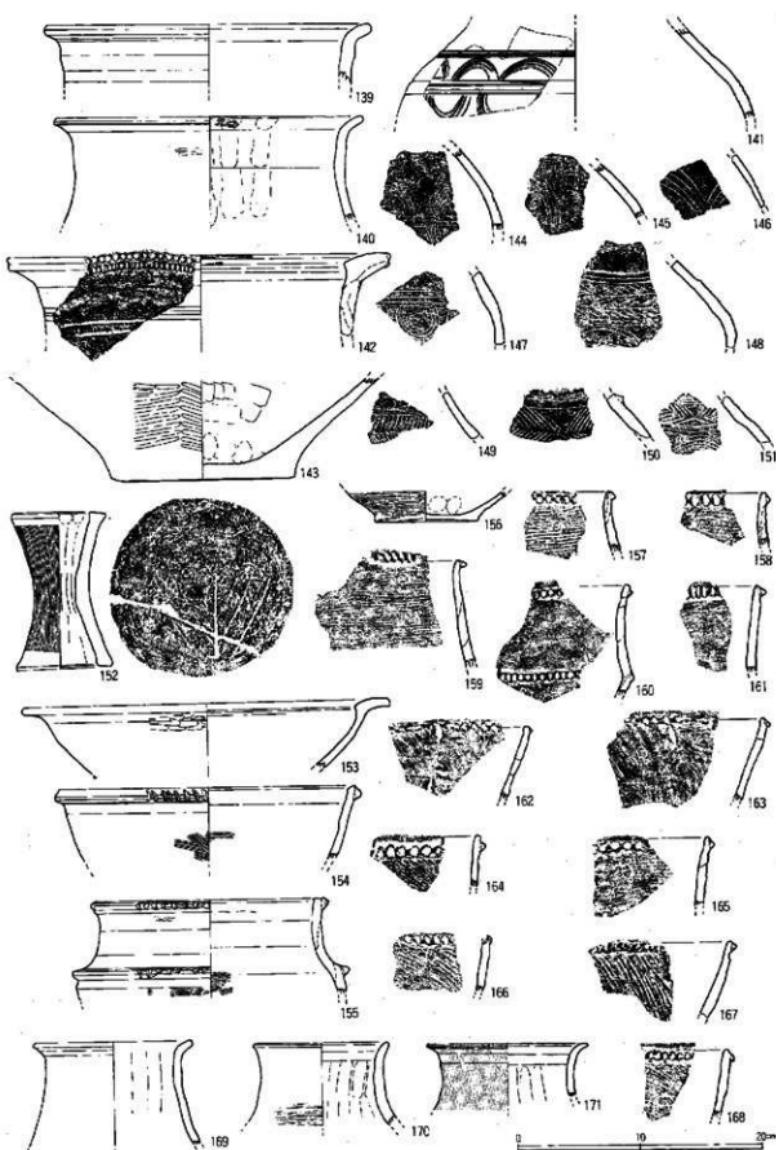


Fig.45 SX04出土遺物実測図③(1/4)

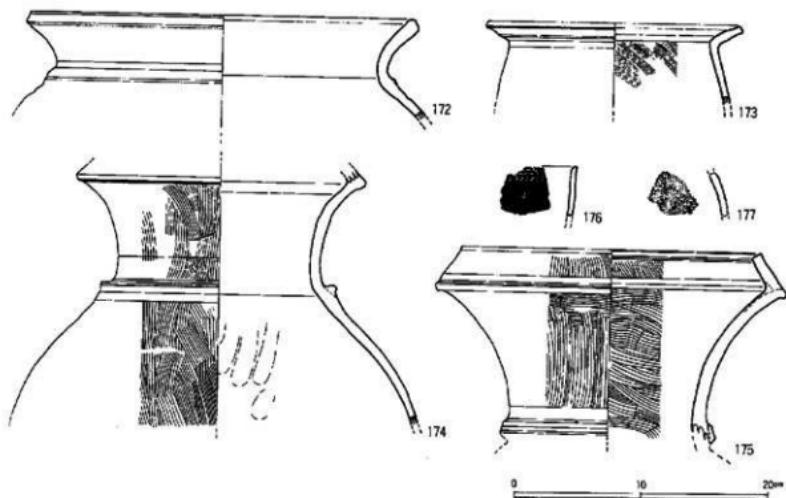


Fig.46 SX06出土遺物実測図(1/4)

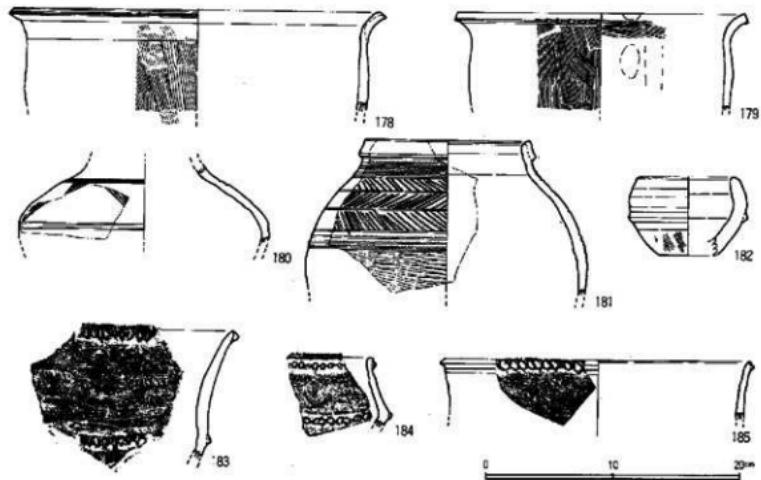


Fig.47 SX11出土遺物実測図(1/4)

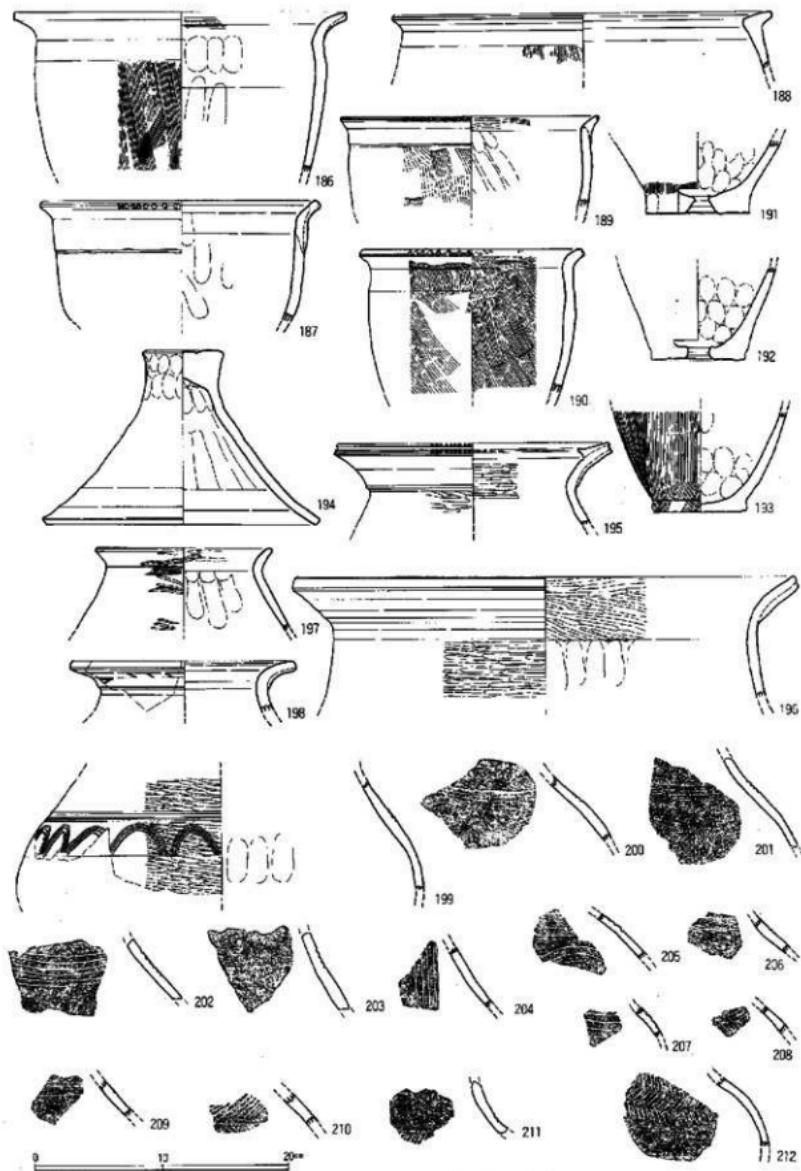


Fig.48 SX08出土遺物実測図(1/4)

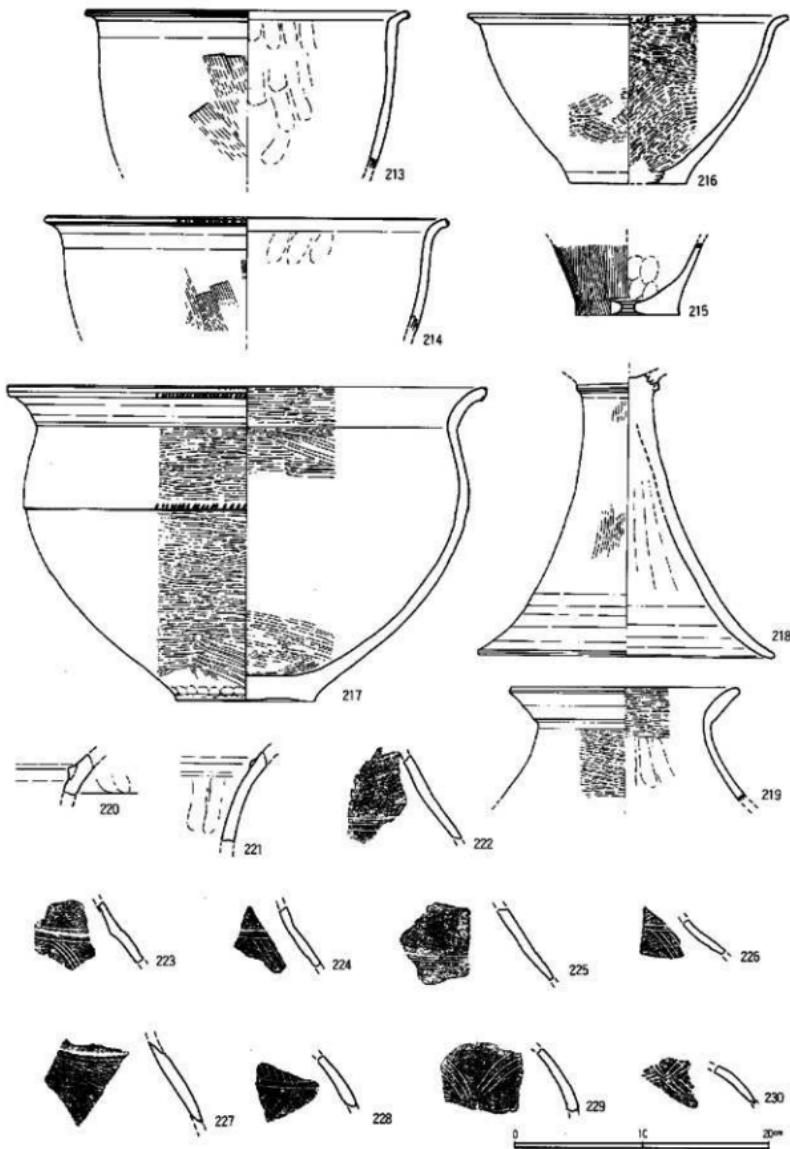


Fig.49 SX12出土遺物実測図(1/4)

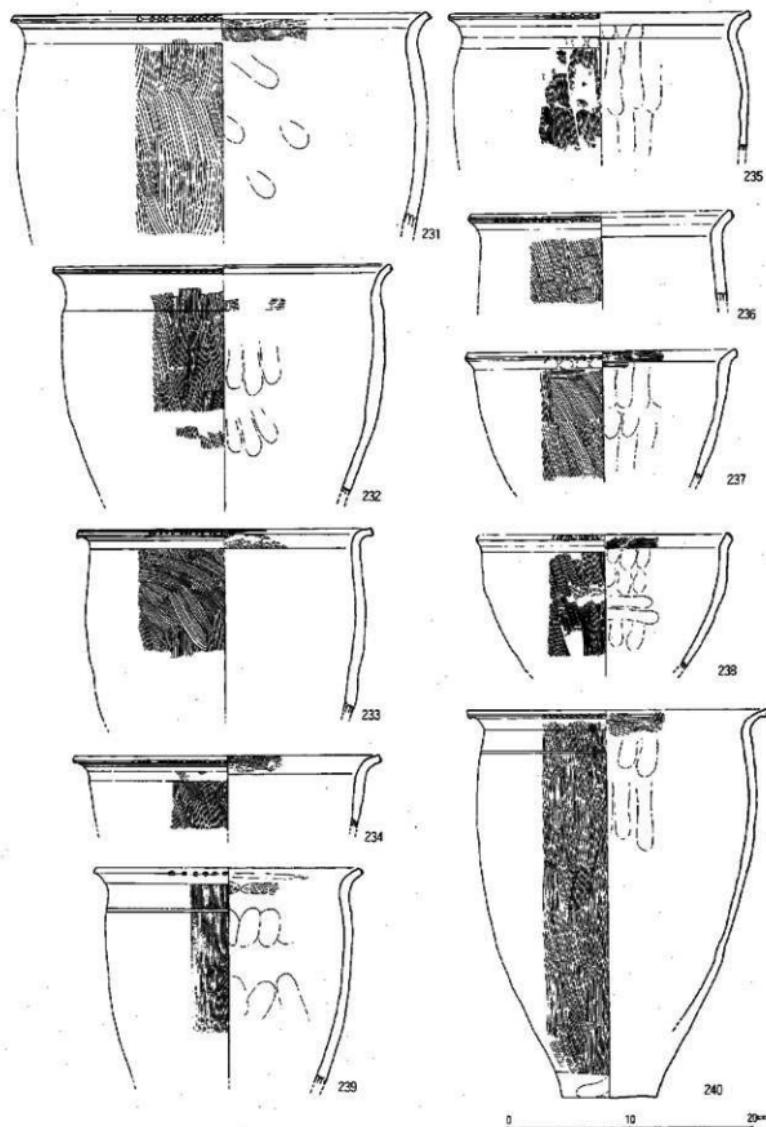


Fig.50 SX13出土遺物実測図①(1/4)

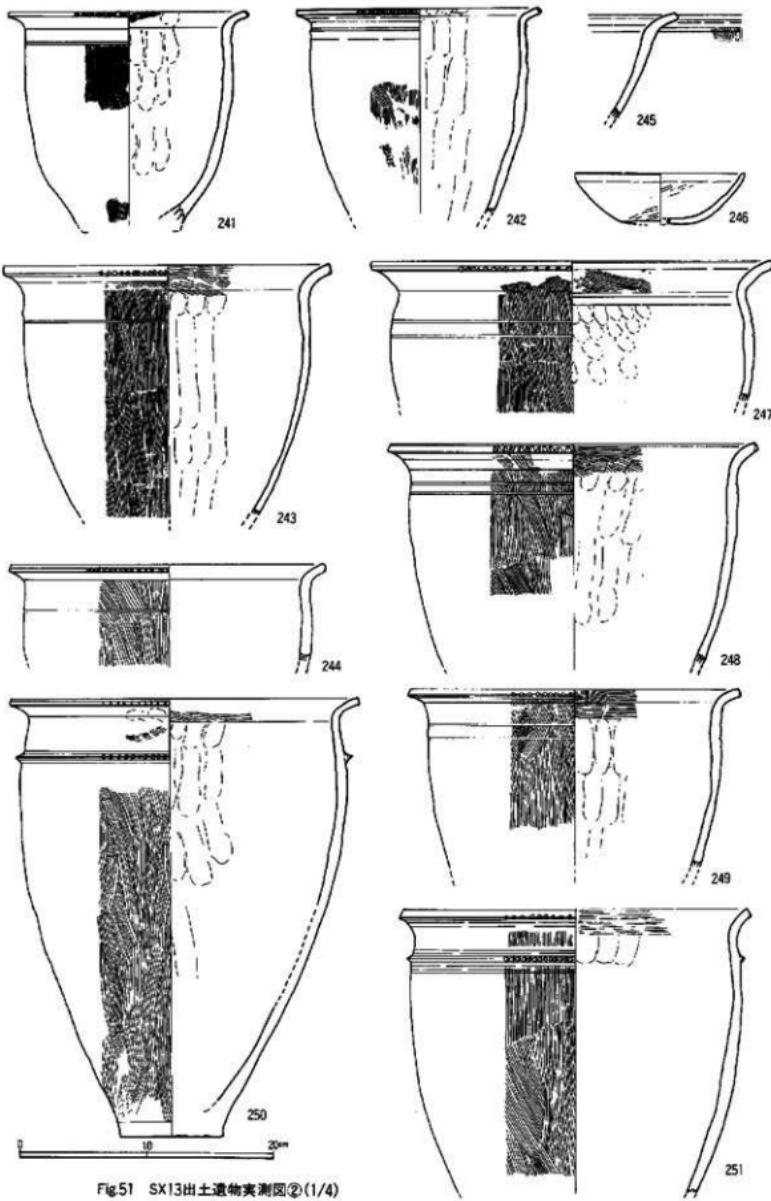


Fig.51 SX13出土遺物実測図②(1/4)

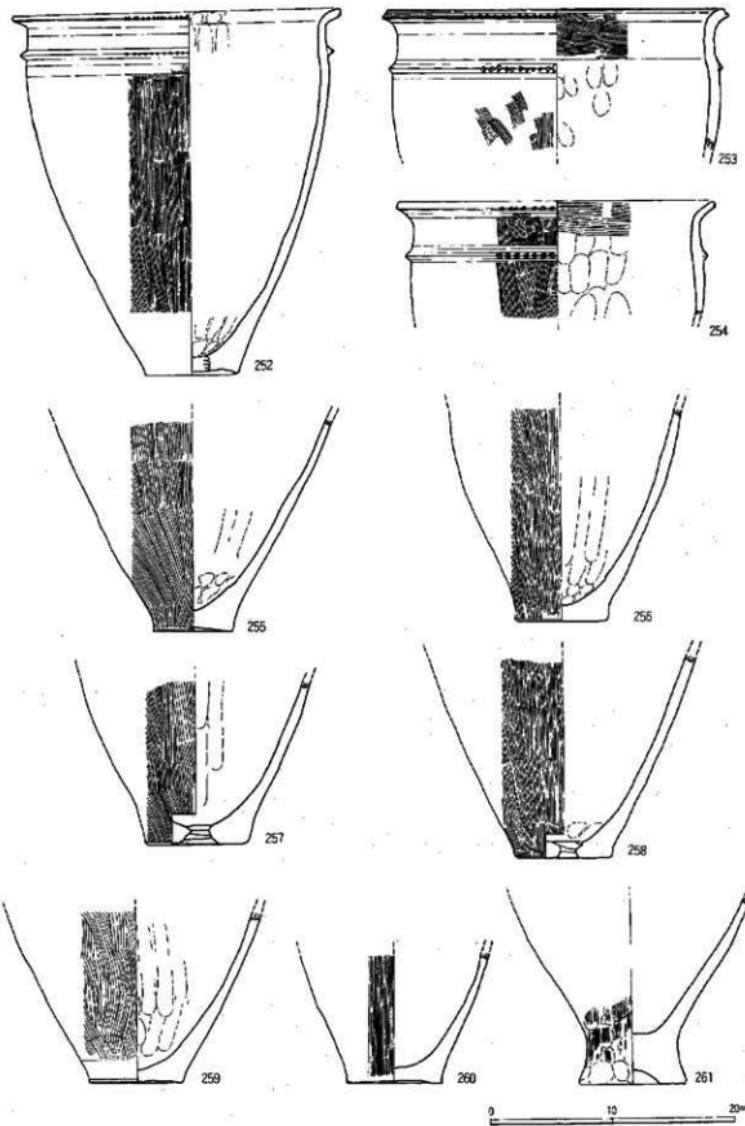


Fig.52 Fig.52 SX12出土遺物実測図③(1/4)

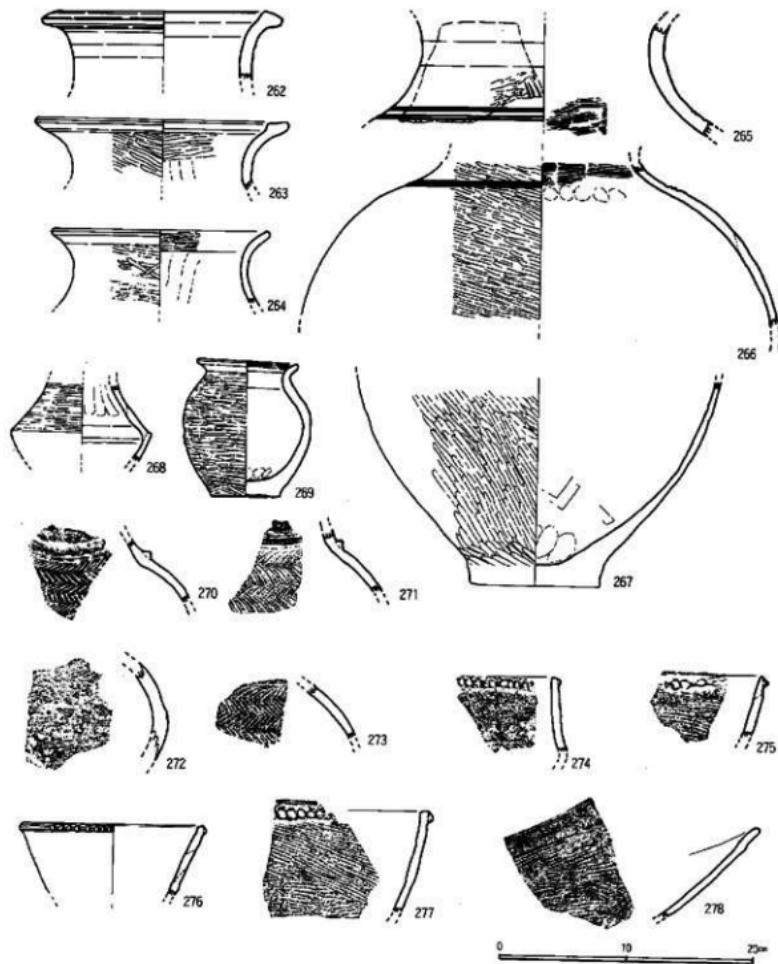


Fig.53 SX13出土遺物実測図④(1/4)

る。上層からの出土である。110～121は下層及び最下層から出土した前期後半の壺である。117・118には焼成後の底部穿孔がみられる。Fig. 44～122・123は夜臼式土器の流れをくむ壺であろう。129・130は小型の鉢形土器である。124～128、131～138、Fig. 45～139～151は各種の壺である。口縁外側を肥厚させ、肩部に横沈線、胴部に複線三角文、重弧文、有軸羽状文、無軸羽状文及びそれらが複合した文様を施す。126は口縁外側の肥厚に加え内側も肥厚させ、前期終末期形式への移行過程を示してい

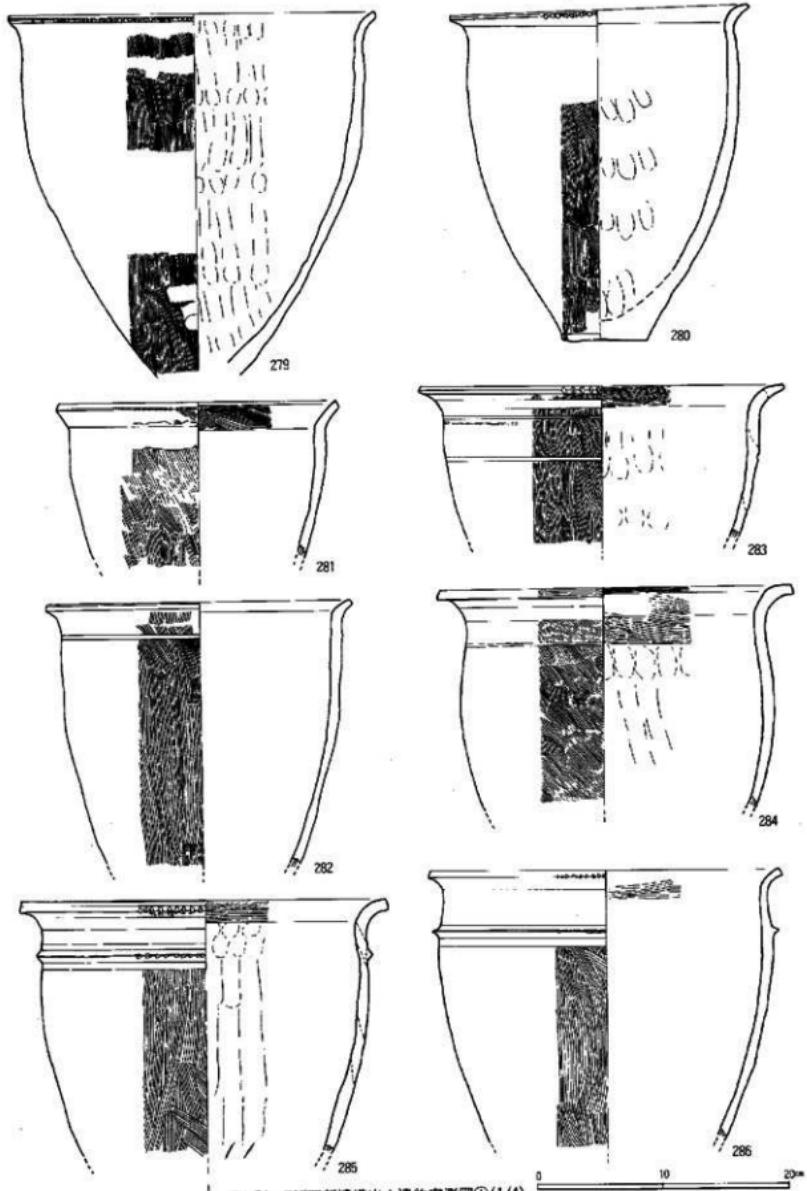


Fig.54 T15下部遺構出土遺物實測圖①(1/4)

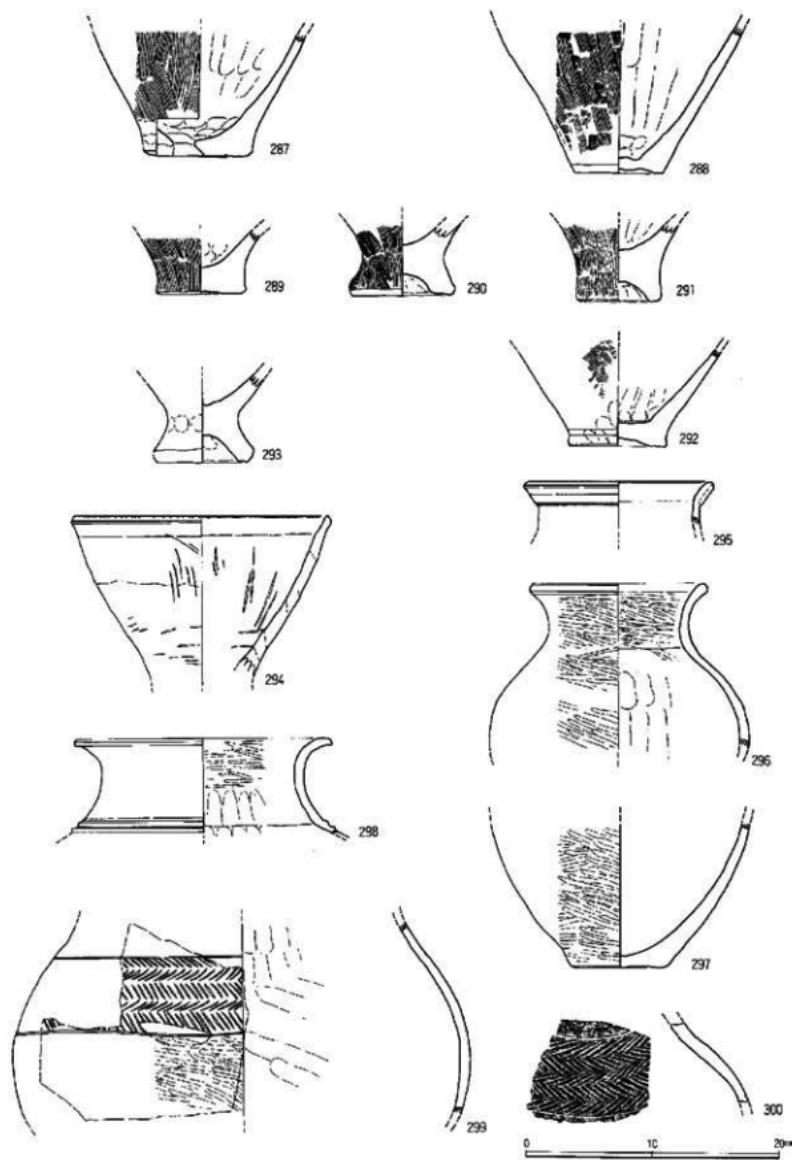


Fig.55 T15下部遺構出土遺物実測図②(1/4)

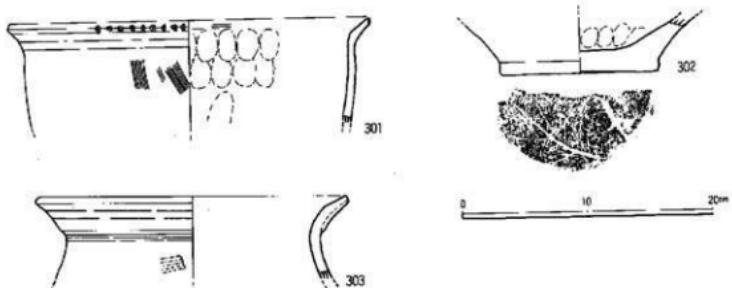


Fig.56 SX18-20出土遺物実測図(1/4) SX18:301・302 SX20:303

る。132には頸部に4条の横沈線がみられる。152は器台、153は高環、154~167は夜白式土器の深鉢、169~171は壺である。171には舟彫りが施されている。

SX06 (Fig. 33・46, PL. 16) I区北側に位置する不定形土坑である。長さ8.50m、幅3.15m、深さ0.28mを測る。Fig. 46~172・173は弥生後期後半の壺である。174・175は二重口縁壺、176は半截竹管文を互い違いに2列施した鉢か無頸壺、177は縄席文を施した壺副部片である。その他、高環や器台なども出土している。

SX08 (Fig. 42・48, PL. 15・16・20) SX04に接して南側に位置する。長さ9.0m以上、幅5.50m、深さ1.02mを測り、南側の調査区外へ延びる。三又鋸・木槌・把頭飾り盤部などの木製品とともに、弥生前期を主体に後期までの遺物が出土している。Fig. 48~186・187、189~193は前期後半の壺である。191・192には焼成後の底部穿孔が認められる。188は中期初頭の壺であろう。194は壺蓋である。195~212は前期後半の壺である。197は夜白式土器の壺で混入したものであろう。壺は口縁外面を肥厚させ、胴部には横沈線、重弧文、有袖・無袖の羽状文が施される。195は口縁内面も肥厚させ、罐部に刻み目を入れる。204は頸部に施された継方向の沈線文である。

SX11 (Fig. 42・47, PL. 17・20) SX04の東側に位置する独立した不定形土坑である。長さ5.0m以上、幅2.8m、深さ0.34mを測り、南側の調査区外へ延びている。遺物は、又鋸・平鋸・杓文字形木製品などとともに、弥生前期から後期までの土器が出土している。Fig. 47~178・179は前期後半の壺である。180~181は壺で、181は直口気味の口縁を肥厚させ、外面に横沈線と有袖の羽状文を施す。横沈線や羽状文はカイガラで付けたものではなく、カイガラ状文に似せた手描きの文様である。182は小型の鉢、183~185は混入した夜白式土器の深鉢である。

SX12 (Fig. 42・49, PL. 17・21) I区西側に位置する大型の不定形土坑である。長さ13.0m以上、幅8.0m以上、深さ0.86mを測る。中心部には湧水点があり、常時多量の水が湧き出していた。遺物は、鋸・勧・漆塗り弓、建築部材などの多量の木製品と共に、弥生前期を主体に後期までの土器が出土している。この遺構からは彩文土器が多く出土している。後期の土器は上層からの出土である。Fig. 49~213~215は前期中葉から後半にかけての壺、216・217は鉢、218は高環脚部である。215には底部穿孔がみられる。217の鉢は口縁部を肥厚させ、副部も肥厚させている。口縁部と胴部には刻み目を施し、内外面はヘラミガキされている。219~230は壺である。220と221には口縁内面に三角突帯を貼付する。豊前から周防地方のものであろう。このような口縁内面に突帯を施す壺は他の遺構でも10例近く出土している。その他の壺外面には、重弧文や羽状文が施文されている。

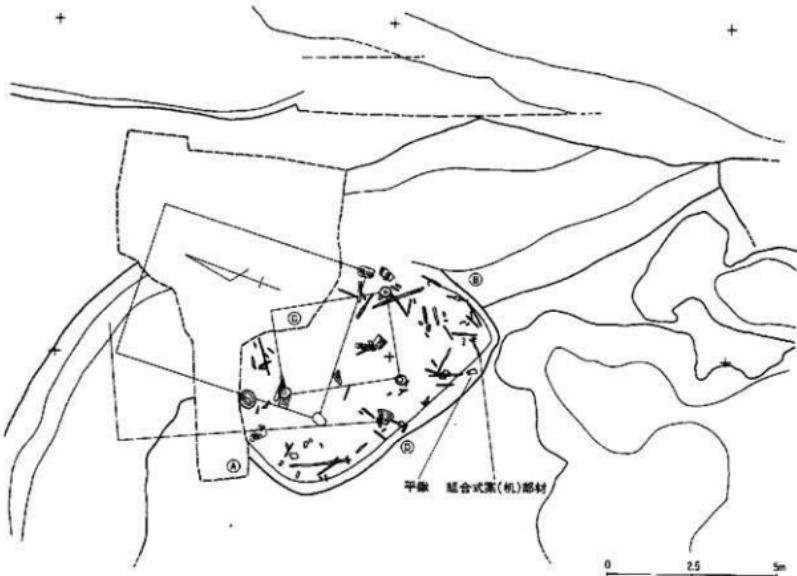


Fig.57 SC05遺物出土状況実測図(1/150)

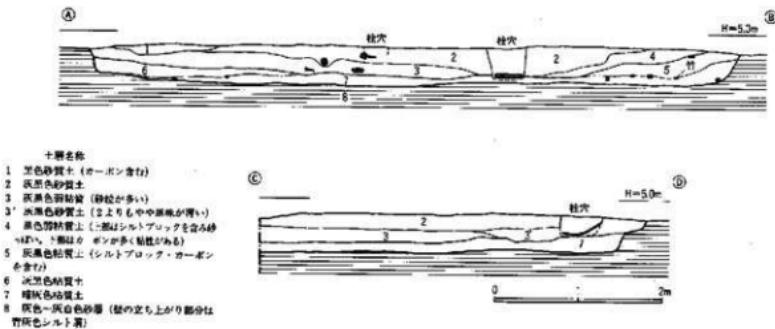


Fig.58 SC05土層断面実測図(1/60)

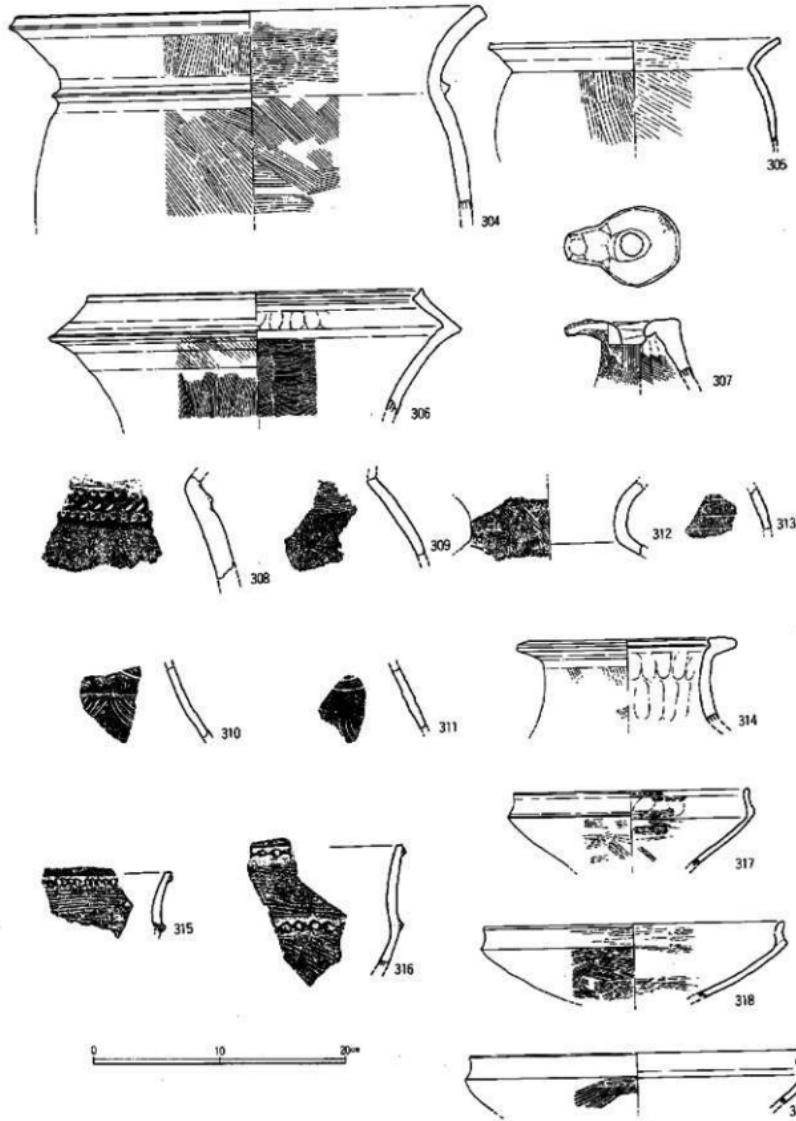


Fig.59 SC05出土遺物実測図(1/4)

SX13 (Fig. 42-50~53, PL. 18) SX11の東側で検出された不定形土坑で、大部分が調査区外へ延びており全体の様子は分らない。長さ4.50m以上、幅2.70m以上、深さ0.34m以上である。土坑内には杭を斜めに打ち込んで横木を渡す土留状の遺構も存在したが、湧水と崩落で細かい調査ができなかった。遺物は、弥生前期中葉から後半を主体とする甕が多量に出土した。ほとんど煤が厚く付着した生活土器である。調査の過程で、15号トレンチ (T-15) 下部の遺構もSX13の続きと分り、土器も接合した。合わせて報告しておきたい。T-15下部からは、黒漆塗り弓・堅杵、容器未成品などの木製品も多量に出土している。なお、T-15下部は標高3.5mまで掘り下げたが、まだ下まで遺構が続いていた。湧水が激しく、物理的な条件で調査は断念せざるを得なかった。Fig. 50~52は出土した甕である。時期的に古い様相を持つものも存在するが、主体は前期後半であろう。胴上部に1条の沈線を有するもの、2条の沈線を有するもの、刻み目突帯を貼付するもの、何も施文しないものなどがある。Fig. 51~245は鉢形土器、246は浅い鉢である。Fig. 52~257・258には焼成後の底部穿孔がある。Fig. 53~262~273は壺である。262・263は前期末から中期初頭に属するものであろう。274~278は混入した夜白式土器である。278は波状口縁の浅鉢である。

Fig. 45・46はT-8下部から出土した土器群である。279~293は甕、294は鉢、295~300は壺である。甕には282・284のように口縁部に刻みを入れないものが存在する。287は底部穿孔、290・291・293は前期末から中期初頭に属する甕の底部である。294の鉢は朝鮮無文土器の影響を受けているものであろうか。299・300の壺には無輪羽状文が施されている。

SX18 (Fig. 33・56) SX12と切り合っている小型の略長方形土坑である。長さ1.10m、幅0.75m、深さ0.15mを測る。弥生後期後半の時期と考えられるが、前期の遺物も出土している。混入したものであろう。Fig. 56~301は前期後半の甕、302は壺の底部である。底面には木の葉の圧痕がみられる。

SC05 (Fig. 57~59, PL. 15・20) I区中央部に位置する豊穴状の遺構である。長さ8.05m、幅4.6m以上、深さ0.22mを測る。SD03を切っており、北側はT-8の崩落土によって破壊されている。当初遺構確認時に長方形のプランを検出したので、豊穴住居と考え調査を進めたが、柱穴や炉址などは確認されず、壁の立ち上がりも緩やかな部分があるなど大形の豊穴状土坑と考えた方がよさそうである。ただ、まったく豊穴住居ではないという確証もないのに、略号はそのまま残しておき、ここでは豊穴状の土坑として報告しておきたい。遺構内から検出された遺物は、組合式案(机)の部材や平歛などの木製品と、夜白式土器や弥生後期後半の甕・壺・高坏・器台などがある。夜白式土器はSD03と切り合っているため混入したものであろう。Fig. 59~304・305は後期後半の甕である。304は中型で頸部に三角突帯を巡らす。306は二重口縁壺、307は杏形器台である。308は大壺の破片で、頸部に三角突帯を巡らしハケ目原体で刻み目を入れる。突帯の上下には半截竹管刺突文を施す。309は肩部に蕪描文を施した壺である。これらは外来系の土器であろう。312・313は繩席文を施した壺形土器である。韓半島系のものである。310・311は前期後半の甕、314は中期初頭の壺である。315~319は夜白式土器で、315・316は深鉢、317~319は浅鉢である。内外面ヘラ研磨されるが、318と319の外面下半にはカイガラ条痕調整が残っている。

3 溝 (SD)

SD01 (Fig. 5, PL. 1) 調査区中央部を北流する大形の溝である。幅6.9m、深さ1.46mで延長60mを確認した。遺構群を多數切っているので、夜白式土器、弥生前期~後期の土器群が溝底で検出できるが、溝は古代以降のものであろう。内黒土師器柄、白磁・青磁碗などが出土している。

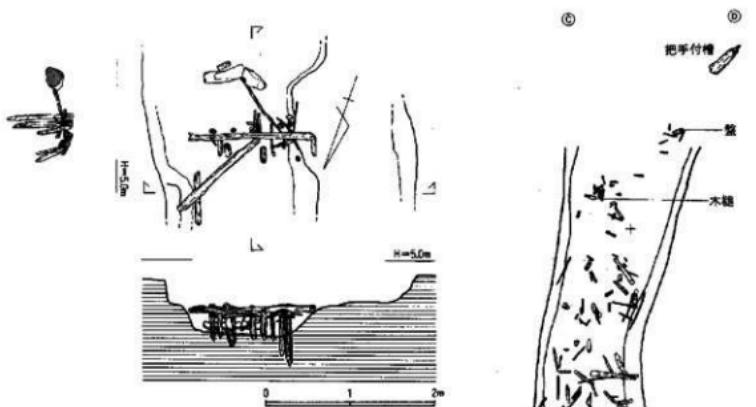
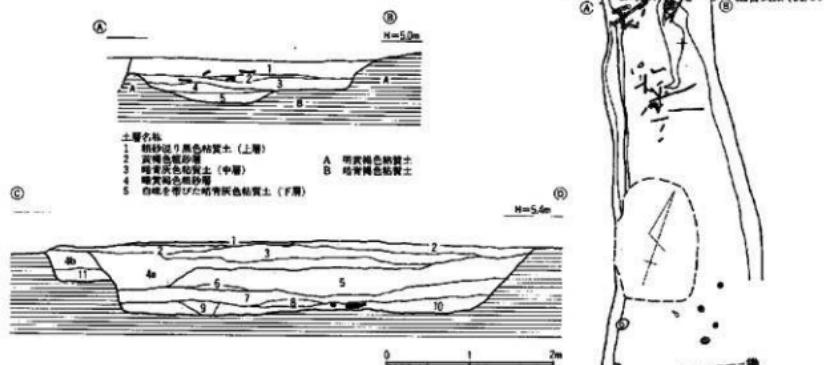


Fig. 60 I 区SD02内 墓状遺構実測図(1/60)



土壤分類	
1. カクラン土	7. 黄褐色粘質土（粗粒砂付近）（中層）
2. 黑褐色粘土	8. 黄褐色粘質土（细砂付近）
3. 黄褐色粘砂質	9. 黄白色粘砂質
4a. 黑褐色粘質土（粗砂混入）	10. 黄褐色粘質土（下層）
4b. 黑褐色粘質土（やや粗砂混入）	11. 黄褐色粘質土
5. 黑褐色粘質土	
6. 黄褐色粘砂質	

Fig. 61 SD02土層断面実測図(1/60)

Fig. 62 I 区SD02遺物出土状況実測図(1/150)

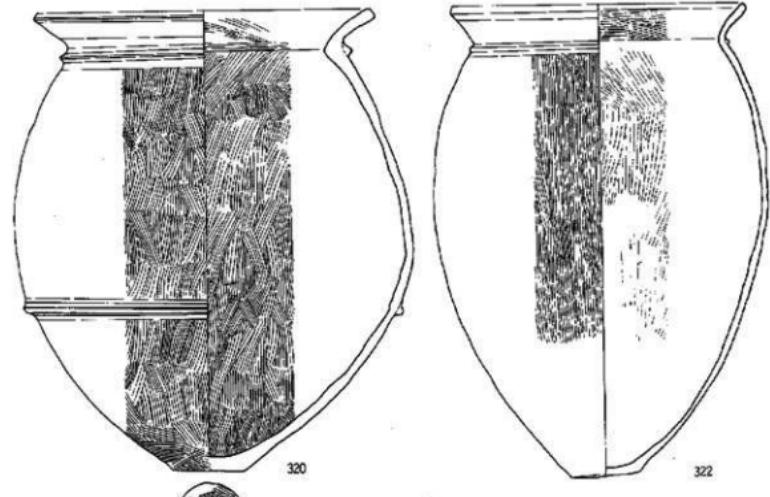
この溝は明治33年の地図にも載っており、字図によれば昭和19（1944）年の席田飛行場建設まで残っていた。1000年以上も存続した溝である。

SD02 (Fig. 60~72, PL. 22~25) 調査区中央部からII区南側を巡る大溝である。幅3.0~5.0m、深さ0.6~0.8mで、断面は逆台形を呈する。人為的に掘られた溝で、第5次調査でこの溝の延長が確認され、掘立柱建物群を取り囲む環濠になることが分った。環濠は南北115m、東西40m分が確認された。また、第5次調査ではII区SD03の延長が分かれて東側に向う溝と、南側に折れる溝とに分離された。東側に向う溝がSD02の延長で、南側に曲るI区SD03の延長であることが判明した。したがって、第4次調査のII区SD03は、SD02と全く重複していたことになる。調査時点では土層の違いとして区分しているので、II区SD03という名称はそのまま使用し、上層及び上層下がI区SD02の延長で、下層がI区SD03の延長に相当することになる。

I区SD02からは、鋸・鉤などの木製農具、木槌、豊作、槽、容器、盤、高杯、ネズミ返し、組合式案（机）の部材、福籠などの木製品と金属器、骨製品、多量の土器が出土している。土器は弥生後期後半が主体であるが、上層には古式土師器も含まれている。また、SB50大型建物の横は溝幅が狭くなり、杭を打ち込んで横木を渡し壠状の施設を設けている。

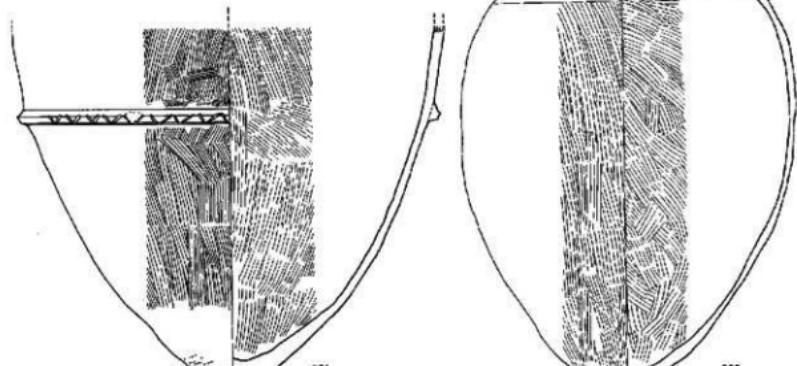
Fig. 63~72は出土遺物である。320~337は甕で、320は口径39.4cm、器高55.7cm、胴径47.0cmを測る胴の張った大型の甕である。頸部に三角突帯、胴部下半にコの字状突帯を貼付する。321は器高が70cm前後になる大型の甕である。頸部突帯にはハケ目原体で刻み目を入れる。322~326は中型の甕である。器高50~60cm、頸部に三角突帯を巡らす。中型の甕には煤が付着しており煮焚に使用されたことが覗える。324は頸部が締まり、外反する口縁部は長い。327~329は小型に属する甕である。口縁部には三角突帯が付かない。329・332は口縁端部が尖る。330・331は胴の張った甕である。334は直口状の口縁を有し、335・337は小さな底部が付く壺である。ともに上層から出土。336は焼成前の穿孔がある甕底部である。340は上層から出土した二重口縁の土師器甕である。山陰系のものであろう。333は算盤玉状の胴部を持つ甕である。胴径は34.5cmで、頸部が締まり外反する口縁は長い。338~339・341~350は二重口縁の甕である。345は特大で、口径が45cmを越え、器高も75cmを越える。口縁端部や突帯にはハケ目原体による刻み目を施す。346~347には櫛描波状文、348には沈線で鋸歯文が描かれている。346~347は上層からの出土である。351~352は短頸壺である。353~363は小型の壺類で、356~358は時期的に新しいものである。362は頸部が締まり、胴部に焼成前の穿孔が認められる。363は無頸壺である。364~400は高杯の一群である。坏部の屈曲が強く、短く立ち上がるもののや、屈曲が弱く緩やかに長く立ち上がるものなどがある。脚部の穿孔は3穴が多い。392~400は外来系の高杯である。筒部上位に細かい沈線や刺突文がみられる。瀬戸内地方のものであろうか。391は豐前地方の高杯である。401~404は鉢で脚台が付くものと考えられる。405~410は甕か鉢の脚台であろう。411~434は鶴状の口縁部を有する鉢である。体部と口縁部の屈曲が明瞭で口縁部があまり長くならないもの、口縁部が極端に発達したもの、口縁部と体部の境が不明瞭で口縁部が発達したものなど変化に富んでいる。口縁部が極端に発達したものは丁寧なヘラミガキが施される場合が多い。器台にのせて使用されたものであろう。435~441は単純な器形の鉢である。435には胴部に三角突帯が巡る。442には焼成後の穿孔がある。443~450は器台である。ハケ目調整だけのもの、ハケ目調整とタタキ調整が併用されるもの、タタキ調整だけのものなどがある。448~450はいわゆる杏形器台と呼ばれるものである。451は細頸の壺、464は混入した夜臼式の壺である。452~463は鉢形ないし壺形を呈した小形のミニチュア土器である。手捏ねで雑に作られているものが多い。456は手捏ね土器ではない。

SD03 I区 (Fig. 73~83, PL. 32~38) 調査区の南東から北西に向って伸び、さらに西側に曲る大



320

322



321

323

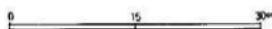


Fig.63 I区SD02出土遺物実測図①(1/6)

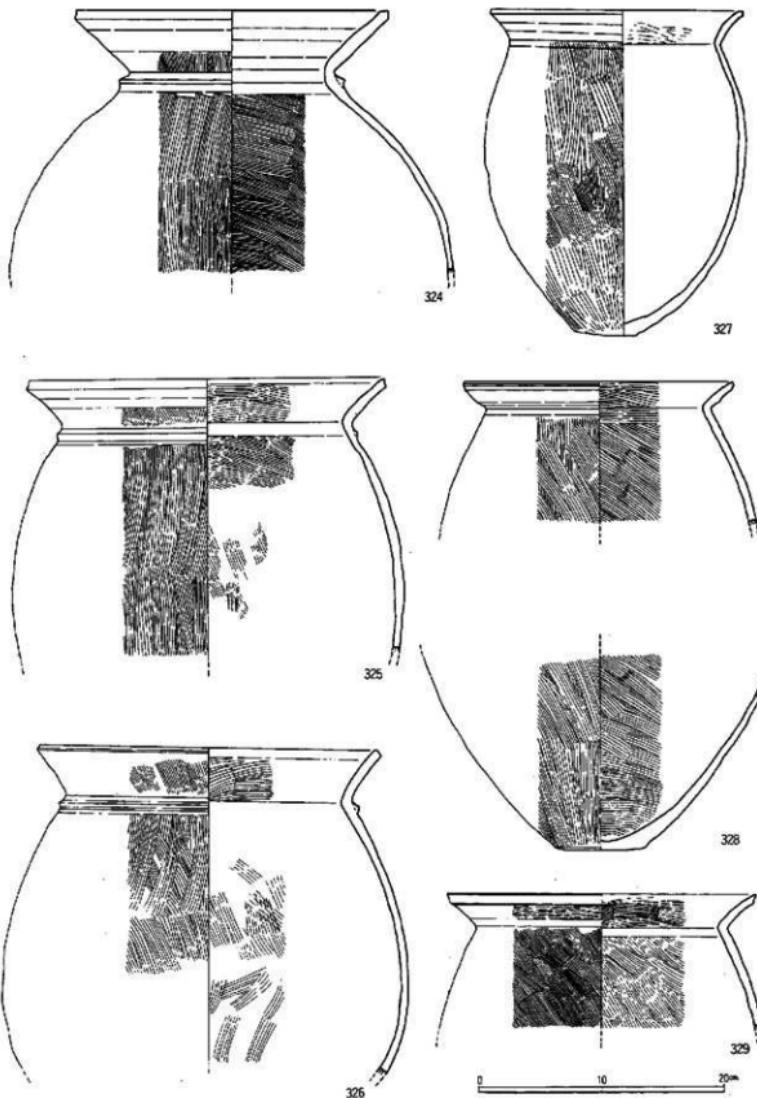


Fig.54 I区SD02出土遺物実測図②(1/4)

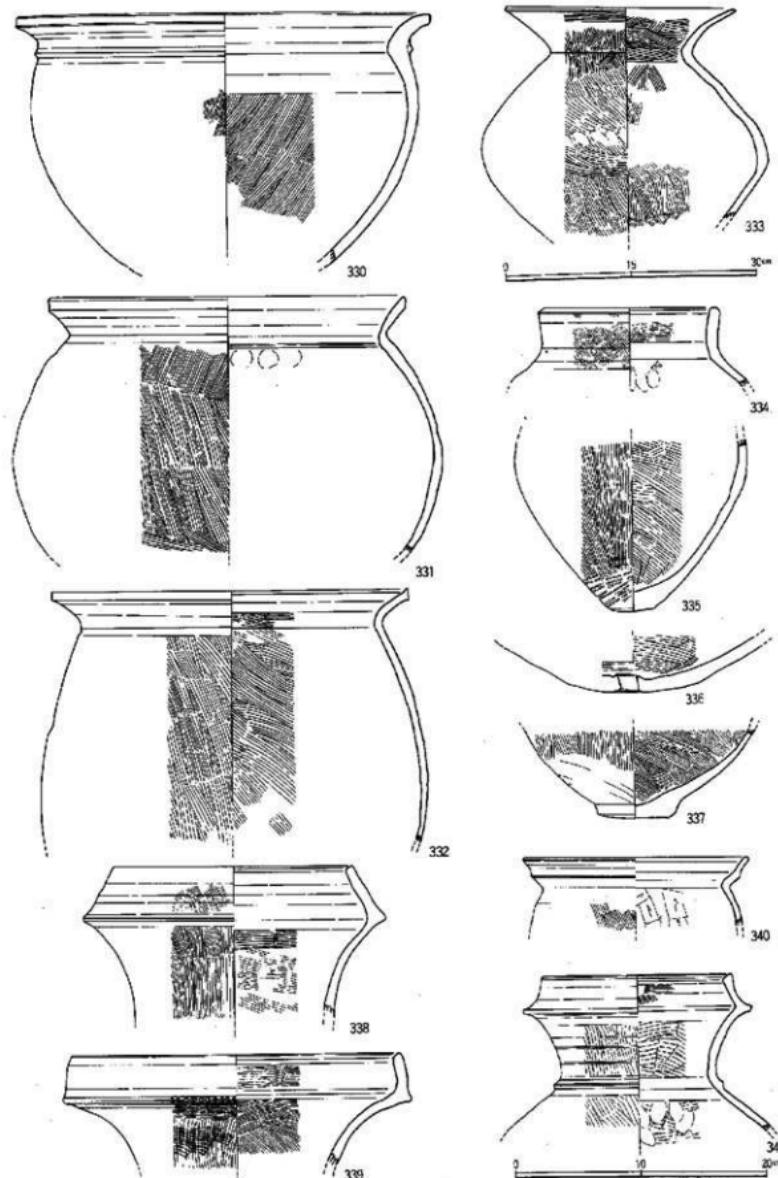


Fig.65 1区SD02出土遺物実測図③(1/4-333 : 1/6)

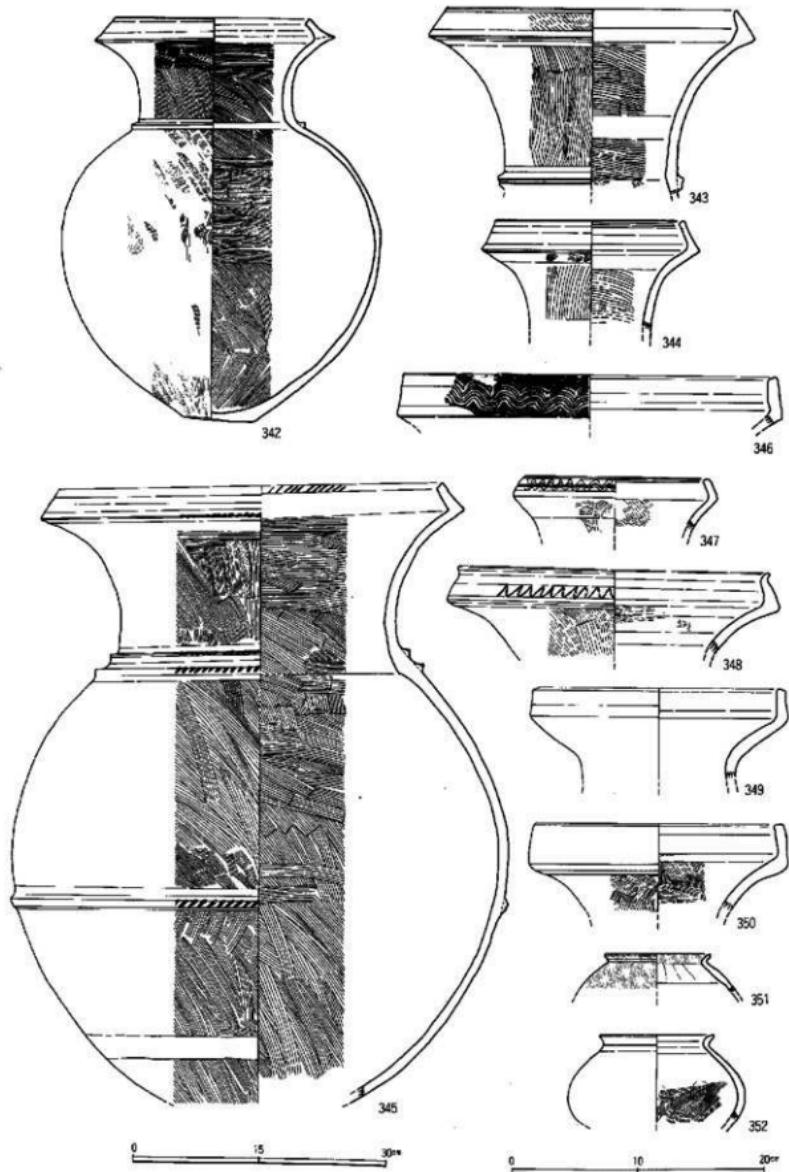


Fig.66 I区SD02出土遺物実測図④(1/4・342,345:1/6)

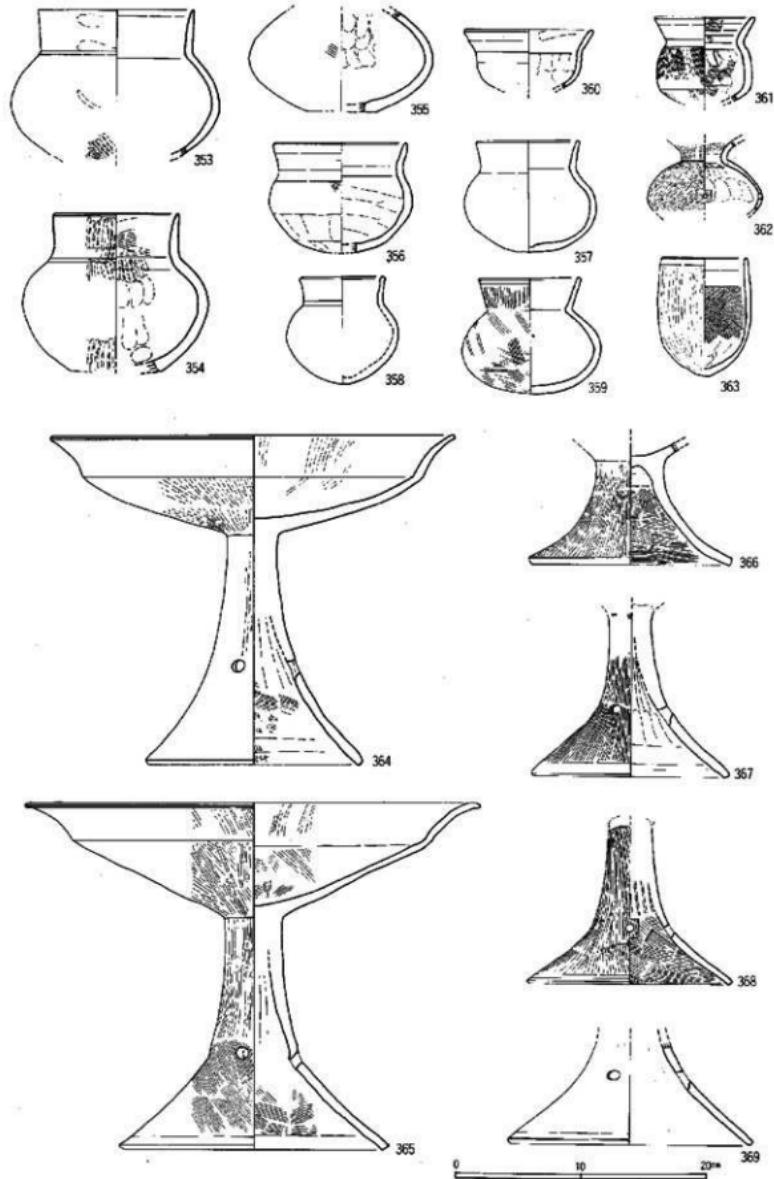


Fig.67 I区SD02出土遺物実測図(5)(1/4)

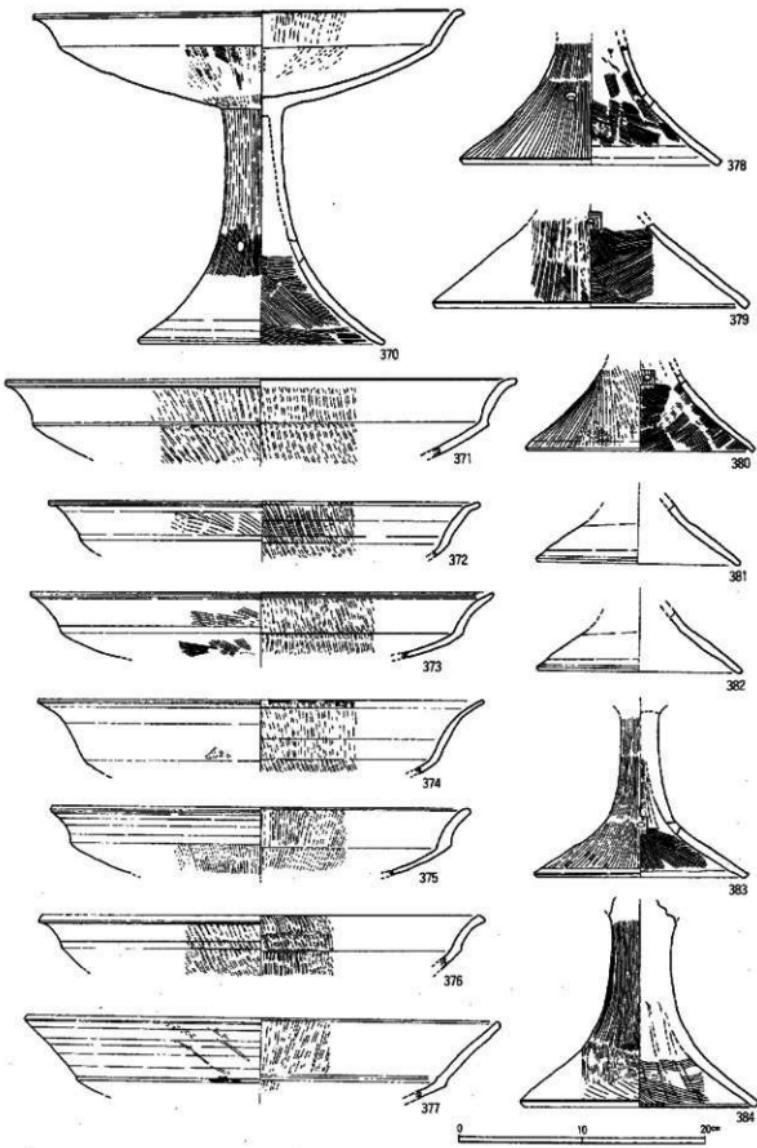


Fig.58 I区SD02出土遺物実測図⑤(1/4)

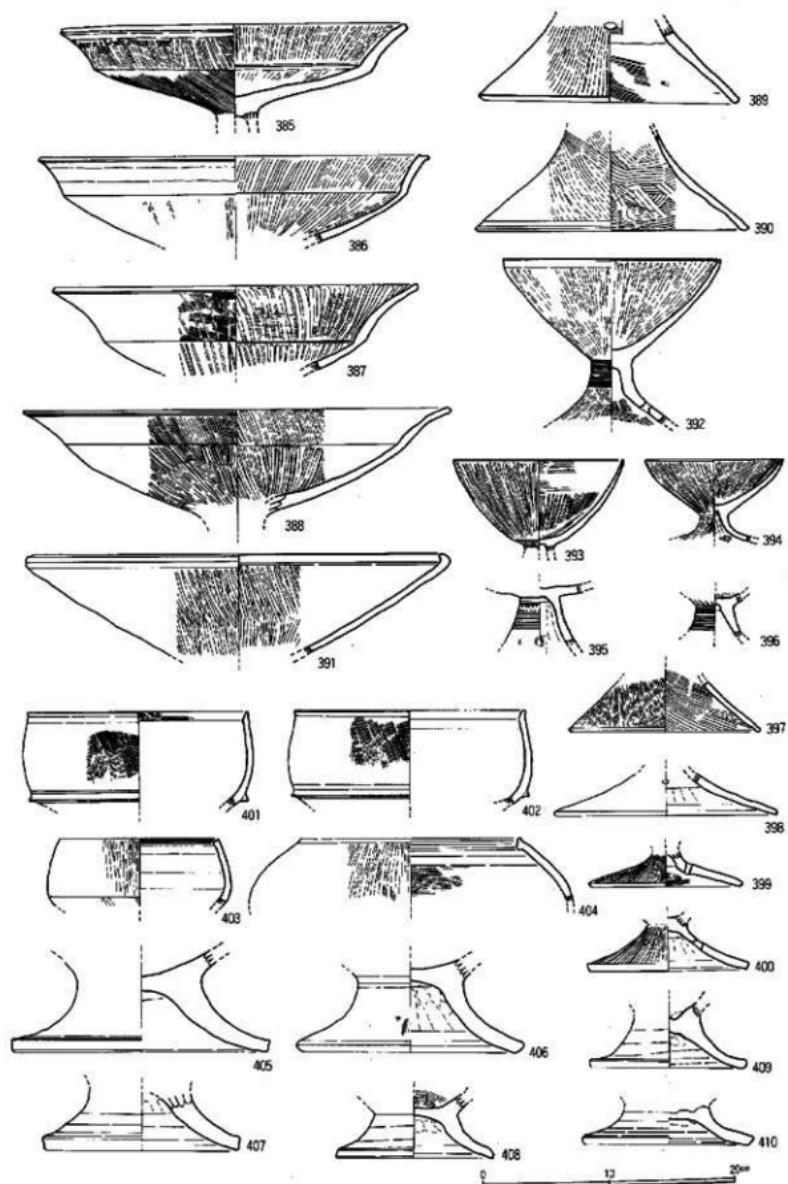


Fig.69 T区S002出土遺物実測図⑦(1/4)

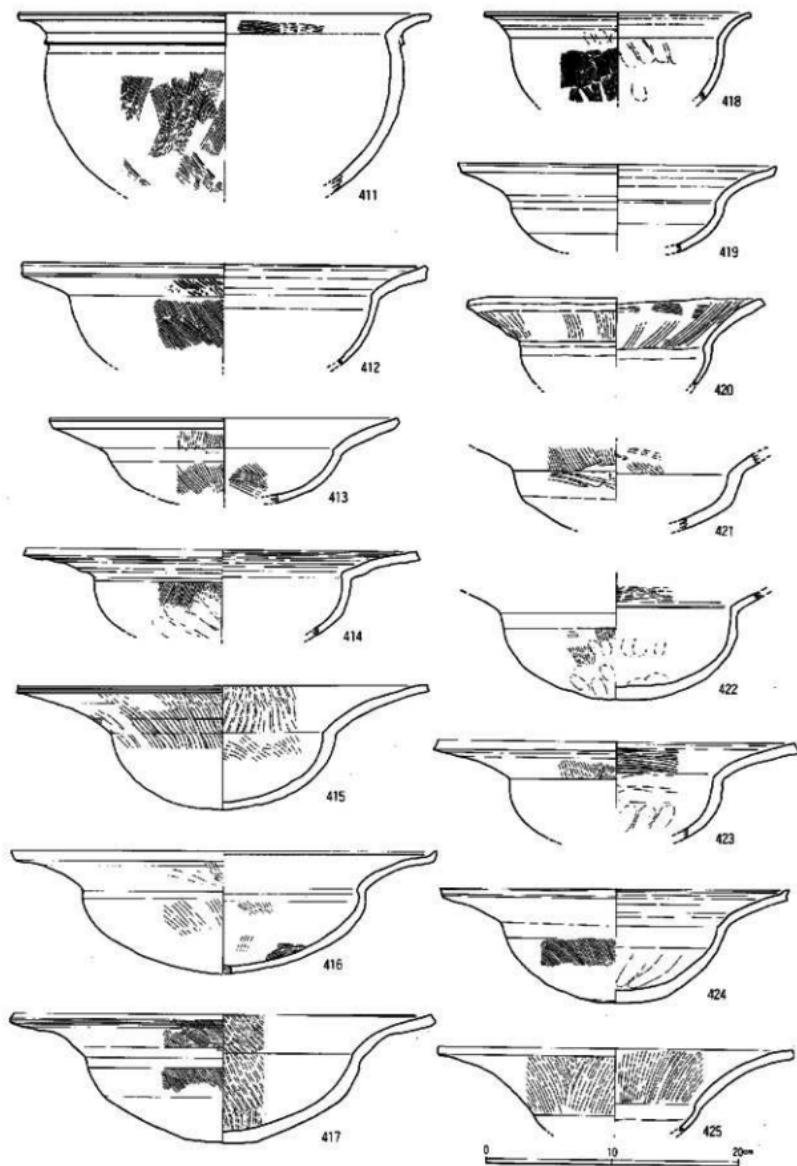


Fig.70 I区SC02出土遗物实测图⑧(1/4)

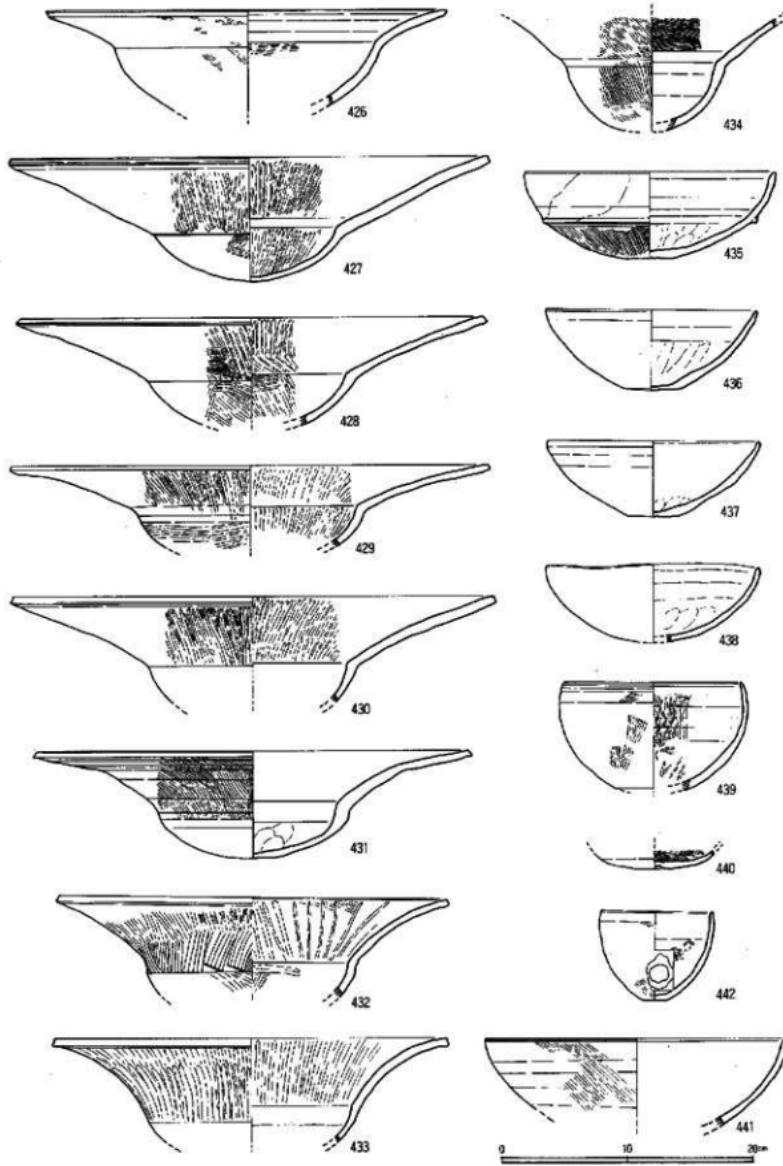


Fig.71 I区SD02出土遺物実測図⑨(1/4)

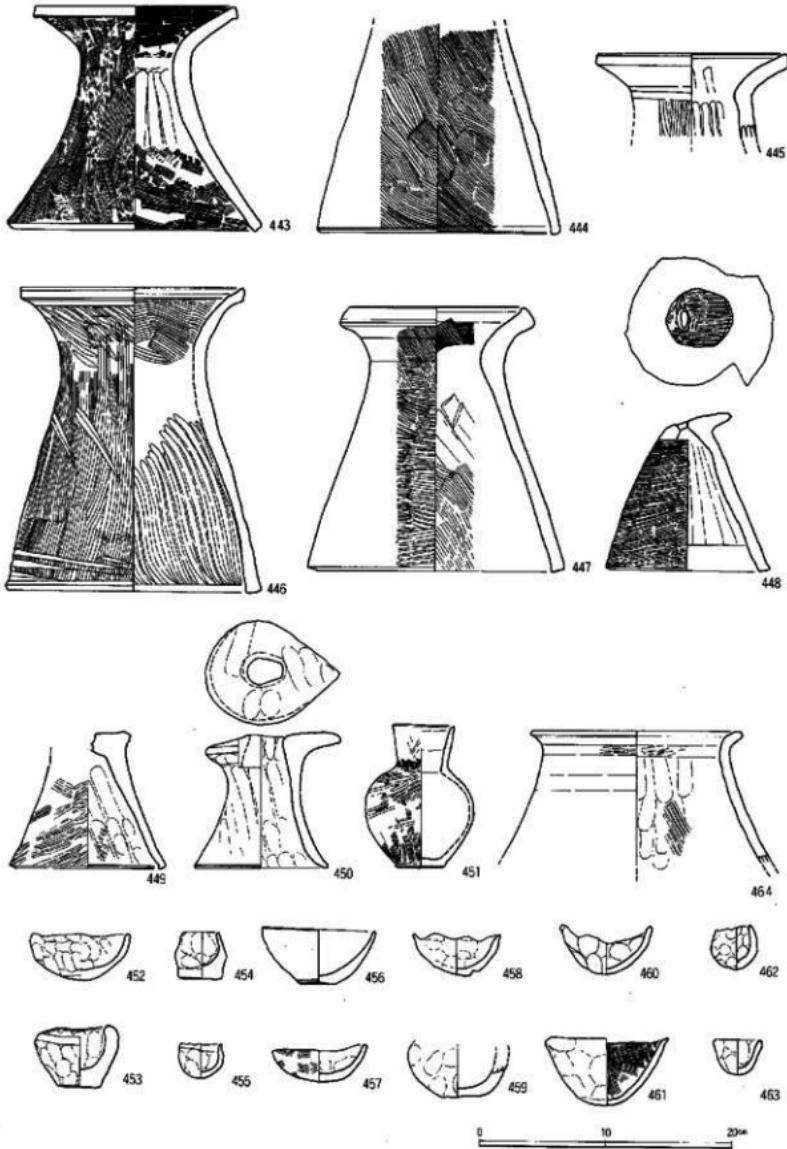


Fig.72 I区SD02出土遺物実測図⑨(1/4)

溝である。最大幅5.5m、深さ0.6mで、断面は皿状に窪み、カーブする部分は外側が深く内側が浅くなっているので自然流路と考えられる。堆積土は腐植質に富む粘質上で、上層には弥生後期の遺物を含み、中層には前期から中期の遺物を含む。また、中層下部から下層にかけては夜臼式土器がまとまって出土している。木製品は中層下部から下層にかけて、平鉋、鋤、堅杵、斧柄、エブリ、停泥、櫛、諸手鏡未成品、エブリ未成品、白木弓、漆塗り弓、漆塗りの堅杵状木製品、建築部材などが出土している。木製品は完形か完形に近いものが多く、風水害などで一挙に堆積したような状況を呈していた。

Fig. 76~83はI区から出土した遺物である。Fig. 76は478を除いてすべて上層から出土したものである。465は後期後半の甕、466~468は壺、469は鉢、470~471は高坏である。471の高坏は豊前系のものである。472は器台である。473・474は前期末から中期初頭の壺、475~479は中期初頭から前半の甕である。Fig. 77は上層及び中層を中心とする土器群である。480は中期前半の壺、481~490は前期前半から後半にかけての甕である。口縁部は短く外反するものと如意形のものがあり、刻み目は口唇全面に付けられるものと下端部に付けられるものがある。488と489は口縁下部が肥厚し、一条の沈線を施す。487は焼成後の底部穿孔である。491~Fig. 78~523は上層から中層にかけて出土した壺である。口縁外面を肥厚させ、頸部や肩部に横沈線文、重弧文、有軸・無軸の羽状文を施す。497は口縁上端に粘土を貼り付けて厚味のある口縁部を形成する。501は口径47.0cm、推定器高55cmの大型壺である。口縁部は外面を肥厚させ、さらに上面にも粘土を貼り付けて肥厚させている。497・501はともに上層からの出土である。Fig. 79~524~Fig. 81~558は主に中層から下層出土の深鉢形土器である。胴部が「く」字状に屈曲するものと、口縁部から底部にかけて単純にすばまるタイプがある。524~532は胴部で屈曲する深鉢で、屈曲の度合いが強いものと、屈曲が弱くて上方に立ち上がるものとがある。後者は屈曲部から口縁部までの幅が広いものが多い。下層出土のものは屈曲の度合いが強く、突帯の刻み目も爪や工具によって丁寧に付けられている。器色は黒っぽいものが多い。中層の上部から上層にかけて出土するものは、屈曲の度合いが弱く、突帯の刻み目はやや難になる。器色は明るいものが多くなり、器形も小型化する。530~532は上層出土である。533~537・539~544は口縁部に刻目突帯を持つ単純な形の深鉢である。533・536・537・540・544は下層出土である。545~551は中層から出土した深鉢の拓影である。522・523は組織痕文土器の破片である。鉢形の器形を有するものであろう。554~558は口縁部に刻目突帯を施さない深鉢である。全て下層から出土している。Fig. 81~559~Fig. 82~573は、鉢や浅鉢などである。下層出土の浅鉢は肩部の屈曲がシャープで、口縁部に段や沈線を有する。559・561は鉢である。559は肩部の接合面から上位がはずれている。561は下層出土。560・562~569・572・573は浅鉢である。562・563・565・566・569・572・573は下層出土で、それ以外は中層からの出土である。570~571は波状口縁を有する浅鉢形土器である。574~576は底部で、574は壺、他は浅鉢か壺のものであろう。577~578・580は高坏である。580は弥生前期のものか。579は下層から出土したミニチュアの壺である。頸部に焼成前の小孔を有している。Fig. 82~581~Fig. 83~602は壺形土器である。581~583は胴径が40cm前後の大型丹塗り壺である。胴部内面はカイカラ条痕で調整され、外面は丁寧なヘラミガキが施される。ともに下層出土で、581の底部は丸平底になる。584は黒色磨研のやや大型の壺である。585は口縁部が立つ小型の壺で、肩部にモミ痕が観察される。600は中層から出土した残高50cmを超える丹塗り大型壺である。器面は剥落して断面は本来よりも薄くなっているが、編み籠の部分だけ器表が残っていた。底部付近ははっきりしないが、胴部にかけては編み籠の編み方まである程度推定できた。丹塗り壺の中には編み籠に入れられていたものが存在するということが判明した。中型から小型の壺は、口縁部が内傾して立ち上がり、口縁端部はやや外反するものが多い。胴部は頸部から屈曲して張りの強い丸胴となり、丸平底の底部へ移行する。胴部内面はカ

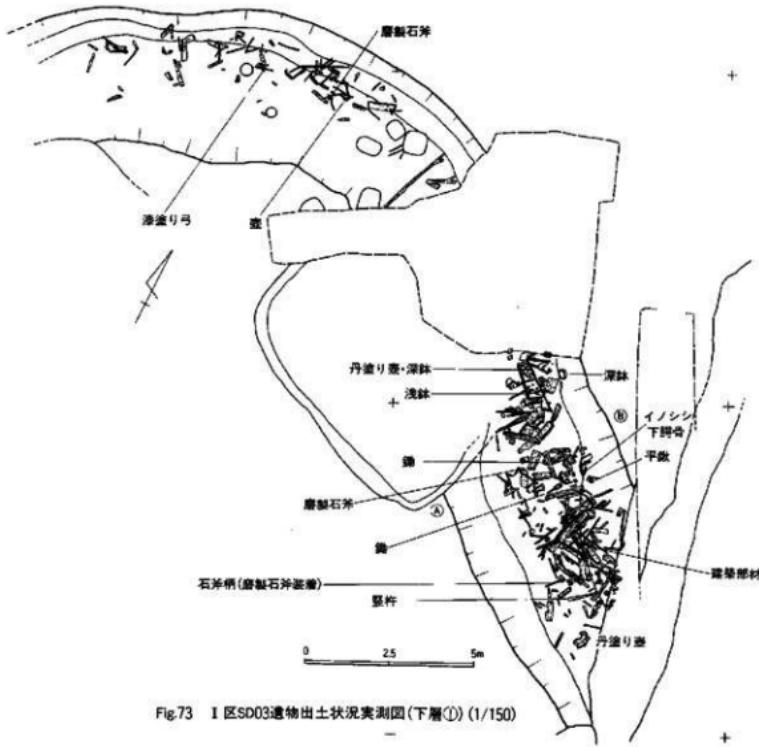


Fig.73 1区SD03遺物出土状況実測図(下層①)(1/150)



Fig.74 I 区SD03土層断面実測図(1/60)

イガラ条痕調整が多用され、外面は丁寧なヘラミガキが施される。丹塗り壇もかなりの比率を占めているが形態的には同じである。584・587・593・596・597は下層出土、他は中層からの出土で602は上層出土である。591・602は弥生前期前半から中葉に属するものであろう。

I 区SD03は試掘トレチ (T-8) によって切られており、湧水によって遺構内がかなり崩落した。さらに亀裂が入り崩落しそうな部分が生じたので、前もって一部拡張し、その部分を掘り下げた。

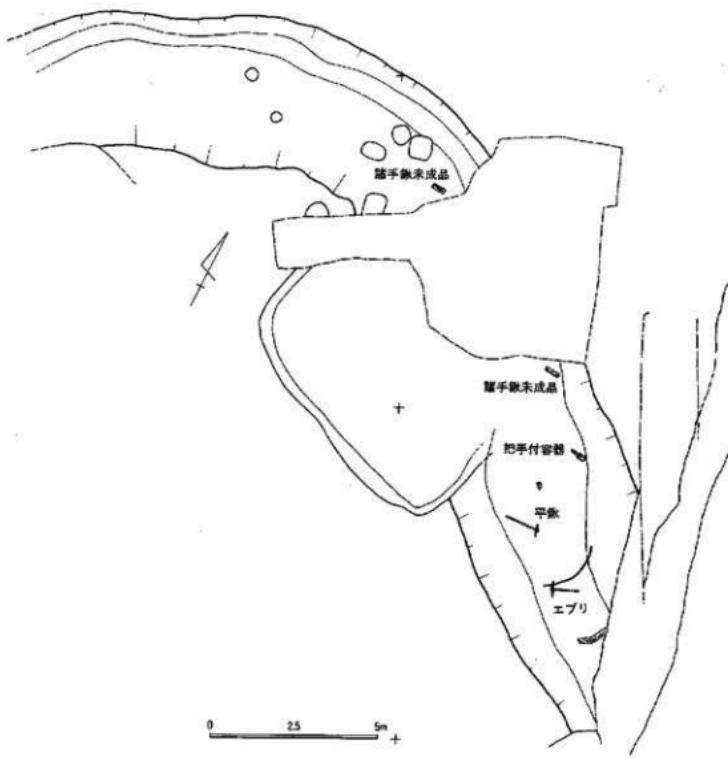


Fig.75 I区SD03遺物出土状況実測図(下層②)(1/150)

また、崩落した土層からもできるだけ遺物の採集に努めた。Fig. 84はT-8から出土した遺物の一部である。夜白式土器や弥生前期の土器はSD03に含まれていたものと考えられる。603-608は夜白式土器である。603・604は口縁部に刻目突帯を施す単純な器形の深鉢である。外面はカイガラ条痕で調整されている。605は刻目突帯を有しない深鉢である。外面上半はナデ、外面下半と内面はヘラ状工具でナデしている。606-608は丹塗りの壺である。607は黒色研磨の壺で、内面は粘土接合面が明瞭に残っている。609-610は弥生前期後半の壺で、重弧文や無軸羽状文を施す。611は二重口縁の土師器小型壺である。口縁部が剥落してはれている。山陰系のものであろうか。

SD03II区(Fig. 85-123, PL. 26-31-38) II区南側を南東から北西に延び、I区SD02とI区SD03の延長が重複する部分にある。II区SD03の上層及び上層下はSD02の延長であり、同一のものと考えて差しつかえない。つまり、環濠の一部分である。中層は南側に広がる別の造構の一部を含んでいると考えられる。弥生前期後半を中心とする遺物がまとまって出土しており、SX13との関連も考慮する必要があろう。下層は、I区SD03の延長で、第5次調査では南側に屈曲して延びることが明らかにさ

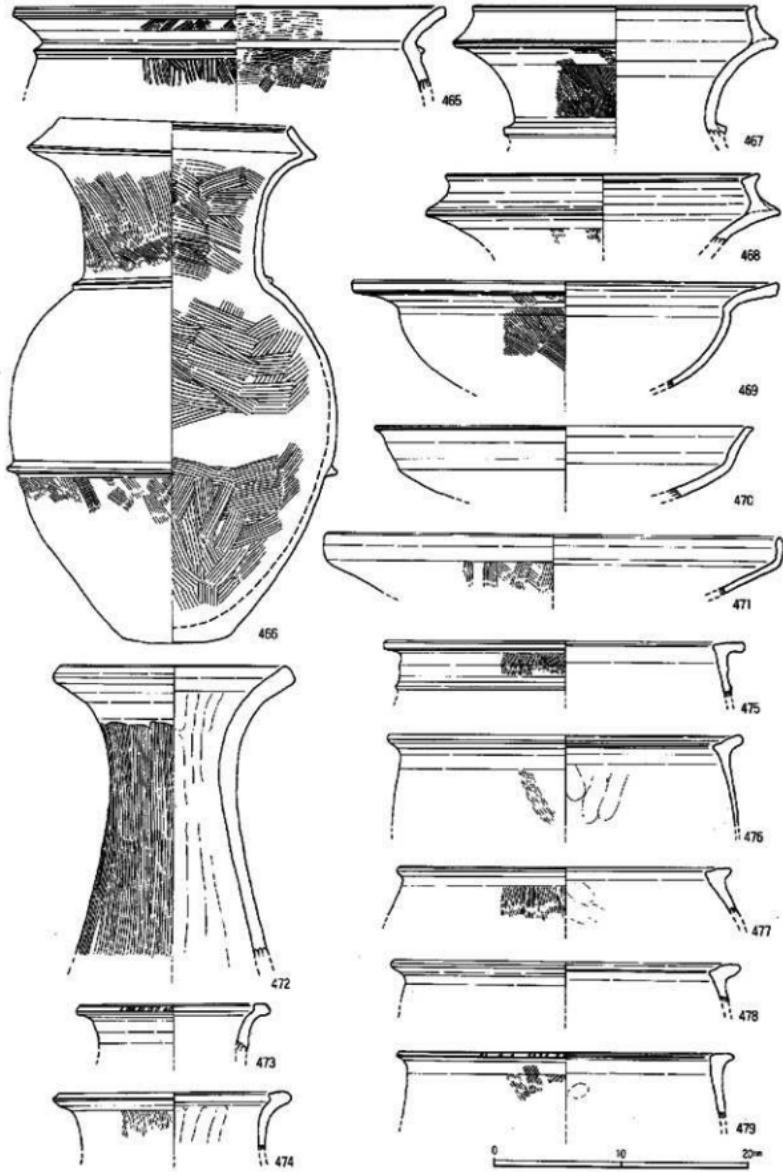


Fig.76 I区SD03出土遗物实测图①(1/4)

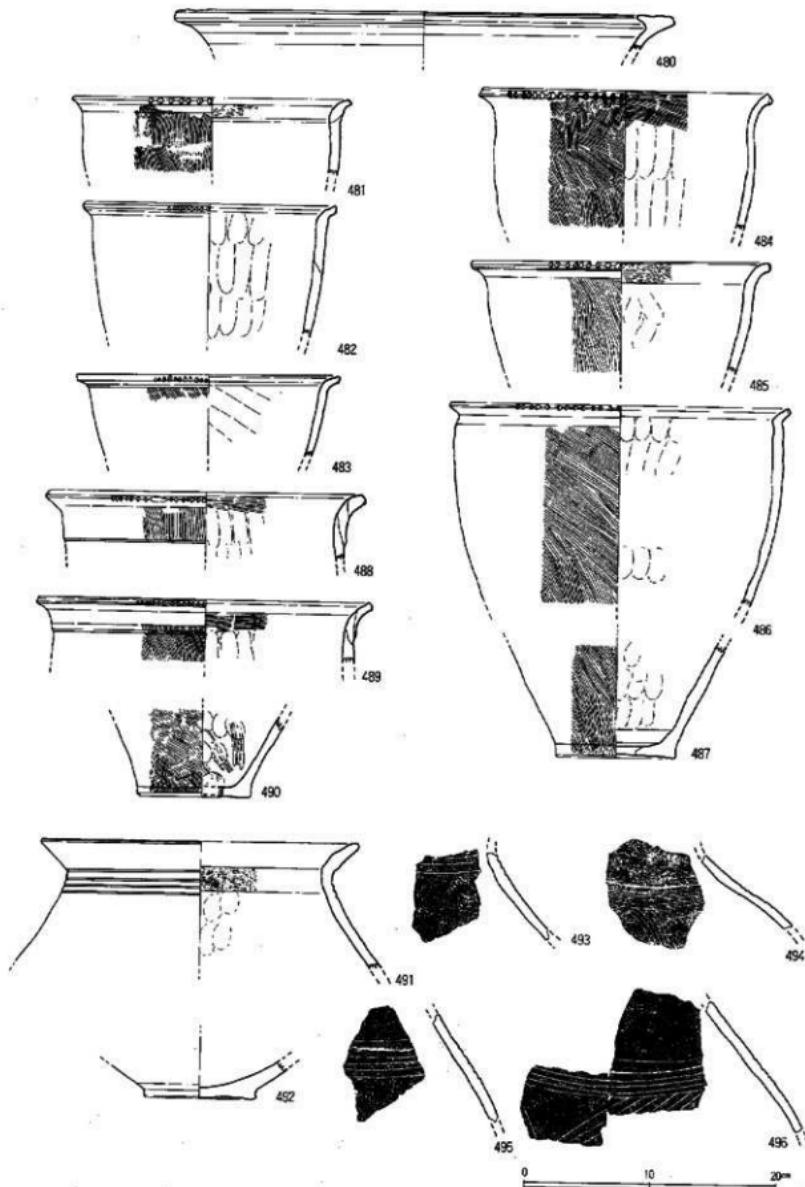


Fig.77 I 区SD03出土遗物实测图②(1/4)

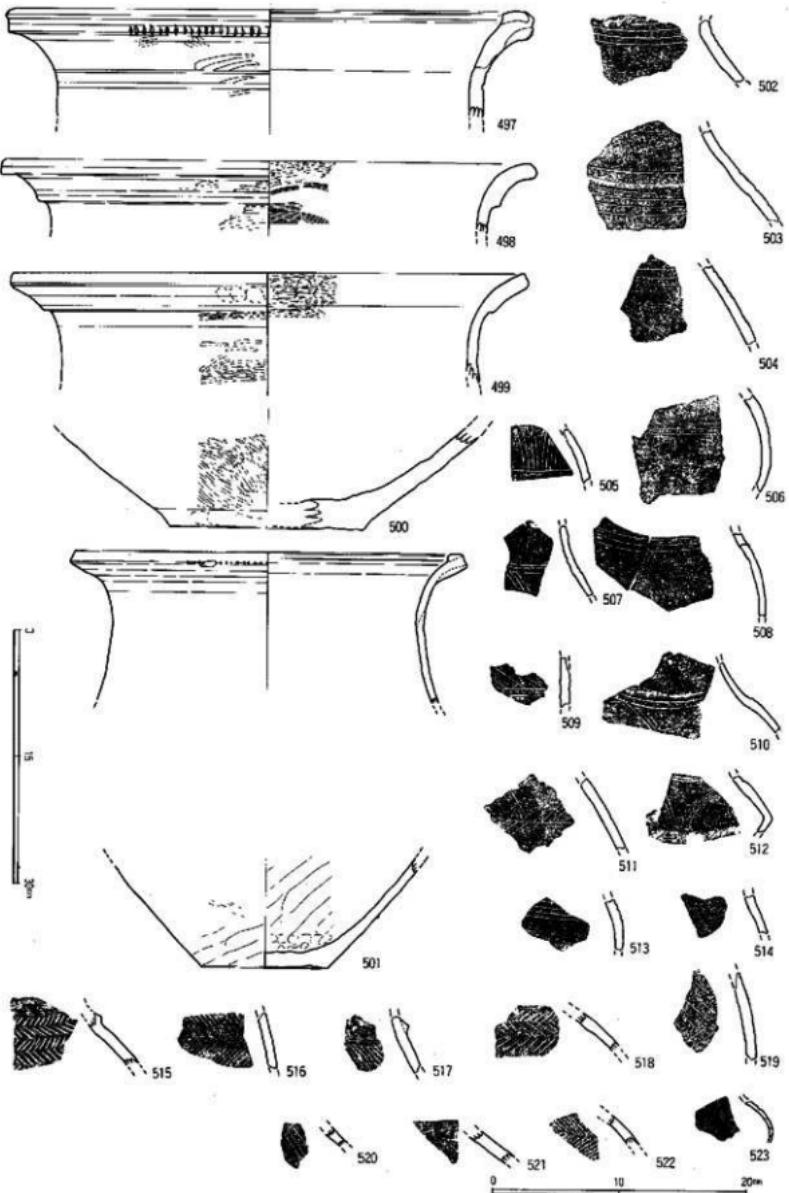


Fig.78 I区S003出土遺物実測図③(1/4-501 : 1/6)

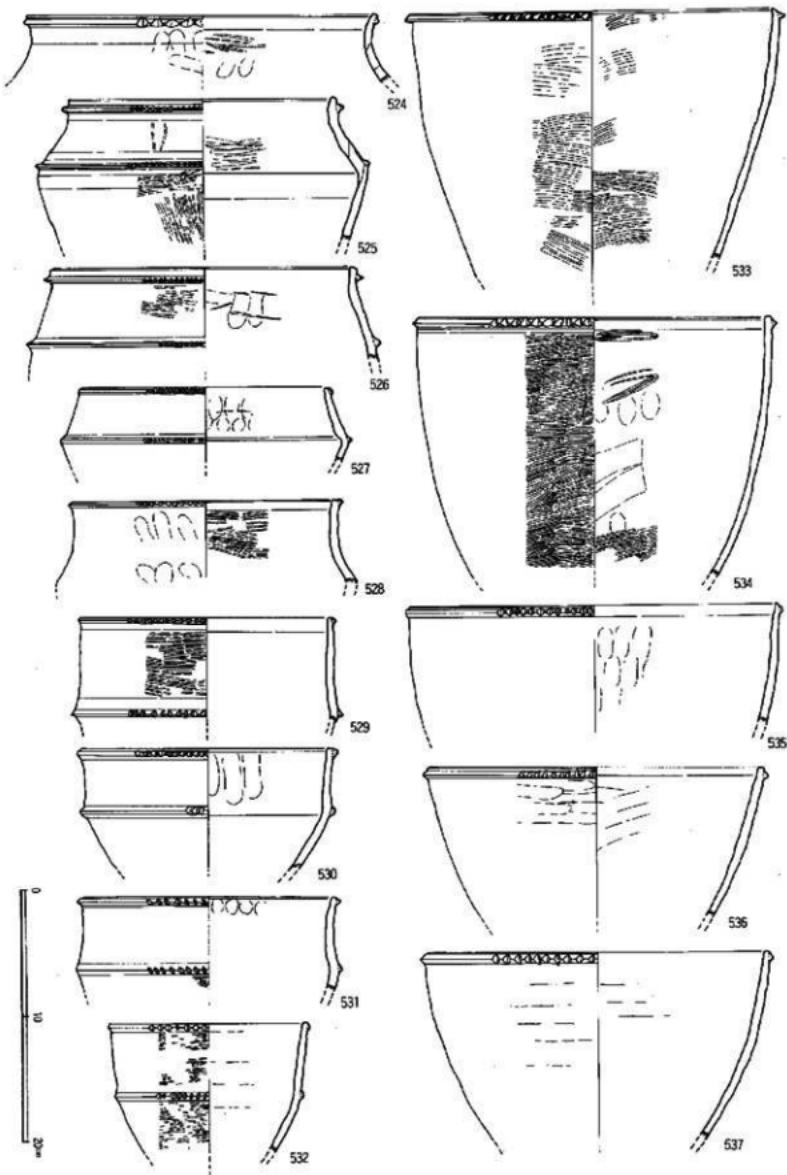


Fig.79 T区SD03出土遺物実測図④(1/4)

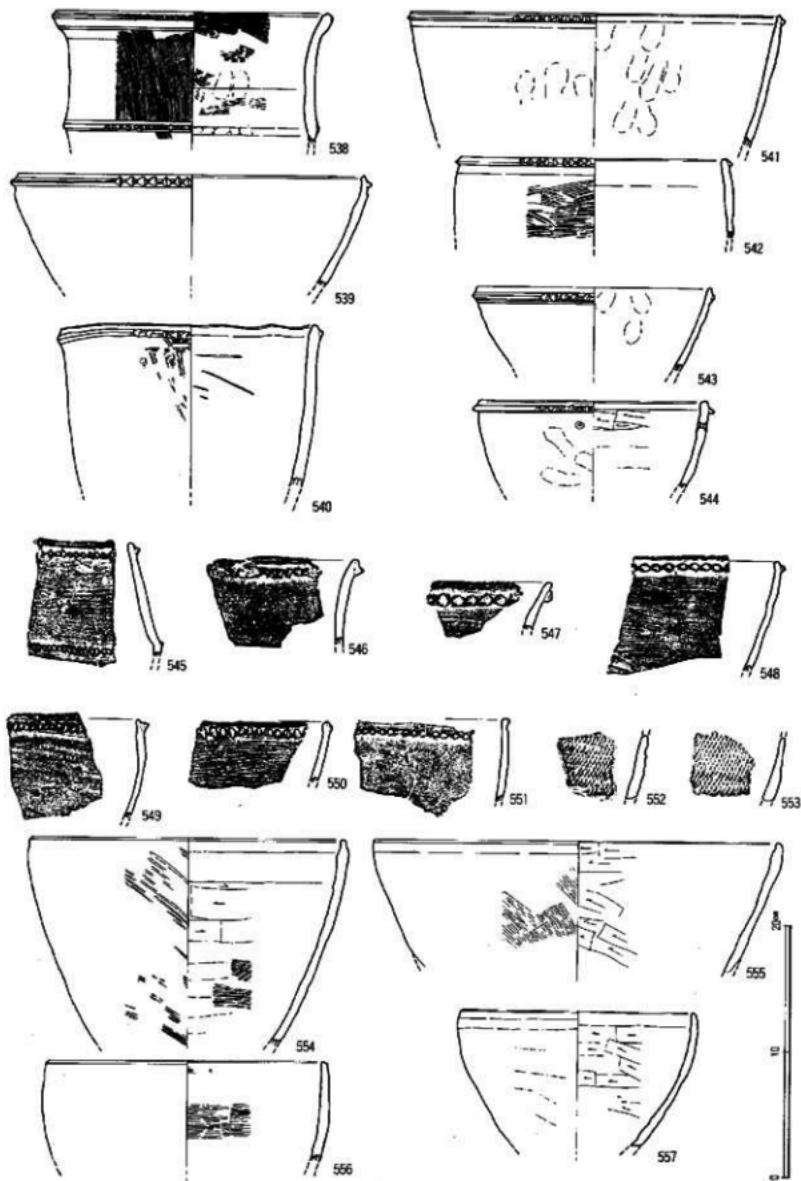


Fig.80 I区SD03出土遺物実測図⑤(1/4)

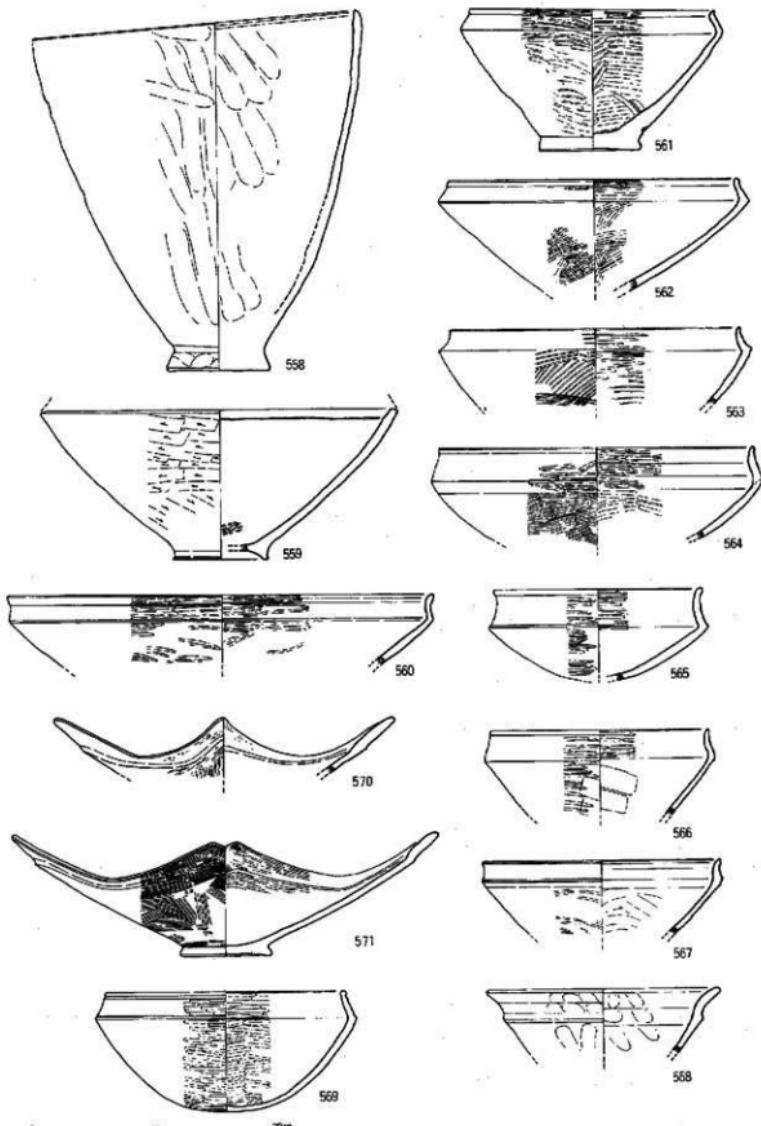


Fig.81 I区SD03出土遺物実測図⑥(1/4)

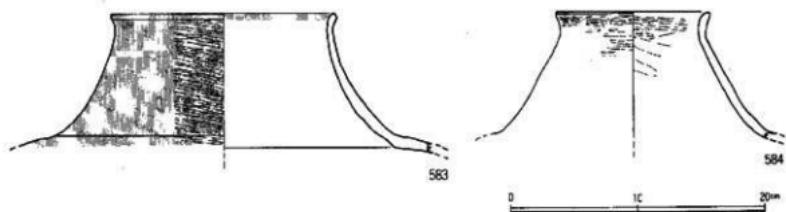
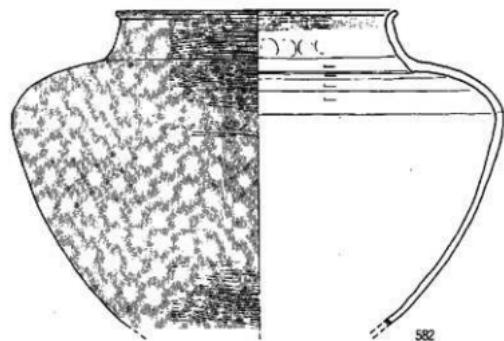
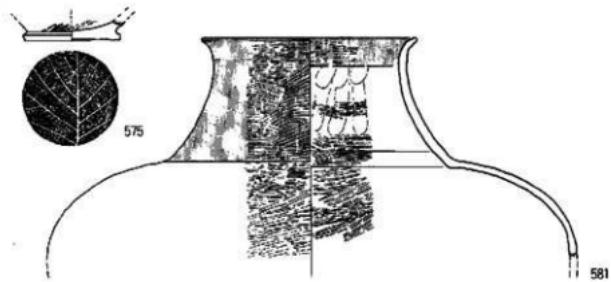
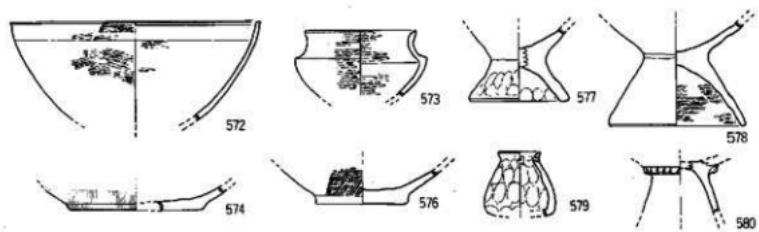


Fig.82 I区SD03出土遺物実測図⑦(1/4)

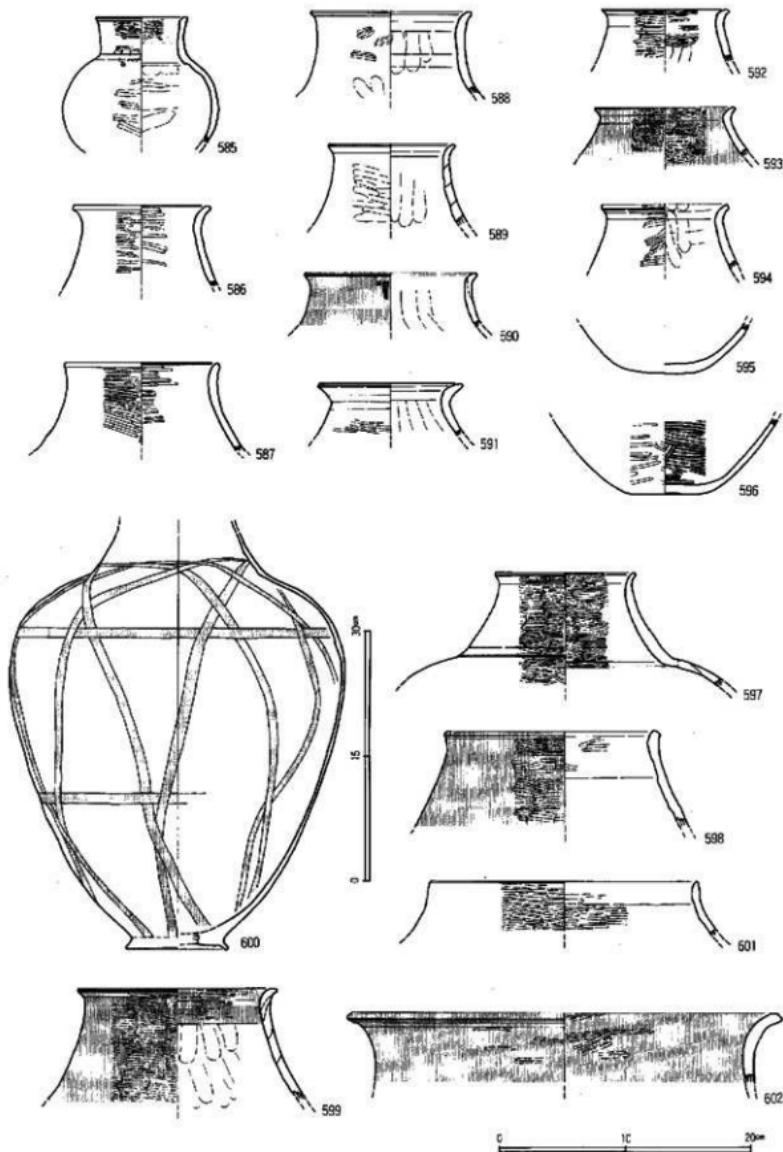


Fig.83 I区SD03出土遺物実測図⑧(1/4-600:1/6)

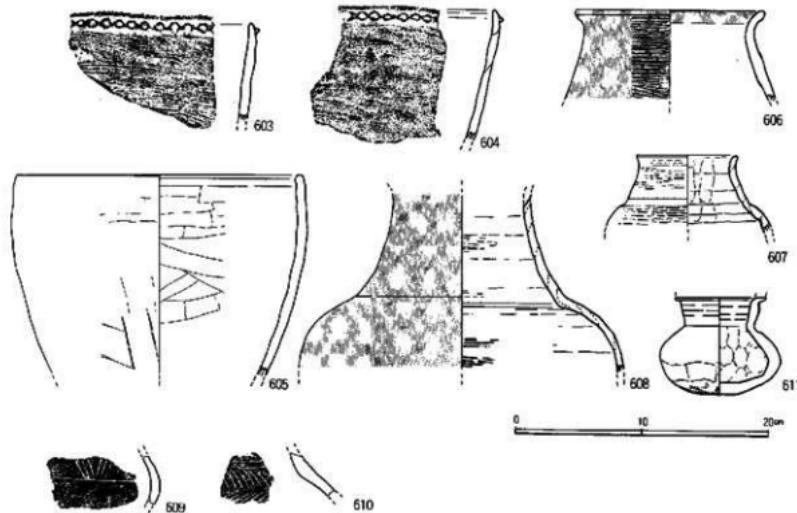


Fig.84 T8拡張区包含層・断土出土遺物実測図(1/4)

れている。夜白式土器がまとまって出土している。

SD02に相当する上層及び上層下から、完形に近い土器が多量に出土している。上層には古式土師器も若干含んでいる。上層下は弥生後期後半を中心とする。大甕、甕、壺、高環、鉢、器台、小型の壺などの器形があり、さらに器種ごとに多くのバリエーションがある。木製品も豊富に出土している。平鋸・又鋸・エブリなどの農具、横槌・斧柄などの工具、木甲、組合式案(机)、刎貫式案、刎物の鉢、漆塗りの筒形容器蓋、豎杵、建築部材などがある。

Fig. 88-612～Fig. 110-887は上層及び上層下から出土した土器群である。612-621は大型及び超大

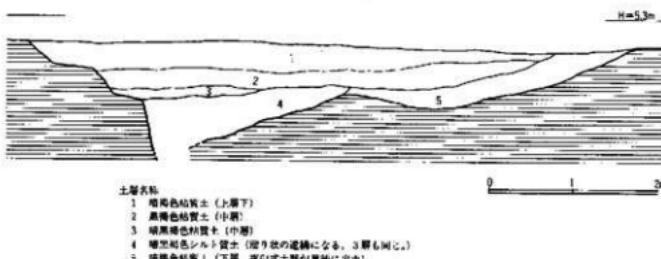


Fig.85 II区SD03土層断面実測図(1/60)



Fig.86 II区SD03遺物出土状況実測図(上層下①) (1/150)

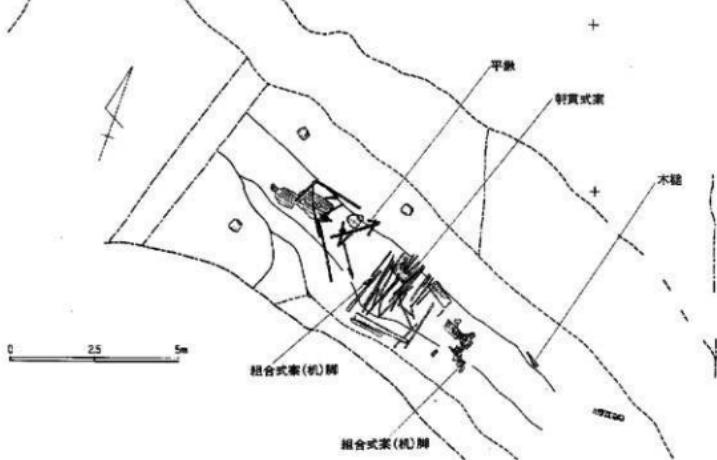


Fig.87 II区SD03遺物出土状況実測図(上層下②) (1/150)

型の甕である。612は口径66cm、胴径72cm、残高62cmで推定器高90cmになる超大型の甕である。頸部にコの字状突帯1条、胴部に三角突帯に近いコの字状突帯を2条を巡らす。外面はハケ目調整、内面はナデ調整である。大型及び超大型の甕は、頸部に1条もしくは2条、胴部に1条もしくは2条の突帯を巡らす。これらの甕は弥生中期の成人棺に使用される甕とほぼ同じ大きさである。大型の甕は倉庫と考えられる獨立柱建物の近くでまとまって出土している。613は、口径54cm、器高79cmを測る。619は口縁部が立ち気味に外反し、頸部に一条の三角突帯を巡らし、縦に「ノ」の字状の短い突帯を貼付する。621は口縁端部を上方に引き伸ばし、外面に竹管文を施している。622～709・711～715は中型及び小型の甕である。中型の甕には頸部に三角突帯を巡らすものが多い。654は小型の甕であるが三角帯が巡る。小型及び中型甕の多くには外面に煤が付着する。652は丸味のある胴を持つ甕である。653は口縁部が跳ね上げ状になる。661～673は頸部に三角突帯を持たない甕である。長胴になるものが多い。662や668にはタタキ調整痕が残る。680～688は丸味の強い胴部に短い口縁が付く甕である。676・698・701はやや肥厚して外反する短い口縁部を有する甕である。702～704は口縁部が直口状となる。708・711・712はかなり小さな甕で、711と712には胴部に三角突帯が巡る。

716～718は二重口縁を持つ古式土師器の壺と甕である。717は上層出土、他は柱穴などで混入したものであろう

719～763は壺である。719～738は複合口縁を有する壺である。頸部に三角突帯、胴部にコの字状突帯を巡らすものが多い。728は口縁下端に刻み目を施している。738は口縁部が立ち上がり時期的に新しいものである。上層から出土している。710～740～743は細頸壺である。739は広口壺であろう。744～747は扁球形の胴部を有する直口壺である。748は胴部が球形になる直口壺である。749～754は丸味の強い胴部に外反する短い口縁が付く壺、755～763は小型の壺である。わずかな平底を有するものと、丸底になるものとがある。丸底になるものは時期的に新しいものである。756・757・759～763は上層から出土したものである。

764～789は高坏である。764・765は豊前地方に多く見られる形態の高坏である。外来系のものであろう。766～768は上層から出土した土師器の高坏である。脚部は短く内面にヘラケズリが施される。769～788の高坏は、坏部の屈曲が明瞭で口縁部が短く立ち上がるものの、やはり坏部の屈曲が明瞭で口縁部がやや長く立ち上がるものの、坏部の屈曲が弱く口縁部が緩やかに長く立ち上がるものなどがある。脚は長めのものと短いものがある。脚の透孔は3穴が多い。789は小型の高坏で鉢状の坏部がのると考えられる。外来系のものであろう。

790～848は鉢形土器である。790～820は鉢状の口縁部を有する鉢で、体部が深く、口縁部との屈曲が明瞭で口縁部があまり長くならないものの、体部が浅くなりやや長めの口縁部が付くもの、口縁部が極端に発達したもの、口縁部と体部の境が不明瞭で口縁部が発達したものなど変化に富んでいる。821～841は単純な椀形を呈する鉢で、口径の大きいものから小さいものまである。底面には小さな平底を残している。821は口縁部がやや内弯し、体部外面に三角突帯を1条巡らす。842～845は底部が広く体部がやや深めの鉢である。847・848は脚台付の鉢である。鉢形土器の出土量は甕と共に非常に多い。

849～882は器台である。筒部上位でくびれて口縁が外反するもの、やや細身で外反する口縁の内側に稜を有するもの、細身で筒部中央がくびれ、上下似たような形態を有するもの、筒部がややふくらみを有し口縁部が強く外反するものと、いわゆる杏形容器台がある。杏形容器台以外は鉢状口縁を持つ鉢形土器と対応するのではないかと推察される。852と853は口唇部にハケ目原体による刻み目が施される。863～868・872には筒部中位から下端にかけてタタキ調整痕が観察される。869～871の細身のものは時期的に古いものであろう。873と874は筒部外面全面にタタキ調整が施される。875～882は杏形容器

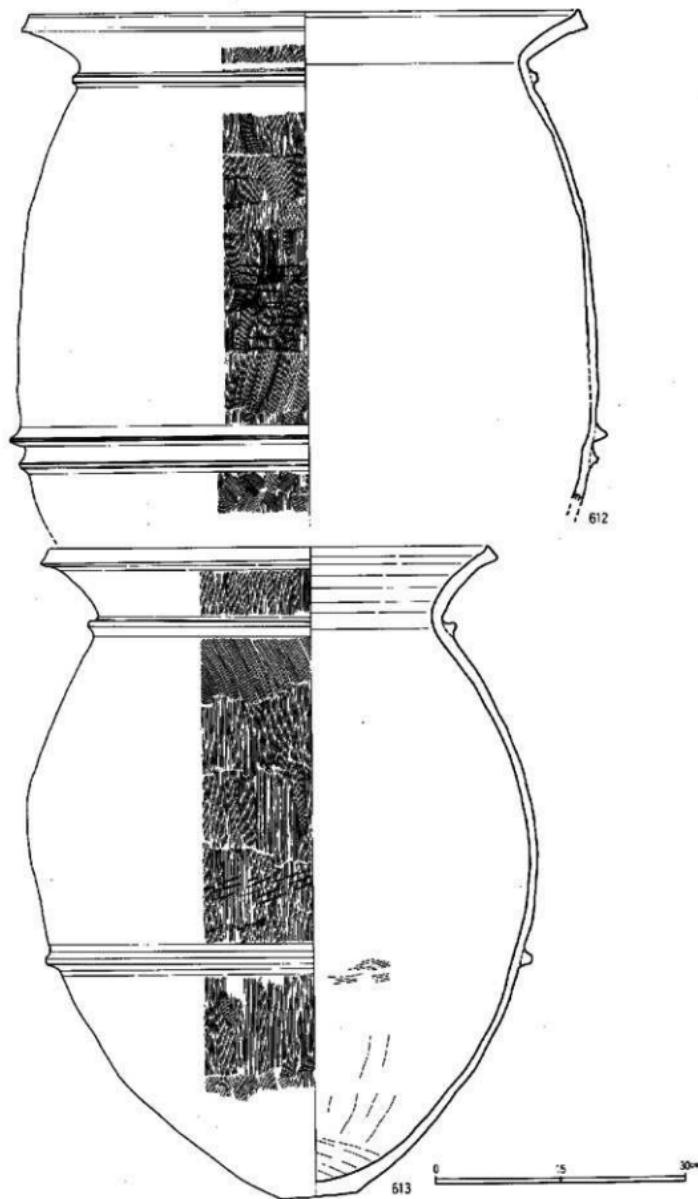


Fig.88 II区SD03出土遺物実測図(1/6)

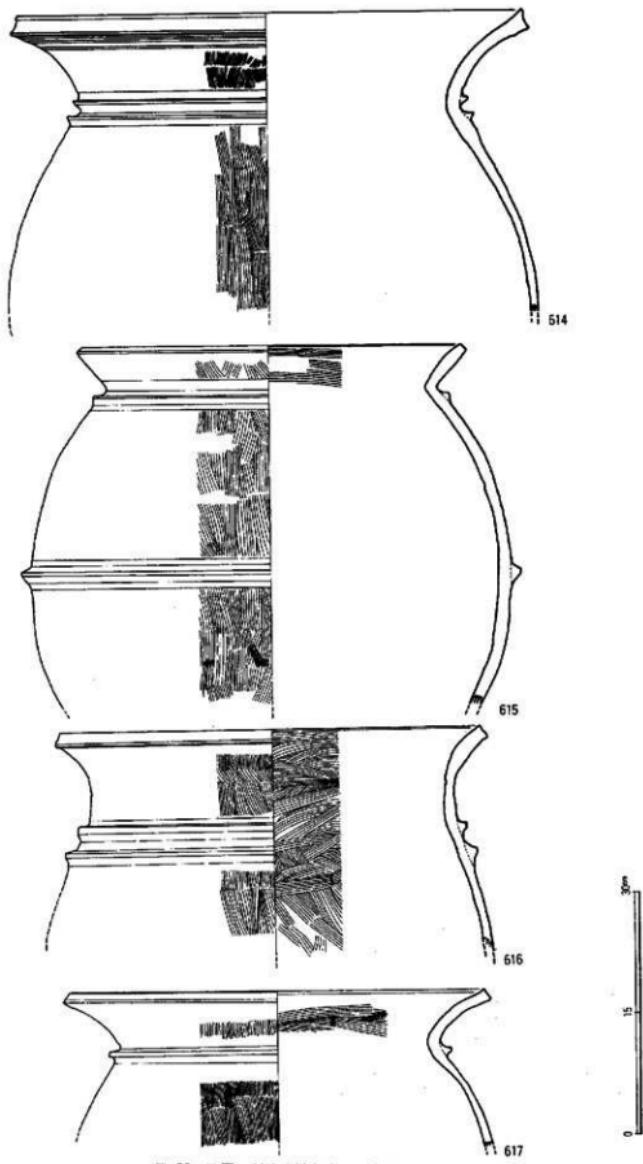
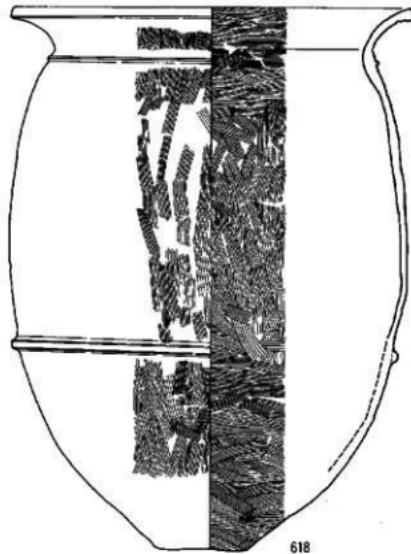
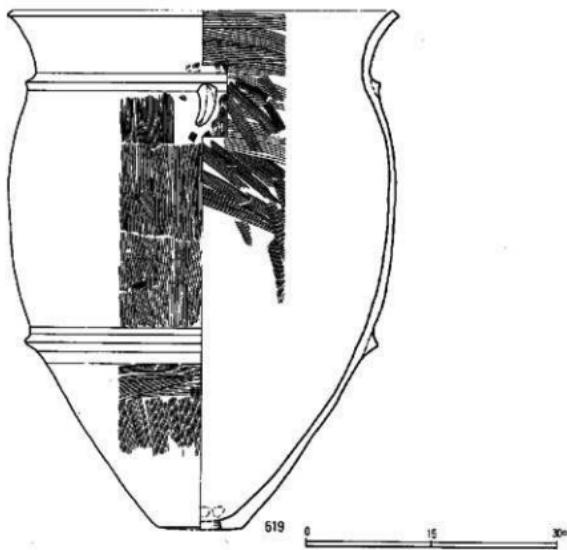


Fig.89-II区SD03出土遺物実測図②(1/6)



618



619

Fig.90 II区SD03出土遺物実測図③(1/6)

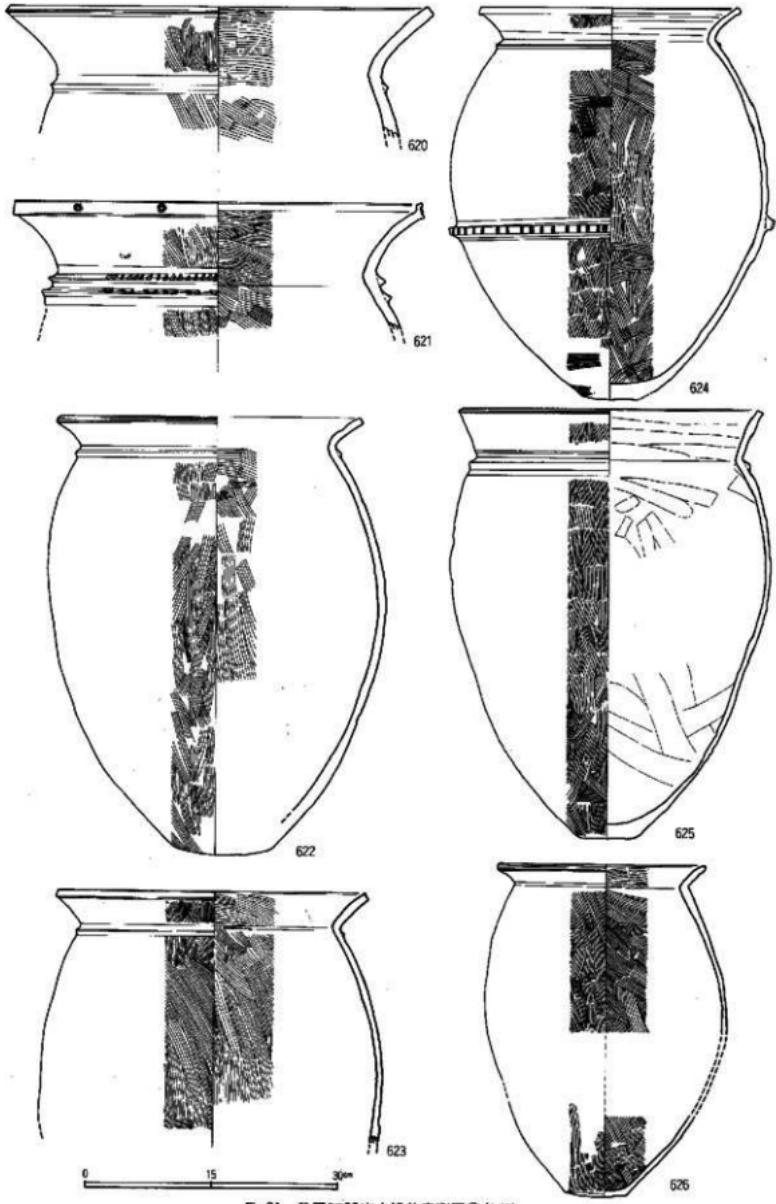


Fig. 91 II区SD03出土遗物实测图④ (1/6)

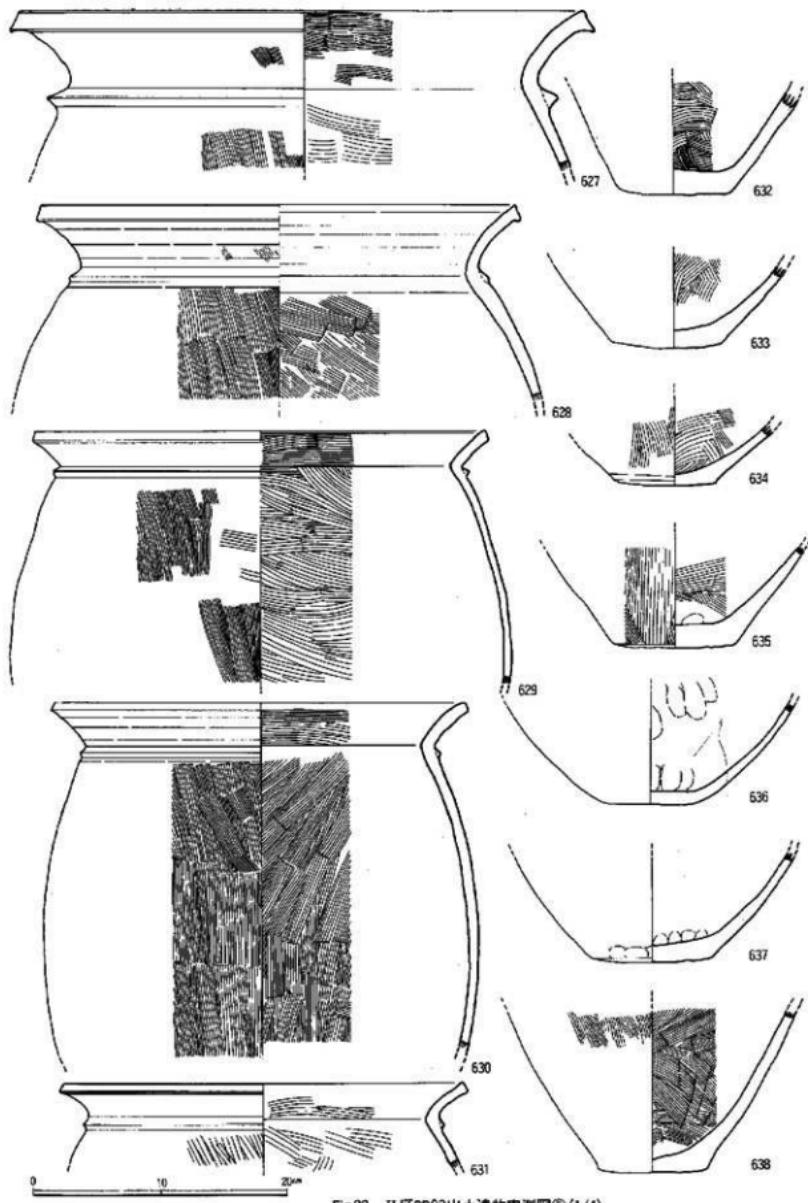


Fig.92 II区S003出土遺物実測図⑤(1/4)

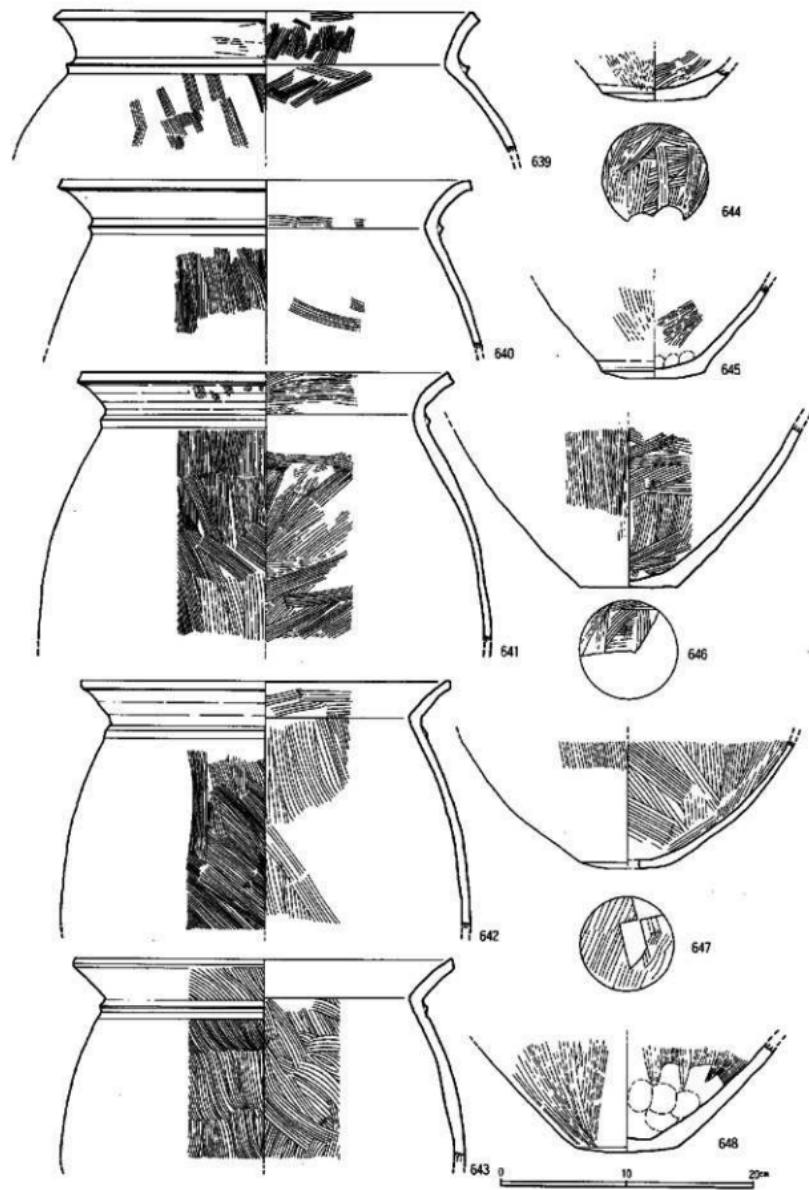


Fig.93 II区SD03出土遺物実測図⑥(1/4)

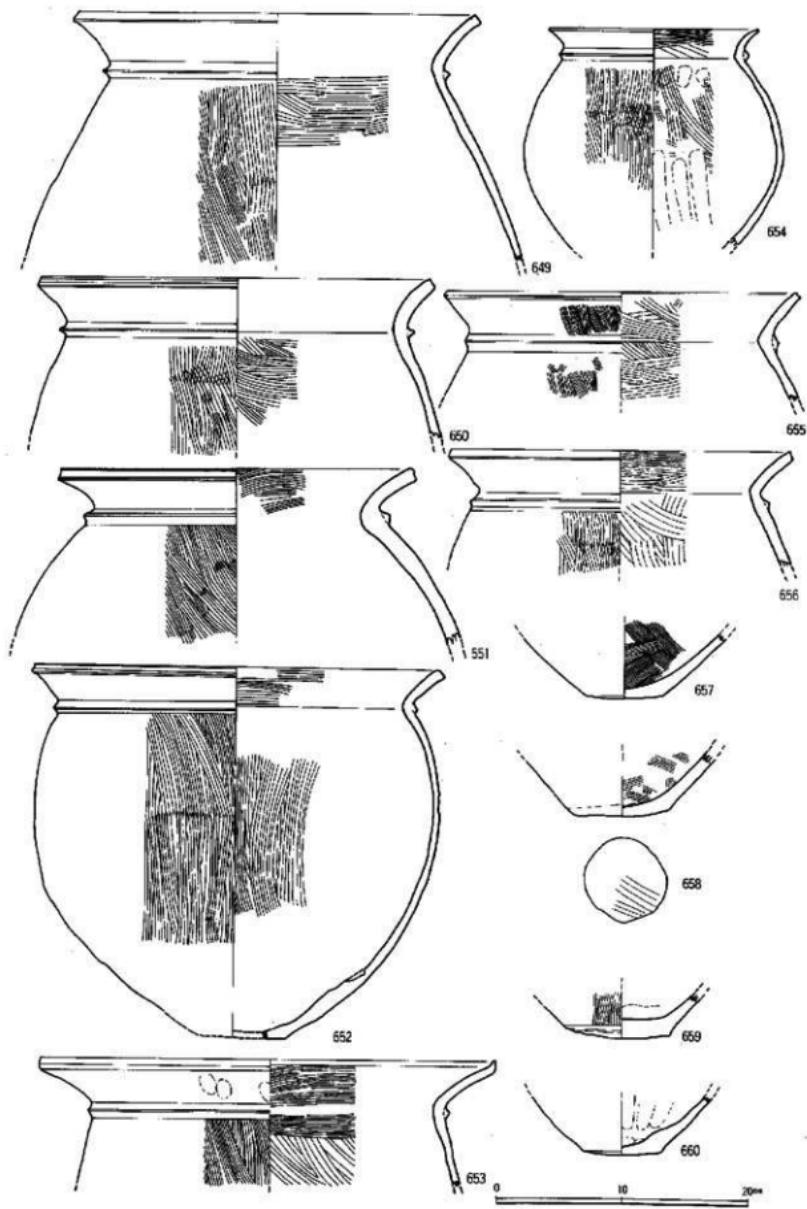


Fig.94 II区 SD03出土遺物測量図⑦(1/4)

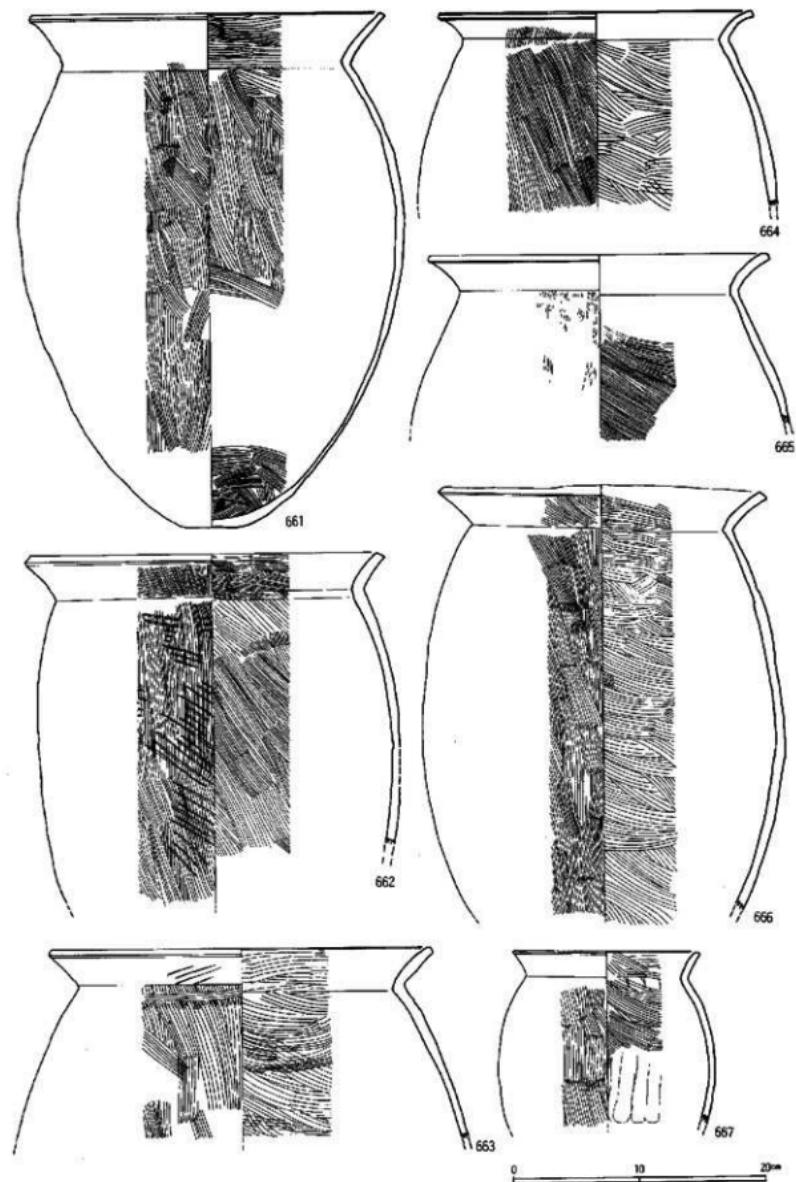


Fig.95 II区SD03出土遺物実測図⑤(1/4)

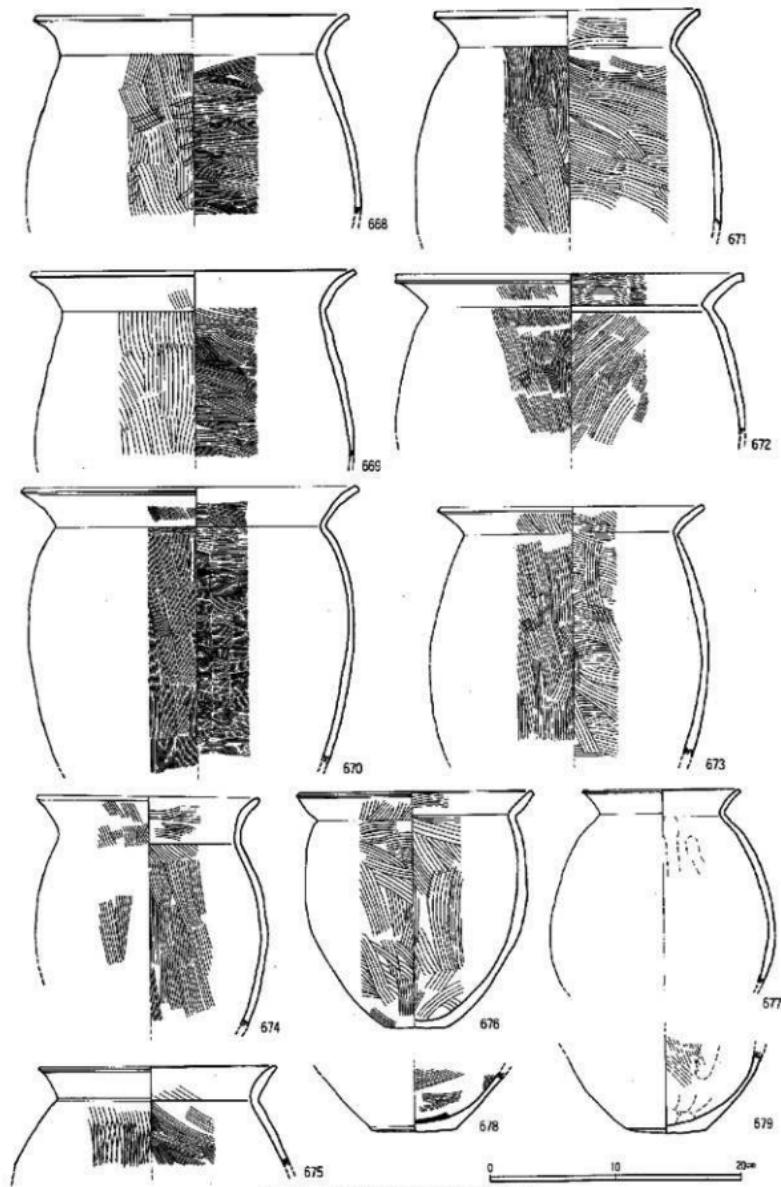


Fig.96 II区SD03出土遺物実測図⑨(1/4)

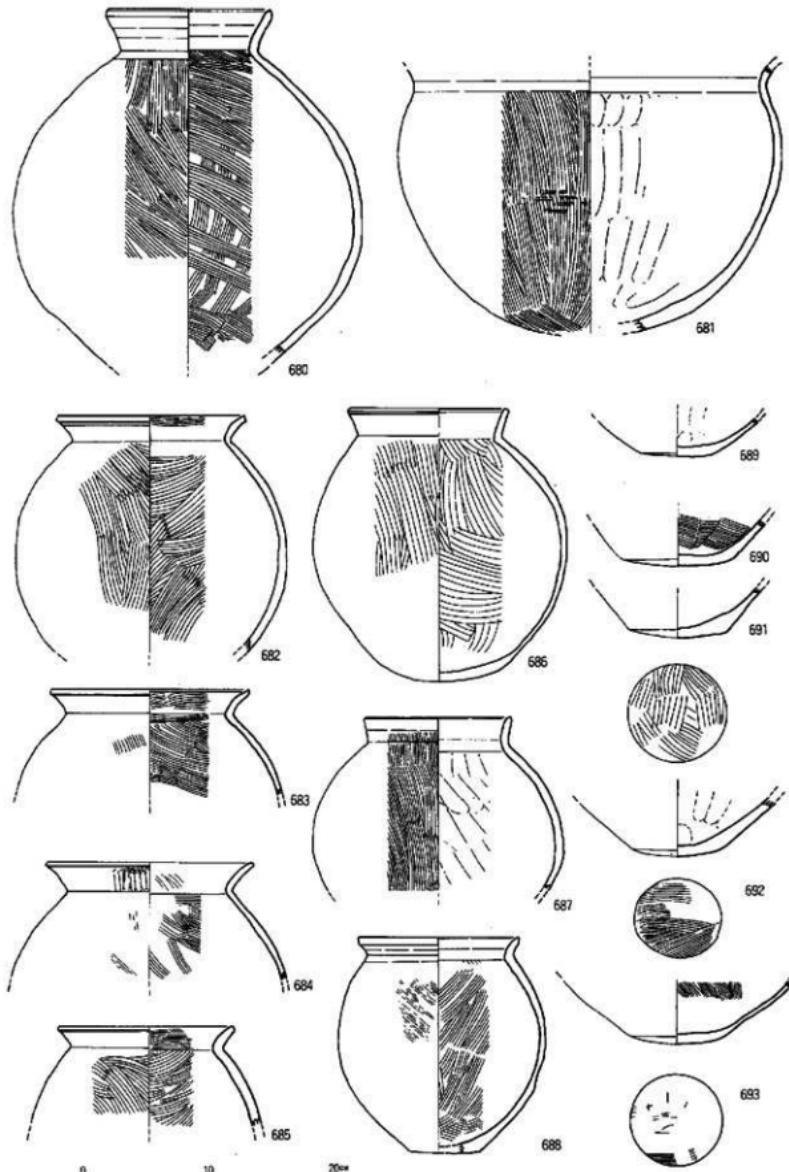


Fig.97 II区SD03出土遺物実測図①(1/4)

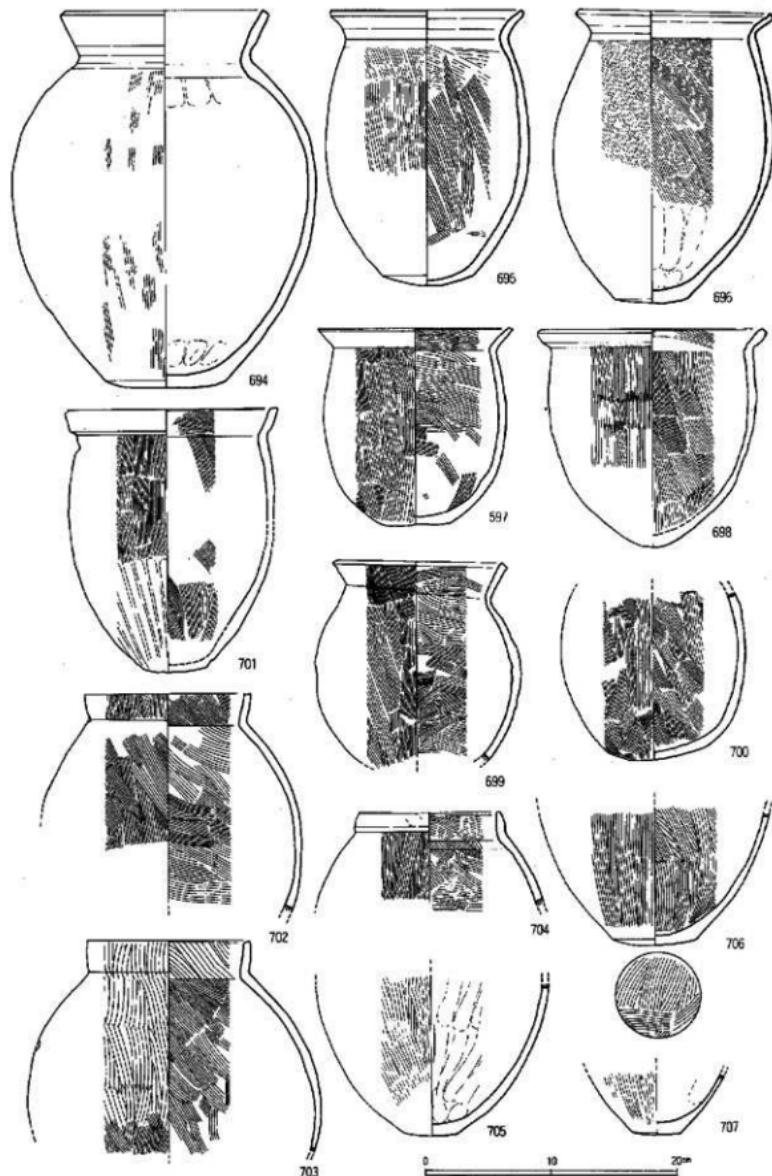


Fig.98 II区SD03出土遺物実測図①(1/4)

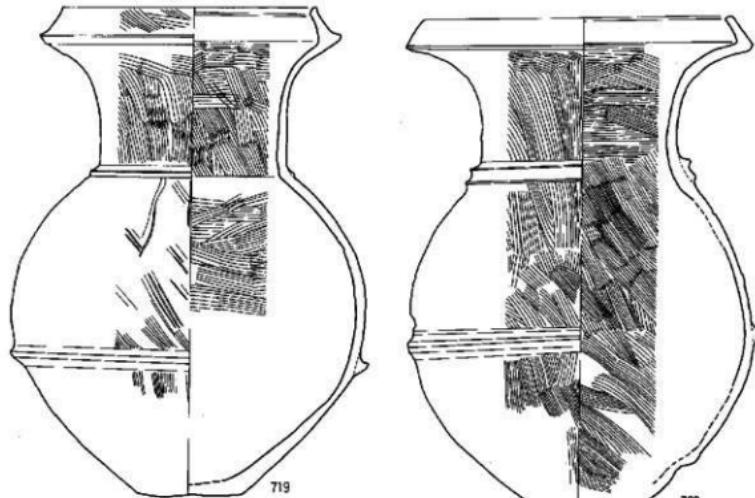
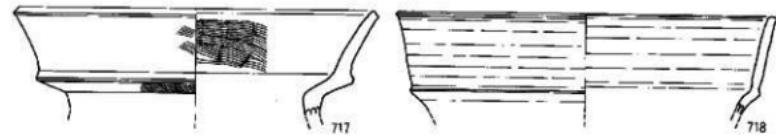
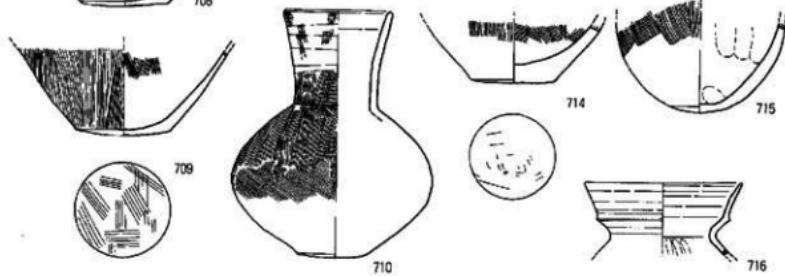
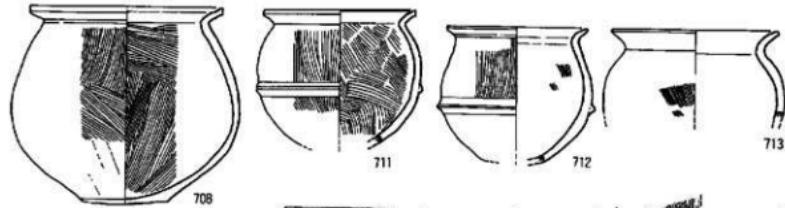


Fig.99 II区SD03出土遺物実測図(1/4)

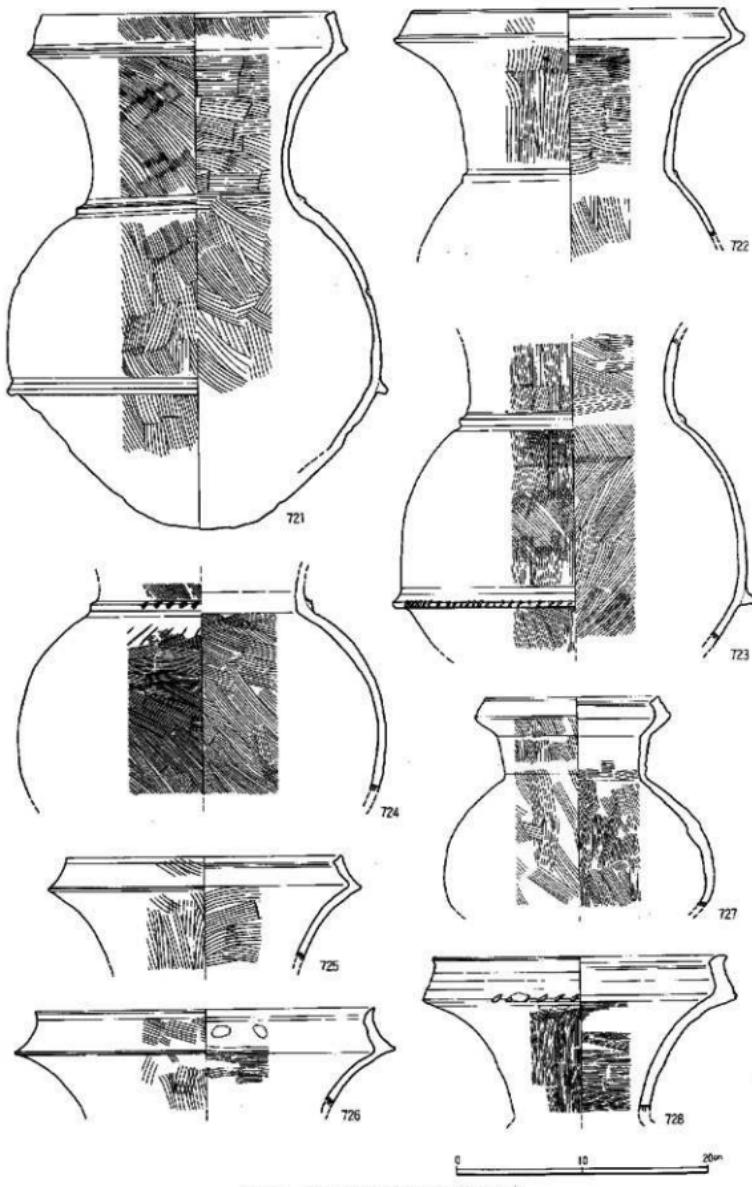


Fig.100 II区SD03出土遺物実測図③(1/4)

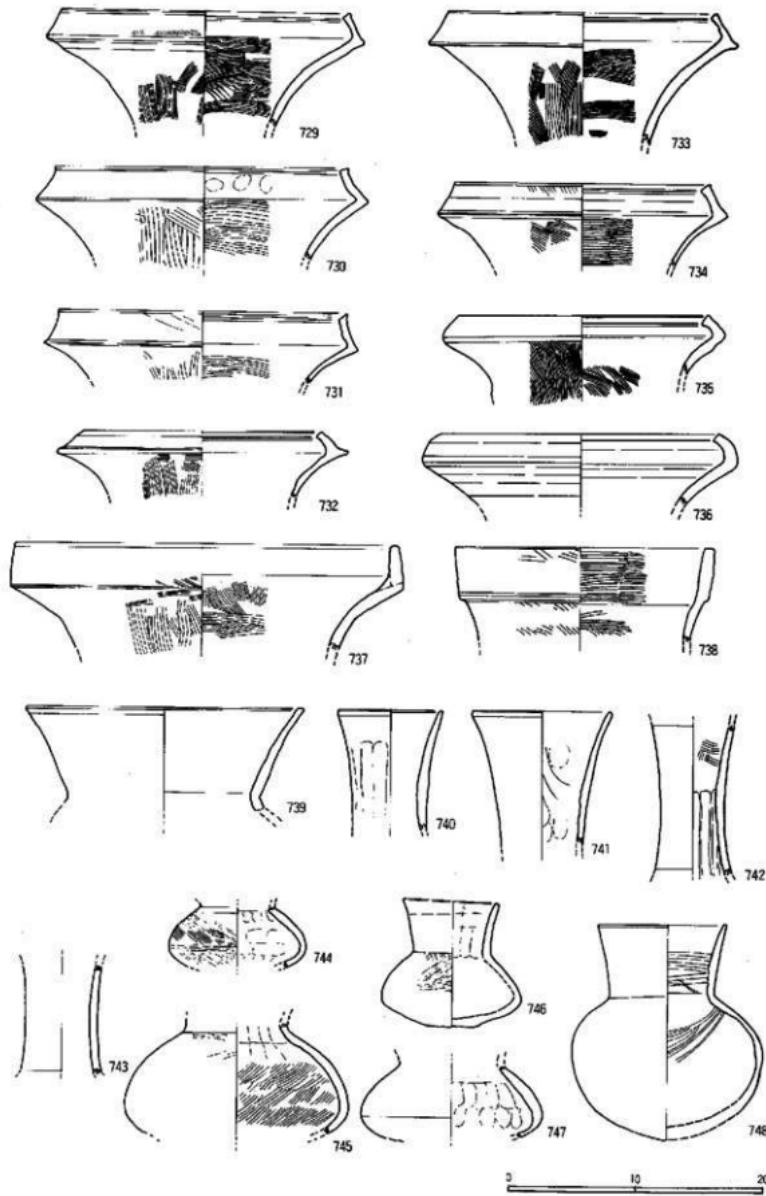


Fig.101 II区SD03出土遗物实测图②(1/4)

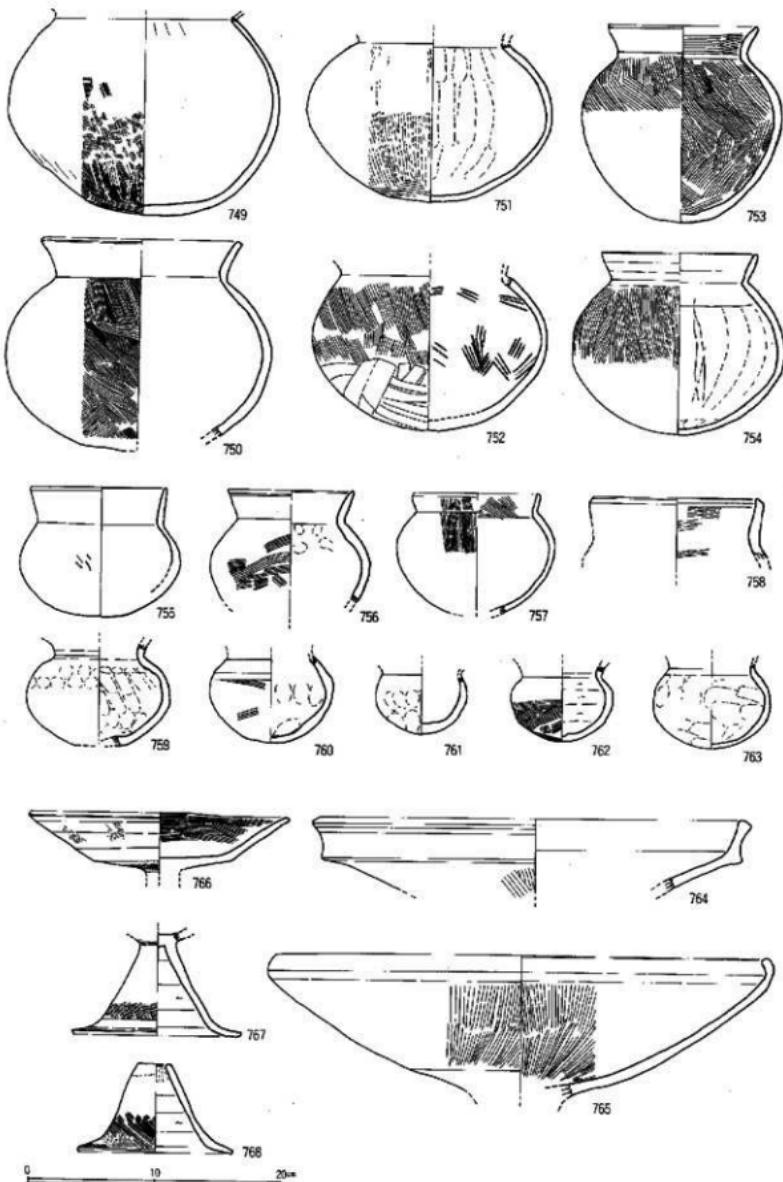


Fig.102 II区SD03出土遺物実測図②(1/4)

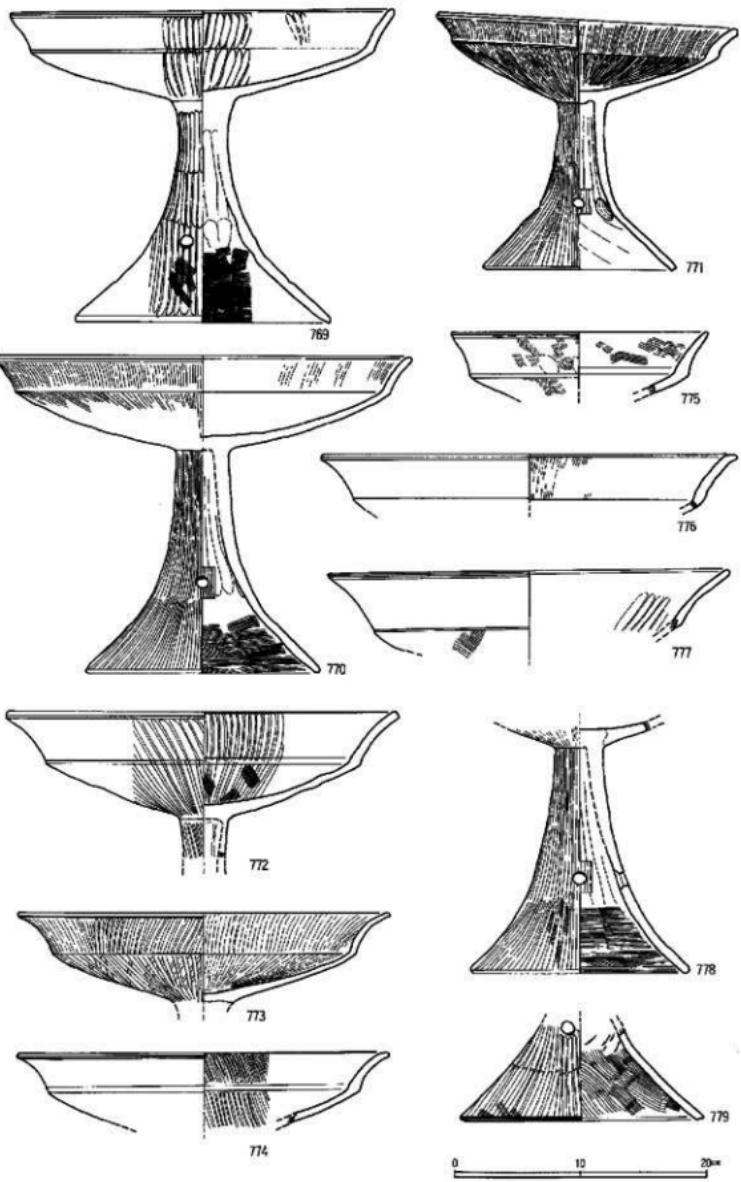


Fig.103 II区SD03出土遺物実測図(1/4)

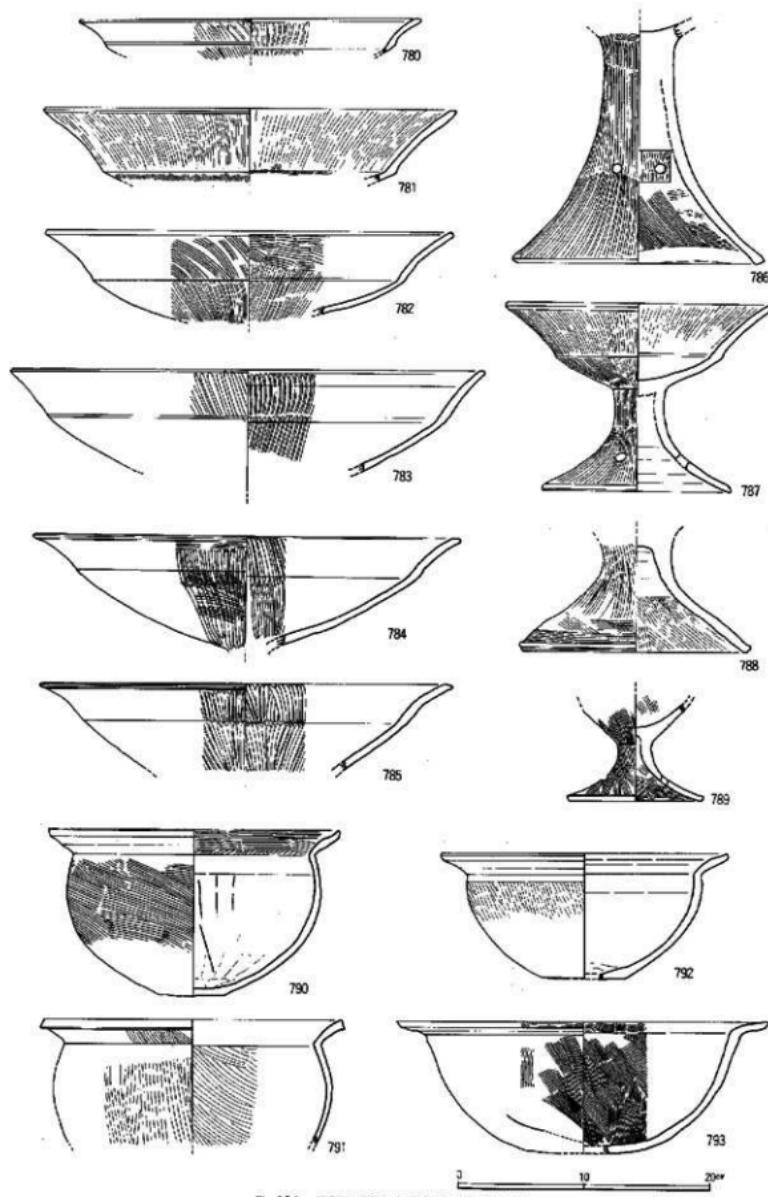


Fig.104 II区SD03出土遺物実測図⑦(1/4)

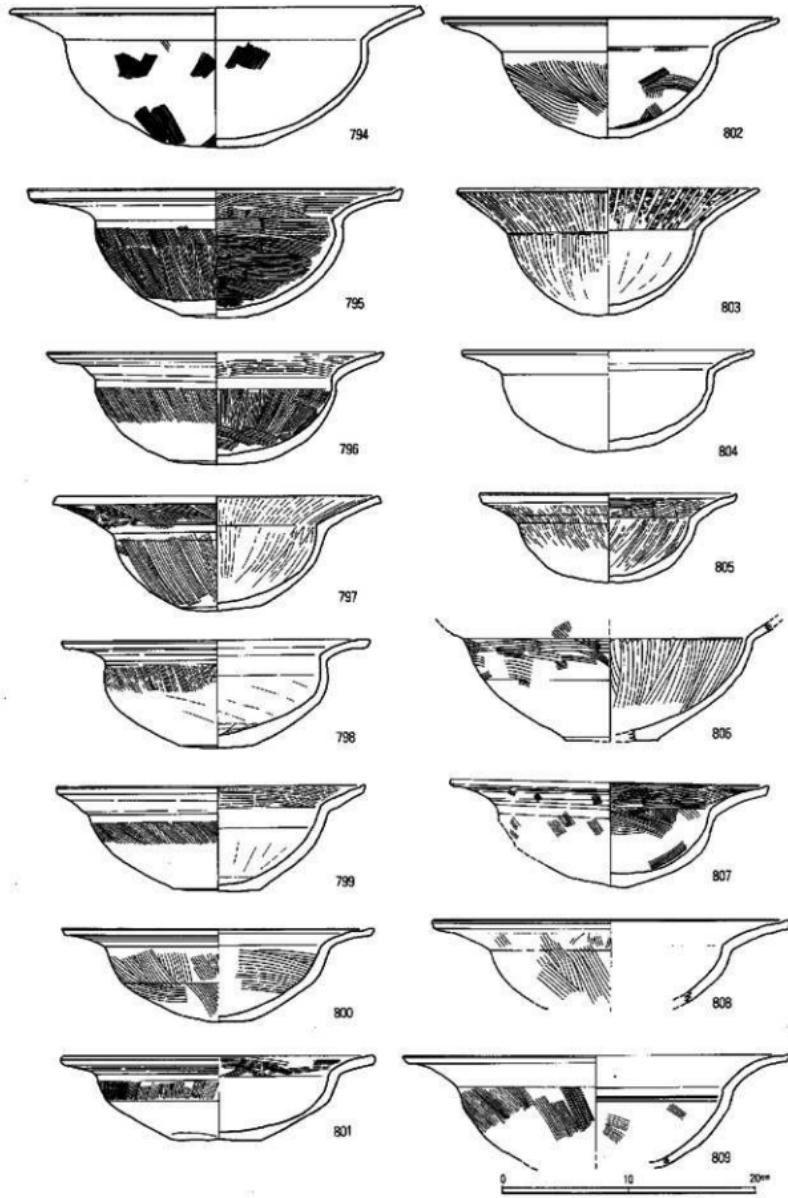


Fig.105 II区SD03出土遺物測量図③(1/4)

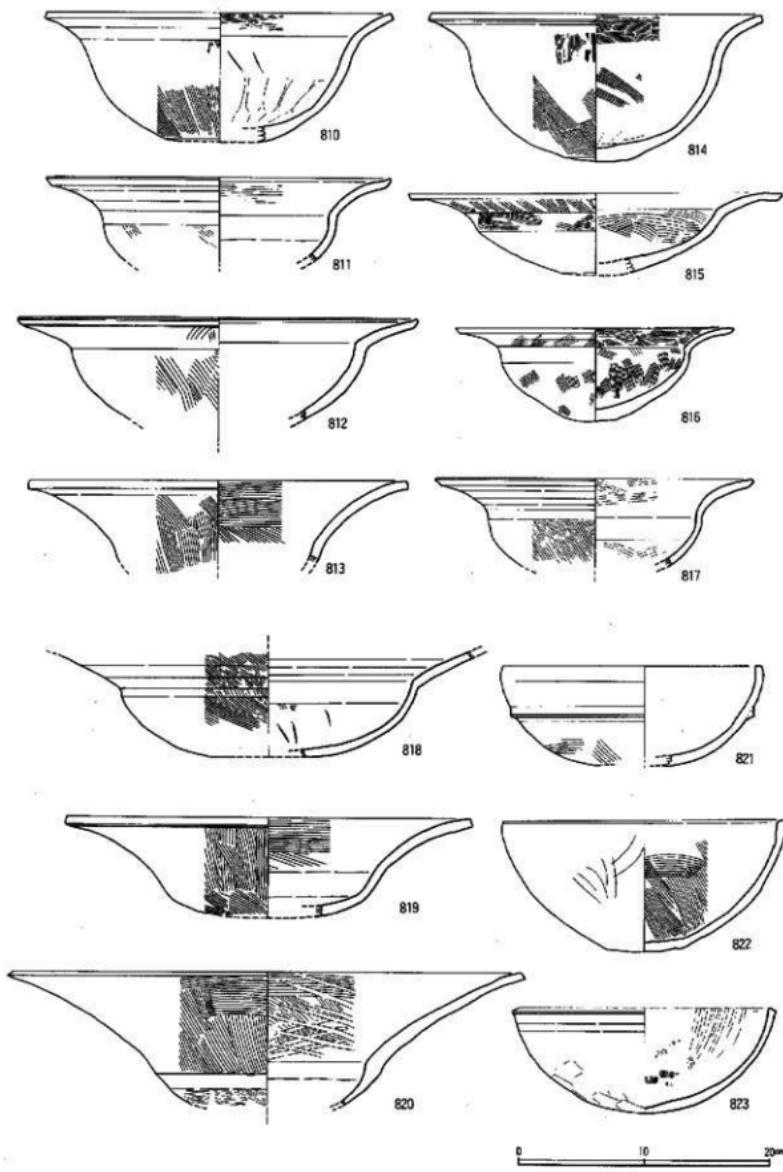


Fig.106 II区SD03出土遺物実測図②(1/4)

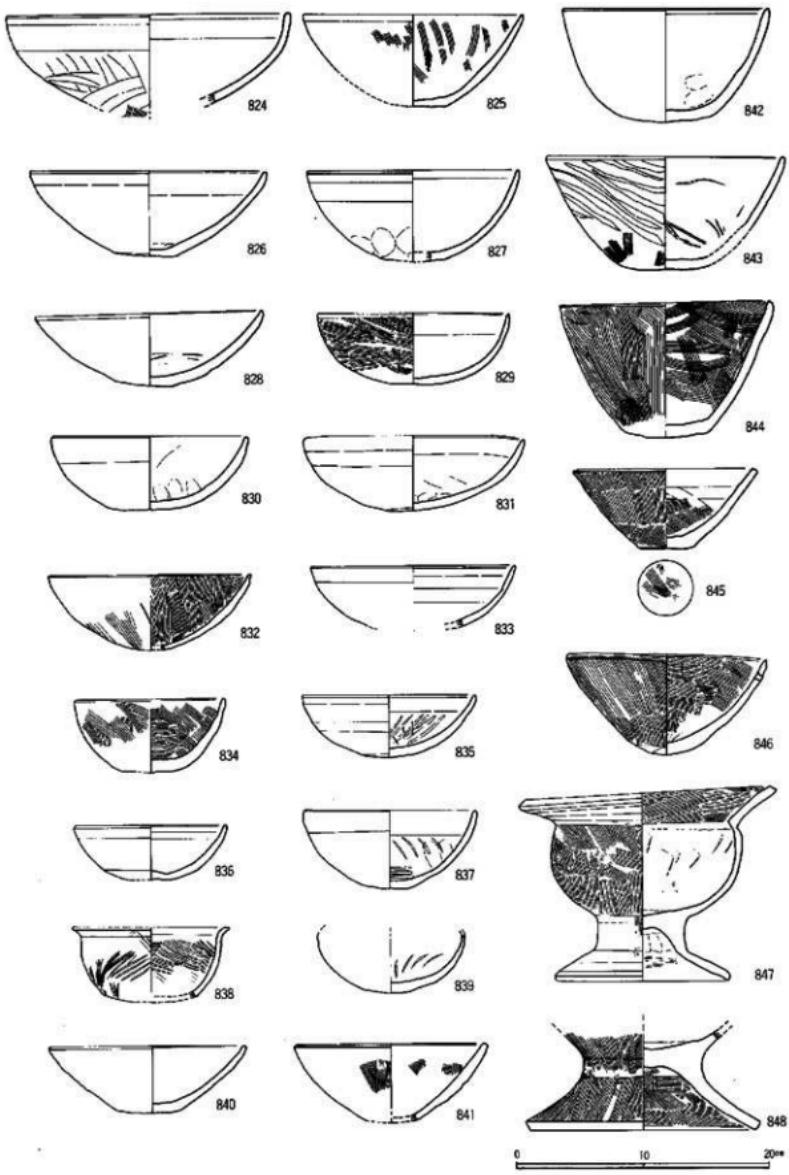


Fig.107 II区SD03出土遗物实测图(1/4)

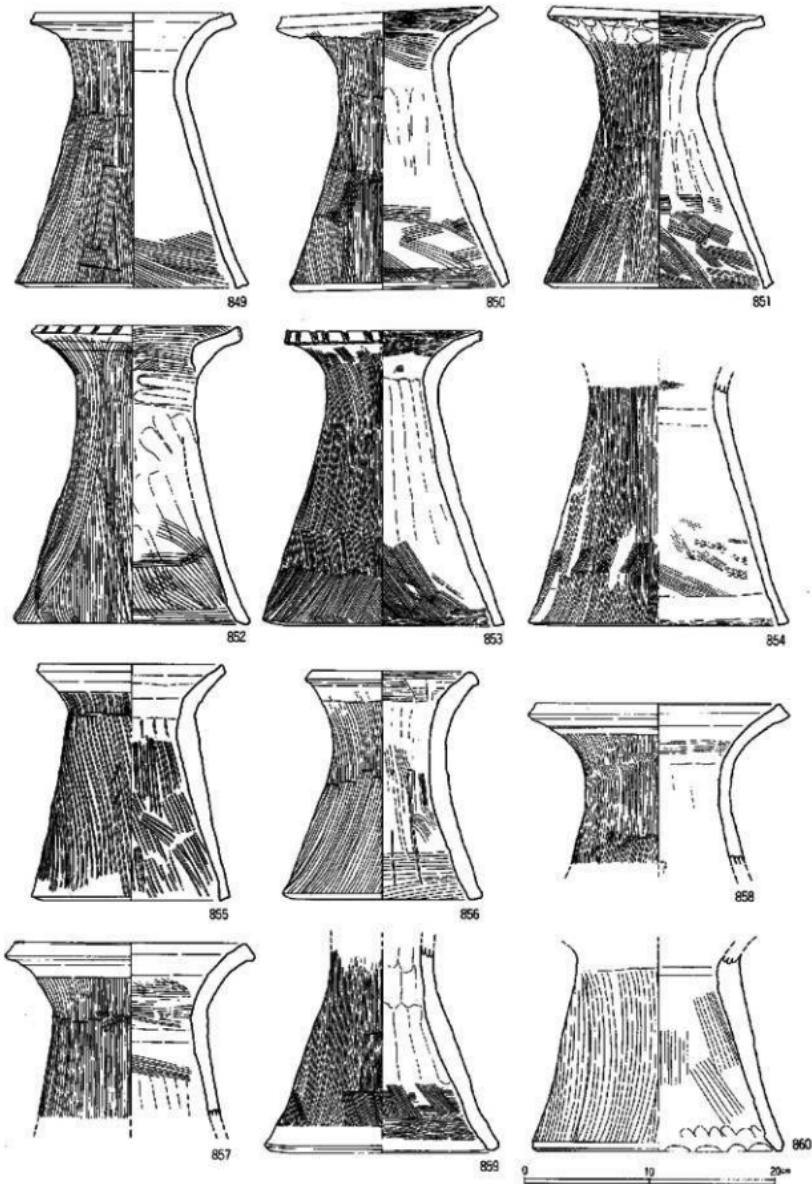


Fig.108 II区S003出土遗物实测图②(1/4)

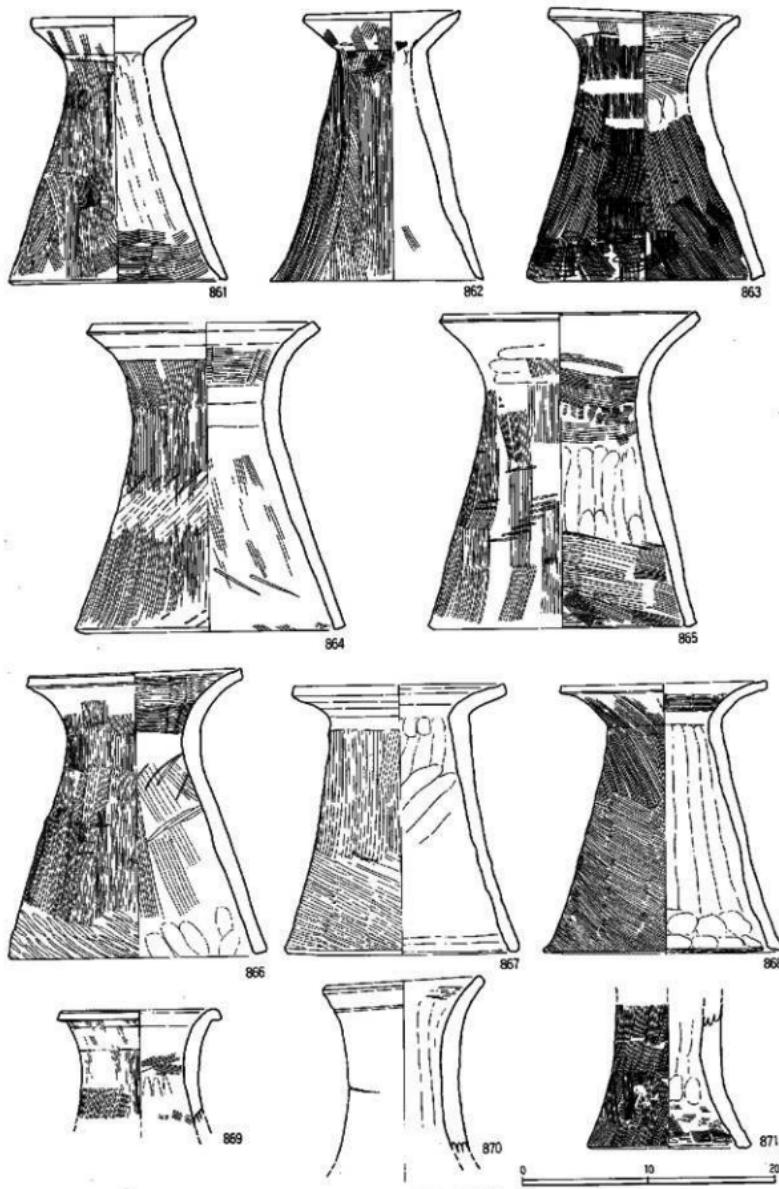


Fig.109 II区SD03出土遺物実測図②(1/4)

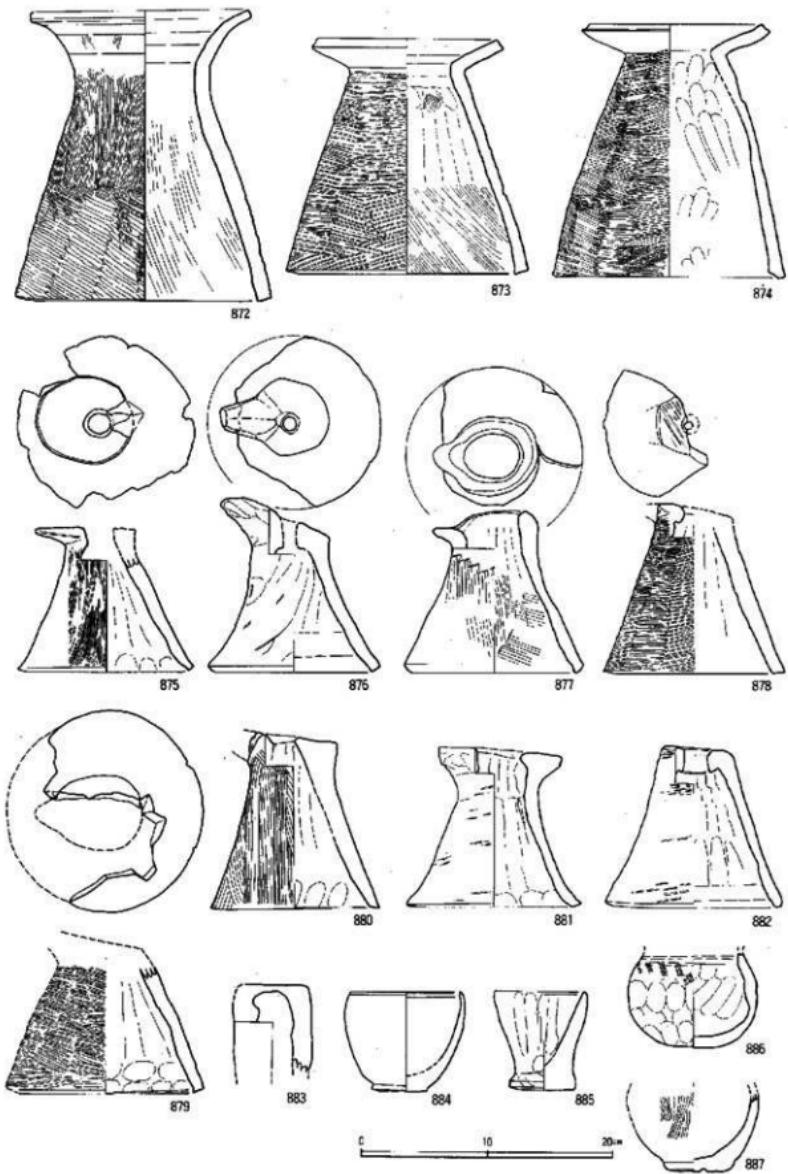


Fig.110 II区SD03出土遺物実測図②(1/4)

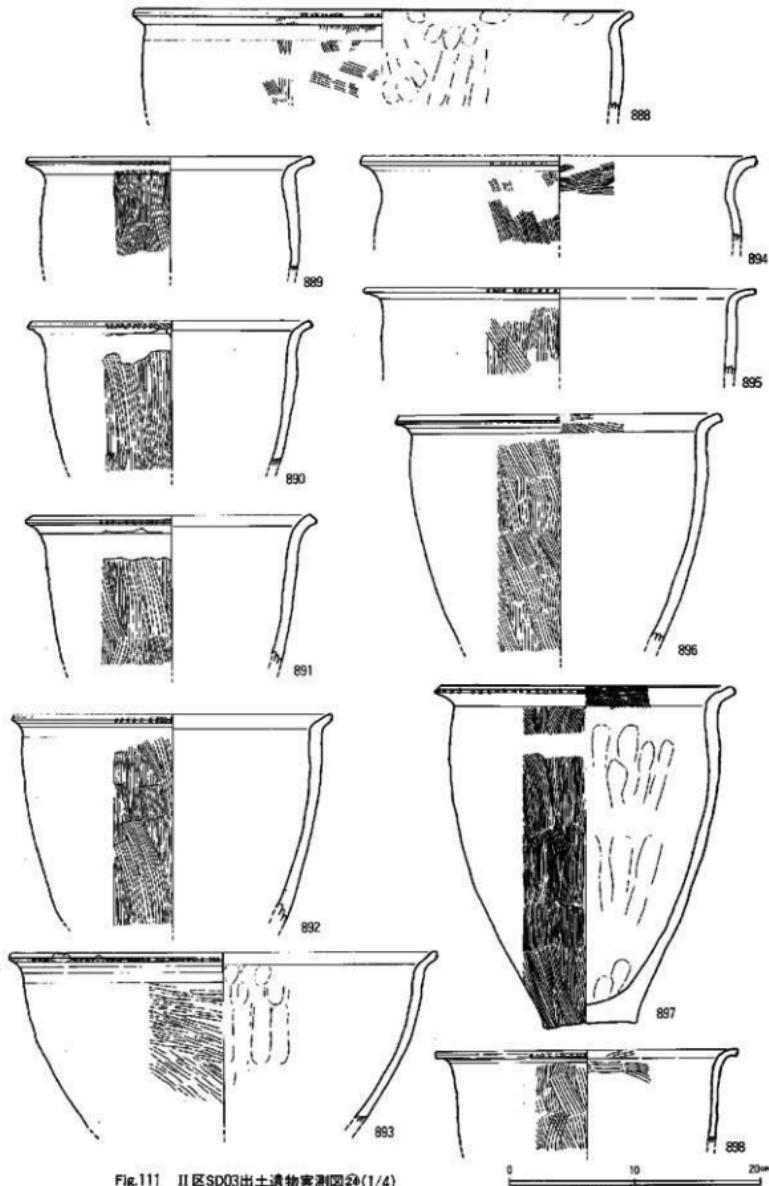


Fig.111 II 区SD03出土遺物實測圖29(1/4)

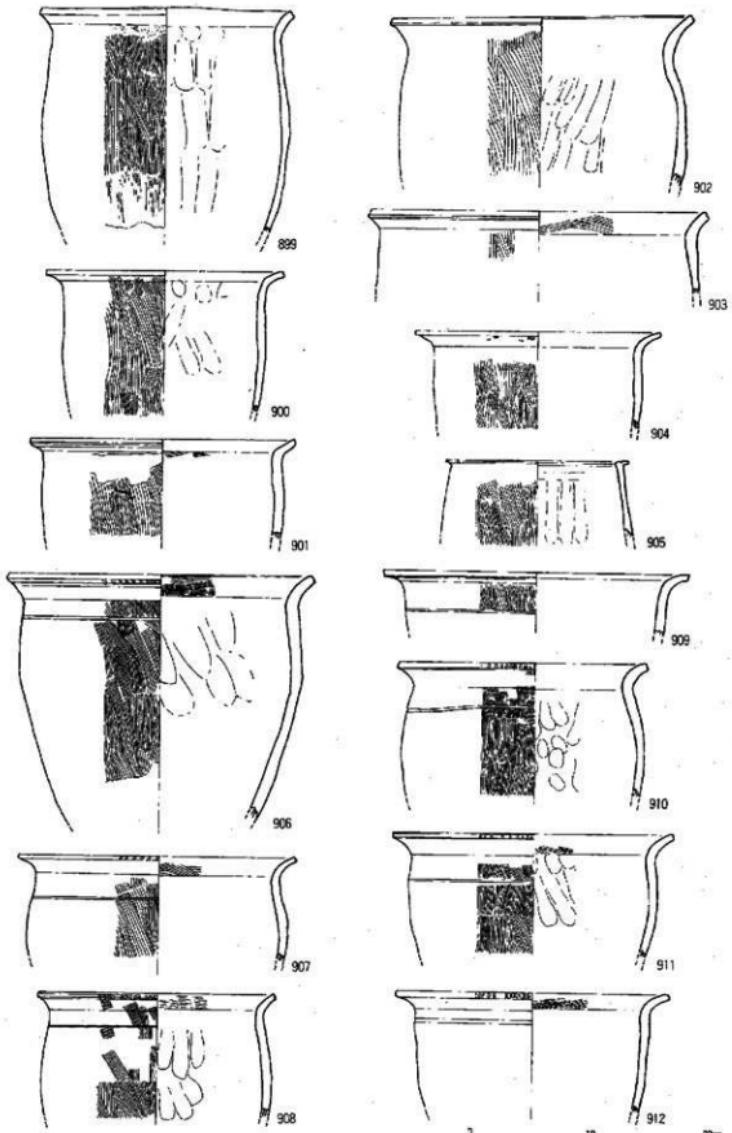


Fig.112 II区SD03出土遺物実測図②(1/4)

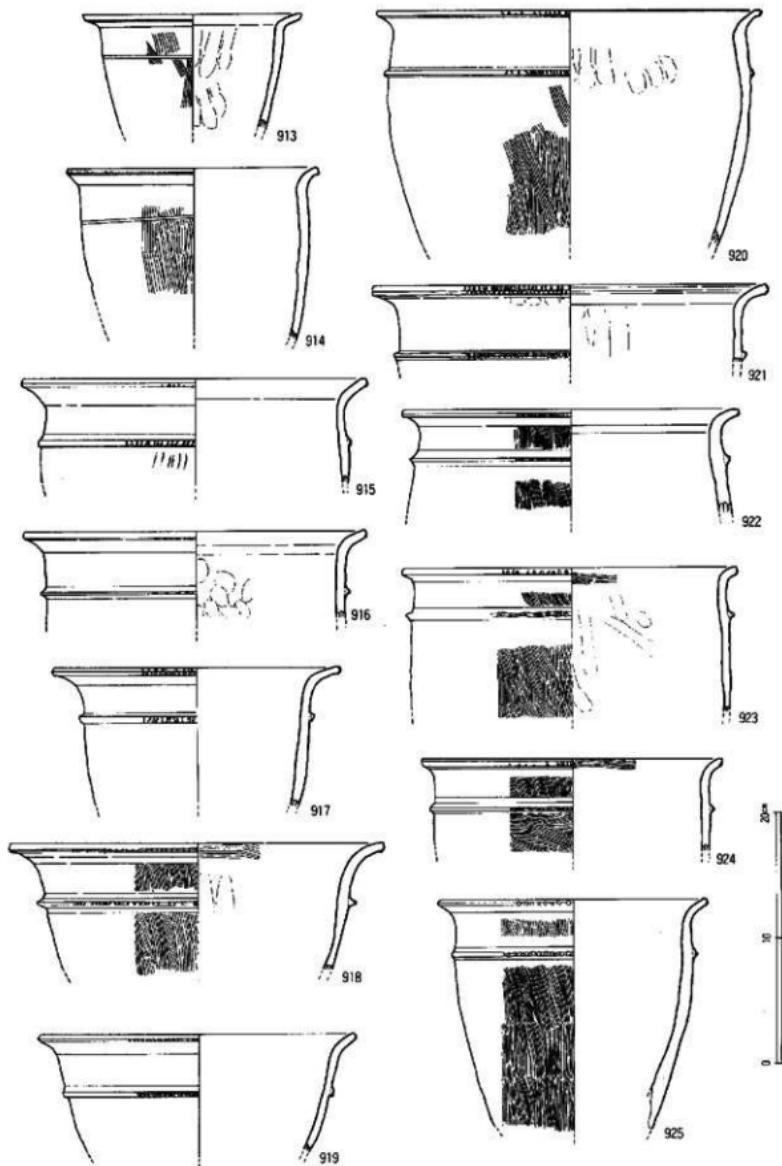


Fig.113 II区SD03出土遺物実測図②(1/4)

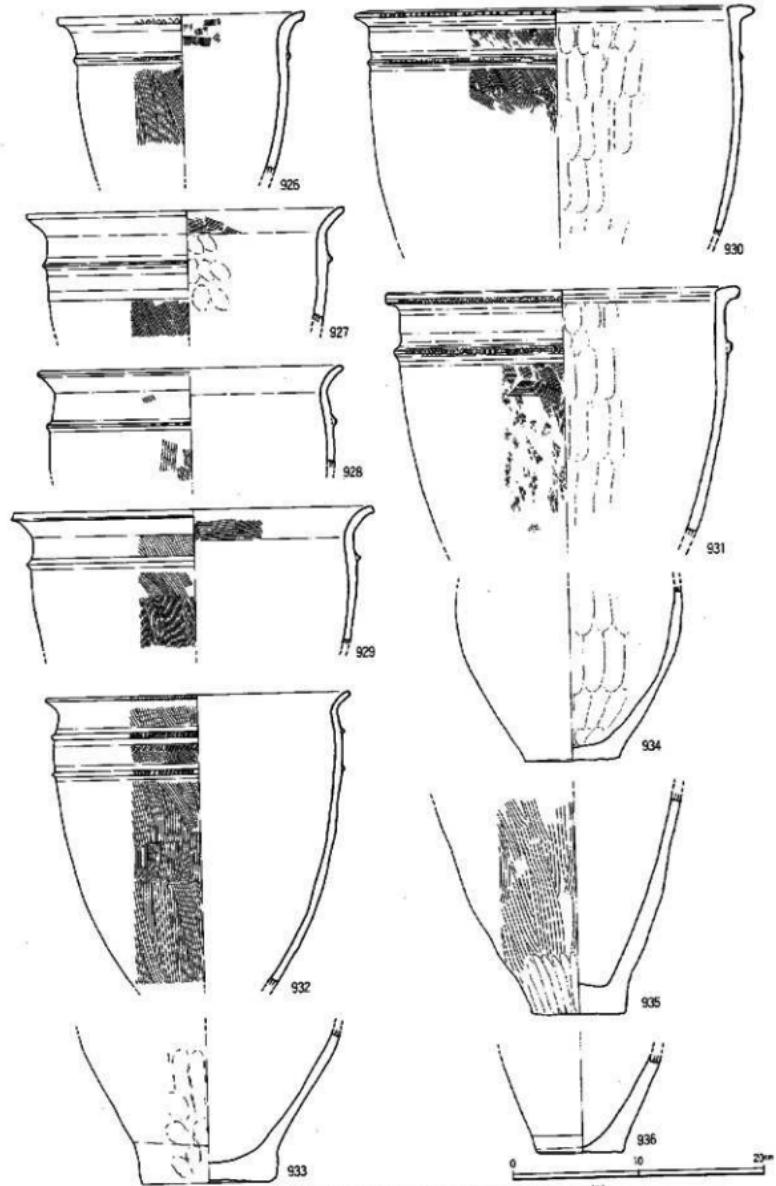


Fig.114 II区SD03出土遺物実測図⑦ (1/4・932 : 1/6)

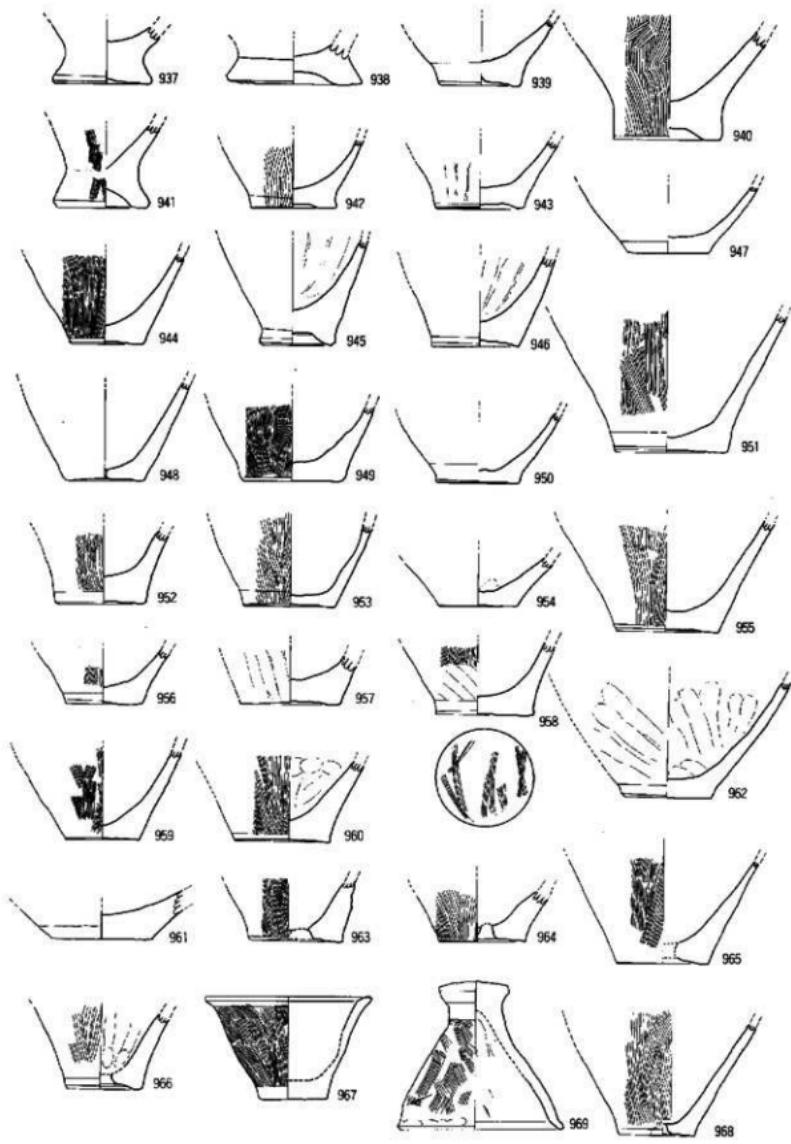


Fig.115 II区SD03出土遺物実測図28(1/4)

0 10 20mm

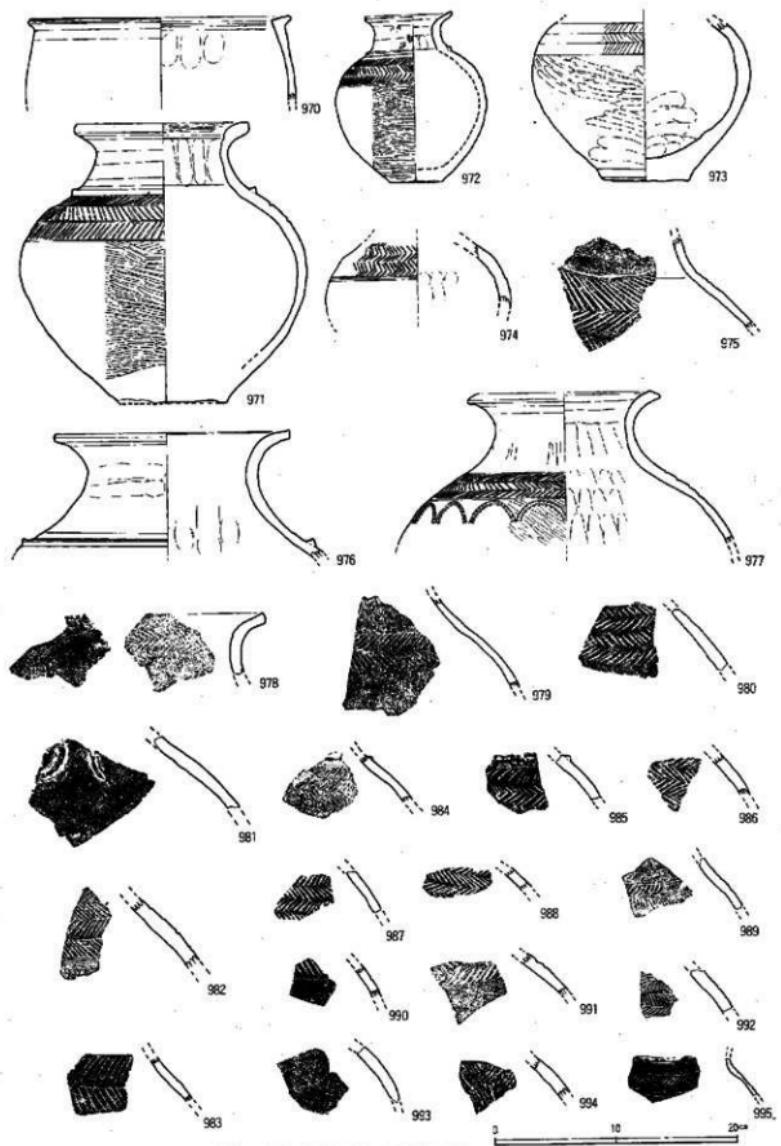


Fig.116 II区SD03出土遗物实测图(1/4)

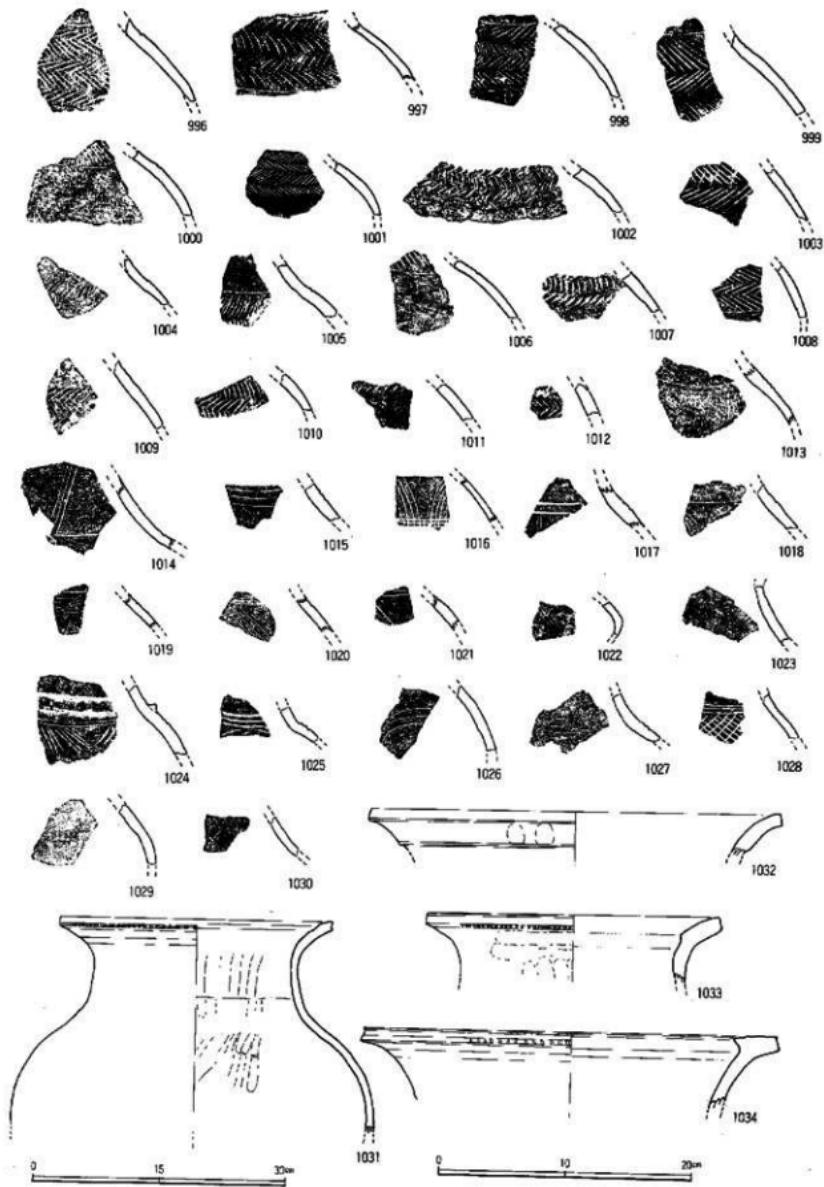


Fig.117 II区SD03出土遗物实测图@ (1/4•1031 : 1/6)

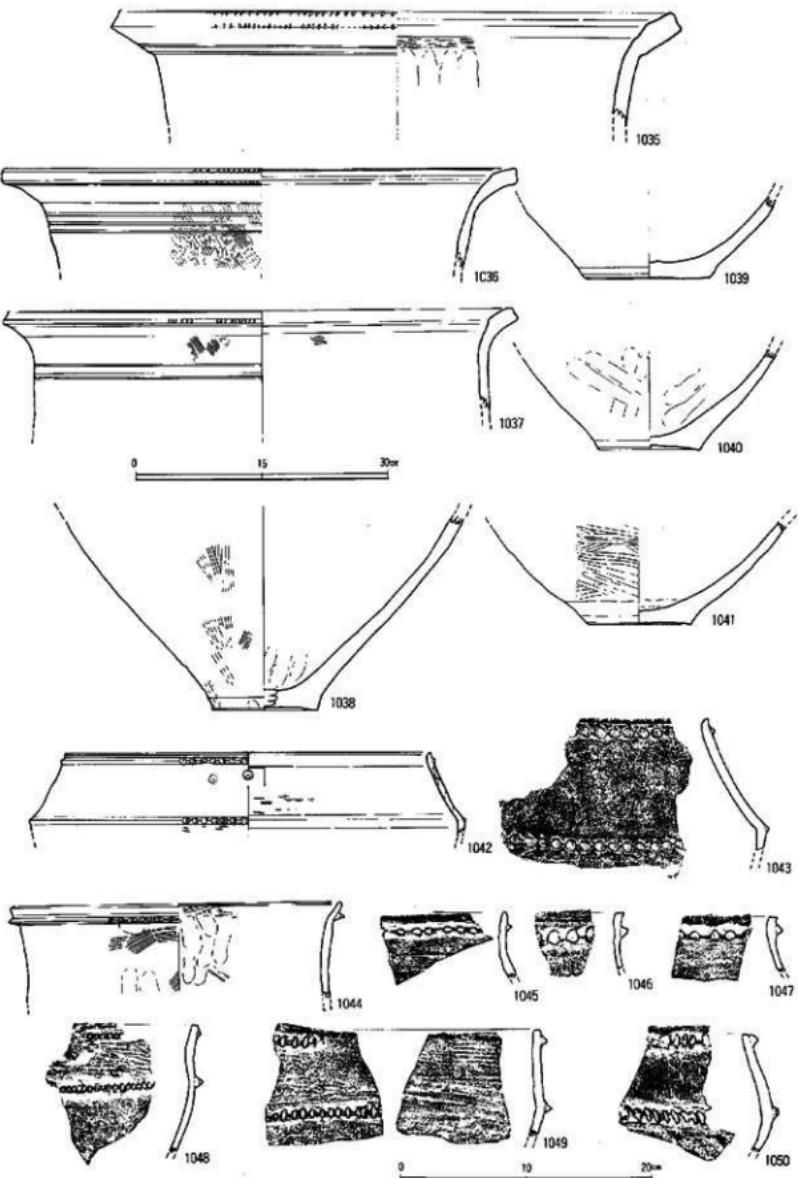


Fig.118 Ⅲ区SD03出土遺物実測図⑩ (1/4・1036, 1037, 1042 : 1/5)

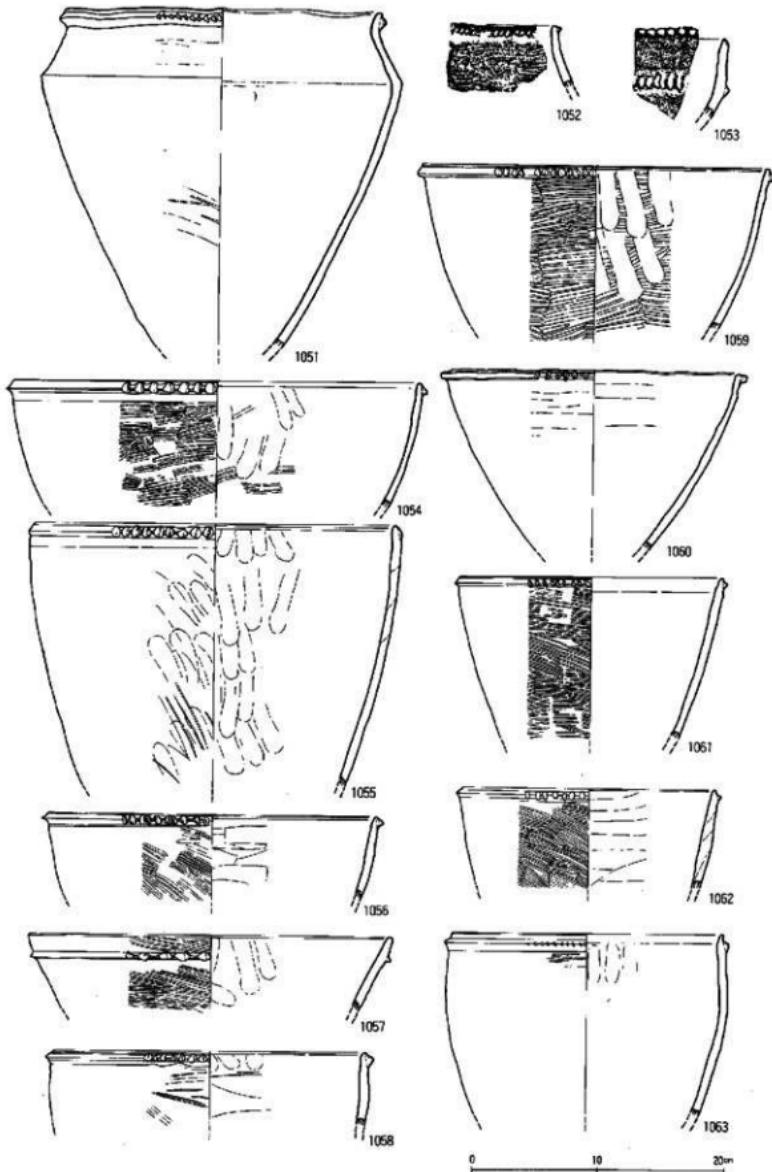


Fig.119 II区SD03出土遺物実測図(1/4)

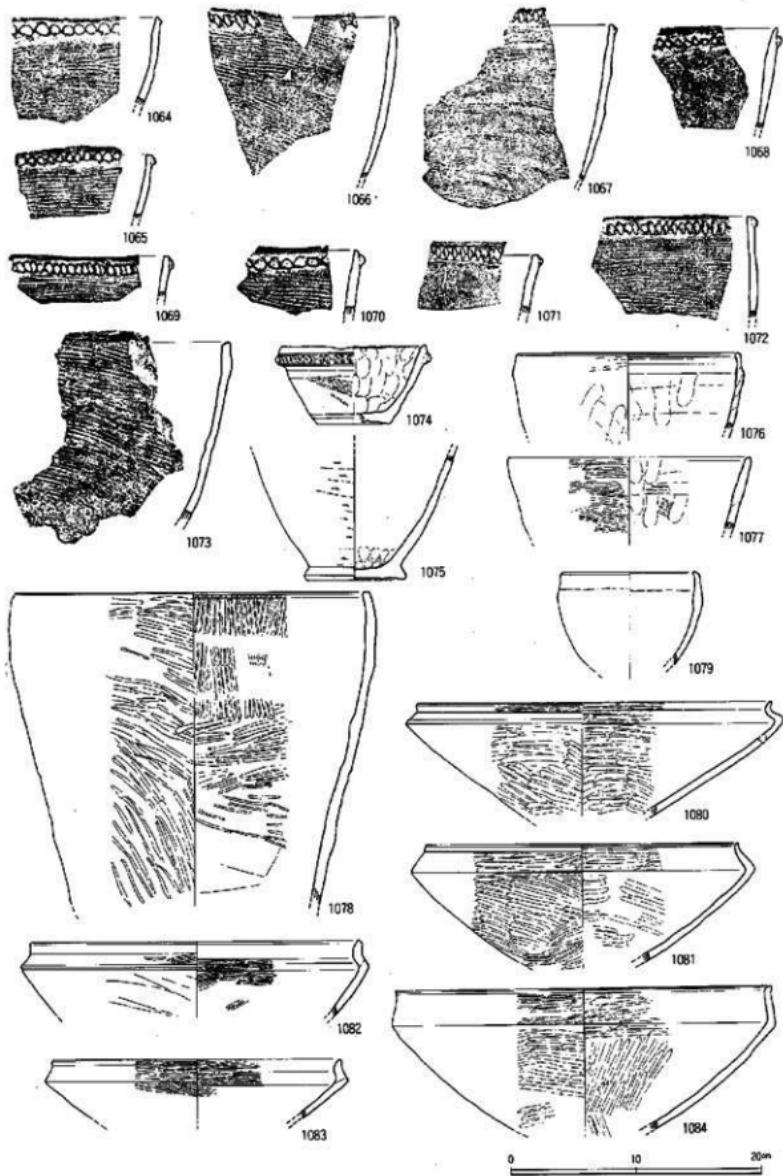


Fig.120 II区SD03出土遺物実測図③(1/4)

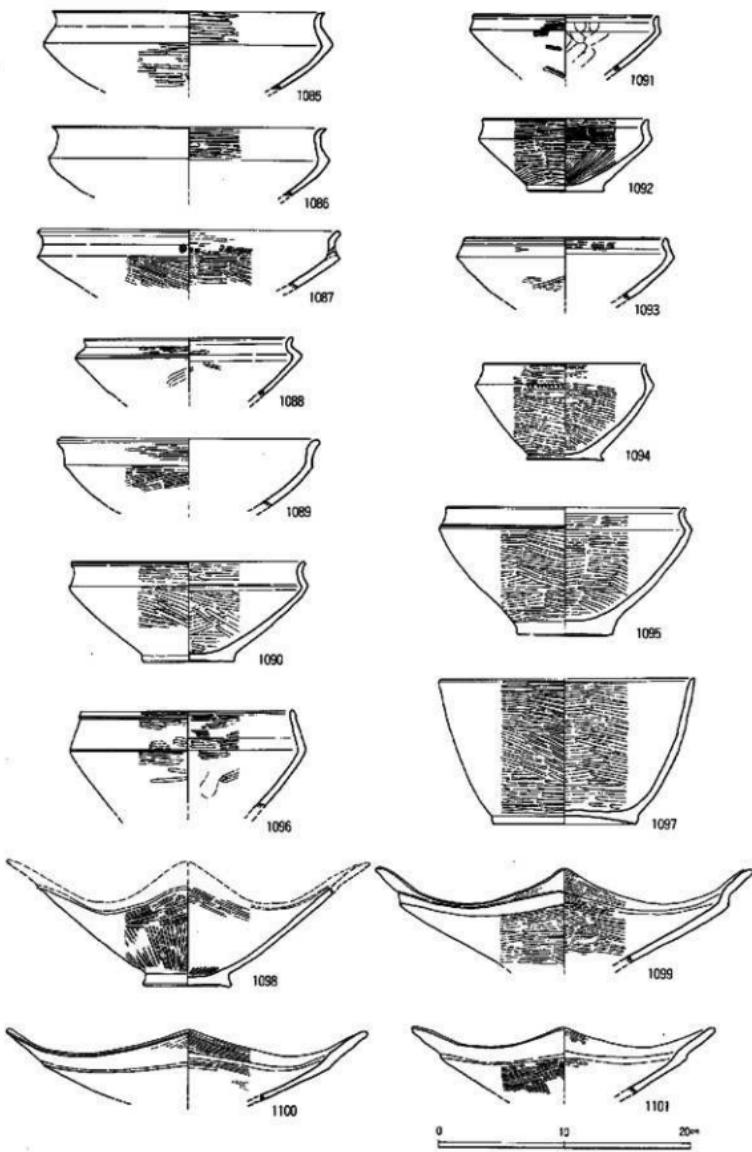


Fig.121 II区SD03出土遺物実測図④(1/4)

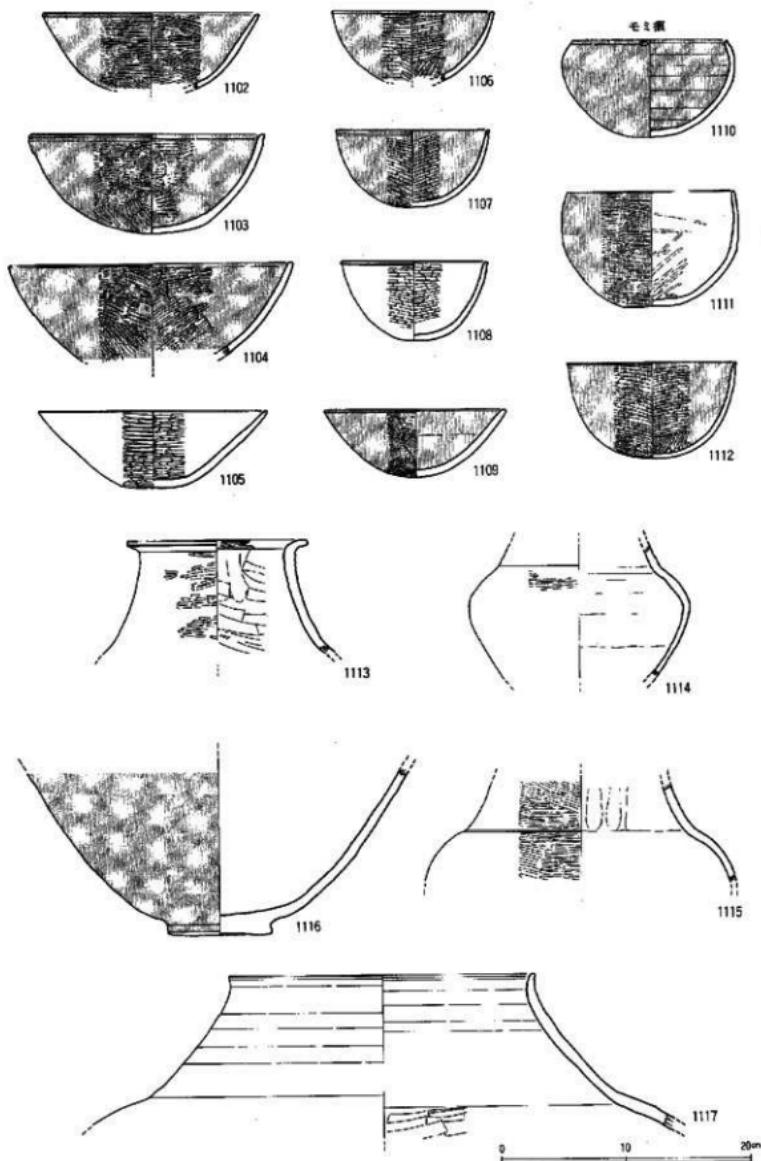


Fig.122 II区SD03出土遺物実測図⑧(1/4)

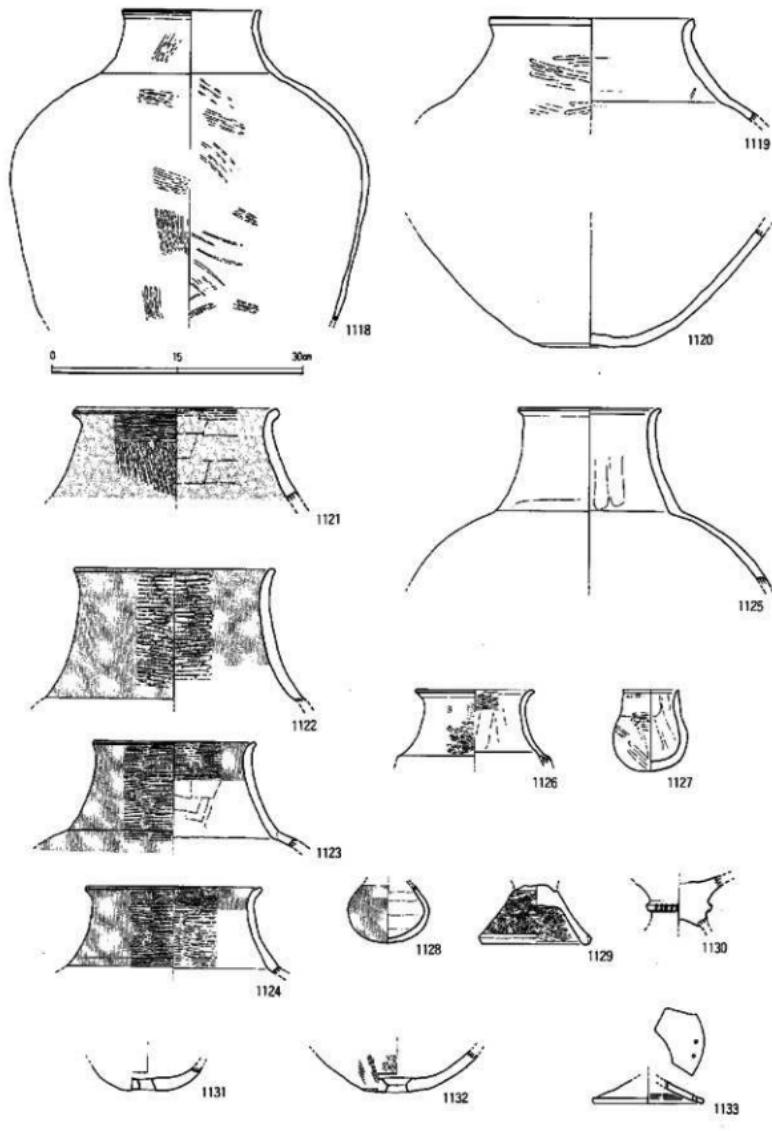


Fig.123 II区SD03出土遺物実測図⑤ (1/4・1118:1/6)

台である。外面はハケ調整のものとタタキ調整のものがある。882には突起が付いていない。

その他、883は混入品の支脚である。884~887は粗雑な作りの小型鉢と小型の甕である。

Fig. 111~118~Fig. 118~1041は主に中層から出土した弥生前期中葉から終末にかけての上器群である。888~904は口縁部が短く外反し、胴部上位に沈線や突帯を施さない甕である。口縁部の刻み日は下端部に付けられるものが多いが、全く刻み日を施さないものも存在する。905は口縁端部に粘土を貼り付けて外側に薄く引き伸ばしている。906~914は胴部上位に一条の沈線を有する甕である。胴部がややふくらむものが多い。口縁部には刻み日を施さないものがある。915~932は胴部上位に三角突帯を貼付する甕である。口縁部及び三角突帯には刻み日を施すが、全く施さないものも存在する。このタイプの甕には大型の器形を持つもののがかなりある。930・931は口縁部が肥厚して発達している。時期的に新しくなるものであろう。932は口径が36.5cmで、推定器高は40cmを超える大型の甕である。胴部上位には2条の刻目突帯を施す。外面には厚くカーボンが付着し、煮焚に使用されたことが窺える。中層出土の他の甕もほとんどカーボンが厚く付着し、まっ黒になっている。933~966・968は甕の胴部から底部である。径7cm前後のものが多い。底部が肥厚し、底面が窪む新しい様相の底部も若干含まれている。963~966・968には焼成後の底部穿孔がある。

967は小型の鉢形土器である。外面にはハケ目調整が施される。969は甕蓋であろう。口径に対して器高が高く、ツマミは厚く作られている。970は中期初頭に属する甕であろう。南側の上層から出土している。

971~1041は壺形土器である。971は口縁内面を肥厚させ、肩部に三角突帯を一条巡らす。胴部上半には有軸の羽状文をヘラ描きで施文している。972・974は小型の壺で、胴部上半に無軸羽状文を施す。973~975も無軸羽状文を施した壺である。976は肩部に三角突帯を巡らすが胴部の様子は分らない。977はカイガラで有軸羽状文や重弧文を施文した壺である。カイガラで施文した壺は他にも数点出土している。978~1030は各層から出土した有文壺の拓影である。978は口縁内面に無軸羽状文を施した壺である。981は壺肩部で、粘土紐を弧状に貼り付けて装飾している。その他、有軸・無軸の羽状文、重弧文、横沈線文、複線山形文、格子文などが施文されている。997はカイガラで施文された無軸羽状文である。1031~1041は粗成の大型及び中型の壺である。1031は口径が40cmを超える大型の壺で、口縁内面を肥厚させている。1032は口縁外面、1033は口縁内面を肥厚させる。1034は肥厚させた口縁の上端を平面に仕上げた壺である。時期的に新しい様相である。1035は、口縁外面を肥厚させ、さらに内面も肥厚させている。口縁内面を肥厚させる大型壺への過渡的形態であろう。1036・1037はともに口径60cmを超える大型の壺である。形態的にはほとんど変形になっている。口縁端部に刻み目を施し、頸部には2条から3条の浅い横沈線が巡る。このタイプの大型壺は埋葬用の棺として使用されるようになるが、生活土器として本来は使用されていたものである。その後、棺専用として製作されるようになり、甕棺墓葬の伝統が後期まで続くことになる。1038~1041は壺の底部である。ハケ目やヘラミガキ調整がみられる。

1042~1130は主に下層から出土した夜白式上器である。中層や上層及び上層下に混入したものも多い。1042~1079は深鉢形土器である。口縁部が内傾し胴部に屈曲を持つもの、口縁部から底部に向って単純にすぼまるもの、これには逆砲弾形を呈するものや鉢形に近いものなどがある。胴部が屈曲する深鉢は口縁部と屈曲部に刻目突帯を施すものが多い。まれに屈曲部に刻目突帯を施さないものも存在する。単純な形の深鉢は、口縁部に刻目突帯を有するものと、まったく突帯を貼付しないものがある。後者は数量的には少ない。深鉢の底部は幅広がりの円盤貼り付け状底部となる。調整はカイガラ条痕調整が主体となるが、ナデ調整で仕上げられたものもある。刻目突帯の刻みは、爪やヘラ状工具

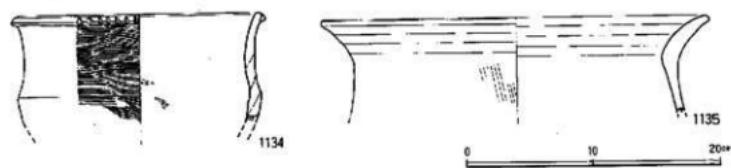


Fig.124 SD21出土遺物実測図(1/4)

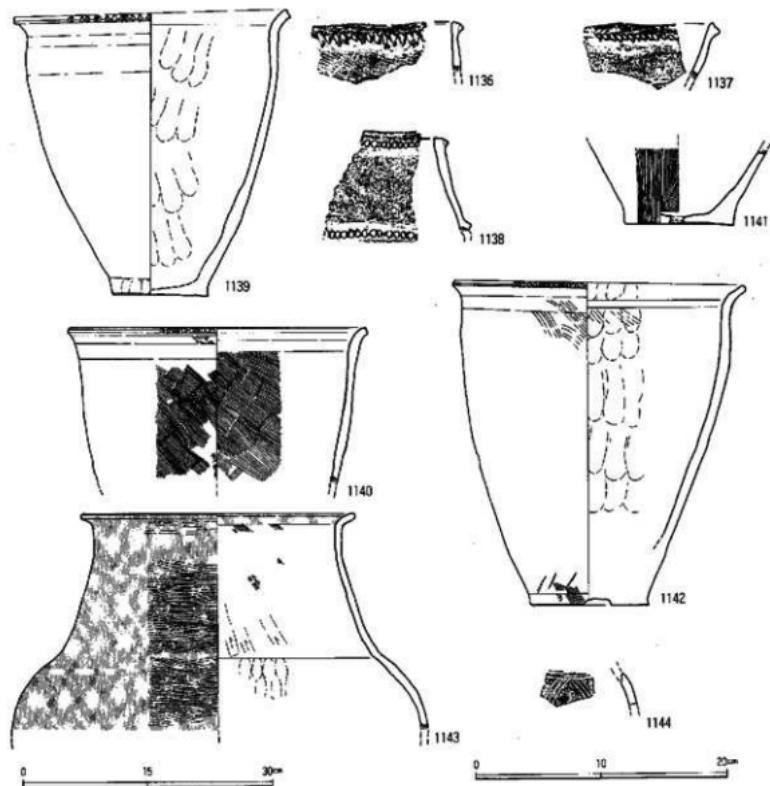


Fig.125 SD34出土遺物実測図(1/4-1/6)

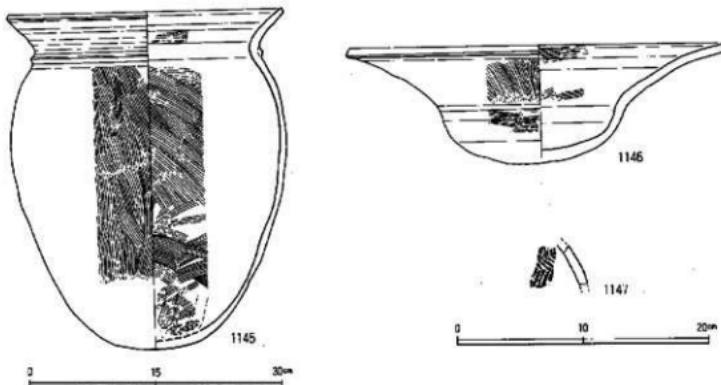


Fig.126 SD35出土遺物実測図 (1/4・1145:1/6)

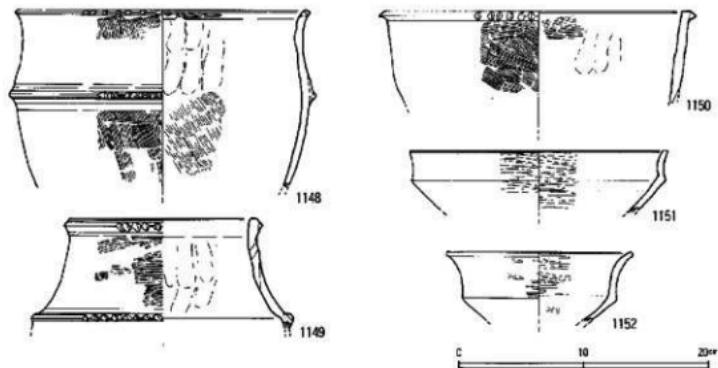


Fig.127 SD39出土遺物実測図 (1/4)

で入れられるが、下層出土のものは爪で刻まれるものが目立つ。1042～1053は胸部に屈曲を持つタイプの深鉢である。1042は口径44.2cm、刷径52.2cmの大型の深鉢である。口縁端部やや下と屈曲部に爪で施した刻目突帯を有する。頸部には焼成後の穿孔が施されている。時期的には最も古く位置づけられるものであろう。1043も同様な深鉢である。1048は胸部の屈曲が弱く、口縁部はやや外反する。1051は屈曲する胸部に刻目突帯文を持たないものである。1053は胸部の屈曲が痕跡的である。上層からの出土で時期的には新しいものである。1054～1072は単純な器形の深鉢である。口縁部に刻目突帯を施す。1073・1076～1078は口縁部に刻目突帯を持たない単純な形の深い鉢である。なお、口縁部が如意形に外反する深鉢はほとんど伴出していない。1074は小型の鉢形土器である。1075は深鉢の底部であ

る。1079は楕形を呈する小型の深鉢形土器であろう。

1080～1112は鉢・浅鉢・丹塗り鉢である。1080～1093は浅鉢で、頸部の屈曲が強く、口縁下に段や沈線を有するものと、屈曲が弱く緩やかに立ち上がるものとがある。後者は量的に少ない。1081は頸部が強く屈曲し、口縁端部は短く外反する。口縁部から頸部外面は水銀朱によって赤彩されている。1094～1097は鉢形土器である。頸部が内傾し口縁部が短く外反するもの、口頸部が内傾したままのもの、口縁が直口し筒形か単純な鉢形になるものなどがある。1094は屈曲部に刻み目、1095は沈線、1096は屈曲部と口縁下に沈線を施している。1097は底径の大きな鉢である。1098～1101は波状口縁を有する浅鉢である。1099のように体部の屈曲が強いものと、1100のように弱いものとがある。1102～1112は丹塗り磨研及び黒色磨研の楕形を呈する鉢である。口縁部が外傾するもの、口縁部が直立するもの、口縁部が内窪するものなどがあり、器形も大きいものから小さいものまである。1105と1108以外はすべて丹塗り磨研が施されている。

1113～1128は壺形土器である。頸部は内傾し、口縁端部がやや外反する。外反度の強いものは時期的に新しいものであろう。また、大型の粗製壺やミニチュアの小型壺も存在する。1113～1117は上層下及び中層から出土した壺である。時期的には新しくなるものであろう。1116は外面に丹塗りが施されている。1117は粗製の大型壺である。胴径は50cmを超えるものとみられる。1118は下層から出土した粗製の大型壺である。口径が小さく胴が張り、器高も高くなると考えられる。胴径は40cmを超えている。1119・1120も粗製の壺である。1121～1124は丹塗り磨研の壺、1125・1126は黒色磨研の壺である。1127はミニチュアの小型壺、1128は丹塗りの小型壺である。

1129・1130は高壺である。1129には丁寧なヘラミガキが施され、1130には箇部と壺部との境に刻目突帯を施す。1131～1133は弥生後期後半の土器で、1131と1132は焼成前の底部穿孔が施された甕底部である。1133は短頸壺の蓋である。2孔1対の穿孔が施されている。

SD21 (Fig. 5・124) II区東端部に位置する幅0.45m、深さ0.14mの細い溝で、延長8.6mまで検出した。夜臼式土器から古墳時代前期の遺物が、溝内に堆積した黄白砂中から出土している。古墳時代前期の溝であろう。Fig. 124-1134は夜臼式土器の深鉢である。頸部で屈曲し、口縁部はやや長めに立ち上がる。屈曲部には刻目突帯を施さず、口縁部のみに刻目突帯を施す。時期的に新しいものであろう。1135は土師器の甕である。

SD34 (Fig. 5・125) II区南側に位置し、南北に走る溝である。幅0.8m、深さ0.35mで、延長6.45mまで確認した。弥生前期前半を中心とする遺物がまとまって出土している。Fig. 125-1136～1138は夜臼式土器の深鉢である。1136・1138は胴部が屈曲するタイプ、1137は単純な形の深鉢である。

刻目突帯は粗雑で、ヘラで刻みを入れている。1138は外面にハケ目調整が施されている。時期的に新しいものであろう。1139～1142は板付1式の甕である。口縁は緩やかに外反し、端部全面に刻み目を施す。1141は焼成後の穿孔を行なった底部である。1143は丹塗りの大型壺である。胴径は50cm近くになろう。口縁端部は強く外反する。1144は横沈線文と複線山形文を施した壺である。時期的には少し新しくなるものであろうか。

SD35 (Fig. 5・126) II区東南端で検出した溝で、幅0.9m、深さ0.37m、延長5.5mまで確認した。この溝は第5次調査で延長が確認され、方形の区画溝になることが判明した。遺物は弥生後期後半の甕、高壺、鉢、器台などが出土している。Fig. 1145は口径33cm、器高41.5cmを測る中型の甕である。頸部に1条の三角突帯を巡らす。1146は鉢状口縁を有する鉢である。口縁部は体部から折れて外反し、非常に発達した口縁部を形成する。1147は混入したと考えられる弥生前期後半の壺胴部である。無軸の羽状文を施している。

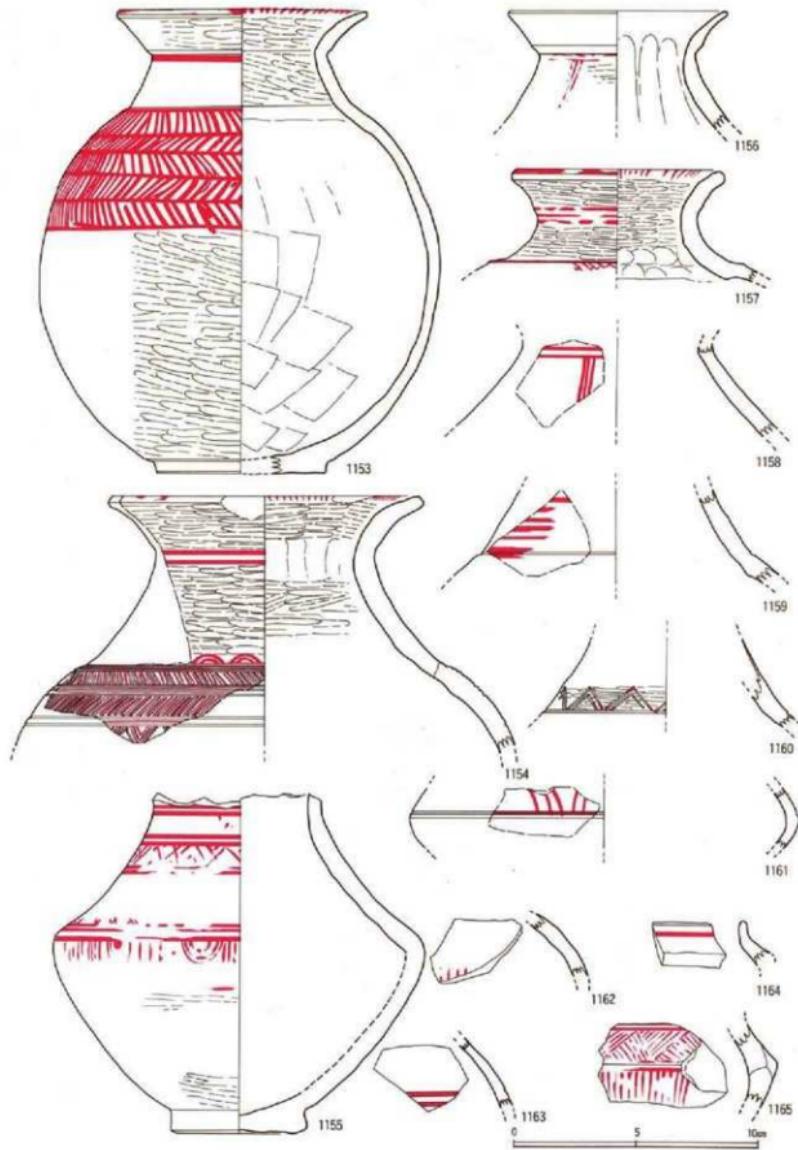


Fig.128 各遺構出土彩文土器実測図①(1/2)

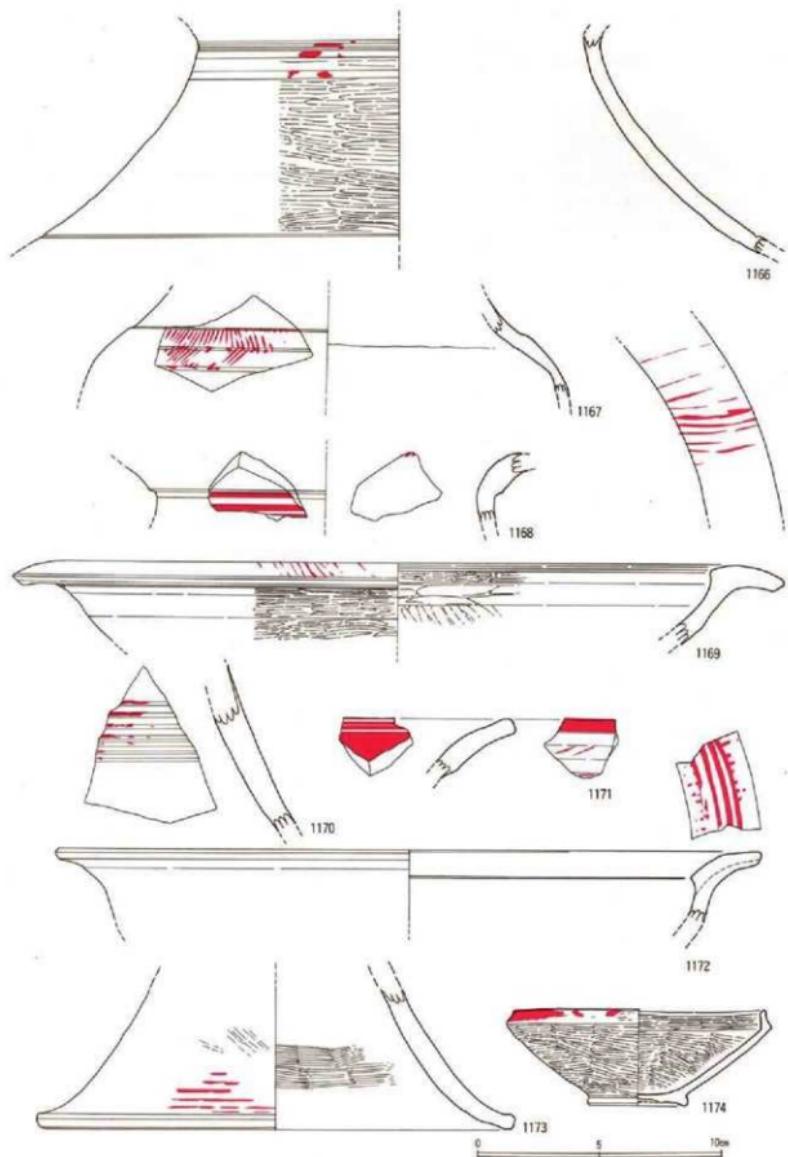


Fig.129 各遺構出土彩文土器実測図② (1/2-1174 : 1/4)

SD39 (Fig. 5-127) II区中央部東側で検出した土坑状の溝である。幅0.9m、深さ0.5m、延長3.5mまで確認した。下層からは、夜白式土器、弥生前期後半の甕・壺・高坏などが出土している。上層からは中期前半の甕が出土している。ごく少量後期後半の甕や土師器高坏が出土しているが、柱穴の切り合いで混入したものであろう。溝の時期は新しく考えれば中期前半ということになろう。Fig. 127は古い遺物だけ図示している。1148～1150は夜白式の深鉢である。1148は胴部の屈曲が弱く口縁部はやや外反して立ち上がる。内外面はハケ日調整が施されている。1149は胴部で屈曲して内傾する。外面はカイガラ条痕調整で、粗雑な刻目突帯文が付けられる。色調も褐色を呈し、ともに時期的に新しくなるものとみられる。1150は口縁部に刻目突帯文を有する単純な形の深鉢である。1151-1152は浅鉢である。胴部の屈曲は明瞭で、口縁部はやや外傾して立ち上がる。内外面ともヘラミガキが施され、形態的には新しくなると考えられる。

4 出土遺物

1) 土器 (Fig. 128～132)

各遺構出土の土器については、それぞれ遺構ごとに述べてきたので、ここでは彩文土器や包含層などから抽出した施文土器、外来系土器、渡来系土器などについて概要を報告しておきたい。

Fig. 128-129は各遺構から出土した彩文土器である。すべて赤色顔料で描かれている。1153はSX12から出土した略完形の壺である。口径10.4cm、頸径9.3cm、胴径16.5cm、底径7.0cm、器高19.1cmを測る。丸味の強い胴部を有し、器面は黒色で全面に研磨が施されている。彩文は、口縁部外面の口唇部と頸部が横線、胴部上半が有軸羽状文になっている。口縁内面には連続した短線が描かれている。この壺は胴の張った特異な形態を有しているが、板付Ⅰ式の新しい時期に属するのではないかろうか。1154もSX12から出土した壺である。口唇に1条、頸部に2条の横線を描き、肩部にはあらかじめ沈線で有軸羽状文を施し、その沈線と沈線の間に彩色を施している。頸部には重弧文を描く。有軸羽状文の下部は沈線で複線鋸歯文を描き、その間に彩色を施している。口縁内面には連続した短線を描く。この壺は板付Ⅱ式の古い時期のものであろう。1155はSX13から出土したもので、口縁部を打ち欠き、頸部に二重横線と格子文、胴部に横線と重弧文、垂線を描く。板付Ⅰ式の新しい段階のものであろうか。1156～1163は壺に描かれた、横線、縦線、複線山形文、重弧文、格子文などである。1164は浅鉢の頸部に描かれた横線である。1165は壺の胴部と考えられ、肩部は三角文を細線で埋め、下半は連続した垂線を施している。1166～1168・1171も壺の口縁部や頸部に描かれた横線、胴部に描かれた有軸羽状文である。1169・1170・1172・1173は高坏に描かれた彩文である。1169は口縁上面に連続した横線を施している。1172は口縁上面に四重の圓線を描き、その両側に短線を連続して描いている。高坏の脚部は単純な横線が描かれているのみである。1174は夜白式土器の浅鉢である。内傾する口縁外面に赤色顔料で彩色を施している。浅鉢には他にも同部位に彩色されるものがある。彩文土器は調査区全体から出土しているが、特にSX12からは1153・1154・1161～1163・1170～1172とまとまって出土している。

Fig. 130-1175～1177は口縁外面を三角形に肥厚させた甕である。弥生中期初頃のものであろう。他にも数点出土している。1178～1194は包含層から出土した前期後半の有文壺である。有軸・無軸の羽状文が中心となる。1178はカイガラで施文されている。他にも数例カイガラ施文がみられる。1182は羽状文の下に鋸歯文を入れ細線で埋めている。1196も三角文を組み合わせ、細線とやや太い線で埋めている。1197は文様がはっきりしない。1198は複線山形文である。1199と2000は突帯を貼り付け重弧文を表現している。1195は夜白式土器である。1201～1207はジョッキ形土器である。弥生後期後半

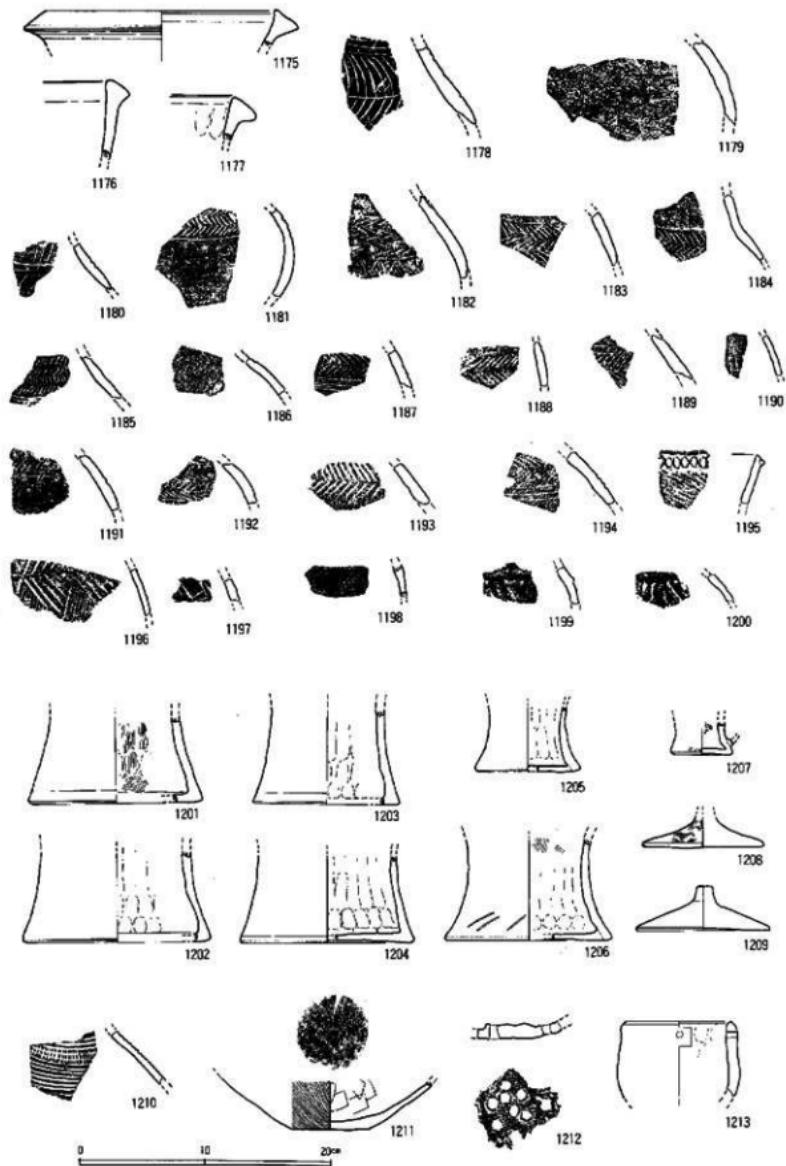


Fig.130 各遺構・包含層出土遺物実測図①(1/4)

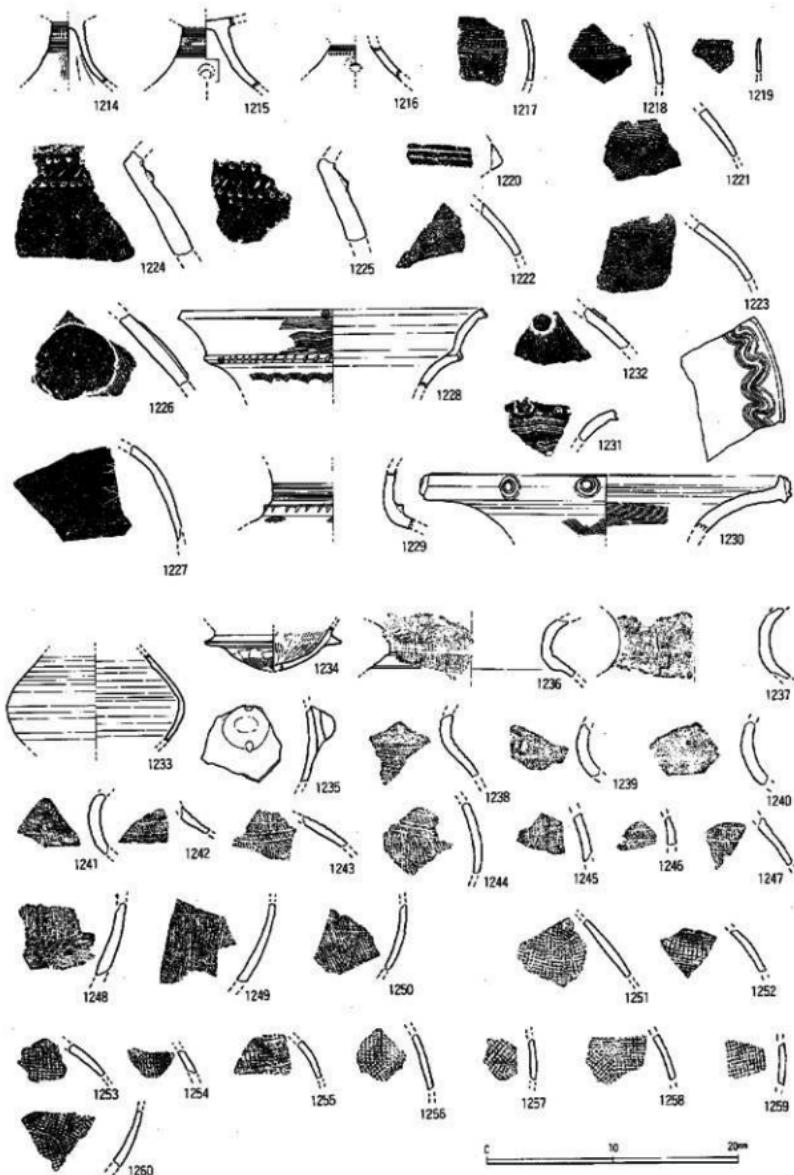


Fig.131 各遺構・包含層出土遺物実測図②(1/4)

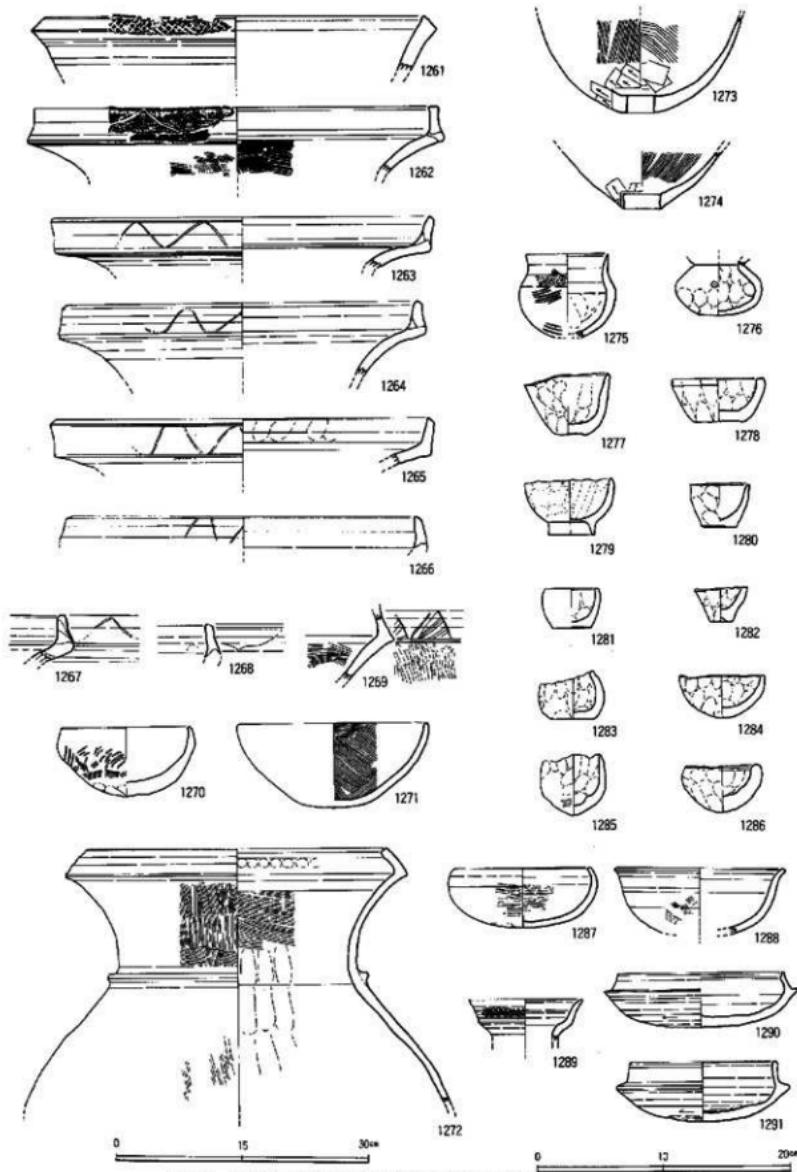


Fig.132 各造構・包含層出土遺物実測図③(1/4・1272: 1/6)

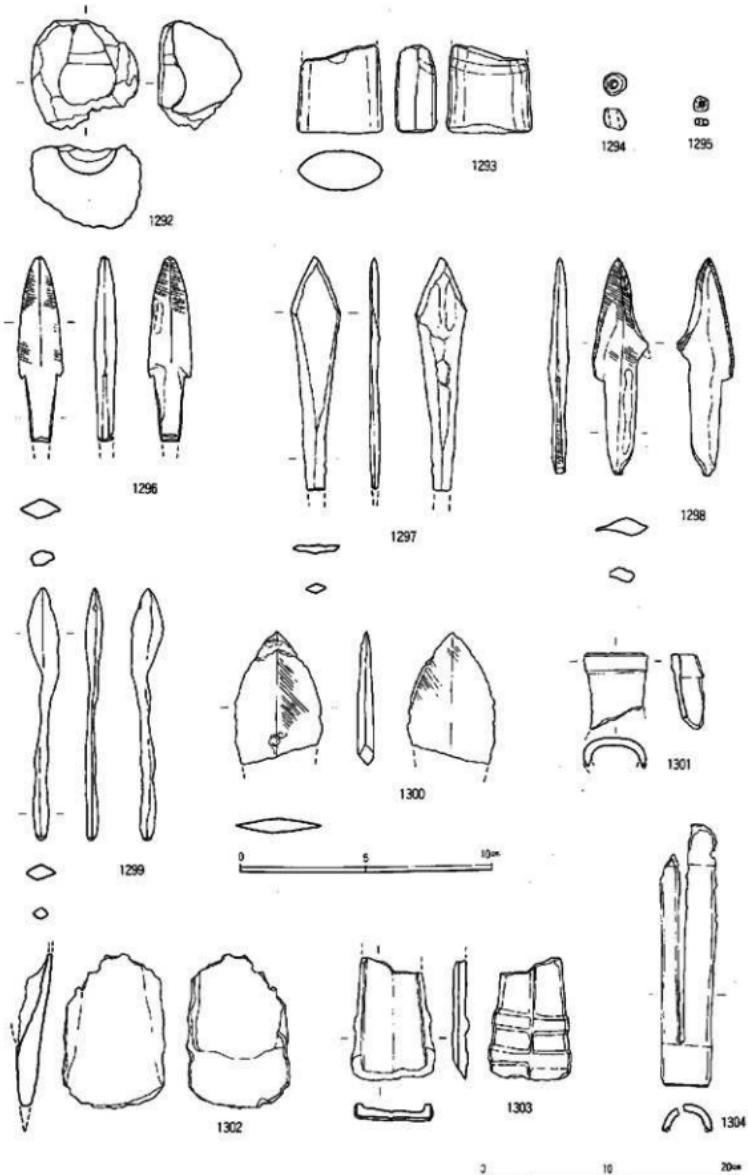


Fig.133 各造構出土石製品・金属製品・ガラス製品・骨製品実測図 (1294~1300 : 1/1-1/2)

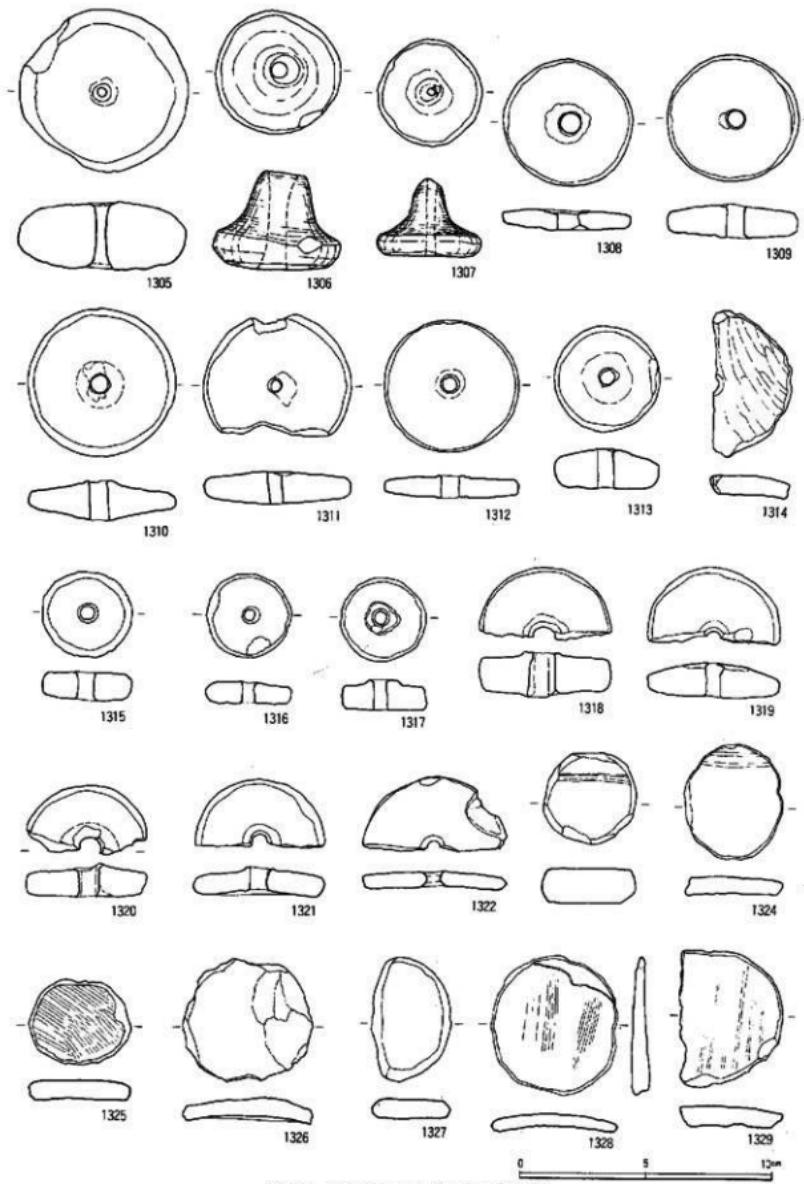


Fig.134 各遺構出土土製品実測図①(1/2)

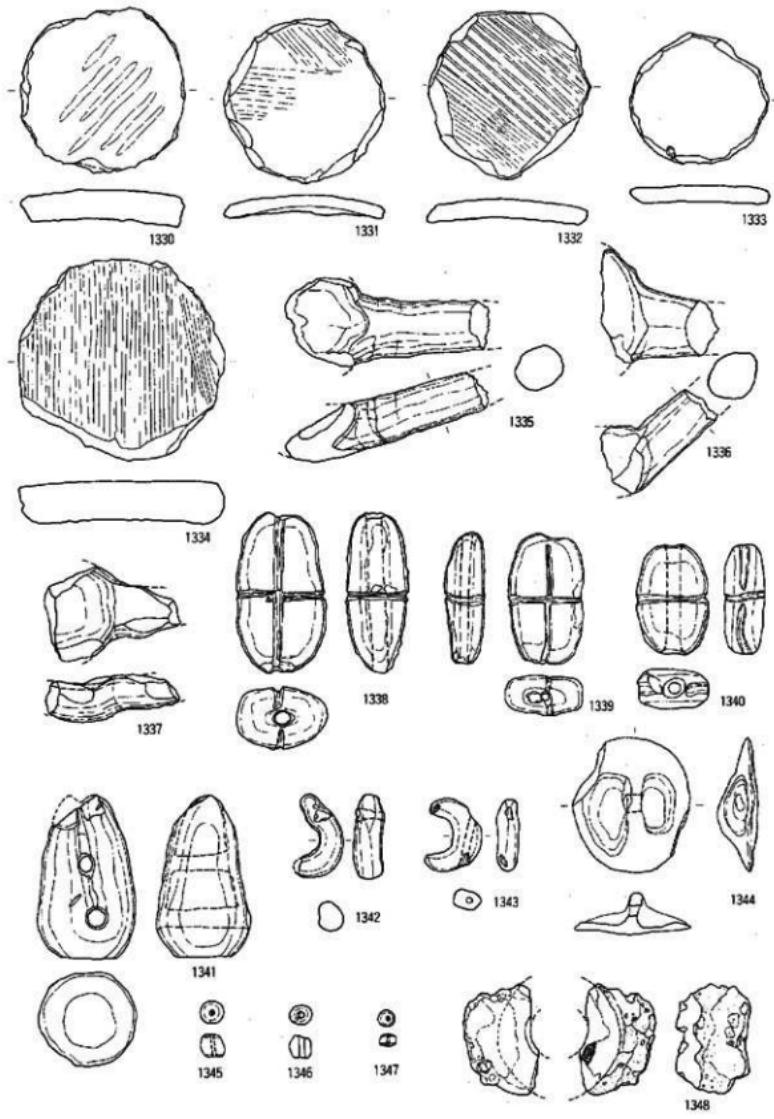


Fig.135 各遺構出土土製品実測図②(1/2)

— 10mm —

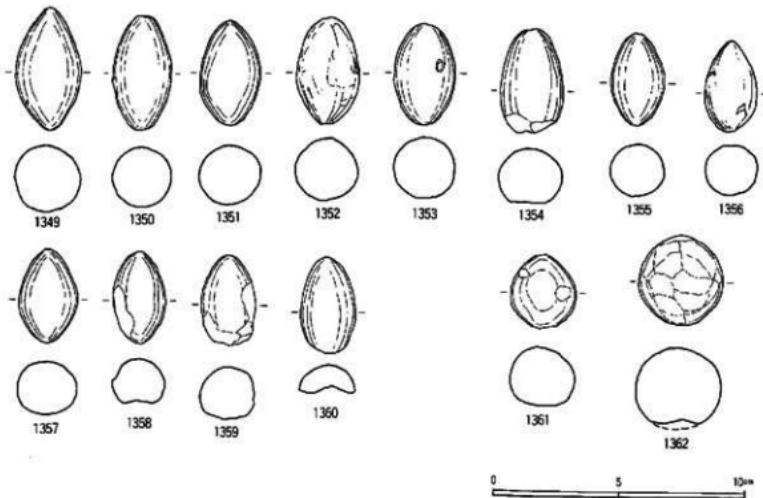


Fig.136 各遺構出土土製品実測図③(1/2)

代のものである。全部で7点出土しており、大型（底径が15cm前後）、中型（底径が10cm前後）、小型（底径が5cm前後）の別がある。1207は小型でI区SD02から出土している。把手は破損しているが扁平な形状をしていたことが窺える。1208・1209はツマミ付の蓋である。ジョッキ形土器の蓋ではなかろうか。但し中型にしか径が合わない。1210は免田式土器の壺肩部である。1211は弥生後期の甕底部で、内面に布痕が観察される。土器製作時に圧着したものか。1212は壺の底部である。1213は口縁部に孔がありタコ壺か。1214～1233は外来系の土器群である。1214～1216は高壺、1217～1219は鉢か無頬壺、1224・1225は甕である。細沈線と半截竹管文が施されている。1220は壺の口径、1221～1223は横描波状文の壺である。1226・1232は円形浮文を貼付する壺、1228～1231は横描波状文を施した壺である。口縁端部には竹管刺突文や浮文を貼り付けその上から竹管刺突を施すものなどがある。1227は竜を線刻したと考えられる壺の肩部である。ヒレの部分だけが残存しているものであろう。内面にへう削りが施されており九州の土器ではない。1214～1232は瀬戸内から畿内にかけてのものであろう。1233は陶質土器である。ネズミ色を呈し瓦質っぽい。1234は錫の付いた鉢形土器である。破片は多数あるが接合しない。1235は耳の付いた土器である。縦方向に貫孔がある。1236～1250は繩席文の壺形土器である。1251～1260は格子タキを持つ壺の破片である。1233・1236～1260は韓半島系の遺物である。1261は格子状の割みを持つ甕口縁、1262～1269は有文の壺口縁、1270・1271は鉢、1272は複合口縁壺、1273・1274は甕、1275～1286は手捏ね土器、1288は土師器柄、1289～1291は須恵器である。

Tab.2 出土遺物観察表

Fig.No	器 形	山+造模	寸 量(cm)	遺 物 の 特 徴		時 期	PL
				口徑	底径		
32- 1	甕	SB47-SP83	(23.6)	—	(10.3)	外表面ハケメ、内面ハケメ後ナデ、口縁部腹方向のナデ	弥・後期後半
32- 2	甕	SB47-SP82	—	(8.8)	(11.3)	内外表面ハケメ	弥・後期後半
32- 3	甕	SB47-SP179	(26.2)	—	(14.6)	内外表面ハケメ、口縁部腹方向のナデ	弥・後期後半
32- 4	甕	SB50-SP602	(13.8)	—	(7.5)	内外表面ハケメ	弥・後期後半
32- 5	甕	SB62-SP384	(18.0)	—	(17.9)	内外表面ハケメ後ナデ、頸部尖窓	弥・後期後半
32- 6	甕	SB48-SP200	(22.8)	—	(8.0)	外表面ハケメ、内面ナデ	弥・後期後半
32- 7	甕	SB50-SP181	(24.0)	—	(5.9)	内外表面ハケメ後ナデ、口縁部腹方向のナデ	弥・後期後半
32- 8	甕	SB60-SP76	—	—	(5.7)	外表面ハケメ後ナデ、内面腹方向のナデ、頸部凸帯、口縁小坂片	弥・後期後半
32- 9	甕	SB50-SP182	—	(8.6)	(3.0)	外面ハケメ後ナデ、内面ハケメ	弥・後期後半
32- 10	甕	SB53-SP449	—	(9.0)	(5.4)	外表面ナデ、内面粗ハケメ	弥・後期後半
32- 11	甕	SB54-SP126	(11.2)	—	(6.9)	外表面ハケメ、内面ナデ	弥・後期後半
32- 12	盤 板 置	SB47-SP199	(6.0)	—	(5.3)	内外留ナデ	弥・後期後半
32- 13	二重口縁盤	SB54-SP125	(16.6)	—	(4.2)	外腹側方向のナデ、内面ハケメ、口縁部のみ	弥・後期後半
35- 14	壺	SK19	29.2	—	(12.6)	外表面ハミガキ、内面ナデ、口縁外腹肥厚	弥・後期後半
35- 15	壺	SK19	—	—	(20.4)	外表面ハミガキ、内面ナデ、32-14と同一体	弥・後期後半
35- 16	壺	SK19	—	(8.6)	(5.7)	外表面ハミガキ、内面ナデ、32-14と同一体	弥・前期後半
35- 17	壺	SK19上層	—	—	(9.2)	外表面ハミガキ、内面ナデ、沈線5条、直弦文	弥・前期後半
35- 18	壺	SK19	(26.9)	—	(10.0)	外表面ハミガキ、内面ナデ、沈線5条、直弦文	弥・前期後半
35- 19	甕	SK19上層	(21.8)	—	(11.0)	外表面ハケメ、内面ナデ、口縁部ハケ原体による割み	弥・前期前半
35- 20	甕	SK19	(19.2)	—	(2.9)	外表面タチハケ、内面ナデ、コ袖端部ヘラによる割み	弥・前期後半
35- 21	甕	SK19	—	—	(11.1)	外表面ナデ、頭器部サエ	弥・前期後半
35- 22	高 环	SK19	32.8	18.6	(28.6)	内外表面ハミガキ、頸部内凹ナデ	弥・崩壊後半
35- 23	深 裸	SK19上層	—	—	(9.3)	外表面貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 24	深 裸	SK19上層	—	—	(3.5)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 25	深 裸	SK19上層	—	—	(7.1)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 26	深 裸	SK19上層	—	—	(4.9)	外表面貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 27	深 裸	SK20上層	15.0	7.2	20.5	外表面貝殻条痕、内面ナデ、外底部指印压痕、口縁・胴部内凹唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 28	深 裸	SK20上層	(25.6)	—	(8.3)	外表面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁・胴部内凹唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 29	壺	SK20上層	(9.2)	—	(4.1)	外表面ハミガキ	繩・晚期鉄末
35- 30	壺	SK20上層	—	—	(7.2)	外表面ハミガキ、内面頸部ナデ、頸部貝殻条痕の後ナデ、葉部沈線2条	繩・晚期鉄末
35- 31	洗 体	SK20上層	16.3	—	(4.1)	外表面ハミガキ	繩・晚期鉄末
35- 32	高 环	SK20上層	—	—	(18.4)	脚部のみ、外表面ハミガキ、内面ハケメ	弥・前期前半
35- 33	甕	SK20下層	(25.6)	—	(8.2)	外表面ハケメ後ナデ、口縁凸唇へによる割み	弥・前期前半
35- 34	深 裸	SK20下層	(32.6)	—	(15.1)	外表面ハミガキ、内面ナデ、舟乗り	繩・晚期鉄末
35- 35	甕	SK20上層	—	—	(5.8)	外表面ハミガキ、内面ナデ、沈線4条、直弦文、小破片	弥・前期後半
35- 36	甕	SK20下層	—	—	(3.1)	外表面ハミガキ、内面ナデ、沈線5条、小破片	弥・前期後半
35- 37	甕	SK20下層	—	—	(6.6)	外表面ハミガキ、内面ハケメ後ナデ、沈線3条、小破片	弥・前期後半
35- 38	甕	SK20下層	—	—	(4.6)	外表面ハミガキ、内面ナデ、沈線3条、複合三角文、小破片	弥・前期後半
35- 39	甕	SK20下層	—	—	(3.5)	外表面ハミガキ、内面ナデ、直弦文、小破片	弥・崩壊後半
35- 40	甕	SK20下層	—	—	(3.5)	外表面ハミガキ、内面ナデ、沈線3条、小破片	弥・崩壊後半
35- 41	甕	SK20下層	—	—	(3.0)	外表面ハミガキ、内面ナデ、沈線4条、直弦文、小破片	繩・崩壊後半
35- 42	深 裸	SK20下層	—	—	(9.5)	外表面貝殻条痕、内面ナデ、口縁・胴部内凹唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 43	深 裸	SK20下層	—	—	(14.5)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、胴部凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 44	深 裸	SK20下層	—	—	(4.0)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、胴部凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 45	深 裸	SK20下層	—	—	(9.6)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁・胴部内凹唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 46	深 裸	SK20下層	—	—	(10.1)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁・胴部凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 47	深 裸	SK20下層	—	—	(13.0)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁・胴部内凹唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 48	深 裸	SK20下層	—	—	(7.3)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁・胴部凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 49	深 裸	SK20下層	—	—	(10.9)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、胴部内凹唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 50	深 裸	SK20下層	—	—	(8.5)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁内凹唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 51	深 裸	SK20下層	—	—	(6.1)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 52	深 裸	SK20下層	—	—	(5.7)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇剥み	繩・晚期鉄末
35- 53	深 裸	SK20下層	—	—	(4.4)	外表面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇剥み	繩・晚期鉄末

Fig.No	器 形	出土遺構	遺 墓 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			17 横	底径	器高			
37- 54	深 鍋	SK20下層	—	—	(5.1)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
37- 55	深 鍋	SK20下層	—	—	(7.0)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
37- 56	深 鍋	SK20下層	—	—	(7.2)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
37- 57	深 鍋	SK20下層	—	—	(6.5)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
37- 58	深 鍋	SK20下層	—	—	(4.4)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
37- 59	深 鍋	SK20下層	—	—	(4.4)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
39- 60	深 鍋	SK22	—	—	(5.6)	外面貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
39- 61	深 鍋	SK22	—	—	(4.8)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
39- 62	深 鍋	SK22	—	—	(4.7)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
39- 63	要	SK24	(34.2)	—	(8.8)	外面ハケナ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
39- 64	高 环	SK24	(42.5)	—	(7.5)	外内面ヘラミガキ、环形のみ、直前孔	弥・後期後半	
39- 65	高 环	SK24	—	—	(10.0)	外内面ヘラミガキ、内面ナデ、豊前孔	弥・後期後半	
39- 66	要	SK24	11.2	—	(2.6)	内外面貝殻条痕のナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	弥・後期後半	
39- 67	要	SK24	(28.8)	7.1	(29.0)	外面ハケナ後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇部・口縁下凸帯に割み	弥・前期後半	
39- 68	深 鍋	SK24	—	—	(9.9)	外内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
39- 69	深 鍋	SK24	—	—	(6.3)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ	晩・晚期終末	
39- 70	深 鍋	SK24	—	—	(10.5)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ	晩・晚期終末	
39- 71	豆	SK24	—	—	(4.3)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、有鉢羽文、小破片	弥・後期後半	
39- 72	豆	SK24	—	—	(5.8)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫2条、小破片	弥・前期後半	
40- 73	要	SK25	—	(10.8)	(10.2)	外内面ヘケノ後ヘラミガキ	弥・前期後半	
40- 74	深 鍋	SK25	—	—	(5.5)	外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期後半	
40- 75	高 环	SK25	(23.5)	—	(8.6)	外内面ナデ、内面ヘラミガキ、口縁外面厚耳、环形のみ	弥・前期後半	
40- 76	豆	SK26東側	(39.7)	—	(10.3)	外内面ヘラミガキ、内面貝殻条痕の後ナデ	晩・晚期終末	
40- 77	豆	SK26東側	(15.3)	—	(3.2)	外内面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
40- 78	深 鍋	SK26東側	20.1	7.8	(12.4)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	39
40- 79	深 鍋	SK26西側	—	—	(4.3)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、鐘形凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 80	深 鍋	SK26西側	—	—	(2.6)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 81	深 鍋	SK26東側	—	—	(3.7)	外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 82	深 鍋	SK26東側	—	—	(8.0)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、厚耳凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 83	深 鍋	SK26東側	—	—	(6.3)	外内面貝殻条痕、厚耳凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 84	深 鍋	SK26西側	—	—	(5.0)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 85	深 鍋	SK26東側	—	—	(3.5)	外内面貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 86	深 鍋	SK26西側	—	—	(5.4)	外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 87	深 鍋	SK26東側	—	—	(4.4)	外面貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 88	深 鍋	SK26西側	—	—	(4.7)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 89	深 鍋	SK26東側	—	—	(5.0)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
40- 90	深 鍋	SK26東側	—	—	(8.0)	外内面貝殻条痕、内面ナデ	晩・晚期終末	
40- 91	深 鍋	SK26東側	—	—	(7.8)	(5.3) 外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ	晩・晚期終末	
40- 92	豆	SK28南側	(11.2)	—	(3.7)	外内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
40- 93	高 环	SK28南側	—	—	(4.9)	外内面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
41- 94	深 鍋	SK30上層	—	(7.9)	(13.4)	外内面貝殻条痕、内面ヘラナデ	晩・晚期終末	39
41- 95	豆	SK30上層	(17.0)	—	(9.1)	外内面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
41- 96	浅 鍋	SK30上層	(17.0)	—	(5.4)	外内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
41- 97	深 鍋	SK30上層	—	—	(6.8)	外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
41- 98	深 鍋	SK30上層	—	—	(5.0)	外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
41- 99	深 鍋	SK30上層	—	—	(4.3)	外内面貝殻条痕の後ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
41- 100	深 鍋	SK30上層	—	—	(3.0)	外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
41- 101	深 鍋	SK30上層	—	—	(4.5)	外内面貝殻条痕の後ナデ、削落凸唇割み	晩・晚期終末	
41- 102	深 鍋	SK30上層	—	—	(4.1)	外内面貝殻条痕の後ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
41- 103	深 鍋	SK30上層	—	—	(5.5)	外内面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸唇割み	晩・晚期終末	
41- 104	豆	SK32	(15.6)	—	(20.7)	外内面ハケメ、内面ヘラケヅリ、土師器	古墳・西周	
41- 105	豆	SK32	(13.8)	—	(18.7)	外内面ハケメ、内面ヘラケヅリ、土師器	古墳・前周	
41- 106	深 鍋	SK43	—	8.4	(4.1)	外内面貝殻条痕、内面ヘラナデ	晩・晚期終末	

Fig.No	器 形	出土遺構	法 量 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			IT径	底径	高			
43- 107	甕	SX04下層	(43.6)	—	(11.2)	外面タテハケ、内面ナデ、三角凸唇2条	弥・中期前半	
43- 108	甕	SX04下層	(29.6)	—	(15.6)	丹波り、外面粗面、内面ナデ、口縁端部削み・M字状内唇2条	弥・中期後半	39
43- 109	甕	SX04最下層	(39.2)	—	(6.3)	外面タテハケの強いヘラミガキ、内面ナデ	弥・中期前半	
43- 110	甕	SX04最下層	(25.0)	—	(14.9)	外面ナナメヘタテハケ、内面ナデ、口縁端部削み	弥・前期後半	
43- 111	甕	SX04最下層	(19.0)	—	(9.3)	外面タテハケ、内面ナデ、口縁端部削み、沈線1条	弥・前期後半	
43- 112	甕	SX04最下層	(27.2)	—	(16.2)	内外面ナデ、口縁端部削み	弥・前期後半	
43- 113	甕	SX04最下層	28.4	—	(11.7)	外面タテナナメハケ、内面ナデ、口縁端部削み、灰化物付肩	弥・前期後半	
43- 114	甕	SX04最下層	(27.0)	—	(7.3)	外面ナナメヘタテハケ、内面ナデ、口縁端部削み2例	弥・前期後半	
43- 115	甕	SX04下層	(30.0)	—	(9.5)	外面ナナメヘタテハケ、内面ナデ、口縁端部削み	弥・前期後半	
43- 116	甕	SX04下層	(20.2)	—	(15.0)	外面ナナメヘタテハケ、内面ナデ、口縁端部削み厚	弥・前期後半	
43- 117	甕	SX04下層	—	8.0	(7.0)	底部穿孔、外面タテハケ、内面横オサエーナデ、底部のみ	弥・前期後半	
43- 118	甕	SX04下層	—	8.5	(6.0)	底部孔、外面ナナメハケ、内面横オサエーナデ、底部のみ	弥・前期後半	
43- 119	甕	SX04次下層	—	8.4	(5.5)	外面タテハケ、内面横オサエーナデ、底部のみ	弥・前期後半	
43- 120	甕	SX04下層	—	7.4	(6.4)	外面タテハケ、内面ナデ、底部のみ	弥・前期後半	
43- 121	甕	SX04下層	—	(7.5)	(7.3)	外面タテハケ、内面横オサエーナデ、底部のみ	弥・前期後半	
44- 122	鉢	SX04下層	(23.8)	—	(7.6)	外面タテナナメハケ、内面ナデ、刻み目凸唇2条	弥・前期前半	
44- 123	鉢	SX04下層	(19.8)	—	(7.0)	外面タテハケ、内面ナデ、刻み目凸唇2条	弥・前期前半	
44- 124	壺	SX04下層	(33.0)	—	(20.6)	内外面ナデ、口縁端部肥厚	弥・前期後半	39
44- 125	壺	SX04下層	(35.0)	—	(10.4)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、口縁部外縁肥厚	弥・前期後半	
44- 126	壺	SX04上層	(37.7)	—	(13.2)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、口縁部内外縁肥厚	弥・前期後半	
44- 127	壺	SX04次下層	—	—	(11.3)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、底部に沈線3条	弥・前期後半	
44- 128	壺	SX04次下層	—	—	(10.5)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、底部に螺旋状沈線6段	弥・前期後半	
44- 129	鉢	SX04下層	(9.6)	5.3	(6.7)	口縁部外縁肥厚の方ナデ、外面タテハケ、内面横方向の方ナデ	弥・前期後半	39
44- 130	鉢	SX04下層	(12.8)	5.6	(8.2)	内外面横いヘラミガキ	弥・前期後半	
44- 131	壺	SX04下層	—	—	(8.8)	外面ヘラミガキ、内面ナデ	弥・前期前半	
44- 132	壺	SX04上層	21.0	—	(6.7)	内外面ナデ、口縁部外縁肥厚、口縁部下に沈線4条	弥・前期後半	
44- 133	壺	SX04上層	(19.0)	—	(8.4)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、口縁部外縁肥厚	弥・前期後半	
44- 134	壺	SX04下層	—	—	(9.6)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条。複合二角文、小破片	弥・前期後半	
44- 135	壺	SX04下層	—	—	(7.45)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線4条、小破片	弥・前期後半	
44- 136	壺	SX04下層	—	—	(5.4)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線4条、重腹文、小破片	弥・前期後半	
44- 137	壺	SX04下層	—	—	(10.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデヘラミガキ、下部ナデ、地紋3条、重腹文、小破片	弥・前期後半	
44- 138	壺	SX04下層	—	—	(7.1)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線上3条、下3条の間に重腹文、小破片	弥・前期後半	
45- 139	壺	SX04下層	(26.5)	—	(5.2)	外面横方行のナデ、内面ナデ、口縁外縁やや削み	弥・前期後半	
45- 140	壺	SX04下層	(24.8)	—	(8.6)	外面ヘラミガキ、内面ナデ	弥・前期前半	
45- 141	壺	SX04次下層	—	—	(7.4)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条、螺旋状沈線5段、重腹文	弥・前期後半	
45- 142	壺	SX04下層	(30.8)	—	(6.7)	内外面ナデ、口縁部外縁肥厚、口縁部削み2列、沈線2条、小破片	弥・前期終末	
45- 143	壺	SX04次下層	—	—	(15.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデヘラミガキ、指オサユ。底部のみ	弥・前期後半	
45- 144	壺	SX04次下層	—	—	(6.6)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線1条をはさんで上下に重腹文、小破片	弥・前期後半	
45- 145	壺	SX04下層	—	—	(4.2)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、更腹文、小破片	弥・前期後半	
45- 146	壺	SX04上層	—	—	(4.3)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、重腹文、小破片	弥・前期後半	
45- 147	壺	SX04次下層	—	—	(5.9)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線4条をはさんで上下に重腹文、小破片	弥・前期後半	
45- 148	壺	SX04	—	—	(7.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条。有輪羽状文、重腹文、小破片	弥・前期後半	
45- 149	壺	SX04下層	—	—	(4.05)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条、無輪羽状文。小破片	弥・前期後半	
45- 150	壺	SX04下層	—	—	(3.5)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条、無輪羽状文。小破片	弥・前期後半	
45- 151	壺	SX04次下層	—	—	(3.9)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条2段の間に指輪羽状文、重腹文、小破片	弥・前期後半	
45- 152	器 口	SX04下層	7.4	(7.7)	12.9	外面タテハケ、内面ナデ	弥・前期後半	
45- 153	高 环	SX04下層	(39.0)	—	(5.5)	内外面ヘラミガキ	弥・前期後半	
45- 154	深 鉢	SX04下層	(24.9)	—	(6.0)	外面横斜朱痕の後ナデ、口縁、脚部凸唇はヘラによる削み	彌・晚期終末	
45- 155	深 鉢	SX04上層	(18.6)	—	(7.9)	外面横斜朱痕の後ナデ、口縁、脚部凸唇はヘラによる削み	彌・晚期終末	
45- 156	浅 鉢	SX04下層	—	—	(2.4)	外面瓦条文、内面横オサユ、底部のみ	彌・晚期終末	
45- 157	深 鉢	SX04下層	—	—	(5.0)	外面瓦条文、口縁部凸唇に斜み、小破片	彌・晚期終末	
45- 158	深 鉢	SX04下層	—	—	(4.5)	外外面瓦条文の後ナデ、口縁部内唇に斜み、小破片	彌・晚期終末	
45- 159	深 鉢	SX04上層	—	—	(9.0)	外面瓦条文の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇に斜み、小破片	彌・晚期終末	

Fig.No	器 形	出土遺構	法 量 (cm)		遺 物 の 特 性	時 期	PL
			口径	底径			
45- 160	深 鉢	SX04上層	—	—	(9.0) 外面ナデ、内面貝殻条痕の後ナデ、口縁及び縁部凸唇に割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 161	深 鉢	SX04上層	—	—	(7.0) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇にへらによる割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 162	深 鉢	SX04上層	—	—	(5.8) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇に割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 163	深 鉢	SX04上層	—	—	(6.8) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇に割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 164	深 鉢	SX04中層	—	—	(4.2) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇にへらによる割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 165	深 鉢	SX04中層	—	—	(5.7) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇にへらによる割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 166	深 鉢	SX04下層	—	—	(4.6) 外面貝殻条痕、内面貝殻条痕の後ナデ、口縁部凸唇にへらによる割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 167	深 鉢	SX04上層	—	—	(6.2) 外面貝殻条痕、内面ナデ、口縁部凸唇に割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 168	深 鉢	SX04下層	—	—	(5.5) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇に割み、小破片	晩・晚期終末	
45- 169	壺	SX04上層	(12.8)	—	(8.5) 外面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
45- 170	壺	SX04上層	(11.0)	—	(6.4) 外面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
45- 171	壺	SX04上層	(13.0)	—	(4.7) 丹塗り、内面ナデ	晩・晚期終末	
46- 172	甕	SX06	(30.0)	—	(8.1) 内外面砸滅により調査不能、頭部三角凸唇	弥・後期後半	
46- 173	甕	SX06	(20.1)	—	(6.2) 外面ナデ、内面ハケメ横ナデ	弥・後期後半	
46- 174	二重口縁壺	SX06	—	—	(26.0) 外面ハケメ、内面ナデ、頭部三角凸唇	甕・後期後半	
46- 175	二重口縁壺	SX06	23.6	—	(15.0) 外面タテハケ、内面横ハケ、頭部M字状凸唇	甕・後期後半	
46- 176	鉢	SX06	—	—	(3.8) 外面ナデ、小破片、手鉢竹背鉢突文2条	甕・後期後半	
46- 177	壺	SX06	—	—	(3.7) 内外面ナデ、沈線4条、網底文	甕・後期後半	
47- 178	甕	SX11下層	28.8	—	(7.9) 外面タチハケ、内面ナデ、口縁部下唇部へらによる割み	甕・前期後半	
47- 179	甕	SX11下層	22.6	—	(7.5) 外面タチハケ、内面ナデ、口縁部下唇部へらによる割み	甕・前期後半	
47- 180	甕	SX11	—	—	(6.0) 内外面ナデ、頭部沈線3条、頭部沈線2条、重底文、小破片	甕・前期後半	
47- 181	甕	SX11下層	(13.0)	—	(12.1) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、口縁部5条、頭部4条、火被をされた有輪狀突起	甕・前期後半	
47- 182	鉢	SX11	8.1	4.6	6.2 外面下唇部ヘラ後ナデ、内外面橫方向のナデ、腹中位に三角凸唇	甕・前期	38
47- 183	深 鉢	SX11下層	—	—	(10.0) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁・頭部凸唇にへらによる割み、小破片	晩・晚期終末	
47- 184	深 鉢	SX11下層	—	—	(5.4) 外面ナデ、内面ナデ、口縁・頭部凸唇にへらによる割み、小破片	晩・晚期終末	
47- 185	深 鉢	SX11 F層	(24.0)	—	(4.5) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸唇に割み、小破片	晩・晚期終末	
48- 186	甕	SX08中層	(26.0)	—	(12.6) 外面タチハケ、内面ナデ、頭部压痕のこる	甕・前期後半	
48- 187	甕	SX08中層	(21.4)	—	(9.6) 内外面ナデ、口縫外壓痕	甕・前期後半	
48- 188	甕	SX08中層	(30.0)	—	(4.3) 外面ハケメ後ナデ、内面ナデ	甕・中期初頭	
48- 189	甕	SX08中層	(20.0)	—	(7.5) 外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縫・頭部凸唇に割み	甕・前期後半	
48- 190	甕	SX08下層	17.2	—	(11.5) 外面ハケメ後ナデ、内面ハケメ、口縫部割み	甕・前期後半	
48- 191	甕	SX08中層	—	—	(8.2) (5.8) 虎面摩訶、外面タチハケ、内面ナデ、内部指サエ、底部のみ	甕・前期後半	
48- 192	甕	SX08中層	—	—	(7.5) (7.3) 底部摩訶、外面ナデ、内面指オサエ、底部のみ	甕・前期後半	
48- 193	甕	SX08下層	—	—	(7.5) (8.0) 外面タチハケ、内面指オサエ	甕・前期後半	
48- 194	甕 壺	SX08下層	21.8	—	(13.9) 内外面ナデ、頭部指オサエ	甕・前期後半	39
48- 195	壺	SX08中層	(21.6)	—	(6.5) 外面ハラミガキ、口縫部内外壓厚、口縫部割み2列	甕・定期後半	
48- 196	壺	SX08下層	(40.0)	—	(9.6) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、口縫外壓厚	甕・定期後半	
48- 197	壺	SX08	(13.8)	—	(6.6) 外面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
48- 198	甕	SX08下層	(17.8)	—	(4.0) 内外面ナデ、口縫外壓厚	甕・定期後半	
48- 199	壺	SX08中層	—	—	(9.2) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、頭部洗線3条、重底文	甕・定期後半	
48- 200	壺	SX08下層	—	—	(5.4) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条、重底文、小破片	甕・定期後半	
48- 201	甕	SX08下層	—	—	(6.8) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線4条、小破片	甕・定期後半	
48- 202	甕	SX08 F層	—	—	(4.7) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線6条、小破片	甕・定期後半	
48- 203	壺	SX08下層	—	—	(6.1) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線4条、小破片	甕・定期後半	
48- 204	甕	SX08下層	—	—	(4.9) 外面小崩、内面ナデ、延方向の沈線4条、小破片	甕・定期後半	
48- 205	甕	SX08	—	—	(3.7) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線4条、重底文、小破片	甕・定期後半	
48- 206	甕	SX08下層	—	—	(2.4) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条、重底文、小破片	甕・定期後半	
48- 207	甕	SX08下層	—	—	(2.2) 外面調整不規、内面ナデ、沈線4条、小破片	甕・定期後半	
48- 208	甕	SX08下層	—	—	(1.8) 外面調整不規、内面ナデ、有輪狀突起、小破片	甕・定期後半	
48- 209	甕	SX08下層	—	—	(3.0) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条、重底文、小破片	甕・定期後半	
48- 210	甕	SX08下層	—	—	(2.3) 外面調整不規、内面ナデ、有輪狀突起、小破片	甕・定期後半	
48- 211	甕	SX08下層	—	—	(3.5) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条、羽状文、小破片	甕・定期後半	
48- 212	甕	SX08下層	—	—	(5.6) 外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条、無輪狀突起、小破片	甕・定期後半	

Fig.No	器 形	出土遺構	諸 横 (cm)			遺 物 の 特 例	時 期	PL
			口径	底径	高さ			
49-213	甕	SX12	(25.0)	—	(12.5)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	
49-214	甕	SX12上層	31.2	—	(9.0)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	
49-215	甕	SX12T累	—	8.0	(5.6)	底部穿孔、外面ハケメ、内面ナデ、内底部指オサエ	系・前期後半	
49-216	甕	SX12T累	(24.8)	9.3	(13.4)	内外面ヘラミガキ	系・前期後半	39
49-217	甕	SX12T累	(37.6)	11.0	25.0	内外面ヘラミガキ、口縁端部上・下及J形位に丸み	系・前期後半	39
49-218	高 环	SX12下層	—	(23.4)	(21.7)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、凹部のみ	系・前期後半	39
49-219	甕	SX12下層	(18.0)	—	(8.7)	外面ヨロヅ部ヘラミガキ、内面ナデ、口底外縁部肥厚	系・前期後半	
49-220	甕	SX12中層	—	—	(3.1)	外表面オニ模ナデ、内面ナデ、口縁内面に三角凸唇、豊前系か	系・前期後半	
49-221	甕	SX12中層	—	—	(7.2)	内外面ナデ、口縫内面に三角凸唇、豊前・周防系か	系・前期後半	
49-222	甕	SX12下層	—	—	(6.6)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈縁3条	系・前期後半	
49-223	甕	SX12	—	—	(4.8)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈縁3条、直張文	系・前期後半	
49-224	甕	SX12	—	—	(4.5)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈縁2条、複合三角文	系・前期後半	
49-225	甕	SX12	—	—	(5.6)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈縁3条	系・前期後半	
49-226	甕	SX12	—	—	(2.7)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈縁2条、直張文	系・前期後半	
49-227	甕	SX12	—	—	(7.2)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈縁1条、複合羽状文	系・前期後半	
49-228	甕	SX12T層	—	—	(4.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、羽状文	系・前期後半	
49-229	甕	SX12	—	—	(4.9)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、直張文	系・前期後半	
49-230	甕	SX12下層	—	—	(3.9)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、羽状文	系・前期後半	
50-231	甕	SX13下層	(33.4)	—	(17.8)	外面たて方向ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	
50-232	甕	SX13T層	27.2	—	(19.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	39
50-233	甕	SX13T層	23.8	—	(15.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	39
50-234	甕	SX13T層	24.8	—	(6.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	
50-235	甕	SX13T層	(24.6)	(11.4)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半		
50-236	甕	SX13下層	21.3	—	(7.4)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	
50-237	甕	SX13T層	(22.2)	—	(10.7)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	
50-238	甕	SX13下層	(20.6)	—	(11.2)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み	系・前期後半	
50-239	甕	SX13T層	22.0	—	(17.3)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫	系・前期後半	39
50-240	甕	SX13下層	24.5	7.6	31.8	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫	系・前期後半	39
51-241	甕	SX13T層	18.6	—	(16.8)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫	系・前期後半	39
51-242	甕	SX13下層	(19.0)	—	(16.3)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫	系・前期後半	
51-243	甕	SX13T層	(25.8)	—	(20.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫	系・前期後半	
51-244	甕	SX13下層	24.6	—	(7.8)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫	系・前期後半	
51-245	鉢	SX13T層	—	—	(8.3)	外面ナデ、頸部一部ハケメ後横ナデ、内面横方向のナデ	系・前期後半	
51-246	鉢	SX13下層	(13.4)	(6.6)	4.1	内外面ともヘラミガキ、口縁部近縁ナデ	系・前期後半	
51-247	甕	SX13下層	(31.5)	—	(11.2)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫2条	系・前期後半	
51-248	甕	SX13T層	28.7	—	(17.5)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫2条	系・前期後半	
51-249	甕	SX13下層	(26.3)	—	(14.2)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部削み、口縁下沈縫2条	系・前期後半	
51-250	甕	SX13T層	(27.3)	8.2	34.9	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び口縁下部に丸み	系・前期後半	
51-251	甕	SX13T層	27.6	—	(22.5)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び口縁下部に丸み	系・前期後半	39
52-252	甕	SX13T層	(26.6)	7.7	30.0	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び口縁下部に丸み	系・前期後半	39
52-253	甕	SX13T層	(27.5)	—	(11.8)	外面一部ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び口縁下部に丸み	系・前期後半	
52-254	甕	SX13中層	(26.0)	—	(9.2)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び口縁下部に丸み	系・前期後半	
52-255	甕	SX13T層	—	6.4	(17.2)	外面ハケメ、内面ナデ、内底部削み	系・前期後半	
52-256	甕	SX13T層	—	7.5	(7.4)	外面ハケメ、内面ナデ、内底部削み	系・前期後半	
52-257	甕	SX13T層	—	7.8	(13.4)	底部穿孔、外面ハケメ、内面ナデ、内底部削み	系・前期後半	
52-258	甕	SX13T層	—	7.9	(16.5)	底部穿孔、外面ハケメ、内面ナデ、内底部削み	系・前期後半	
52-259	甕	SX13T層	—	7.5	(13.9)	外面ハケメ、内面ナデ	系・前期後半	
52-260	甕	SX13下層	—	7.7	(10.6)	外面ハケメ、内面横方向のナデ	系・前期後半	
52-261	甕	SX13中層	—	8.6	(15.2)	外面一部ハケメ、剥けさせ、内面ナデ	系・前期後半	
53-262	甕	SX13上層	(18.9)	—	(5.6)	内外面ともナデ	系・中期初頭	
53-263	甕	SX13下層	(19.8)	—	(5.0)	外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、底部下部より下はナデ	系・中期初頭	
53-264	甕	SX13下層	(17.0)	—	(6.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、口縁付近ヘラミガキ	系・前期後半	
53-265	甕	SX13下層	—	—	(8.0)	外面ヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ、沈縁4条、羽状文	系・前期後半	

Fig.No	器 形	古土壤構	法 尺 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			11種	式形	器高			
53-266	壺	SX13下層	—	—	(12.4)	外面へラミガキ、内面底部横ハケ	弥、前期後半	
53-267	壺	SX13下層	—	10.3	(16.4)	外面へラミガキ、内面底部指おきえ、内面ナデ一部へナナ	弥、前期後半	
53-268	壺	SX13下層	—	—	(6.2)	外面上半部ヘラミガキ、内面ナデ	弥、前期後半	
53-269	壺	SX13中層	(7.9)	5.4	10.6	外面へラミガキ、内面ナデ、内底部指おきえ	弥、前期後半	39
53-270	壺	SX13上層	—	—	(4.6)	外面へラミガキ、内面ナデ、三角凸巻、無輪羽状文	弥、前期後半	
53-271	壺	SX13上層	—	—	(4.8)	外面へラミガキ、内面ナデ、三角凸巻、貝殻無輪羽状文	弥、前期後半	
53-272	壺	SX13上層	—	—	(7.9)	外面開口不明、内面ナデ、沈縁3条、無輪羽状文	弥、前期後半	
53-273	壺	SX13上層	—	—	(4.1)	外面へラミガキ、内面ナデ、沈縁1条、無輪羽状文	弥、前期後半	
53-274	深 筋	SX13上層	—	—	(5.9)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸巻好み	弥、晚期前半	
53-275	深 筋	SX13中層	—	—	(4.8)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸巻好み	弥、晚期前半	
53-276	深 筋	SX13下層	(14.6)	—	(5.5)	外面ナデ、口縁凸巻好み	弥、晚期前半	
53-277	深 筋	SX13下層	—	—	(8.0)	外面貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸巻好み	弥、晚期前半	
53-278	浅 筋	SX13下層	—	—	(7.2)	外面貝殻条痕の後ナデ、内面へラミガキ、洗收口縫	弥、晚期前半	
54-279	甕	T-15底下層	28.4	—	(28.7)	外面へケメ、内面ナデ、沿縫压痕のこる、口縁端下部削み	弥、前期後半	39
54-280	甕	T-15青灰色粘土	23.4	6.8	26.2	外底ハケメ、内面指オサエ後ナデ、口縁端下部削み	弥、前期後半	39
54-281	甕	T-15青灰色粘土	(21.8)	—	(12.5)	外面へケメ、内面ナデ、口縁端下部削み、廣化物付帯	弥、前期後半	
54-282	甕	T-15青色腐根土	24.0	—	(21.0)	外面へケメ、内面ナデ、口縁下沈縁1条	弥、前期後半	39
54-283	甕	T-15青色腐根土	(28.8)	—	(12.2)	外面へケメ、内面ナデ、口縁端削み、口縁下沈縁2条	弥、前期後半	
54-284	甕	T-15黑色腐根食土	27.6	—	(17.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁下沈縁1条	弥、前期後半	
54-285	甕	T-15黑色腐土	(28.8)	—	(20.4)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端下部・口縁下凸巻削み	弥、前期後半	
54-286	甕	T-15黑色腐植食土	27.6	—	(21.8)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端下部・口縁下凸巻削み	弥、前期後半	40
55-287	甕	T-15青灰色粘土	—	—	8.5	外面へケメ、内面ナデ、内底部指オサエ、高脚穿孔	弥、前期後半	
55-288	甕	T-15青灰色土上	—	—	7.0	(11.5) 外面へケメ、内面ナデ、内底部指オサエ	弥、前期後半	
55-289	甕	T-15青灰色粘土	—	—	7.1	(4.5) 外面ハケメ、内面指オサエ	弥、前期後半	
55-290	甕	T-15青灰色粘土	—	—	8.4	(5.7) 外面ハケメ、内面指オサエ、凹み底	弥、前期後半	
55-291	甕	T-15青所色粘土	—	—	6.4	(6.1) 外面ハケメ、内面ナデ、内底部指オサエ、凹み底	弥、前期後半	
55-292	甕	T-15青色糞砂質	—	—	7.4	(7.8) 外面ハケメ、内面ナデ、底部指オサエ	弥、前期後半	
55-293	甕	T-15青灰色粘土	—	—	8.0	(6.7) 外面ナデ、内面指オサエ、凹み底	弥、前期後半	
55-294	鉢	T-15黑色腐土	(20.6)	—	(18.1)	内外面ナデ、口縁部削み	弥、前期後半	
55-295	甕	T-15天色庭野土	(15.0)	—	(3.8)	外面上ナデ、口縁部横方向のナデ、11縫外縫肥厚	弥、前期後半	
55-296	甕	T-15黑色腐植土	14.0	—	(13.2)	外面・口縁内面へラミガキ、内面ナデ	弥、前期後半	40
55-297	甕	T-15黑色腐土上	—	(7.6)	(11.4)	外面へラミガキ、内面ナデ	弥、前期後半	
55-298	甕	T-15青灰色粘土	(20.3)	—	(7.5)	外面・口縁へラミガキ、内面ナデ、腹部三角内窓2条	弥、西湖時代	
55-299	甕	T-15黑色腐土上	—	—	(15.4)	外面へラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥、前期後半	
55-300	甕	T-15黑色腐植土	—	—	(6.25)	外面へラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥、前期後半	
55-301	甕	SX18	(28.6)	—	(4.8)	外面へラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥、前期後半	
55-302	甕	SX18	—	—	12.6	(4.1) 外面ナデ、内面指オサエ、外底部木筋紅斑	弥、前期後半	
55-303	甕	SK20	(24.8)	—	(6.5)	外面・口縁へラミガキ、内面ナデ、口縁外縫肥厚	弥、前期後半	
55-304	甕	SC05 II 区上層	(37.6)	—	(16.2)	外面へケメ、頭部ハ削	弥、後期後半	
55-305	甕	SC05 IV 区上層	(23.6)	—	(8.3)	外面へケメ、内面ハケメ後ナデ	弥、後期後半	
55-306	口縁陶	SC05 I 区下層	(26.4)	—	(10.0)	外面へケメ、口縁部横方向のナデ	弥、後期後半	
55-307	杏 形 器 口	SC05 下層	—	—	(4.9)	外面へケメ	弥、後期後半	
55-308	甕	SC05	—	—	(7.8)	外面上ナデ、類似凸巻、半截竹管削文	弥、後期後半	
55-309	甕	SC05 上層	—	—	(6.1)	外面ナデ、内面ハケメ後ナデ、底部指オサエ	弥、後期後半	
55-310	甕	SC05 IV 区下層	—	—	(5.7)	外面へラミガキ、内面ナデ、下向墨画文	弥、後期後半	
55-311	甕	SC05 III 区下層	—	—	(4.7)	外面へラミガキ、内面ナデ、下向墨画文	弥、後期後半	
55-312	甕	SC05 I 区下層	—	—	(5.8)	外面上ナデ、内面・頭部へラミガキ、墨画文	弥、後期後半	
55-313	甕	SC05 下層	—	—	(3.5)	外面上ナデ、墨画文	弥、後期後半	
55-314	甕	SC05 上層	(37.4)	—	(6.6)	外面へケメ後ナデ、内面ナデ	弥、中期初期	
55-315	深 筋	SC05 II 区	—	—	(4.6)	外面上ナデ、内面ナデ、口縁凸巻削み	弥、晚期前半	
55-316	深 筋	SC05 II 区	—	—	(9.8)	外面貝殻条痕の後ナデ、口縁・頭部凸巻削み	弥、晚期前半	
55-317	浅 筋	SC05 II 区	(18.7)	—	(6.1)	外面上ヘラミガキ	弥、晚期前半	
55-318	浅 筋	SC05 II 区	(23.9)	—	(6.0)	外面貝殻条痕、内面ヘラミガキ	弥、晚期前半	

Fig.No	器 様	出土遺物	法 番 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			口 横	底 径	深 底			
59- 319	浅 鉢	SD05II区	(26.7)	(5.0)	(5.0)	外圓具設条件の後ナケ、内面ヘラミガキ	晩・後期終末	
63- 330	浅 鉢	SD02上層	39.4	8.5	53.2	外面部、外底部ハケメ、頸部、側部凸筋	晩・後期後半	40
63- 321	浅 鉢	SD02上層	—	(8.3)	(42.0)	外面部ハケメ、内面ハケメ後ナケ、腹部突起に割込み	晩・後期後半	
63- 322	浅 鉢	SD02下層	35.3	8.2	57.2	外面部ハケメ、内面ハケメ後ナケ、頸部凸筋	晩・後期後半	40
63- 323	浅 鉢	SD02中層	37.8	10.6	52.9	外面部タキ後ハケメ、内面ハケメ、頸部凸筋	晩・後期後半	40
64- 324	浅 鉢	SD02上層	25.6	—	(21.5)	外面部タキハケメ、内面ハケメ、頸部凸筋	晩・後期後半	
64- 325	浅 鉢	SD02中層	29.4	—	(22.8)	外面部タキハケメ、内面ハケメ後ナケ、頸部凸筋	晩・後期後半	40
64- 326	浅 鉢	SD02中層	(27.6)	—	(27.0)	外面部ハケメ、頸部凸筋	晩・後期後半	
64- 327	浅 鉢	SD02上層	20.5	5.0	26.8	外面部ハケメ、内面ナナ	晩・後期後半	
64- 328	浅 鉢	SD02下層	23.0	7.4	(27.5)	外面部ハケメ	晩・後期後半	
64- 329	浅 鉢	SD02下層	(25.1)	—	(11.0)	外面部ハケメ、口縁端部尖る	晩・後期後半	
65- 330	浅 鉢	SD02中層	32.8	—	(20.1)	外面部ハケメ後ナケ、内面ハケメ	晩・後期後半	40
64- 331	盤	SD02上層A跡	(28.4)	—	(20.5)	外面部ハケメ、内面ナナ	晩・後期後半	
65- 332	浅 鉢	SD02中層	28.1	—	(20.0)	外面部ハケメ、口縁端部尖る	晩・後期後半	40
65- 333	浅 鉢	SD02中層	27.3	—	(27.5)	外面部ハケメ、内面ハケメ後ナケ	晩・後期後半	40
65- 334	浅 鉢	SD02上層	13.6	—	(6.5)	外面部ハケメ、内面ナナ	晩・後期後半	
65- 335	浅 鉢	SD02上層	—	3.4	(13.6)	外面部タキ後ハケメ、内面ハケメ	晩・後期後半	
65- 336	浅 鉢	SD02中層セクション	—	8.0	(3.9)	外面部調査不明、内面ハケメ、底部穿孔	晩・後期後半	
65- 337	浅 鉢	SD02上層P-1	—	6.0	(7.0)	外面部タキ後ハケメ、内面ハケメ	晩・後期後半	
65- 338	二重口縁盃	SD02上層	18.8	—	(12.3)	外面部ハケメ、内面ハケメ、後ナデ	晩・後期後半	
65- 339	二重口縁盃	SD02上層	23.8	—	(8.9)	外面部ハケメ、口縁下部剥離	晩・後期後半	
65- 340	二重口縁盃	SD02上層	(17.7)	—	(5.6)	外面部ハケメ、内面ヘラケリ、山陰系か	古墳・後期後半	
65- 341	二重口縁盃	SD02下層	14.8	—	(12.5)	外面部ハケメ、頸部北緯1条	晩・後期後半	
66- 342	二重口縁盃	SD02中層	22.6	8.8	48.6	外面部ハケメ後ナケ、内面張り、頸部二角突起	晩・後期後半	40
66- 343	二重口縁盃	SD02上層	(22.7)	—	(14.5)	外面部ハケメ	晩・後期後半	
66- 344	二重口縁盃	SD02中層	(14.7)	—	(8.8)	外面部ハケメ	晩・後期後半	
66- 345	二重口縁盃	SD02中層	45.3	—	(7.3)	外面部ハケメ、口縁内凹部、口縁下、底部凹部2条、側面に割込み	晩・後期後半	40
66- 346	二重口縁盃	SD02上層	(29.6)	—	(3.9)	外面部調査方向のナデ、口縁外面部脊状波状文	晩・後期後半	
66- 347	二重口縁盃	SD02上層	14.4	—	(4.2)	外面部ハケメ後ナデ、口縁外面部脊状波状文	晩・後期後半	
66- 348	二重口縁盃	SD02下層	(24.5)	—	(6.5)	外面部ハケメ後ナデ、口縁部外面部流槽山形文	晩・後期後半	
66- 349	二重口縁盃	SD02上層	(26.0)	—	(7.3)	外面部ナナ	晩・後期後半	
66- 350	二重口縁盃	SD02下層	(19.6)	—	(7.0)	外面部ハケメ	晩・後期後半	40
66- 351	短 濁 壶	SD02上層	(8.4)	—	(3.0)	外面部ナナ、丹塗り	晩・後期後半	
66- 352	短 濁 壶	SD02下層	(8.9)	—	(7.0)	外面部ナナ、内面ハケメ	晩・後期後半	
67- 353	小 壺	SD02上層	(45.2)	—	(12.0)	外面部ナナ、部分的にヘラミガキ、内面ナナ	晩・後期後半	
67- 354	小 壺	SD02中層	(9.8)	(5.6)	(12.6)	外面部ヘラミガキ、内面ナナ	晩・後期後半	
67- 355	小 壺	SD02上層	—	—	(8.0)	外面部ナナ	晩・後期後半	
67- 356	小型丸底壺	SD02上層	(10.6)	—	(8.8)	外面部ハケメ後ナデ、下部ヘラケリ、内面ナナ	古墳前期	
67- 357	小型丸底壺	SD02中層	8.2	—	8.7	外面部ナナ	古墳前期	41
67- 358	小型丸底壺	SD02上層	6.8	—	8.7	外面部ナナ	古墳前期	41
67- 359	小 壺	SD02下層	8.2	—	9.2	外面部ハケメ後ナデ、内面ナナ	晩・後期後半	41
67- 360	小 壺	SD02中層	(10.3)	—	(4.7)	外面部ナナ	晩・後期後半	
67- 361	小 壺	SD02中層	(7.8)	—	(6.7)	外面部ハケメ、内面ハケメ後ナデ	晩・後期後半	
67- 362	小 壺	SD02中層	—	—	(5.3)	外面部ヘラミガキ、内面ナナ、挖削に痕のこる、小孔有	晩・後期後半	
67- 363	直 口 突 象	SD02中層	7.2	—	9.4	外面部無い3ヶガキ、内面ナナメ、内底部滑り凹	晩・後期後半	41
67- 364	高 壺	SD02中層	(32.0)	17.2	(26.3)	外面部ヘラミガキ、肩部円形透し3ヶ所	晩・後期後半	40
67- 365	高 壺	SD02中層	(36.0)	21.4	27.7	外面部ヘラミガキ、脚下部ハケメ、円形透し3ヶ所	晩・後期後半	40
67- 366	高 壺	SD02上層	—	(16.2)	(9.3)	脚部のみ、外面部ヘラミガキ、内面ハケメ	晩・後期後半	
67- 367	高 壺	SD02上層	15.8	(8.1)	—	脚部のみ、外面部ヘラミガキ、内面ナナ、円形透し3ヶ所	晩・後期後半	
67- 368	高 壺	SD02中層	16.6	(12.5)	—	脚部のみ、外面部ヘラミガキ、内面ナナメ、円形透し3ヶ所	晩・後期後半	
67- 369	高 壺	SD02中層	—	19.6	(8.3)	脚部のみ、外面部ヘラミガキ、内面ナナ、円形透し3ヶ所	晩・後期後半	
68- 370	高 壺	SD02中層セクション	34.5	20.2	27.6	外面部ヘラミガキ、脚下部ハケメ、円形透し3ヶ所	晩・後期後半	40
68- 371	高 壺	SD02上層	(41.8)	—	(6.4)	环部のみ、内面部ヘラミガキ	晩・後期後半	

Fig.No	器 形	出土遺物	法 量 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL	
			11枚	底径	厚 底				
68-372	高 环	SD02上層	(34.6)	—	(4.3)	环部のみ、外周ハケメ、内面ハケメ後ヘラミガキ	弥・後期後半		
68-373	高 环	SD02上層	(37.6)	—	(5.5)	环部のみ、外周ハケメ、内面ヘラミガキ	弥・後期後半		
68-374	高 环	SD02上層	(36.2)	—	(6.0)	环部のみ、外周ハケメ後ナデ、内面ヘラミガキ	弥・後期後半		
68-375	高 环	SD02下層A群	34.3	—	(5.6)	环部のみ、内外面ヘラミガキ	弥・後期後半		
68-376	高 环	SD02下層	(35.6)	—	(4.4)	环部のみ、内外面ヘラミガキ	弥・後期後半		
68-377	高 环	SD02上層	(38.2)	—	(6.4)	环部のみ、外周横方向のナデ、内面ヘラミガキ	弥・後期後半		
68-378	高 环	SD02下層A群	—	21.3	(10.0)	环部のみ、外周ヘラミガキ、内面ハケメ、円形透し3ヶ所	弥・後期後半		
68-379	高 环	SD02下層	—	25.1	(7.0)	环部のみ、外周ヘラミガキ、内面ハケメ、円形透し	弥・後期後半		
68-380	高 环	SD02上層A群	—	18.3	(6.8)	环部のみ、外周ハケメ後ヘラミガキ、内面ハケメ、円形透し	弥・後期後半		
68-381	高 环	SD02中層	—	16.4	(5.0)	环部のみ、外周横方向のナデ、内面ナデ	弥・後期後半		
68-382	高 环	SD02中層	—	16.4	(5.0)	环部のみ、外周横方向のナデ、内面ナデ	弥・後期後半		
68-383	高 环	SD02下層	—	(17.5)	(13.4)	环部のみ、外周ヘラミガキ、内面ハケメ、円形透し	弥・後期後半		
68-384	高 环	SD02下層	—	18.7	(17.0)	环部のみ、外周ハケメ、内面ハケメ後ナデ	弥・後期後半		
69-385	高 环	SD02上層	27.6	—	(7.5)	环部のみ、外周全体ハケメ、口縁～内面ヘラミガキ	弥・後期後半		
69-386	高 环	SD02下層A群	31.1	—	(7.0)	环部のみ、内外面ヘラミガキ	弥・後期後半		
69-387	高 环	SD02中層	(28.8)	—	(6.8)	环部のみ、内外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半		
69-388	高 环	SD02中層	33.6	—	(8.0)	环部のみ、外周ハケメ後ヘラミガキ	弥・後期後半		
69-389	高 环	SD02下層A群	—	(20.9)	(6.3)	环部のみ、外周ヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ、円形透し	弥・後期後半		
69-390	高 环	SD02下層A群	—	21.4	(7.5)	环部のみ、外周ハケメ後ヘラミガキ、内面ハケメ	弥・後期後半		
69-391	高 环	SD02下層A群	33.6	—	(8.1)	童貞系、不規み、外周ハケメ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	弥・後期後半	41	
69-392	高 环	SD02下層	17.4	—	(13.0)	内面ヘラミガキ、埴輪焼成17件、瀬戸内系か	弥・後期後半		
69-393	高 环	SD02上層	(18.5)	—	(7.3)	环部のみ、外周面ヘラミガキ、瀬戸内系か	弥・後期後半		
69-394	高 环	SD02上層	(11.0)	—	(6.2)	外周面ヘラミガキ、瀬戸内系か	弥・後期後半		
69-395	高 环	SD02中層	—	—	(4.1)	肩部のみ、外周ヘラミガキ、シボリ底、肩直火、円形透し、瀬戸内系か	弥・後期後半		
69-396	高 环	SD02中層	—	—	(2.8)	肩部のみ、シボリ底、筒形多脚、瀬戸内系か	弥・後期後半		
69-397	高 环	SD02中層	—	—	(4.1)	肩部のみ、外周ヘラミガキ、内面ハケメ	弥・後期後半		
69-398	高 环	SD02上層	—	—	(17.8)	肩部のみ、内外面ナデ、シボリ底、円形透し	弥・後期後半		
69-399	高 环	SD02上層	—	—	(12.3)	肩部のみ、外周ヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ、円形透し	弥・後期後半		
69-400	高 环	SD02上層	—	—	(12.9)	肩部のみ、外周ヘラミガキ、内面ナデ、円形透し	弥・後期後半		
69-401	脚 台付 砧	SD02上層	(17.2)	—	(7.5)	外周ハケメ後ナデ、内面ナデ、肩部凸管割み	弥・後期後半		
69-402	脚 台付 砧	SD02中層	(18.2)	—	(7.6)	外周ハケメ、内面横方向のナデ、肩部凸管割み	弥・後期後半		
69-403	脚 台付 砧	SD02上層	(12.6)	—	(5.4)	外周ヘラミガキ、内面横方向のナデ	弥・後期後半		
69-404	脚 台付 砧	SD02下層	(17.4)	—	(5.2)	外周ハケメ後残いヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ	弥・後期後半		
69-405	脚 台	SD02上層	—	—	20.4	(7.3)	外周横方向のナデ、内面ナデ	弥・後期後半	41
69-406	脚 台	SD02下層	—	—	(18.0)	(6.3)	外周ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
69-407	脚 台	SD02中層	—	—	(15.5)	(4.8)	外周横方向のナデ	弥・後期後半	
69-408	脚 台	SD02中層	—	—	12.5	(4.2)	外周横方向のナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
69-409	脚 台	SD02上層	—	—	12.6	(4.4)	外周横方向のナデ	弥・後期後半	
69-410	脚 台	SD02下層	—	—	13.7	(3.3)	外周横方向のナデ	弥・後期後半	
70-411	鉢	SD02中層	(32.4)	—	(14.0)	外周ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半		
70-412	鉢	SD02上層	32.0	—	(8.6)	外周ハケメ、内面ナデ、口縁外周タキ疵	弥・後期後半		
70-413	鉢	SD02中層	27.4	—	(6.7)	外周ハケメ後ナデ	弥・後期後半	41	
70-414	鉢	SD02上層	(30.6)	—	(6.5)	外周上部ハケメ、下部ナデ、内面ナデ、体部ハケメ後ナデ	弥・後期後半		
70-415	鉢	SD02上層	32.3	—	9.9	外周上部ハケメ、下部ナデ、内面口縁ヘラミガキ、体部ハケメ後ナデ	弥・後期後半		
70-416	鉢	SD02上層	33.4	—	9.7	外周上部ハケメ、下部ナデ、内面ナデ、一部ハケメ	弥・後期後半	41	
70-417	鉢	SD02中層	32.8	—	10.3	外周上部ハケメ、下部ナデ、内面ヘラミガキ	弥・後期後半	41	
70-418	鉢	SD02上層	(20.6)	—	(7.0)	外周ハケメ、内面ナデ	弥・後期後半		
70-419	鉢	SD02上層	(25.0)	—	(6.9)	外周面ナデ	弥・後期後半		
70-420	鉢	SD02+クリップ上層	23.5	—	(7.0)	外周面ナデ、口縁ハケメ後ヘラミガキ	弥・後期後半		
70-421	鉢	SD02上層	—	—	(6.3)	外周面ナデ、口縁ハケメ後ナデ	弥・後期後半		
70-422	鉢	SD02上層	—	—	(8.3)	外周、口縁部ハケメ後ナデ、内面ナデ、指痕压痕のこる	弥・後期後半		
70-423	鉢	SD02中層	(28.2)	—	(7.5)	外周上部ハケメ、下部ナデ、内面ナデ	弥・後期後半		
70-424	鉢	SD02中層	27.3	—	9.1	外周上部ハケメ、下部ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	41	

Fig.No	器 形	出土遺構	族 量 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			口径	宍深	断面			
70-425	鉢	SD02上層	(28.0)	—	(6.6)	内外面ナデ、口縁部へラミガキ	弥・後期後半	
71-426	鉢	SD02上層	(31.5)	—	(8.1)	内外面ナデ、口縁部ハケメ様ナデ	弥・後期後半	
71-427	鉢	SD02上層	(37.6)	—	(9.9)	内外面ヘラミガキ	弥・後期後半	
71-428	鉢	SD02下層	(36.6)	—	(8.6)	内外面ハケメ後ヘラミガキ	弥・後期後半	
71-429	鉢	SD02中層	37.8	—	(6.5)	外側ハケメ後ラミガキ、内面へラミガキ	弥・後期後半	
71-430	鉢	SD02上層	39.3	—	(8.5)	内外面ナデ、口縁部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
71-431	鉢	SD02上層	34.0	6.0	8.6	外側下部ナデ、上部ハケメ、内面上部横方向ナデ、下部指おさえ	弥・後期後半	41
71-432	鉢	SD02上層	30.5	—	(7.8)	外所ハケメ後ナデ、内面へケメ後ミガキ	弥・後期後半	
71-433	鉢	SD02中層	31.2	—	(8.3)	内外面ナデ、口縁部後ミガキ	弥・後期後半	
71-434	鉢	SD02上層	12.9	—	(9.0)	外側ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
71-435	鉢	SD02上層	20.1	4.2	(6.9)	外側ハケメ、内面ナデ、口縁部横方向ナデ、刻中位三角凸窓	弥・後期後半	41
71-436	鉢	SD02下層	16.9	4.3	6.4	内外面ナデ、口縁部横方向ナデ	弥・後期後半	41
71-437	鉢	SD02下層	17.0	4.0	(6.6)	内外面ナデ、口縁部横方向ナデ	弥・後期後半	41
71-438	鉢	SD02中層	17.0	—	(7.2)	内外面ナデ、口縁部横方向ナデ	弥・後期後半	
71-439	鉢	SD02中層	(24.0)	—	(8.5)	外側ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
71-440	鉢 ?	SD02上層	—	1.8	(1.3)	外側ナデ、内底ハケメ	弥・後期後半	
72-441	鉢	SD02下層	23.7	—	(7.0)	外側ハケメ後横方向ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
72-442	鉢	SD02中層	(9.0)	2.0	7.0	腹面穿孔、内外面ハケメ横ナデ	弥・後期後半	41
72-443	器 台	SD02中層	15.6	19.0	17.9	外側ハケメ、内面ハケメ一部ナデ	弥・後期後半	40
72-444	器 台	SD02上層	—	19.2	(16.3)	内外面ハケメ	弥・後期後半	
72-445	器 台	SD02中層	14.5	—	(7.0)	外底ハケメ、内面へラナデ、シボリ窓	弥・後期後半	
72-446	器 台	SD02中層	17.5	19.9	24.2	外側ハケメ、一部へラナデ、内底へラナデ	弥・後期後半	
72-447	器 台	SD02下層	13.7	18.4	21.0	外側タタキ、内面ハケメ、一部工具ナデ	弥・後期後半	40
72-448	音 番 収 収	SD02中層	—	(12.0)	(12.6)	外側タタキ、内面ナデ、シボリ窓	弥・後期後半	40
72-449	音 番 収 収	SD02中層	—	12.2	10.8	外裏タタキ、内底ナデ	弥・後期後半	
72-450	音 番 収 収	SD02中層	10.7	10.3	10.8	外裏面ともにナデ	弥・後期後半	
72-451	楕 圓 瓦	SD02下層P-2	4.9	3.9	11.3	外側ハケメ後ヘラミガキ、内面へラミガキ	弥・後期後半	41
72-452	ミニチュア鉢	SD02上層	7.5	—	3.7	内外面ともに指わきえ	弥・後期後半	
72-453	ミニチュア鉢	SD02中層	5.2	3.7	4.9	内外面ともに指わきえ	弥・後期後半	41
72-454	ミニチュア鉢	SD02上層	2.7	3.4	3.8	内外面ともに指わきえ	弥・後期後半	
72-455	ミニチュア鉢	SD02上層	3.3	—	2.8	内外面ともに指わきえ	弥・後期後半	
72-456	ミニチュア鉢	SD02上層	8.8	3.1	4.6	内外面ともに指わきえ	弥・後期後半	
72-457	ミニチュア鉢	SD02上層	(7.5)	—	(5.0)	外側ハケメ後ナデ、内面指わきえ	弥・後期後半	
72-458	ミニチュア鉢	SD02A群	6.9	—	3.4	内外面指わきえ	弥・後期後半	
72-459	ミニチュア鉢	SD02P-48	—	—	(4.2)	外裏指おさえ、内面ナデ	弥・後期後半	
72-460	ミニチュア鉢	SD02P-48-7	7.3	—	3.9	外裏指オサエ、内面指おさえ後ナデ	弥・後期後半	
72-461	ミニチュア鉢	SD02P-48-6	(9.6)	—	5.5	外裏指おさえ、内面ハケメ、工具痕有	弥・後期後半	
72-462	ミニチュア鉢	SD02上層	2.7	—	3.6	内外面ともに指わきえ	弥・後期後半	
72-463	ミニチュア鉢	SD02上層	3.5	—	4.8	内外面ともに指わきえ	弥・後期後半	
72-464	壺	SD02下層	(16.4)	—	(10.3)	外裏一部へラミガキ、内面具沿条板、II縫付近ヘラミガキ	織・後期後半	
76-465	甕	SD03上層	(33.9)	—	(6.5)	内外面ハケメ	弥・後期後半	
76-466	二重口陣塗	SD03上層P-1	18.3	8.6	41.8	内外面ハケメ、一部ナデ	弥・後期後半	41
76-467	二重口陣塗	SD03上層	22.0	—	(10.2)	外裏顔部ハケメ、内面外由ナデ	弥・後期後半	
76-468	二重口陣塗	SD03上層	(24.6)	—	(5.7)	外側ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁付近ナデ、II縫付近につまみだす	弥・後期後半	
76-469	鉢	SD03上層	(33.4)	—	(8.5)	外側ハケメ、内面ナデ、口縁部付近ナデ	弥・後期後半	
76-470	高 环	SD03上層	(29.6)	—	(5.7)	内外面ともにナデ、口縁付近横ナデ	弥・後期後半	
76-471	高 环	SD03上層	(36.0)	—	(4.7)	外側ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁付近横ナデ、豊前系	弥・後期後半	
76-472	器 台	SD03上層	(19.0)	—	(23.0)	外側ハケメ、内面ナデ、口縁付近横ナデ	弥・後期後半	
76-473	甕	SD03上層	(14.8)	—	(3.8)	外裏指ナデ、II縫部に周輪	弥・中期初頭	
76-474	甕	SD03上層	(18.8)	—	(4.7)	外裏ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁付近横ナデ	弥・中期初頭	
76-475	甕	SD03上層	(28.4)	—	(4.8)	外側ハケメ、内面ナデ、口縁附近及び凸唇横ナデ	弥・中期初頭	
76-476	甕	SD03上層	(27.6)	—	(7.3)	外側ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁付近横ナデ	弥・中期初頭	
76-477	甕	SD03上層	(26.2)	—	(4.0)	外側ハケメ後ナデ、口縁付近横ナデ	弥・中期初頭	

Fig.No	器 形	出上遺構	法 縦 (cm)	遺 物 の 特 徴		時 期	PL
				11種	成体		
76-478	甕	SD03中層	(27.6)	—	(3.3)	内面ナデ	弥・中期初頭
76-479	甕	SD03上層	(26.0)	—	(5.3)	外面ハゲメ後ナデ、内面腹方向のナデ、口縁端部削み	弥・中期初頭
77-480	甕	SD03中層	(39.8)	—	(2.9)	内面腹方向のナデ	弥・中期前半
77-481	甕	SD03中層	(22.4)	—	(6.0)	外面タテハケ、内面ナデ、口縁端部削み	弥・前期後半
77-482	甕	SD03上層	(20.3)	—	(10.5)	内面ナデ、口縁端部削み	弥・前期後半
77-483	甕	SD03上層	(21.0)	—	(6.5)	外面ナナメカ、内面左上りのナデ、口縁端部削み	弥・前期後半
77-484	甕	SD03中層(上)A群	(23.5)	—	(11.0)	外面タテナナメカ、内面ナデ、口縁端部ハケ原体による跡み	弥・前期後半
77-485	甕	SD03中層(上)A群	(24.0)	—	(9.0)	外面タテナナメカ、内面ナデ、口縁端部削み	弥・前期後半
77-486	甕	SD03中層(上)A群	(27.1)	—	(16.0)	外側ナナメカ、内面ナデ、口縁端部削み	弥・前期後半
77-487	甕	SD03中層(上)A群	—	(9.1)	(9.0)	外間タテハケ、内面ナデ、底部のみ	弥・前期後半
77-488	甕	SD03上層	(25.4)	—	(5.2)	外間タテハケ、内面ナデ、口縁外腹厚、口縁端下部削み	弥・前期後半
77-489	甕	SD03上層	(26.6)	—	(5.0)	外間タテハケ、内面ナデ、口縁外腹厚、口縁端下部削み	弥・前期後半
77-490	甕	SD03上層	—	(8.5)	(6.6)	外間ナナメカ、内面ナメカ後ナデ、底部のみ	弥・前期後半
77-491	甕	SD03中層(上)A群	(25.0)	—	(10.0)	外間ナデ、内面南オキサ後ナデ、口縁外腹や口縁厚	弥・前期後半
77-492	甕	SD03中層(上)A群	—	(8.4)	(3.2)	外間ナデ、底部のみ	弥・前期後半
77-493	甕	SD03中層	—	—	(6.7)	外間ヘラミガキ、内面指オサエ後ナデ、沈縫3条、小破片	弥・前期後半
77-494	甕	SD03中層(上)A群	—	(5.8)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫6条、重底文、小破片	弥・前期後半
77-495	甕	SD03中層	—	—	(9.7)	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫6条、小破片	弥・前期後半
77-496	甕	SD03中層	—	—	(10.3)	外間ヘラミガキ、内面指オサエ後ナデ、沈縫6条、羽状文、小破片	弥・前期後半
78-497	甕	SD03セグション上層	(40.4)	—	(8.5)	外間ヘラミガキ、内面ナデ、口縁内腹厚、口縁端下部削み	弥・前記終末
78-498	甕	SD03中層	(41.4)	—	(5.7)	外間ヘラミガキ、内面ナメカ後ナデ、口縁外腹厚	弥・前記後半
78-499	甕	SD03中層	(40.4)	—	(8.5)	外間ヘラミガキ、内面ナデ、口縁外腹厚	弥・前記後半
78-500	甕	SD03中層	—	(15.2)	(7.5)	外間ヘラミガキ、内面指オサエ、底盤のみ	弥・前記後半
78-501	甕	SD03上層	(47.0)	(15.2)	(29.9)	外輪系底の様ナデ、内面ナデ、内底指オサエ、口縁外面荷輪	弥・前記後半
78-502	甕	SD03上層	—	—	(4.7)	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫4条、小破片	弥・前記後半
78-503	甕	SD03中層(上)A群	—	(7.0)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫6条、複合三角文、小破片	弥・前記後半
78-504	甕	SD03中層	—	(6.3)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫6条、三角文、小破片	弥・前記後半
78-505	甕	SD03中層	—	(4.5)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫2条、重底文、小破片	弥・前記後半
78-506	甕	SD03中層(上)A群	—	(7.7)	—	外間ヘラミガキ、内面指オサエ後ナデ、沈縫3条、重底文、小破片	弥・前記後半
78-507	甕	SD03上層	—	(6.1)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫3条、重底文、小破片	弥・前記後半
78-508	甕	SD03中層	—	(6.7)	—	外間ヘラミガキ、内面不明、沈縫3条、小破片	弥・前記後半
78-509	甕	SD03中層	—	(4.3)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫3条、有輪羽状文、小破片	弥・前記後半
78-510	甕	SD03上層	—	(5.6)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫2条、沈縫3条、複合三角文、小破片	弥・前記後半
78-511	甕	SD03中層(上)A群	—	(5.6)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文、小破片	弥・前記後半
78-512	甕	SD03上層	—	(4.9)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫1条、重底文、小破片	弥・前記後半
78-513	甕	SD03中層(上)A群	—	(4.0)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫3条、小破片	弥・前記後半
78-514	甕	SD03中層	—	(3.1)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、沈縫1条、羽状文、小破片	弥・前記後半
78-515	甕	SD03中層	—	(4.0)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文、三角凸唇、小破片	弥・前記後半
78-516	甕	SD03上層	—	(4.3)	—	無輪羽状文、内面ナデ、小破片	弥・前記後半
78-517	甕	SD03上層	—	(4.7)	—	貝類羽状文、内面ナデ、三角凸唇、小破片	弥・前記後半
78-518	甕	SD03中層	—	(2.7)	—	内面ナデ、無輪羽状文、小破片	弥・前記後半
78-519	甕	SD03上層	—	(7.0)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文、小破片	弥・前記後半
78-520	甕	SD03中層	—	(1.3)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、複合三角文？、小破片	弥・前記後半
78-521	甕	SD03中層	—	(2.1)	—	内面ナデ、無輪羽状文、小破片	弥・前記後半
78-522	甕	SD03上層	—	(2.4)	—	外間ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文、小破片	弥・前記後半
78-523	甕	SD03上層	—	(2.7)	—	内面ナデ、有輪羽状文、小破片	弥・前記後半
79-524	甕 鈴	SD03中層	(27.4)	—	(5.5)	外間貝殻束底の様ナデ、内面ナデ	綱・晚期鉢末
79-525	甕 鈴	SD03中層	(20.9)	—	(11.7)	外間貝殻束底の様ナデ、内面ヘラナデ	綱・晚期鉢末
79-526	甕 鈴	SD03中層	23.8	—	(7.6)	内面貝殻束底の様ナデ	綱・晚期鉢末
79-527	甕 鈴	SD03下層(上)	(20.2)	—	(6.0)	内面ナデ	綱・晚期鉢末
79-528	甕 鈴	SD03中層	(21.4)	—	(5.7)	外間ナデ、内面貝殻束底の後ナデ	綱・晚期鉢末
79-529	甕 鈴	SD03中層	(20.0)	—	(8.5)	外間貝殻束底の様ナデ、内面ナデ	綱・晚期鉢末
79-530	甕 鈴	SD03中層(上)	(20.0)	—	(9.9)	外間貝殻束底の後ナデ、内面ナデ	綱・晚期鉢末

Fig.No	器 形	出土遺物	測 縦 (cm)		造 物 の 特 徴	時 期	PL
			口径	底径			
79-531	深 体	SD03上層	(20.4)	-	(7.7) 外面貝殻条痕の後ナデ、口縁・腹部凸帯剥み	晩・晚期終末	
79-532	深 体	SD03上層	(15.8)	-	(10.3) 外面貝殻条痕の後ナデ、口縁・腹部凸帯剥み	晩・晚期終末	41
79-533	深 体	SD03下層(上) P-1	(29.0)	-	(20.9) 内外面貝殻条痕の後ナデ、口縁・腹部凸帯剥み	晩・晚期終末	41
79-534	深 体	SD03セクション中段	28.1	-	(20.9) 内外面貝殻条痕、口縁部突唇つめによる剥み化粧物付着	晩・晚期終末	41
79-535	深 体	SD03下層	(29.4)	-	(9.7) 内外面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	41
79-536	深 体	SD03F層(上)	(26.8)	-	(12.0) 内外面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	41
79-537	深 体	SD03T層(上)	(27.3)	-	(15.0) 内外面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	41
80-538	深 体	SD03中層	(21.4)	-	(10.5) 外面ハケメ、内面ハケメ後ナデ、口縁・腹部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-539	深 体	SD03中層	(27.8)	-	(8.9) 内外面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-540	深 体	SD03T層(上) P-1	(21.0)	-	(13.0) 外面貝殻条痕、内外面貝殻条痕後ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	41
80-541	深 体	SD03中層	(29.1)	-	(10.6) 内外面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-542	深 体	SD03中層	(20.9)	-	(6.3) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-543	深 体	SD03T層(上)	(18.6)	-	(6.6) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-544	深 体	SD03T層(上)	(17.7)	-	(7.0) 補修孔有、内外面ナデ、内面ハナナデ後ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-545	深 体	SD03中層	-	-	(8.9) 外面貝殻条痕、内面ナデ、口縁・腹部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-546	深 体	SD03中層	-	-	(6.8) 外面貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-547	深 体	SD03中層	-	-	(3.7) 内外面貝殻条痕、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-548	深 体	SD03中層	-	-	(7.7) 外面貝殻条痕、内面ハナナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-549	深 体	SD03中層	-	-	(6.3) 外面貝殻条痕、内面ハナナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-550	深 体	SD03中層	-	-	(4.5) 外面貝殻条痕、内面ナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-551	深 体	SD03中層	-	-	(6.5) 内外面貝殻条痕、内面ハナナデ、口縁部凸帯剥み	晩・晚期終末	
80-552	鉢	SD03中層	-	-	(5.5) 外面貝殻条痕、内面ハナナデ	晩・晚期終末	
80-553	鉢	SD03中層	-	-	(5.4) 80-552と同一か？ 外面貝殻条痕、内面ハナナデ	晩・晚期終末	
80-554	深 体	SD03下層(下)	(25.0)	-	(16.6) 外面貝殻条痕、内面ハナナデ後一部貝殻条痕	晩・晚期終末	41
80-555	深 体	SD03下層(上)	(32.0)	-	(10.3) 外面貝殻条痕後ナデ、内面ハナナデ	晩・晚期終末	
80-556	深 体	SD03下層	(22.1)	-	(7.9) 外面ナデ、内面貝殻条痕の後ナデ	晩・晚期終末	
80-557	深 体	SD03下層(上)	(18.6)	-	(10.6) 外面ハナナデ、内面ハナナデ、露ケズリ	晩・晚期終末	
81-558	深 体	SD03下層	(26.4)	8.2	29.65 内外面ナデ、外底部斜傾傾伏	晩・晚期終末	41
81-559	鉢	SD03中層	(29.2)	(7.8)	12.3 内外面ハナナデ、内面貝殻条痕の後ナデ	晩・晚期終末	41
81-560	浅 体	SD03中層	(34.6)	-	(5.6) 内外面ハラミガキ	晩・晚期終末	
81-561	鉢	SD03下層(上)	(26.0)	8.3	11.7 内外面ハラミガキ	晩・晚期終末	41
81-562	浅 体	SD03下層(下)	(23.6)	-	(9.4) 内外面ハラミガキ	晩・晚期終末	41
81-563	浅 体	SD03下層(上)	24.0	-	(6.3) 外面貝殻条痕、内面貝殻条痕の後ナデ後のハラミガキ	晩・晚期終末	41
81-564	鉢	SD03中層	(26.0)	-	(7.5) 外面貝殻条痕、内面ハラミガキ	晩・晚期終末	
81-565	浅 体	SD03下層(上)	(17.2)	-	(7.6) 内外面ハラミガキ	晩・晚期終末	
81-566	鉢	SD03F層(下)	(18.0)	-	(7.0) 外面ハナナデ後ハラミガキ、内面ハナナデ	晩・晚期終末	
81-567	浅 体	SD03中層	(19.4)	-	(6.1) 外面ハラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
81-568	鉢	SD03中層	(19.0)	-	(5.3) 内外面ナデ、内面斜傾傾伏	晩・晚期終末	
81-569	浅 体	SD03下層(下)	(19.6)	-	(9.9) 内外面ハラミガキ	晩・晚期終末	41
81-570	鉢	SD03下層(上)	(27.9)	-	(4.6) 波状口縁、外面貝殻条痕後ナデ、内面ハラミガキ	晩・晚期終末	41
81-571	鉢	SD03中層P-2	(34.9)	7.6	(10.2) 波状口縁、外面貝殻条痕後ナデ、内面ハラミガキ	晩・晚期終末	41
82-572	浅 体	SD03下層	(19.8)	-	(8.0) 内外面ハラミガキ	晩・晚期終末	
82-573	浅 体	SD03下層(上)	(8.8)	-	(5.3) 内外面ナデ、内面斜傾傾伏	晩・晚期終末	
82-574	壺	SD03下層(下)	-	(10.8)	(1.7) 分離り、外面ハラナナデ、内面ナデ	晩・晚期終末	
82-575	浅 体	SD03中層	-	7.7	(1.5) 外面貝殻条痕、内面ハラミガキ、外底部斜傾傾伏	晩・晚期終末	
82-576	浅 体	SD03中層	-	7.2	(2.6) 外面貝殻条痕、内面ハラミガキ	晩・晚期終末	
82-577	壺	台 SD03下層(上)	-	(8.0)	(5.7) 内外面ナデ、化粧物付痕	晩・晚期終末	
82-578	壺	台 SD03セクション上	-	(10.4)	(8.1) 内外面ナデ、脚内面貝殻条痕	晩・晚期終末	41
82-579	ミニチュア壺	SD03下層(上)	(3.4)	5.4	(5.2) 小孔有、内外面ナデ	晩・晚期終末	42
82-580	壺	SD03T層(上)	-	-	(3.9) 外底不規、内面ナデ、帯縫に刻目有	晩・前期後半	
82-581	壺	SD03T層P-1	16.9	-	(17.7) 丹塗り、外面ハラミガキ、内面ナデ、肩部ハラケズリ	晩・晚期終末	42
82-582	壺	SD03T層P-52	(22.3)	-	(25.2) 丹塗り、外面ハラミガキ、内面ナデ、肩部ハラケズリ	晩・晚期終末	42
82-583	壺	SD03下層(上)	18.0	-	(11.1) 丹塗り、外面ハラミガキ、内面横方向のナデ	晩・晚期終末	42

Fig.No	背 形	出上遺構	法 長 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			11種	成年	器高			
82-584	蝶	SD03下層(上) P16-1	(12.3)	—	(9.8)	外曲ナデ、内面へナラダ、口輪付後ラミガキ	晩・晚期終末	44
83-585	蝶	SD03下層(上) P17	7.4	—	(10.3)	楕円底有、外面へラミガキ、内面へラケズリ後ナデ、口輪付前ヘラミガキ	晩・晚期終末	41
83-586	蝶	SD03下層(下) (11.1)	—	(6.4)	—	内外面ラミガキ	晩・晚期終末	
83-587	蝶	SD03下層(下) (12.2)	—	(7.0)	—	内外面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
83-588	蝶	SD03セクション中層 (12.6)	—	(6.5)	—	外面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
83-589	蝶	SD03セクション中層 (9.9)	—	(6.15)	—	外面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
83-590	蝶	SD03中層 (13.7)	—	(4.1)	—	舟歯り、外面部骨盤底有、内面ナデ	晩・晚期終末	
83-591	蝶	SD03中層 (11.4)	—	(4.1)	—	外面口輪付近横方向のナデ、頸部ヘラミガキ、内面ナデ	幼・前期後半	
83-592	蝶	SD03中層 (10.1)	—	(4.1)	—	内外面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
83-593	蝶	SD03下層(上) (11.3)	—	(4.0)	—	舟歯り、内外面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
83-594	蝶	SD03中層 (10.4)	—	(5.2)	—	外面ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
83-595	蝶	SD03中層	—	6.3	(3.8)	内外面ナデ、底部のみ	晩・晚期終末	
83-596	蝶	SD03下層(上) (5.6)	—	(6.0)	—	外面部骨盤底の後ナデ、内面骨盤底、底部のみ	晩・晚期終末	
83-597	蝶	SD03下層(上) (11.1)	—	(9.05)	—	内外面ヘラミガキ	晩・晚期終末	42
83-598	蝶	SD03下層(上) (16.9)	—	(7.7)	—	舟歯り、外面ヘラミガキ、内面横方向のナデ	晩・晚期終末	
83-599	蝶	SD03中層 (15.8)	—	(13.6)	—	舟歯り、外面部骨盤底有、内面ナデ	晩・晚期終末	
83-600	蝶	SD03上層P-6 (20.0)	—	(50.8)	—	舟歯り、織みガタの跡跡有、外面部ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	42
83-601	蝶	SD03中層 (21.5)	—	(4.1)	—	内外面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
83-602	蝶	SD03上層 (33.9)	—	(5.6)	—	舟歯り、内外面ヘラミガキ	幼・前期後半	
84-603	蝶	T-8粒・包	—	(7.7)	—	外面部骨盤底、内面ヘリ後ナデ	晩・晚期終末	
84-604	蝶	T-8粒・包	—	(10.5)	—	外面部骨盤底の後ナデ、内面ナデ	晩・晚期終末	
84-605	蝶	T-8粒・包 (22.6)	—	(15.9)	—	外面部ナデ、内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	44
84-606	蝶	T-8粒・包 (15.0)	—	(7.0)	—	舟歯り、外面部ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
84-607	蝶	T-8SD03中層 (8.0)	—	(5.7)	—	外面部ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	44
84-608	蝶	T-8粒・包	—	(14.0)	—	舟歯り、外面部ヘラミガキ、内面骨盤底の後ナデ	晩・晚期終末	
84-609	蝶	T-8上層	—	(3.9)	—	外面部ヘラミガキ、内面ナデ、重底瓦、沈縫1条	幼・前期後半	
84-610	蝶	T-8島上	—	(3.0)	—	外面部ヘラミガキ、内面ナデ、無縫瓦残灰沈縫2条	幼・前期後半	
84-611	蝶	T-8包・鰐	7.0	—	7.8	外面部ナデ、部ヘラケズリ、内面指オサエ	古晩・前期初期	
88-612	蝶	SD03P48-2 (56.0)	—	(62.0)	—	外面部ナデ、内面ナデ。頸部に二字形凸凹、頸部に三角凸骨2条	幼・前期後半	42
88-613	蝶	SD03上層(下) P17 (54.0)	9.1	79.0	—	外曲タキ後ハケ日、内曲ハケ後ナデ、凸唇頸1条側部1条	幼・後期後半	42
89-614	蝶	SD03上層(下) P-6 (63.2)	—	(37.0)	—	外面部ナデ、内面ナデ、頸部3角凸骨2条	幼・後期後半	
89-615	蝶	SD03上層(下) (48.6)	—	(44.5)	—	外曲たてハケ日、内曲ナデ、鉤部と側部に二角内帯が各1条	幼・後期後半	
89-616	蝶	SD03上層(下) (51.8)	—	(27.5)	—	外面部ハケ、内面横ハケ、鉤部凸ハケ、腰窓凸筋2条	幼・後期後半	42
89-617	蝶	SD03上層(下) (51.1)	—	(19.1)	—	外面部ハケ、内面ナデ、頸部凸骨1条	幼・後期後半	
90-618	蝶	SD03P-20 (47.4)	10.9	65.8	—	外面部ハケ、内面横ハケ、鉤部凸ハケ、部頭が鉤部と側部に各1条	幼・後期後半	42
90-619	蝶	SD03P48-1 (47.2)	10.3	62.1	—	外面部ナデ、内面ナデ、白骨が側部と側部に1条、側部にノド筋がさすり有	幼・後期後半	
91-620	蝶	SD03P47-2 (49.8)	—	(15.5)	—	外面部ハケ、内面横ハケ、鉤部凸骨1条	幼・後期後半	
91-621	蝶	SD03P-48 (48.6)	—	(14.6)	—	外面部ハケ、内面横ハケ、頸部に刻みを有する突唇2条、口唇部ノド筋有	幼・後期後半	42
91-622	蝶	SD03上層(下) P-6 (33.7)	11.5	52.5	—	外曲面ハケ、内曲面ハケ、頸部凸骨1条	幼・後期後半	42
91-623	蝶	SD03上層(下) (36.6)	—	(29.0)	—	外面部ハケ、内面横ハケ、頸部凸骨1条	幼・後期後半	
91-624	蝶	SD03P-22 (30.0)	8.6	(47.1)	—	外面部ハケ、内面ハケ月、側部内唇にハケ状体による刻み有	幼・後期後半	
91-625	蝶	SD03P-37 (35.5)	5.8	51.4	—	外面部窓い窓ハケ、内面ナデ、頸部内唇1条	幼・後期後半	42
91-626	蝶	SD03上層(下) P16-1 (24.0)	7.2	(39.8)	—	外面部ハケ、内面斜めハケ	幼・後期後半	
92-627	蝶	SD03上層(下) (44.4)	—	(13.0)	—	外面部窓い窓ナデ、頸部三角凸骨、口唇部下唇をやわ引きのばす	幼・後期後半	
92-628	蝶	SD03P31-6 (38.2)	—	(15.5)	—	外面部ハケ、内面ハケ月後ナデ、頸部内唇1条	幼・後期後半	
92-629	蝶	SD03上層 (35.6)	—	(20.2)	—	外面ハケ目後ナデ、内面横ハケ、腰窓凸筋1条	幼・後期後半	
92-630	蝶	SD03中層 (32.8)	—	(28.1)	—	内外面窓い窓ハケ、頸部凸骨	幼・後期後半	
92-631	蝶	SD03上層(下) (31.4)	—	(6.5)	—	外面部窓い窓ハケ、内面ハケ目後ナデ、頸部凸骨1条	幼・後期後半	
92-632	蝶	SD03上層(下) —	—	8.7	(8.0)	外面部ナデ、内面横ハケ	幼・後期後半	
92-633	蝶	SD03上層(下) —	—	8.8	(6.0)	外面部ナデ、内面ハケ	幼・後期後半	
92-634	蝶	SD03上層(下) —	—	8.3	(4.8)	外面部ハケ、内面横ハケ	幼・後期後半	
92-635	蝶	SD03上層(下) —	—	9.6	(7.7)	外面部ハケ、内面横ハケ一部ナデ、内底部脣押さえ	幼・後期後半	
92-636	蝶	SD03上層(下) P3-4	—	(6.5)	(8.0)	外面部ナデ、内面指オカえ後ナデ	幼・後期後半	

Fig.No	基 形	出土遺構	法 尺 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			上経	底経	芯高			
92-637	甕	SD03上層(下) PS8-2	—	9.4	{ 8.4 }	内外面ナゲ	新・後期後半	
92-638	甕	SD03上層(下)	—	8.6	{ 12.8 }	外表面ハケ目後ナゲ、内面側ハケ	新・後期後半	
93-639	甕	SD03上層(下)	32.6	—	{ 11.2 }	外表面ハケ目後ナゲ、内面側ハケ	新・後期後半	
93-640	甕	SD03上層(下)	32.4	—	{ 13.4 }	外表面ハケ目後ナゲ、底部凸壠1条	新・後期後半	
93-641	甕	SD03中層・下層	30.0	—	{ 21.6 }	外表面ハケ、内面側め～強ハケ、底部凸壠1条	新・後期後半	
93-642	甕	SD03上層(下) PS8-12	29.2	—	{ 19.7 }	外表面ナメハケ、内面タテハケ、底部凸壠1条	新・後期後半	
93-643	甕	SD03中層	30.2	—	{ 15.3 }	外表面タテハケ、内面ナメハケ、底部凸壠1条	新・後期後半	
93-644	甕	SD03上層(下)	—	{ 8.3 }	{ 2.8 }	内外面、外底部ハケ	新・後期後半	
93-645	甕	SD03上層(下)	—	{ 9.3 }	{ 7.8 }	内外面ハケメ後ナゲ、内底部赤オサエ	新・後期後半	
93-646	甕	SD03中層	—	{ 7.6 }	{ 12.8 }	外表面タテハケ、内面不整方向のハケメ、外底部ハケメ後ナゲ	新・後期後半	
93-647	甕	SD03上層(下)	—	{ 7.5 }	{ 10.2 }	内外面、外底部ハケメ	新・後期後半	
93-648	甕	SD03上層(下)	—	8.4	{ 7.7 }	外表面ヘナラ、方底部指ササニ	新・後期後半	
94-649	甕	SD03P68-4	31.6	—	{ 19.5 }	外表面ハケ、内面ハケ目後ナゲ、底部凸壠1条	新・後期後半	
94-650	甕	SD03上層(下)	30.8	—	{ 12.7 }	外表面ハケ、内面ハケ目後ナゲ、底部凸壠1条	新・後期後半	
94-651	甕	SD03中層	28.0	—	{ 13.5 }	外表面ハケ、内面ナゲ、底部凸壠1条	新・後期後半	
94-652	甕	SD03上層	31.9	—	{ 20.2 }	外表面ハケ、内面側ハケ	新・後期後半	
94-653	甕	SD03P36-3	36.0	—	{ 10.0 }	外表面ハケ、内面側ハケ、底部凸壠1条	新・後期後半	
94-654	甕	SD03上層(下)	16.7	—	{ 17.3 }	外表面ハケ、内面側ハケ下平ナゲ、底部凸壠1条	新・後期後半	
94-655	甕	SD03P-41	28.0	—	{ 8.4 }	外表面ハケ目後ナゲ、内面横ハケ、底部凸壠1条	新・後期後半	
94-656	甕	SD03上層(下)	27.2	—	{ 9.0 }	外表面ハケ、内面側ハケ目後ナゲ、底部凸壠1条	新・後期後半	
94-657	甕	SD03A群	—	6.1	{ 4.1 }	外表面ナゲ、内面ハケ	新・後期後半	
94-658	甕	SD03上層(下)	—	7.7	{ 5.0 }	外表面、内面ハケ、外底部ハケ目	新・後期後半	
94-659	甕	SD03上層(下)	—	{ 7.9 }	{ 3.5 }	外表面ハケ、内面ナゲ	新・後期後半	
95-660	甕	SD03上層(下) P-46022	—	6.3	{ 4.5 }	内外面ナゲ、内底部指おさえ	新・後期後半	
95-661	甕	SD03上層(下)	27.6	5.2	41.0	内外面ハケ目、内面中位ハケメ横ナゲ	新・後期後半	
95-662	甕	SD03上層(下) P-15	27.4	—	{ 28.0 }	外表面たき後残ハケ、内面側めハケ	新・後期後半	42
95-663	甕	SD03P37-1	{ 36.0 }	—	{ 15.2 }	外表面ハケ目	新・後期後半	
95-664	甕	SD03上層	24.6	—	{ 16.0 }	外表面ハケ目	新・後期後半	
95-665	甕	SD03上層	{ 26.8 }	—	{ 13.7 }	外表面ハケ目後ナゲ、内面ななめハケ	新・後期後半	
95-666	甕	SD03上層(下) P68-6	25.0	—	{ 34.0 }	外表面ハケ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-667	甕	SD03上層(下)	14.6	—	{ 13.6 }	外表面ハケ、内面一位ハケメ、中位ナゲ	新・後期後半	
95-668	甕	SD03上層(下)	{ 24.6 }	—	{ 16.1 }	外表面たき後残ハケ、内面側めハケ	新・後期後半	
95-669	甕	SD03上層(下)	{ 25.6 }	—	{ 15.0 }	外表面ハケ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-670	甕	SD03上層(下)	{ 27.0 }	—	{ 22.0 }	外表面ハケ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-671	甕	SD03P-47-6	{ 21.0 }	—	{ 17.8 }	外表面ハケ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-672	甕	SD03P75	{ 27.6 }	—	{ 12.7 }	外表面ハケ、内面側めハケ	新・後期後半	
95-673	甕	SD03P68-1	21.0	—	{ 20.0 }	外表面ハケ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-674	甕	SD03P47-7	{ 17.6 }	—	{ 18.6 }	外表面ハケ目後ナゲ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-675	甕	SD03上層(下)	18.3	—	{ 8.4 }	外表面ハケ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-676	甕	SD03上層(下)	{ 18.4 }	{ 5.0 }	19.0	内面側不整方向のハケ目	新・後期後半	
95-677	甕	SD03上層(下)	{ 12.4 }	—	{ 15.5 }	外表面ナゲ	新・後期後半	
95-678	甕	SD03上層(下)	—	6.6	{ 4.8 }	外表面ナゲ、内面横ハケ	新・後期後半	
95-679	甕	SD03P59-1	—	6.4	{ 6.2 }	外表面ナゲ、内面ハケ目後ナゲ、内底部指おさえ	新・後期後半	
97-680	甕	SD03上層(下)	13.1	—	{ 28.4 }	内外面ハケメ	新・後期後半	12
97-681	甕	SD03P56-1	—	{ 21.1 }	—	外表面ハケメ、内面ナゲ	新・後期後半	
97-682	甕	SD03P48-13	{ 14.8 }	—	{ 19.0 }	内外面ハケメ	新・後期後半	
97-683	甕	SD03上層(下)	{ 15.6 }	—	{ 8.0 }	外表面ハケメ後ナゲ、内面ハケメ	新・後期後半	
97-684	甕	SD03上層(下)	{ 16.2 }	—	{ 9.2 }	外表面ハケメ後ナゲ	新・後期後半	
97-685	甕	SD03上層(下)	13.8	—	{ 8.0 }	外表面ハケメ、内面ハケメ後ナゲ	新・後期後半	
97-686	甕	SD03P68-14	12.0	6.0	21.9	外表面ハケメ	新・後期後半	
97-687	甕	SD03上層(下)	11.6	—	{ 13.9 }	外表面ハケメ、内面ナゲ	新・後期後半	
97-688	甕	SD03上層(下)	12.8	5.4	17.3	外表面ハケメ後ナゲ、内面ハケメ	新・後期後半	42
97-689	甕	SD03P68-5	—	5.6	{ 2.8 }	外表面ナゲ、内底部指おさえ	新・後期後半	

Fig.No	器 形	出土遺跡	法 尺 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			上界	底界	基面			
97-690	甕	SD03上層(下)	—	(9.0)	(3.9)	外面部、内面部ハケメ	弥・後期後半	
97-691	甕	SD03上層(下)	—	8.0	(3.8)	外面部、外底部ハケメ	弥・後期後半	
97-692	甕	SD03上層	—	6.7	(4.3)	外面部ハケメ、外底部ハケメ、内底部指おさえ	弥・後期後半	
97-693	甕	SD03P31-6	—	7.3	(5.0)	外面部ハケメ、内面部ハケメ、外底部ハケメ強ナデ、内底部指おさえ	弥・後期後半	
98-694	甕	SD03A群	(16.6)	9.8	30.3	外面部ハケメ後ナデ、内面部ナデ	弥・後期後半	
98-695	甕	SD03上層(下)	(15.4)	7.2	22.2	外面部ハケメ、内面部強タキ	弥・後期後半	
98-696	甕	SD03上層(下) P31-9	(15.9)	5.9	23.6	外面部ハケメ、弱下部ナデ	弥・後期後半	
98-697	甕	SD03上層(下)	(15.5)	(5.1)	15.7	外面部ハケメ	弥・後期後半	
98-698	甕	SD03A群	18.4	—	17.6	外面部ハケメ	弥・後期後半	
98-699	甕	SD03A群	(14.0)	—	(16.3)	外面部ハケメ	弥・後期後半	
98-700	甕	SD03A群	—	—	(13.4)	外面部ハケメ	弥・後期後半	
98-701	甕	SD03上層(下)	(16.8)	5.1	21.0	外面部ハケメ、弱下部ナデ、内面部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	42
98-702	甕	SD03P4-2	13.2	—	(17.7)	外面部ハケメ、口輪がほぼ垂直に立ち上がる	弥・後期後半	
98-703	甕	SD03A群	12.9	—	(17.0)	外面部ハケメ、口輪がほぼ垂直に立ち上がる	弥・後期後半	
98-704	甕	SD03上層(下)	(11.0)	—	(7.0)	外面部ハケメ、外面部強タキ、内面部指おさえ、口輪がほぼ垂直に立ち上がる	弥・後期後半	
98-705	甕	SD03上層(下) P31-4	—	4.0	(12.0)	外面部ハケメ、内面部ナデ	弥・後期後半	
98-706	甕	SD03上層(下) P31-1	—	6.8	(10.0)	外面部強底ハケメ	弥・後期後半	
98-707	甕	SD03P101-3	—	3.7	(4.9)	外面部ハケメ後ナデ、内面部ナデ	弥・後期後半	
99-708	甕	SD03上層(下) P31-10	(15.2)	7.0	(15.8)	外面部ハケメ、外底部ナデ	弥・後期後半	
99-709	甕	SD03上層	—	7.6	(6.9)	外面部ハケメ、内面部ハケメ後ナデ、外底部ハケメ	弥・後期後半	
99-710	瓶 瓶 甕	SD03P-30	8.6	5.2	15.8	外面部強上部ナデ、下部及び内面部ナデ	弥・後期後半	43
99-711	甕	SD03上層(下) P-305	(12.0)	—	(10.8)	外面部ハケメ、弱底大部に凸巣を有する	弥・後期後半	
99-712	甕	SD03上層(下) P31-1	(11.0)	—	(10.7)	外面部上部ハケメ、内面部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
99-713	甕	SD03中層P-7	(13.0)	—	(6.7)	外面部ハケメ後ナデ、内面部ナデ	弥・後期後半	
99-714	甕	SD03P48-3	—	6.7	(4.5)	外面部ハケメ、底部付近はナデ	弥・後期後半	
99-715	甕	SD03上層(下)	—	4.8	(7.2)	外面部ハケメ、内面部ナデ、内底部指おさえ	弥・後期後半	
99-716	二重口縁甕	SD03上層(下)	(12.4)	—	(5.6)	山陰系土器器形、内外面部強タキナデ	古墳・前期前半	
99-717	二重口縁甕	SD03上層	(28.0)	—	(8.0)	山陰系土器器形、内外面部強タキナデ	古墳・前期前半	
99-718	二重口縁甕	SD03上層(下)	(29.6)	—	(8.0)	山陰系土器器形、内外面部強タキナデ	古墳・前期前半	
99-719	二重口縁甕	SD03上層(下) P-32	20.0	5.6	39.1	外面部ハケメ後ナデ、頸部及び肩部に凸巣各1条	弥・後期後半	42
99-720	二重口縁甕	SD03上層(下) P-53	24.2	7.8	39.5	外面部ハケメ、頸部2条、肩部1条の凸巣	弥・後期後半	42
100-721	二重口縁甕	SD03A群	23.8	—	41.3	外面部ハケメ、頸部及び肩部に凸巣各1条	弥・後期後半	43
100-722	二重口縁甕	SD03上層	—	25.0	—	(18.2) 外面部強部ハケメ、朝那ハケメ後ナデ、頸部凸巣1条	弥・後期後半	
100-723	二重口縁甕	SD03上層(下) P-67	—	—	(24.7)	外面部ハケメ、頸部及び肩部に各1条の凸巣、また頸部凸巣に2列列込み	弥・後期後半	
100-724	二重口縁甕	SD03A群	—	—	(17.0)	外面部ハケメ、頸部凸巣に2列列込み	弥・後期後半	
100-725	二重口縁甕	SD03上層(下)	—	—	(9.0)	外面部強部ハケメ	弥・後期後半	
100-726	二重口縁甕	SD03中層	(27.0)	—	(8.0)	外面部ハケメ後ナデ、内面部強部指おさえ後模ナデ	弥・後期後半	
100-727	二重口縁甕	SD03上層(下) P-10	13.9	—	(17.0)	外面部ハケメ	弥・後期後半	
100-728	二重口縁甕	SD03上層(下)	(23.7)	—	(12.6)	外面部強部ハケメ、口輪下に凸巣	弥・後期後半	
101-729	二重口縁甕	SD03上層(下)	(22.8)	—	(9.2)	外面部ハケメ後ナデ、内面部ハケメ	弥・後期後半	
101-730	二重口縁甕	SD03上層(下)	(23.3)	—	(7.3)	外面部強部ハケメ、口輪部内面部指おさえ後模ナデ	弥・後期後半	
101-731	二重口縁甕	SD03上層	(22.0)	—	(5.5)	外面部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
101-732	二重口縁甕	SD03中層	(19.1)	—	(5.0)	外面部ハケメ後ナデ、内面部ナデ	弥・後期後半	
101-733	二重口縁甕	SD03上層(下)	(21.2)	—	(10.0)	外面部強部ハケメ	弥・後期後半	
101-734	二重口縁甕	SD03上層	(20.4)	—	(6.5)	外面部ハケメ後ナデ、内面部強部ハケメ	弥・後期後半	
101-735	二重口縁甕	SD03上層	19.7	—	(7.0)	外面部強部ハケメ、内面部強部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
101-736	二重口縁甕	SD03上層(下)	(24.8)	—	(5.8)	外面部・内面部強部機ナデ、内面部強部ナデ	弥・後期後半	
101-737	二重口縁甕	SD03上層(下)	30.3	—	(7.2)	外面部強部ハケメ後模ナデ	弥・後期後半	
101-738	二重口縁甕	SD03上層	(20.0)	—	(7.5)	外面部ハケメ後ナデ、内面部ハケメ	弥・後期終末	
101-739	甕	SD03上層	(21.6)	—	(8.3)	外面部強部機ナデ	弥・後期後半	
101-740	長 瓶 甕	SD03上層	(8.1)	—	(9.5)	外面部機ナデ、口輪付近横環ナデ	弥・後期後半	
101-741	長 瓶 甕	SD03上層	(10.9)	—	(10.9)	外面部ナデ、内面部指おさえ後ナデ、口輪付近内外面機ナデ	弥・後期後半	
101-742	長 瓶 甕	SD03上層(下)	—	—	(11.8)	外面部ナデ	弥・後期後半	

Fig.No	形 形	出上漁場	法 量 (cm)			迷 物 の 特 徴	時 刻	PL	
			上径	底径	高さ				
101-743	長 簾 魚	SD03A群	—	—	(8.0)	内外面ナデ	必・後期後半		
101-744	小 簾 魚	SD03中層	—	—	(4.9)	外側ハケメ模ナデ	必・後期後半		
101-745	小 簾 魚	SD03中層	—	—	(9.0)	内外面ハケメ後ナデ、内面頭部にシボリ模	必・後期後半		
101-746	小 簾 魚	SD03上層(下)	7.6	5.8	10.1	外側胸上部へラミガキ、内面胸腹部おさえ、頭部シボリ後側方向ナデ	必・後期後半	43	
101-747	小 簾 魚	SD03上層(下)	—	—	(5.9)	外面ナデ、内面ナデ、胸下部抱おさえ	必・後期後半		
101-748	丸 既 鮎	SD03中層P47 1	10.0	—	17.0	外面ナデ、内面ヘラケズリ	古墳・前期前半		
102-749	既 鮎	SD03上層(下)	—	—	(16.1)	外腹側下部へハラミガキ	必・後期後半		
102-750	既 鮎	SD03A群	(15.4)	—	(17.0)	外面ハケメ、内面ハケメ後ナデ、頸部内・外面横ナデ	必・後期後半		
102-751	既 鮎	SD03上層(下)	—	—	(12.9)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、外底部底いハケメ	必・後期後半		
102-752	既 鮎	SD03P44	—	—	(12.9)	外面胸上部ハケメ、胸背部ヘラナダ、内面ナデ後へラダ	必・後期後半		
102-753	既 鮎	SD03P34	11.9	—	15.7	外面胸上部及び内面ハケメ	必・後期後半		
102-754	既 鮎	SD03P45	12.5	—	14.6	外面胸上部ハケメ、内面ナデ、内歯部板オサエ	必・後期後半	43	
102-755	小型丸既鮎	SD03上層(下) P74	10.7	—	10.4	内外面ナデ	古墳・前期前半		
102-756	小型丸既鮎	SD03上層	(10.0)	—	(9.0)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ	古墳・前期前半		
102-757	小型丸既鮎	SD03上層	(10.2)	—	(9.7)	外面頭部・胸上部ハケメ、内面ナデ	古墳・前期前半		
102-758	既 口 鮎	SD03上層下層	13.2	—	(4.8)	外面ナデ、内面ハケメ後ナデ	古墳・前期前半		
102-759	小型丸既鮎	SD03上層	—	—	(8.1)	内外面ナデ	古墳・前期前半		
102-760	小型丸既鮎	SD03上層	—	—	(6.8)	外面ハケメ、内面抱おさえ	古墳・前期前半		
102-761	小型丸既鮎	SD03上層	—	—	(5.4)	外間指おさえ、内面ナデ	古墳・前期前半		
102-762	小型丸既鮎	SD03上層	—	2.0	(6.0)	外面ハケメ、内面ヘラケズリ	古墳・前期前半		
102-763	小型丸既鮎	SD03南側上層	—	—	2.7	(7.0)	外面抱おさえ、内面ナデ、部ヘラケズリ	古墳・前期前半	
102-764	高 环	SD03上層(下)	(35.6)	—	(5.8)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ	必・後期後半		
102-765	高 环	SD03上層(下)	40.4	—	(11.4)	内外面ヘラミガキ、底盤承	必・後期後半		
102-766	高 环	SD03南側上層	20.8	—	(4.9)	外面ハケメ後ナデ	古墳・前期前半		
102-767	高 环	SD03南側上層	13.4	(8.2)	—	外面ナデ一部ハケメ、内面胸軸へラケズリ	古墳・前期前半		
102-768	高 环	SD03上層(下) P69	12.4	(7.1)	—	外面胸下部ハケメ、内面胸軸へラケズリ	古墳・前期前半		
103-769	高 环	SD03上層(下) P69	(30.4)	(20.1)	25.0	外面へラミガキ、胸部外・胸下部ハケメ、脚部円形透かし	必・後期後半		
103-770	高 环	SD03上層(下) P6-6	(33.0)	16.5	25.4	外面へラミガキ、内面脚部下部ハケメ、脚部円形透かし、シボリ模	必・後期後半		
103-771	高 环	SD03上層(下)	23.8	15.5	20.7	外面及内面環部へラミガキ、シボリ模、脚部円形透かし	必・後期後半	43	
103-772	高 环	SD03P-46	31.2	—	(11.5)	内外面ヘラミガキ	必・後期後半		
103-773	高 环	SD03A群	(29.6)	—	(7.2)	外外面ヘラミガキ	必・後期後半		
103-774	高 环	SD03P31-5	(29.6)	—	(5.7)	外面ナデ、内面ヘラミガキ	必・後期後半		
103-775	高 环	SD03上層(下)	20.3	—	(4.8)	内外面ハケメ後ナデ	必・後期後半		
103-776	高 环	SD03上層	33.0	—	(4.3)	外面ナデ、内面ヘラミガキ	必・後期後半		
103-777	高 环	SD03P-51	(32.0)	—	(4.9)	外面ナデ、一部ハケメ、内面へラミガキ	必・後期後半		
103-778	高 环	SD03P31-7	—	17.4	(20.2)	外面へラミガキ、内面胸部下部ハケメ、シボリ模、脚部円形透かし	必・後期後半		
103-779	高 环	SD03下層	—	19.3	(7.5)	外面へラミガキ、内面ハケメ、脚部円形透かし	必・後期後半		
104-780	高 环	SD03上層(下) 南側	(27.2)	—	(2.7)	内外面へラミガキ	必・後期後半		
104-781	高 环	SD03上層	(32.6)	—	(5.8)	内外面ヘラミガキ、底盤ハケメ	必・後期後半		
104-782	高 环	SD03南側上層	32.4	—	(6.7)	内外面环部ハケメ、底盤へラミガキ	必・後期後半		
104-783	高 环	SD03上層(下)	(37.4)	—	(8.2)	内外面环部及内面へラミガキ	必・後期後半		
104-784	高 环	SD03上層(下) P69-8	(33.6)	—	(9.0)	内外面へラミガキ	必・後期後半		
104-785	高 环	SD03P-68	(32.6)	—	(6.9)	内外面へラミガキ	必・後期後半		
104-786	高 环	SD03上層(下)	—	(20.0)	(19.1)	外面へラミガキ、内面胸部下部ハケメ、円形透かし2ヶ1対、シボリ模	必・後期後半		
104-787	高 环	SD03A群	(21.2)	15.1	15.0	外面・内面体部へラミガキ、シボリ模、脚部円形透かし	必・後期後半		
104-788	高 环	SD03A群	—	18.4	(9.1)	外面・内面脚部中位ハケメ、外面一部工字底	必・後期後半		
104-789	高 环	SD03上層	—	(10.8)	(7.3)	内外面ハケメ、内面体部ハケメ後ナデ、脚部円形透かし	必・後期後半		
104-790	錐	SD03P-27	(23.0)	5.2	13.2	内外面脚部ハケメ、内面II脚部ハケメ、脚部ナデ	必・後期後半		
104-791	錐	SD03L層(下)	(24.2)	—	(9.8)	内外面ハケメ	必・後期後半		
104-792	錐	SD03上層(下)	(22.8)	(6.7)	10.0	内外面ハケメ、内面ナデ	必・後期後半		
104-793	錐	SD03上層(下) P69-1	(29.6)	—	10.5	内外面ハケメ後ナデ、内面ナデ	必・後期後半		
105-794	錐	SD03上層(下) P2-2	32.0	7.7	11.1	内外面ハケメ後ナデ	必・後期後半		
105-795	錐	SD03P31-2	(29.6)	6.2	10.3	内外面ハケメ	必・後期後半		

Fig.No	番形	出土遺構	法 量 (cm)			遺物の特徴	時 期	PL
			口徑	底径	高さ			
105-796	鉢	SD01上層(F) P-106	(26.5)	7.3	9.9	内外面ハケメ	弥・後期後半	
105-797	鉢	SD01上層(F) P-61	(26.0)	6.6		外面ハケメ、内面ヘラミガキ	弥・後期後半	43
105-798	鉢	SD03P31-3	(24.4)	6.0	(8.4)	内外面ナデ、外面側部上半ハケメ	弥・後期後半	
105-799	鉢	SD03上層(F) P-56	(24.5)	7.0	8.4	外面側部上半及び内面口縁部ハケメ、内面側一部工具ナデ	弥・後期後半	43
105-800	鉢	SD03上層(F)	24.6	—	7.4	内外面ハケメ	弥・後期後半	
105-801	鉢	SD03下層(F)	(25.0)	(7.1)	6.6	外面ナデ一部ハケメ、内面ナデ、口縁部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
105-802	鉢	SD03上層(F)	(26.3)	—	9.6	外面側部ハケメ、内面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
105-803	鉢	SD03P36-2	(23.8)	—	10.1	外面ヘラミガキ、内面口縁部ハケメ後組いヘラミガキ	弥・後期後半	
105-804	鉢	SD03上層(F) P-1	23.0	—	8.1	内外面ナデ	弥・後期後半	
105-805	鉢	SD03上層(F) P-66	30.4	—	7.1	外外面ヘラミガキ、内面口縁部ハケメ	弥・後期後半	
105-806	鉢	SD03中層	—	(7.3)	(9.6)	外面側部上半ハケメ後ナデ、内面側部ヘラミガキ	弥・後期後半	
105-807	鉢	SD03P48-10	(25.2)	—	8.3	外外面ハケメ後ナデ、内面口縁部ハケメ	弥・後期後半	43
105-808	鉢	SD03上層(F) 古面	(27.8)	—	(6.7)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
105-809	鉢	SD03上層(F)	(30.5)	—	(8.6)	外外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
105-810	鉢	SD03上層(F)	(27.5)	(8.6)	10.3	外面側部上半ハケメ後ナデ下半ハケメ、内面側部ナデ一部工具痕	弥・後期後半	
105-811	鉢	SD03上層(F)	27.2	—	(6.7)	外外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
105-812	鉢	SD03上層(F) 古面	(31.8)	—	(8.2)	外外面ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
105-813	鉢	SD03上層(F)	(30.0)	—	(6.6)	内面ハケメ	弥・後期後半	
105-814	鉢	SD03下層	(26.7)	(5.7)	11.8	外外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
105-815	鉢	SD03上層(F) P-66-15	(29.8)	5.3	(6.6)	外外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
105-816	鉢	SD03P104	(22.2)	3.8	(7.4)	外外面ハケメ	弥・後期後半	
105-817	鉢	SD03P48-15	(25.2)	—	7.2	外外面側部ハケメ、内面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
105-818	鉢	SD03上層(F) P-1	9.1	(8.6)	外外面ハケメ、内面ナデ	弥・後期後半		
105-819	鉢	SD03上層下	(32.3)	(7.3)	8.0	内面ハケメ、内面側部ナデ	弥・後期後半	
105-820	鉢	SD03P32	40.9	—	(10.7)	外外面ハケメ頭ヘラミガキ、内面口縁部ハケメ後組いヘラミガキ	弥・後期後半	
105-821	鉢	SD03下層(F)	(30.4)	—	(8.0)	内外面ナデ、外側一部ハケメ	弥・後期後半	
105-822	鉢	SD03P48-11	(22.6)	(6.7)	(10.5)	外外面ナデ、内面ハケメ	弥・後期後半	
105-823	鉢	SD03上層下P43	(21.1)	—	8.5	外外面ナデ、内面側上半ヘラミガキ、下半ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
107-824	鉢	SD03上層(F)	(22.3)	—	(7.1)	内外面ナデ	弥・後期後半	
107-825	鉢	SD03上層(F)	(17.4)	(5.0)	7.4	外外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
107-826	鉢	SD03上層(F) P-62-4	18.6	5.0	6.9	内外面ナデ	弥・後期後半	
107-827	鉢	SD03上層	16.8	—	7.3	外外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
107-828	鉢	SD03上層(F)	(17.9)	(4.7)	5.7	外外面・内面側中位ナデ、内面底部指おさえ後ナデ	弥・後期後半	
107-829	鉢	SD03P48-9	(15.2)	—	5.7	外外面ナデ	弥・後期後半	
107-830	鉢	SD03上層(F)	15.6	6.4	5.9	内外面ナデ、内面底部指おさえ	弥・後期後半	
107-831	鉢	SD03上層(F)	(17.5)	5.4	6.0	外外面ナデ、内面指おさえ後ナデ	弥・後期後半	
107-832	鉢	SD03上層(F)	16.1	—	6.0	外外面ハケメ後ナデ、内面ハケメ	弥・後期後半	
107-833	鉢	SD03上層(F) P-62-1	(16.2)	—	(4.9)	内外面ナデ	弥・後期後半	
107-834	鉢	SD03上層(F)	(11.6)	—	5.8	内外面ハケメ	弥・後期後半	
107-835	鉢	SD03P-50	13.8	4.8	5.0	外外面ナデ、内面ナデ後組いヘラミガキ	弥・後期後半	43
107-836	鉢	SD03上層(F)	12.1	(3.3)	(4.4)	内外面ナデ	弥・後期後半	
107-837	鉢	SD03上層(F)	13.5	2.8	6.2	内外面ナデ、内面一部ヘラミガキ	弥・後期後半	
107-838	鉢	SD03上層(F)	(12.4)	—	(6.0)	外外面ヘラミガキ、内面ハケメ	弥・後期後半	
107-839	鉢	SD03P41-1	—	—	(4.5)	内外面ナデ、内面一部工具痕	弥・後期後半	
107-840	鉢	SD03上層(F)	(15.5)	3.0	5.4	内外面ナデ	弥・後期後半	
107-841	鉢	SD03P-62	(15.2)	—	6.2	内外面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
107-842	鉢	SD03T層	16.0	—	9.0	内外面ナデ	弥・後期後半	44
107-843	鉢	SD03中層	18.8	7.2	9.0	外外面たき、内面ナデ一部ヘラミガキ	弥・後期後半	44
107-844	鉢	SD03A層	16.7	6.7	10.8	内外面ハケメ	弥・後期後半	
107-845	鉢	SD03上層(F)	(14.6)	4.4	6.4	内外面ハケメ	弥・後期後半	
107-846	鉢	SD03上層(F)	(15.9)	4.5	8.1	内外面ハケメ	弥・後期後半	
107-847	脚付鉢	SD03A群	20.5	13.9	15.6	外外面部及び内面口縁部ハケメ、内面底部ヘラナデ	弥・後期後半	43
107-848	脚付鉢	SD03上層(F)	—	(18.6)	(7.6)	外外面及び内面側部ハケメ	弥・後期後半	

Fig.No	器 形	出土遺物	法 量 (cm)			遺 物 の 特 指	時 期	PL
			口径	底面	高さ			
108-849	器 古	SD03P37-8	16.1	(18.4)	21.9	外面部及び内面部下部ハケメ、内面部ナデ	弥・後期後半	
108-850	器 古	SD03上層(?) P-64	(16.6)	16.3	22.2	外面部及び内面部下部ハケメ、内面部ナデ	弥・後期後半	43
108-851	器 古	SD03上層(?) P-65	17.3	18.3	22.6	外面部及び内面部下部ハケメ、外面部横帶沿おきえ、シボリ痕	弥・後期後半	
108-852	器 古	SD03上層(?) P-66	(16.6)	(18.7)	23.8	外面部及び内面部下部ハケメ、内面部ナデ、口縁端部に凹痕による刺み	弥・後期後半	43
108-853	器 古	SD03上層(?) P-77	(15.7)	(19.2)	23.7	外面部及び内面部下部ハケメ、内面部ナデ、シボリ痕、口縁端部へ及ぶ刺み	弥・後期後半	
108-854	器 古	SD03P42-2	—	20.7	(19.3)	外面部ハケメ、内面部ナデ一部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
108-855	器 古	SD03P33-2	(15.0)	(15.6)	(19.0)	外面部ハケメ、シボリ痕	弥・後期後半	
108-856	器 古	SD03上層(?)	13.7	15.8	18.3	外面部ハケメ、内面部一部ハク痕	弥・後期後半	
108-857	器 古	SD03上層(?)	(18.6)	—	(13.8)	外面部ハケメ、内面部ナデ一部ハケメ	弥・後期後半	
108-858	器 古	SD03上層(?)	(20.8)	—	(12.8)	外面部ハケメ、内面部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
108-859	器 古	SD03上層(?)	—	18.6	(16.3)	外面部及び内面部横帶部付近ハケメ、内面部ナデ	弥・後期後半	
108-860	器 古	SD03P33-3	—	(20.0)	(16.2)	外面部ハケメ、内面部ハケメ後ナデ内底部沿おきえ	弥・後期後半	
109-861	器 古	SD03上層FP102-2	12.6	17.3	21.2	外面部及び内面部ハケメ、内面部ナデ	弥・後期後半	43
109-862	器 古	SD03P-29	12.3	17.0	21.6	外面部ハケメ、内面部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
109-863	器 古	SD03P-19	14.9	18.8	21.9	内外面部ハケメ、外面部付近にたたき残る	弥・後期後半	
109-864	器 古	SD03上層(?) P-66	(16.5)	(21.4)	24.6	外面部ハケメ一部ハク痕、内面部部ハケメナデ消し一部工具痕	弥・後期後半	
109-865	器 古	SD03上層(?) P-67	20.6	21.3	25.3	外面部ハケメ後ナデ一部たたき残る、内面部ナデハケメ	弥・後期後半	
109-866	器 古	SD03上層(?)	16.6	20.3	23.0	外面部ハケメナデ一部たたき残る、内面部ナデ一部工具痕	弥・後期後半	
109-867	器 古	SD03上層(?) P-68	17.0	18.6	21.6	外面部体部上半ハケメ、下半たたき、内面部ナデ	弥・後期後半	
109-868	器 古	SD03P-18	16.4	(19.0)	21.8	外面部体部上半ハケメ、下半たたき、内面部ナデ、シボリ痕	弥・後期後半	
109-869	器 古	SD03上層(?)	13.0	—	(8.4)	外面部ハケメ後ナデ、内面部シボリ痕	弥・後期後半	
109-870	器 古	SD03P-33	(12.8)	—	(14.8)	外面部ナデ	弥・後期後半	
109-871	器 古	SD03上層(?)	—	13.0	(11.4)	外面部及び内面部ハケメ、内面部ナデ	弥・後期後半	
109-872	器 古	SD03P49-4	(17.4)	20.2	(23.3)	外面部体部上半ハケメ、下半たたき、内面部ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
110-873	器 古	SD03P29-1	(15.6)	19.3	18.9	外面部たたき、内面部体部下半ハケメ後ナデ、シボリ痕	弥・後期後半	
110-874	器 古	SD03P29-2	15.1	(18.6)	20.2	外面部たたき、内面部ナデ	弥・後期後半	43
110-875	音 形 器 古	SD03上層(?)	7.5	(13.8)	11.6	外面部ハケメ後ナデ、内面部シボリ痕、底部指押え	弥・後期後半	
110-876	音 形 器 古	SD03P33-1	8.7	(13.7)	14.0	内面部とともにシボリ痕明瞭化、口縁端部指おさえ	弥・後期後半	
110-877	音 形 器 古	SD03上層(?) 南側	8.4	(14.2)	13.0	外面部とともにハラメナデ、内面部シボリ痕、口縁端部指おさえ	弥・後期後半	
110-878	音 形 器 古	SD03上層(?) (南)	(5.9)	(14.4)	13.7	外面部たたき、内面部シボリ痕	弥・後期後半	
110-879	音 形 器 古	SD03上層(?) 南側	—	15.5	10.3	外面部たたき、内面部体部附近指おさえ、シボリ痕	弥・後期後半	
110-880	音 形 器 古	SD03P-28	—	12.5	(14.2)	外面部ハケメ、内面部底部指おさえ	弥・後期後半	
110-881	器 古	SD03P-25	9.7	13.7	12.8	外面部ハラナデ、内面部ナデ	弥・後期後半	
110-882	器 古	SD03上層(?) P-71	5.8	14.2	13.0	外面部ハラナデ、内面部ナデ	弥・後期後半	
110-883	支 舞	SD03II区南側包	6.4	—	(7.0)	外面部ナデ	弥・後期後半	
110-884	小 型 器	SD03上層(?)	(8.7)	(4.3)	8.1	外面部ナデ	弥・後期後半	
110-885	小 型 器	SD03上層(?)	(7.2)	5.2	7.9	外面部ナデ	弥・後期後半	
110-886	壺	SD03上層(?)	—	3.3	7.7	外面部シボリ痕おさえ、外面部一部ハケメ	弥・後期後半	
110-887	壺	SD03上層(?)	—	5.3	(6.5)	外面部ハケメ後ナデ、内面部ナデ	弥・後期後半	
111-888	壺	SD03中層	(39.6)	—	(8.2)	外面部ハケメ後ナデ、内面部ナデ口縁端部刺み	弥・前歴後半	
111-889	壺	SD03上層	(22.4)	—	(9.0)	外面部ハケメ、内面部ナデ、口縁端下部刺み	弥・前歴後半	
111-890	壺	SD03中層	(22.0)	—	(11.5)	外面部ハケメ、内面部ナデ、口縁端部刺み	弥・前歴後半	
111-891	壺	SD03中層	(22.0)	—	(12.0)	外面部ハケメ、内面部ナデ、口縁端下部に刺み	弥・前歴後半	
111-892	壺	SD03中層	(25.0)	—	(16.8)	外面部ハケメ、内面部ナデ、口縁端下部に刺み	弥・前歴後半	
111-893	鉢	SD03中-下層	(34.0)	—	(14.0)	外面部ハラミガキ、内面部ナデ、口縁端下部に刺み	弥・前歴後半	
111-894	甕	SD03中層	(31.0)	—	(6.6)	外面部及び内面部ハラミガキハケメ、内面部ナデ、口縁端下部刺み	弥・前歴後半	
111-895	甕	SD03中層	(30.8)	—	(7.0)	外面部ハケメ、内面部ナデ、口縁端部刺み	弥・前歴後半	
111-896	甕	SD03中層	(25.4)	—	(18.5)	外面部及び内面部ハラミガキハケメ、内面部ナデが、口縁端下部に刺み	弥・前歴後半	
111-897	甕	SD03中層	(23.0)	7.4	27.6	外面部及び内面部ハラミガキハケメ、内面部ナデ、口縁端下部に刺み	弥・前歴後半	
111-898	甕	SD03中層	(24.0)	—	(7.5)	外面部及び内面部ハラミガキハケメ、内面部ナデ、口縁端下部に刺み	弥・前歴後半	43
111-899	甕	SD03上層南側	29.9	—	(13.7)	外面部ハケメ、内面部ナデ	弥・前歴後半	
112-900	甕	SD03上層南側	(19.4)	—	(12.0)	外面部ハケメ、内面部おさえ様ナデ	弥・前歴後半	
112-901	甕	SD03中層	(21.6)	—	(8.0)	外面部ハケメ、内面部ナデ	弥・前歴後半	

Fig.No	器 形	出土遺構	法 量 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			上種	底種	器高			
112- 902	甕	SD03P101-2	24.8	—	(14.1)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
112- 903	甕	SD03中層	(27.4)	—	(7.0)	外内面ナデ一部ハケメ	弥・前期後半	
112- 904	甕	SD03上層南側	(20.2)	—	(8.0)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
112- 905	甕	SD03中層	(15.0)	—	(6.2)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・中期初頭	
112- 906	甕	SD03中層	(24.6)	—	(20.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端下部に刻み、口縁下に沈線	弥・前期後半	
112- 907	甕	SD03中層	(22.4)	—	(8.5)	外面ハケメ、内面ナデ。口縁端部に刻み、口縁下に沈線	弥・前期後半	
112- 908	甕	SD03中層	(19.2)	—	(10.0)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁端部に刻み、口縁下に沈線	弥・前期後半	
112- 909	甕	SD03中層	(25.2)	—	(5.0)	外面ナデ、内面ナデ、口縁下に沈線	弥・前期後半	
112- 910	甕	SD03中層	(22.2)	—	(11.0)	外面ハケメ、内面ナデおさえ後ナデ、口縁端部に刻み、口縁下に沈線	弥・前期後半	
112- 911	甕	SD03中層	(23.2)	—	(10.0)	外面ハケメ、内面ナデ。口縁端部に刻み、口縁下に沈線有	弥・前期後半	
112- 912	甕	SD03下層	(22.2)	—	(10.0)	外内面ナデ、内面口縁端付近にハケメ、口縁端部に刻み、口縁下に沈線有	弥・前期後半	
113- 913	甕	SD03上層	(17.4)	—	(9.0)	外面ナデ一部ハケメ、内面ナデ、口縁下に沈線	弥・前期後半	
113- 914	甕	SD03下層	(19.8)	—	(13.7)	外面ナデ、内面ナデ、口縁下に沈線	弥・前期後半	
113- 915	甕	SD03中層	(27.2)	—	(8.5)	外内面ナデ、内面ナデ、口縁端部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 916	甕	SD03中層	(27.0)	—	(7.0)	外面ナデ、内面ナデおさえ後ナデ、口縁端下部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 917	甕	SD03中層	(22.8)	—	(11.0)	外内面ナデ、口縁端部に2列及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 918	甕	SD03中層	(29.6)	—	(10.3)	外面ハケメ、内面ナデ。口縁端部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 919	甕	SD03上層(下)	(24.8)	—	(9.5)	外内面ナデ、口縁端下部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 920	甕	SD03中層	(30.4)	—	(19.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 921	甕	SD03中層	(31.3)	—	(5.3)	外内面ナデ、口縁端部に2列及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 922	甕	SD03中層	(26.6)	—	(8.5)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端下部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 923	甕	SD03中層	(26.4)	—	(11.5)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 924	甕	SD03中層	(23.9)	—	(7.3)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
113- 925	甕	SD03中層	(21.0)	—	(18.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端下部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
114- 926	甕	SD03中層	(19.7)	—	(13.0)	外面ハケメ、内面ナデ、口縁端部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
114- 927	甕	SD03中層	(25.2)	—	(9.5)	外面ハケメ内面ナデ、凸唇に刻み	弥・前期後半	
114- 928	甕	SD03中層	(24.0)	—	(8.0)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、凸唇に刻み	弥・前期後半	
114- 929	甕	SD03上層	(28.6)	—	(11.3)	外面ハケメ、内面ナデ、凸唇有する	弥・前期後半	
114- 930	甕	SD03中層	(32.0)	—	(18.5)	外内面ナデ、口縁下部ハケメ様ナデ、内面ナデ、口縁端部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	
114- 931	甕	SD03中層	(28.3)	—	(20.2)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁端下部及び凸唇に刻み	弥・前期後半	43
114- 932	甕	SD03中層	(36.0)	—	(35.0)	外面ハケメ、内面ナデ、山鉢部2列及び凸唇2条に刻み	弥・前期後半	43
114- 933	甕	SD03中層	—	10.8	(12.0)	外内面とてナデ、内面ナデ、山鉢部2列及び凸唇2条に刻み	弥・前期後半	
114- 934	甕	SD03下層	—	7.5	(13.8)	外内面ナデ、内底部折おさえ	弥・前期後半	
114- 935	甕	SD03上層	—	7.5	(17.0)	外面ハケメ、外底部ハラナデ、内面ナデ	弥・前期後半	
114- 936	甕	SD03上層	—	6.9	(8.0)	外内面ナデ、内底部折おさえ	弥・前期後半	
115- 937	甕	SD03上層	—	(7.8)	(4.6)	外内面ナデ	弥・中期初頭	
115- 938	甕	SD03上層(下)	—	10.7	(3.3)	外内面ナデ	弥・中期初頭	
115- 939	甕	SD03上層(下)	—	6.6	(5.0)	外内面ナデ	弥・前期後半	
115- 940	甕	SD03中層	—	(8.5)	(10.0)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 941	甕	SD03中層	—	7.1	(6.5)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 942	甕	SD03上層(下)	—	7.0	(5.5)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 943	甕	SD03中層	—	7.0	(5.7)	外内面ナデ	弥・前期後半	
115- 944	甕	SD03上層(下)	—	6.1	(7.0)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 945	甕	SD03中層	—	5.5	(8.5)	外内面ナデ	弥・前期後半	
115- 946	甕	SD03中層	—	6.8	(7.0)	外内面ナデ	弥・前期後半	
115- 947	甕	SD03P48-6	—	6.6	(5.4)	外内面ナデ	弥・中期初頭	
115- 948	甕	SD03上層(下)	—	6.2	(7.7)	外内面ナデ	弥・前期後半	
115- 949	甕	SD03中層	—	(7.5)	(6.0)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 950	甕	SD03中層	—	7.0	(6.0)	外内面ナデ	弥・前期後半	
115- 951	甕	SD03中層(下)	—	9.8	(11.4)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 952	甕	SD03上層(下)	—	7.3	(6.0)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 953	甕	SD03中層	—	(7.4)	(6.5)	外面ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半	
115- 954	甕	SD03P-46	—	6.4	(3.4)	外内面ナデ	弥・前期後半	

Fig.No	器 形	出土遺構	体 量 (cm)		遺 物 の 特 徴	時 期	PL	
			U径	底径				
115- 955	甕	SD03中層	—	(8.3)	外曲ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半		
115- 956	甕	SD03中層	—	6.1 (4.4)	外曲ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・前期後半		
115- 957	甕	SD03中層	—	8.2 (4.0)	内外面ナデ	弥・前期後半		
115- 958	甕	SD03下層	—	7.7 (5.5)	外曲ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・前期後半		
115- 959	甕	SD03下層	—	5.9 (7.0)	外曲ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半		
115- 960	甕	SD03下層	—	7.6 (6.5)	外曲ハケメ、内面折おさえ後ナデ	弥・前期後半		
115- 961	甕	SD03中層	—	8.1 (2.4)	内外面ともにナデ	弥・前期後半		
115- 962	甕	SD03中層	—	6.5 (9.5)	内外面ナデ、内部部指おさえ	弥・前期後半		
115- 963	甕	SD03中層	—	7.2 (4.8)	外曲ハケメ、内面ナデ、底部穿孔	弥・前期後半		
115- 964	甕	SD03中層	—	6.9 (3.3)	外曲ハケメ、内面ナデ、底部穿孔	弥・前期後半		
115- 965	甕	SD03上層(下)	—	(7.2) (8.2)	外曲ハケメ、内面ナデ、底部穿孔	弥・前期後半		
115- 966	甕	SD03中層	—	5.8 (6.5)	外曲ハケメ、内面ナデ、底部穿孔	弥・前期後半		
115- 967	鉢	SD03下層	(3.3)	5.5 8.3	外曲ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半		
115- 968	甕	SD03中層	—	6.3 (9.0)	外曲ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半		
115- 969	甕 盆	SD03中層	5.4 (2.6)	13.2 12.0	外曲ハケメ、内面ナデ	弥・前期後半		
116- 970	甕	SD03南側上層	(21.2)	—	(7.0)	外曲面ナデ	中・中期後期	
116- 971	甕	SD03中層P106	14.5	9.2 23.2	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、頸部三角凸唇・有輪羽状文	弥・前期後半	43	
116- 972	甕	SD03中層P-107	7.1	4.4 14.0	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、頸部三角凸唇・無輪羽状文	弥・前期後半	43	
116- 973	甕	SD03下層	—	7.5 (12.0)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
116- 974	甕	SD03上層(下)	—	(6.0)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条・無輪羽状文	弥・前期後半		
116- 975	甕	SD03上層	—	(7.8)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、沈線1条・無輪羽状文	弥・前期後半		
116- 976	甕	SD03中層中～下	19.2	—	(10.0)	内外面ナデ、頸部三角凸唇	弥・前期後半	
116- 977	甕	SD03下層	(16.0)	—	(12.7)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文、底弧文(貝紋)	弥・前期後半	
116- 978	甕	SD03上層(下)	—	(4.8)	内外面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
116- 979	甕	SD03上層	—	(7.6)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
116- 980	甕	SD03上層	—	(4.6)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
116- 981	甕	SD03上層(下)	—	(6.9)	内外面ナデ、J字形浮文	弥・前期後半		
116- 982	甕	SD03上層(下)	—	(6.2)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文	弥・前期後半		
116- 983	甕	SD03南側上層	—	(3.6)	内外面ナデ、有輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 984	甕	SD03上層(下)	—	(3.9)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、三角凸唇・無輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 985	甕	SD03上層	—	(3.4)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、三角凸唇・無輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 986	甕	SD03上層	—	(3.6)	内外面ナデ、無輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 987	甕	SD03上層(下)	—	(3.1)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 988	甕	SD03上層(下)	—	(1.7)	外曲調節不規、内面ナデ、無輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 989	甕	SD03下層	—	(4.0)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 990	甕	SD03上層(下)	—	(3.0)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、凹状文	苏・寄期後半		
116- 991	甕	SD03上層南	—	(3.5)	内外面ナデ、凹状文	苏・寄期後半		
116- 992	甕	SD03下層	—	(3.0)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条・有輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 993	甕	SD03上層(下)	—	(4.0)	内外面ナデ、有輪羽状文	苏・寄期後半		
116- 994	甕	SD03上層南側	—	(3.1)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、羽状文	苏・寄期後半		
116- 995	甕	SD03中～下層	—	(2.9)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文	苏・寄期後半		
117- 996	甕	SD03中～下層	—	(6.2)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117- 997	甕	SD03中層	—	(4.8)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117- 998	甕	SD03中～下層	—	(5.7)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117- 999	甕	SD03中層	—	(5.9)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1000	甕	SD03中層	—	(5.0)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、羽状文	弥・前期後半		
117-1001	甕	SD03中層	—	(4.2)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1002	甕	SD03中～下層	—	(3.3)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1003	甕	SD03中層	—	(1.0)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1004	甕	SD03中～下層	—	(3.4)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1005	甕	SD03中層	—	(3.6)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1006	甕	SD03中層	—	(4.4)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、羽状文	弥・前期後半		
117-1007	甕	SD03中層	—	(3.1)	外曲ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		

Fig.No	形	出土遺構	法 量(cm)		遺物の特徴	時 期	PL		
			口徑	底径					
117-1008	盃	SD03中～下層	—	—	(4.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
115-1009	盃	SD03中層	—	—	(5.3)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1010	盃	SD03中～下層	—	—	(2.8)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半		
117-1011	盃	SD03中～下層	—	—	(2.7)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、弦状文	弥・前期後半		
117-1012	盃	SD03中～下層	—	—	(2.2)	外面調整不明、内面ナデ	弥・前期後半		
117-1013	盃	SD03下層(T: P-6番)	—	—	(4.4)	外面調整不明、内面ナデ、底部沈線3条	弥・前期後半		
117-1014	盃	SD03上層	—	—	(5.3)	内外面ナデ、沈線1条、複合三角文?	弥・前期後半		
117-1015	盃	SD03上層	—	—	(2.7)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条	弥・前期後半		
117-1016	盃	SD03上層	—	—	(3.3)	外面ハケ後程いへラミガキ、内面ナデ、沈線3条、重板文	弥・前期後半		
117-1017	盃	SD03南側上層	—	—	(3.5)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条	弥・前期後半		
117-1018	盃	SD03上層	—	—	(3.4)	内外面ナデ、沈線1条、重板文	弥・前期後半		
117-1019	盃	SD03上層(下)	—	—	(2.7)	外面調整不明、内面ナデ、沈線2条	弥・前期後半		
117-1020	盃	SD03上層(下)	—	—	(3.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条、複合三角文	弥・前期後半		
117-1021	盃	SD03下層(下)	—	—	(2.9)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条、複合三角文	弥・前期後半		
117-1022	盃	SD03上層	—	—	(2.6)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、弦状文	弥・前期後半		
117-1023	盃	SD03中層	—	—	(4.0)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、底部沈線3条	弥・前期後半		
117-1024	盃	SD03中層	—	—	(5.4)	外内面ナデ、内面ナデ、三角凸部、沈線2条、お伏文	弥・前期後半		
117-1025	盃	SD03上層	—	—	(2.4)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条、重板文	弥・前期後半		
117-1026	盃	SD03中層	—	—	(5.1)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、重板文	弥・前期後半		
115-1027	盃	SD03中層	—	—	(3.5)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条、重板文	弥・前期後半		
117-1028	盃	SD03中～下層	—	—	(3.4)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条、複合文	弥・前期後半		
117-1029	盃	SD03中層	—	—	(4.7)	外面ヘラミガキ、内面ナデ、重板文	弥・前期後半		
117-1030	盃	SD03中層	—	—	(2.5)	内外面ナデ、複合線3条	弥・前期後半		
117-1031	盃	SD03中層	(32.8)	—	(25.4)	内外面ナデ、口縁端下部削み、口縁内面肥厚	弥・前期後半		
117-1032	盃	SD03下層(下)	(32.4)	—	(3.3)	内外面ナデ、口縁外面肥厚	弥・前期後半		
117-1033	盃	SD03中層	(23.0)	—	(5.5)	内外面ナデ、口縁端上・下部削み、口縁内面肥厚	弥・前期後半		
117-1034	盃	SD03中層	(32.8)	—	(6.0)	内外面ナデ、口縁端上・下部削み、口縁内面肥厚	弥・前期後半		
118-1035	盃	SD03中層	(45.2)	—	(9.2)	内外面ナデ、口縁端上・下部削み、山根内・外面肥厚	弥・前期後半		
118-1036	盃	SD03中層	(61.0)	—	(12.0)	外面ハケ後、内面ナデ、沈線3条、口縁内面肥厚	弥・前期後半		
118-1037	盃	SD03南側上層(T)	(60.4)	—	(14.0)	外面ハケ後ナデ、内面ナデ、沈線2条、口縁内面肥厚	弥・前期後半		
118-1038	盃	SD03中層(中～下)	—	—	8.2	(15.0)	外面ハケ後ナデ、内面ナデ、内底部折オサエ	弥・前期後半	
118-1039	盃	SD03中層	—	—	(6.4)	内外面ナデ、底部折オサエ	弥・前期後半		
118-1040	盃	SD03中層	—	—	(8.0)	内外面ナデ	弥・前期後半		
118-1041	盃	SD03中層	—	—	(7.9)	外面ヘラミガキ、内面ナデ	弥・前期後半		
118-1042	盃	SD03下層	(43.4)	—	(9.5)	内外面貝殻残条の後ナデ、口縁・底部凸部による削み、縫隙2箇所	綱・晚期終末	43	
118-1043	盃	SD03中層(中～下)	—	—	(10.3)	内外面ナデ、内面貝殻残条による削み	綱・晚期終末		
118-1044	盃	SD03上層(下)	(25.8)	—	(7.8)	内外面貝殻残条の後ナデ、口縁凸部削み	綱・晚期終末		
115-1045	盃	SD03下層	—	—	(5.2)	内外面貝殻残条の後ナデ、U字内面削み	綱・晚期終末		
118-1046	盃	SD03下層	—	—	(4.4)	内外面ナデ、口縁による削み	綱・晚期終末		
118-1047	盃	SD03下層	—	—	(4.4)	内外面貝殻残条の後ナデ、口縁・底部凸部による削み	綱・晚期終末		
118-1048	盃	SD03下層	—	—	(10.3)	内外面ナデ、内面貝殻残条による削み	綱・晚期終末		
118-1049	盃	SD03下層(中～下)	—	—	(8.5)	内外面貝殻残条の後ナデ、口縁・底部凸部削み	綱・晚期終末		
118-1050	盃	SD03南側上層	—	—	(9.4)	内外面上部ナデ、U字貝殻残条、内面ヘラミガキ	綱・晚期終末		
118-1051	盃	SD03下層	(35.2)	—	(27.1)	内外面貝殻残条の後ナデ、内面ナデ、口縁凸部削み	綱・晚期終末	43	
119-1052	盃	SD03下層(下)	—	—	(4.7)	内外面貝殻残条の後ナデ、内面ナデ、口縁内面削み	綱・晚期終末		
119-1053	盃	SD03上層(中～下)	—	—	(6.4)	内外面貝殻残条の後ナデ、内面ナデ、口縁・底部凸部削み	綱・晚期終末		
119-1054	盃	SD03上層(下)	(32.2)	—	(10.0)	内外面貝殻残条、内面貝殻残条の後ナデ、口縁凸部削みによる削み	綱・晚期終末		
119-1055	盃	SD03南側上層	(28.6)	—	(21.0)	内外面ナデ、口縁凸部折による削み	綱・晚期終末		
119-1056	盃	SD03下層	(26.0)	—	(6.5)	内外面貝殻残条の後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁凸部削み	綱・晚期終末		
119-1057	盃	SD03南側上層	(28.6)	—	(6.0)	内外面貝殻残条、内面ナデ、口縁凸部削み	綱・晚期終末		
119-1058	盃	SD03下層	(24.7)	—	(5.7)	内外面貝殻残条の後ナデ、内面ヘラミガキ、口縁凸部削み	綱・晚期終末		
119-1059	盃	SD03下層	(27.4)	—	(13.0)	内外面貝殻残条、内面貝殻残条の後ナデ、口縁凸部削み	綱・晚期終末		
119-1060	盃	SD03上層(下)	(23.0)	—	(14.4)	内外面ヘラミガキの後ナデ	綱・晚期終末	43	

Fig.No	形	出土状況	寸法(cm)			遺物の特徴	時期	PL
			上径	底径	高さ			
119-1061	深鉢	SD03南側上層	(20.6)	—	(13.0)	外周貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
119-1062	深鉢	SD03南側上層	(20.1)	—	(7.6)	外周貝殻条痕、内面ヘラナデ後ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	—
119-1063	深鉢	SD03南側中層	(21.6)	—	(14.5)	外周貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1064	深鉢	SD03南側上層(下)	—	—	(7.2)	外周貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1065	深鉢	SD03上層(下)	—	—	(5.0)	外周貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1066	深鉢	SD03中層	—	—	(12.8)	外周貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1067	深鉢	SD03下層(?)底面	—	—	(12.6)	外周貝殻条痕の後ナデ、ヘラナデ後ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1068	深鉢	SD03下層	—	—	(8.0)	貝殻条痕の後ナデ、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1069	深鉢	SD03南側上層	—	—	(3.2)	外周貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1070	深鉢	SD03下層	—	—	(4.9)	外周貝殻条痕の後ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1071	深鉢	SD03南側上層	—	—	(4.7)	外周貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラナデ後ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1072	深鉢	SD03下層	—	—	(8.0)	外周貝殻条痕、内面ナデ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	
120-1073	深鉢	SD03下層	—	—	(14.4)	外周貝殻条痕、内面貝殻条痕の後ナデ	晩・晚期終末	
120-1074	鉢	SD03上層南側	11.6	—	(6.3)	外周細いヘラミガキ、内面オサエ、口縁凸凹割込み	晩・晚期終末	43
120-1075	深鉢	SD03下層	—	8.2	(10.0)	外周ヘラナデ、内面ナデ、内底部オサエ	晩・晚期終末	
120-1076	深鉢	SD03下層(中~下)	(17.4)	—	(6.1)	内外面ナデ	晩・晚期終末	
120-1077	深鉢	SD03下層	(19.4)	—	(5.7)	外周貝殻条痕、内面貝殻条痕の後ナデ	晩・晚期終末	
120-1078	深鉢	SD03中層	27.8	—	(25.1)	内外面貝殻条痕の後ナデ	晩・晚期終末	43
120-1079	鉢	SD03下層	(16.2)	—	(7.5)	外面ナデ、内面ヘラナデ	晩・晚期終末	
120-1080	深鉢	SD03下層P115	28.2	—	(9.0)	外周ヘラミガキ、補修孔有	晩・晚期終末	44
120-1081	深鉢	SD03下層	24.8	—	(9.5)	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	44
120-1082	深鉢	SD03上層(?)	(26.3)	—	(5.9)	外周ナデ、内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
120-1083	深鉢	SD03下層	(23.1)	—	(4.8)	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
120-1084	深鉢	SD03下層(上)P64	(30.0)	—	(31.0)	外周ヘラミガキ	晩・晚期終末	44
121-1085	深鉢	SD03下層	(21.6)	—	(6.1)	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
121-1086	深鉢	SD03下層	(21.8)	—	(5.4)	外周ヘラミガキ	晩・晚期終末	
121-1087	深鉢	SD03下層	(24.0)	—	(4.7)	外周ヘラミガキ、補修孔有	晩・晚期終末	
121-1088	深鉢	SD03上層(?)	16.4	—	(4.8)	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
121-1089	深鉢	SD03下層	(20.8)	—	(5.5)	外周ヘラミガキ、体部は丸くなる	晩・晚期終末	
121-1090	深鉢	SD03下層P110-2	18.6	7.5	8.0	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	44
121-1091	深鉢	SD03中層	(14.6)	—	(4.6)	外周ヘラミガキ、内面ナデ	晩・晚期終末	
121-1092	深鉢	SD03P110	(13.1)	6.1	5.8	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	44
121-1093	深鉢	SD03下層	(16.0)	—	(5.0)	外周ヘラミガキ	晩・晚期終末	
121-1094	深鉢	SD03下層	(12.8)	6.0	7.8	内面ヘラミガキ、口縁下層	晩・晚期終末	
121-1095	深鉢	SD03中~下層	19.0	7.6	10.2	外周ヘラミガキ	晩・晚期終末	44
121-1096	深鉢	SD03下層	(16.9)	—	(7.8)	外周ヘラミガキ	晩・晚期終末	
121-1097	鉢	SD03中層(中~下)	20.3	11.4	11.7	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	44
121-1098	深鉢	SD03中層	—	(7.0)	(7.7)	外周貝殻条痕の後ナデ、内面ヘラミガキ、波状口縁	晩・晚期終末	
121-1099	深鉢	SD03下層	(30.0)	—	(7.7)	内面ヘラミガキ、波状口縫	晩・晚期終末	44
121-1100	深鉢	SD03下層	(28.6)	—	(5.5)	外周ヘラミガキ、波状口縫	晩・晚期終末	
121-1101	深鉢	SD03下層	(24.0)	—	(5.4)	内面ヘラミガキ、波状口縫	晩・晚期終末	
122-1102	鉢	SD03上層下	17.2	—	(6.1)	外周ヘラミガキ、丹塗り	晩・晚期終末	44
122-1103	鉢	SD03下層P-119	18.2	—	8.1	内面ヘラミガキ、丹塗り	晩・晚期終末	44
122-1104	鉢	SD03下層	22.2	—	(7.5)	内面ヘラミガキ、丹塗り	晩・晚期終末	
122-1105	鉢	SD03下層	18.4	—	6.2	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
122-1106	鉢	SD03下層	(13.0)	—	(5.6)	内面ヘラミガキ、丹塗り	晩・晚期終末	
122-1107	鉢	SD03下層	12.2	—	6.2	内面ヘラミガキ、丹塗り	晩・晚期終末	
122-1108	鉢	SD03下層	(11.8)	—	6.3	内面ヘラミガキ	晩・晚期終末	
122-1109	鉢	SD03下層	(14.2)	—	(5.5)	外周ヘラミガキ、内面ナデ、丹塗り	晩・晚期終末	44
122-1110	鉢	SD03下層	12.3	—	7.8	外周ナデ、内面前方尚のナデ、丹塗り	晩・晚期終末	44
122-1111	鉢	SD03下層P-111	13.4	4.8	9.3	外周ヘラミガキ、内面ヘラナデ複数いヘラミガキ、丹塗り	晩・晚期終末	44
122-1112	鉢	SD03下層P-119	13.6	—	7.7	内面ヘラミガキ、丹塗り	晩・晚期終末	
122-1113	深鉢	SD03中層	14.4	—	(9.1)	内面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ	早・前期前半	

Fig.No	部 形	出上邊機	法 線 (cm)			道 物 の 特 徴	時 期	PL	
			11倍	成形	25倍				
122-1114	※	SD03中層(中~下)	—	(10.9)	—	外面部へラミガキ、内面部ナデ、脚部へラケズリ後ナデ	織・晚期終水		
122-1115	※	SD03中層	—	(8.1)	—	外面部へラミガキ、内面部ナデ	織・晚期終水		
122-1116	※	SD03上層(F)	—	(8.2)	(13.1)	内面部ナデ、片乗り	織・晚期終水		
122-1117	※	SD03上層(F)	(24.4)	—	(12.5)	外面部横方向のナデ、内面部ナデ、脚部へラケズリ	織・晚期終水	44	
123-1118	※	SD03下層	16.3	—	(37.1)	内面部焼失前の後ナデ、口縫部横方向のナデ	織・晚期終水	44	
123-1119	※	SD03P-120	(16.3)	—	(7.8)	外面部へラミガキ、内面部へラケズリ後ナデ、123-1120と同一個体	織・晚期終水		
123-1120	※	SD03FMP-121	—	(8.8)	(9.2)	外面部へラミガキ、内面部へラケズリ後ナデ、123-1119と同一個体	織・晚期終水		
123-1121	※	SD03上層(F)	(16.3)	—	(7.1)	外面部へラミガキ、内面部へラケズリ、片乗り	織・晚期終水		
123-1122	※	SD03上層	(16.8)	—	(10.6)	外面部へラミガキ、片乗り	織・晚期終水		
123-1123	※	SD03F層	13.0	—	(7.9)	外面部へラミガキ、内面部頭部へラナデ、脚部ナデ、片乗り	織・晚期終水	44	
123-1124	※	SD03F層	(14.1)	—	(6.6)	外面部へラミガキ、月歯り	織・晚期終水		
123-1125	※	SD03下層	11.2	—	(13.8)	外面部ナデ、内面部頭部ナデ、脚部へラケズリ	織・晚期終水	44	
123-1126	※	SD03上層(F)	(9.3)	—	(5.6)	外面部へラミガキ、内面部ナデ、頭部三角白帯	織・晚期終水		
123-1127	ニニチュア垂	SD03下層(F)	116	4.4	2.9	外面部いいラミガキ、内面部ナデ	織・晚期終水	44	
123-1128	ニニチュア垂	SD03下層	—	—	(4.7)	外面部ナデ、内面部横方向のナデ、片乗り	織・晚期終水		
123-1129	鰐 口	SD03下層	—	—	(8.4)	外面部へラミガキ	織・晚期終水	44	
123-1130	高 仰	SD03上層(F)	—	—	(3.1)	外面部ナデ、内面部頭部ナデ、刻み目凸帯	織・晚期終水		
123-1131	※	SD03上層(F)	—	—	4.0	外面部ナデ、焼成跡の穿孔あり	迄・後期後半		
123-1132	雙	SD03上層(F)	(5.6)	—	(3.0)	外面部ハメ後ナデ、焼成跡の穿孔あり	迄・後期後半		
123-1133	輪 帆 帆	SD03上層(F)	(8.6)	—	(1.9)	外面部ナデ、内面部ハメ後ナデ	迄・後期後半		
124-1134	深 鮎	SD21	20.2	—	8.8	外面部黒斑条痕、内面部黒斑条痕の後ナデ	織・晚期終水	44	
124-1135	深 鮎	SD21	(30.8)	—	(7.6)	外面部ハメ後ナデ、内面部ナデ、口縫部横方向のナデ	古墳・前歴		
125-1136	深 鮎	SD34	—	—	(4.0)	外面部黒斑条痕の後ナデ、内面部ナデ、口縫部凸帯剥み	織・晚期終水		
125-1137	深 鮎	SD34	—	—	(4.7)	外面部ハメ後ナデ、内面部ナデ、口縫部横方向のナデ	織・晚期終水		
125-1138	深 鮎	SD34	—	—	(7.5)	外面部ナデ、内面部ナデ、底部穿孔	迄・前期前半	44	
125-1139	雙	SD34	(21.7)	7.7	27.8	外面部ナデ、口縫部部別	古墳・前歴		
125-1140	雙	SD34	(23.3)	—	(12.5)	外面部ハメ後ナデ、口縫部部別	迄・前期前半		
125-1141	雙	SD34上層	—	—	8.3	外面部ハメ、内面部ナデ、底部穿孔	迄・前期後半		
125-1142	雙	SD34下層	22.6	9.3	25.9	外面部ハメ後ナデ、内面部ナデ、口縫部穿孔剥み、突起部穿孔	迄・前期前半	44	
125-1143	雙	SD34上層	(33.0)	—	(25.4)	外面部ラミガキ、内面部黒ハケタナデ、脚部ナデ、井巻	迄・前期前半	39	
125-1144	※	SD34	—	—	(2.5)	外面部ハメ後ナデ、沈縫2条、複合三角文	迄・前期後半		
125-1145	雙	SD35	(32.6)	11.4	39.9	外面部ハメ、内面部ハメ後ナデ一部頭部に痕、頭部三角凸帯	迄・後期後半		
125-1146	雙	SD35	29.9	—	9.5	外面部ナデ、II脚部ハメ後ナデ	迄・後期後半		
126-1147	雙	SD35	—	—	(3.1)	外面部へラミガキか?、内面部ナデ、無輪羽状文	迄・前期後半		
127-1148	深 鮎	SD39	23.0	—	(14.0)	外面部ハメ後ナデ、口縫・脚部凸帯剥み	織・晚期終水	44	
127-1149	深 鮎	SD39	14.8	—	(8.8)	外面部黒斑条痕の後ナデ、内面部ナデ、口縫・脚部凸帯剥み	織・晚期終水		
127-1150	深 鮎	SD39	(24.3)	—	(7.3)	外面部黒斑条痕、内面部黒斑条痕の後ナデ	織・晚期終水		
127-1151	浅 鮎	SD39	(20.6)	—	(4.7)	外面部ハメ、内面部ハメ後ナデ一部頭部に痕、頭部三角凸帯	織・晚期終水		
127-1152	浅 鮎	SD39	(14.0)	—	(5.5)	外面部ハメ	織・晚期終水		
128-1153	※	SX12上層	10.4	(7.0)	19.1	外面部へラミガキ、内面部ナデ、口縫部曲面由厚壁、圓錐・有輪底秋文の彩文	迄・前期前半	39	
128-1154	※	SX12上層	—	—	(10.3)	外面部ラミガキ、内面部ナデ、波紋2条、綱織・複合2条、重羅文、彩文	迄・前期前半		
128-1155	※	SX13F層	—	—	5.6	(14.0)	外面部へラミガキ、内面部ナデ、口縫部欠け、圓錐・有輪底秋文の彩文	迄・前期前半	39
128-1156	雙	SD03上層(F)	(9.0)	—	(4.6)	外面部へラミガキ、内面部ナデ、口縫部欠け、圓錐2条及び複合の彩文	迄・前期後半		
128-1157	雙	SX08	(8.8)	—	(4.2)	外面部及び口縫部内面へラミガキ、内面部ナデ、協織及び都子文の彩文	迄・前期後半		
128-1158	※	SX11下層	—	—	(3.6)	内面部ナデ、圓錐・圓織1条の彩文	迄・前期後半		
128-1159	※	SX01下層	—	—	(3.6)	外面部へラミガキ、内面部ナデ、沈縫1条、圓錐6条の彩文	迄・前期後半		
128-1160	雙	SD02上層	—	—	(3.3)	外面部へラミガキ、内面部ナデ、舟縫・複合3角文を縫合で兼み彩文する	迄・前期後半		
128-1161	雙	SX12下層	—	—	(2.5)	外面部へラミガキ、内面部ナデ、沈縫1条、重羅文の彩文	迄・前期後半		
128-1162	※	SX12上層	—	—	(2.6)	外面部へラミガキ、内面部ナデ、圓錐の彩文	迄・前期後半		
128-1163	※	SX12上層	—	—	(2.9)	内面部ナデ、圓錐2条の彩文	迄・前期後半		
128-1164	浅 鮎	SD03中層	—	—	(1.3)	内面部へラミガキ、内面部ナデ、複合2角文・圓錐の彩文	織・晚期終水		
128-1165	※	SD03前灰色色シルト層	—	—	(3.5)	内面部へラミガキ、内面部ナデ、複合2角文・圓錐2条を彩文する	迄・前期後半		
128-1166	※	SX11	—	—	(8.6)	内面部へラミガキ、内面部ナデ、沈縫3条及び圓錐2条を彩文する	迄・前期後半		

Fig.No	形	出土遺構	法量 (cm)			遺物の特徴	時期	PL
			口径	底径	高さ			
129-1167	甕	SD03中層	—	—	(4.0)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、沈線2条及び有輪羽状文を彩文する	弥・前期後半	
129-1168	甕	SD03下層	—	—	(2.0)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、圓錐3条の彩文	弥・前期後半	
129-1169	高 环	B6包10層	(27.5)	—	(3.3)	外縁ヘラミガキ、口縁部内面に複線の彩文	弥・前期後半	
129-1170	高 环	SX12下層	—	—	(6.5)	外縁直行のナデ、内面ナデ、圓錐5条の彩文	弥・前期後半	
129-1171	甕	SK12	—	—	(2.4)	内面横方行のナデ、内面圓錐3条、外縁圓錐2条及び斜面の彩文	弥・前期後半	
129-1172	高 环	SX12中層	(29.1)	—	(3.0)	外縁ヘラミガキ、口縁部内面圓錐2条及び複線の彩文	弥・前期後半	
129-1173	高 环	SD03中層	—	(19.8)	(5.8)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ後ナデ、圓錐6条の彩文	弥・前期後半	
129-1174	洗 鋸	SD03下層P-118	20.6	8.2	8.0	外縁ヘラミガキ、口縁部内面に彩文	高・晚期後半	43
130-1175	甕	C4包10層	(18.2)	—	(2.6)	外縁横方行のナデ、内面ナデ、口縫部を二角形に作りだす	弥・前期後半	
130-1176	甕	C4包10層	—	—	(6.8)	外縁横方行のナデ、内面ナデ、口縫部を二角形に作りだす	弥・前期後半	
130-1177	甕	C4包10層	—	—	(3.5)	外縁横方行のナデ、内面ナデ、口縫部を二角形に作りだす	弥・前期後半	
130-1178	甕	C4包10層	—	—	(6.5)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文	弥・前期後半	
130-1179	甕	D3包10層下	—	—	(5.5)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1180	甕	C3包10層	—	—	(3.8)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、有輪羽状文	弥・前期後半	
130-1181	甕	D3包6層下	—	—	(6.9)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1182	甕	B6包10層	—	—	(6.6)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1183	甕	C4包10層	—	—	(4.3)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1184	甕	C4包10層	—	—	(5.2)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1185	甕	C4包10層	—	—	(3.4)	外縁ヘラミガキか?、内面ナデ、圓錐羽状文	高・前期後半	
130-1186	甕	C3包10層	—	—	(2.6)	外縁調整不明、内面ナデ、無輪羽状文	高・前期後半	
130-1187	甕	C4包10層	—	—	(3.1)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、北緯3条、無輪羽状文	高・前期後半	
130-1188	甕	C3包10層	—	—	(3.5)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	高・前期後半	
130-1189	甕	C4包10層	—	—	(3.6)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	高・前期後半	
130-1190	甕	C5包10層	—	—	(3.3)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、羽状文	弥・前期後半	
130-1191	甕	C6包8層	—	—	(4.3)	外縁調整不明、内面ナデ、羽状文	弥・前期後半	
130-1192	甕	D5包10層	—	—	(3.1)	外縁調整不明、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1193	甕	D3包10層	—	—	(3.1)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1194	甕	C3包10層	—	—	(3.9)	外縁調整不明、内面ナデ、無輪羽状文	弥・前期後半	
130-1195	甕 鋸	C6包8層	—	—	(3.9)	外縁具鉢条直、内面ナデ、11cm内面丸み	高・晚期後半	
130-1196	甕	SD03南面上層	—	—	(4.0)	外縁調整不明、内面ナデ、紙判有	弥・前期後半	
130-1197	甕	SD02セクション中層	—	—	(1.7)	外縁調整不明、内面ナデ、紙判有	弥・前期後半	
130-1198	甕	SD02中層	—	—	(2.5)	外縁ヘラミガキ、内面条倣の後ナデ、匯合三角文	弥・前期後半	
130-1199	甕	C4包10層	—	—	(2.6)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、凸面2条1対、浮文	弥・前期後半	
130-1200	甕	C4包10層	—	—	(2.1)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、凸面2条1対、浮文	弥・前期後半	
130-1201	ジヤウ形土器	T8鉢包	—	(13.8)	(7.0)	外縁ナデ、内面ナデ、内面ハケメ後ナデ	弥・後期後半	
130-1202	ジヤウ形土器	C6包10層	—	14.9	(7.3)	内面ナデ	弥・後期後半	
130-1203	ジヤウ形土器	T8鉢包	—	(11.7)	(7.6)	内面ナデ	弥・後期後半	
130-1204	ジヤウ形土器	D3包6層上	—	13.9	(7.0)	外縁ナデ、内底部接継部直	弥・後期後半	44
130-1205	ジヤウ形土器	D3包6層上	—	8.4	(5.3)	内面ナデ	弥・後期後半	44
130-1206	ジヤウ形土器	C7包10層下	—	(13.3)	(8.1)	外縁ナデ、T具病有、内面上部ハケメ後ナデ・下部ナデ	弥・後期後半	
130-1207	ミチアフリカ	SD02中層	—	—	(4.9)	外縁ハケメ後ナデ	弥・後期後半	41
130-1208	甕	SD02A群	(9.8)	—	(2.3)	外縁ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
130-1209	甕	C5包10層	10.8	—	3.6	外縁ナデ	弥・後期後半	
130-1210	甕	B6包10層	—	—	(3.6)	外縁ナデ、兔川式土器	弥・後期後半	
130-1211	甕	SD03上層	—	6.2	(3.9)	外縁ハケメ、内面ナデ、内底部直直	弥・後期後半	
130-1212	甕	SD03上層	—	—	(0.9)	外縁ハケメ後ナデ、内面ナデ	弥・後期後半	
130-1213	甕	B6包10層	(9.0)	—	(6.0)	内面ナデ	弥・後期後半	
131-1214	高 环	SD03中層	—	—	(4.8)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、沈線6本、列点文	弥・後期後半	
131-1215	高 环	B5包10層	—	—	(4.9)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、沈線9条、列点文、円形透し	弥・後期後半	
131-1216	高 环	T8鉢包	—	—	(2.3)	外縁ヘラミガキ、内面ナデ、沈線3条、列点文、円形透し	弥・後期後半	
131-1217	鉢	SD02下層	—	—	(4.9)	内外面ナデ、沈線2条・3列、網突列点文	弥・後期後半	
131-1218	鉢	SD02中層	—	—	(4.7)	内外面ナデ、沈線2条・3列、網突列点文	弥・後期後半	
131-1219	鉢	B4包10層	—	—	(2.8)	内外面ナデ、半抜竹管突列点文	弥・後期後半	

Fig.No	器 形	出上遺物	法 番 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			11横	底径	器高			
131-1220	二重口縁釜	SD03南面上層(下)	—	—	(2.1)	外面横方行のナデ、沈縫2条以上をもたらせる	弥・後期後半	
131-1221	釜	SD03上層(下)	—	—	(3.9)	内外面ハケメ縁ナデ、沈縫7条、繩彌波状文	弥・後期後半	
131-1222	釜	SD03上層	—	—	(4.1)	内外面ナデ、繩彌波状文	弥・後期後半	
131-1223	釜	SD03上層	—	—	(4.4)	内外面ハケメ縁ナデ、沈縫7条、繩彌波状文	弥・後期後半	
131-1224	釜	SD02上層	—	—	(8.4)	内外面ナデ、凸縁1条、斜突文	弥・後期後半	
131-1225	釜	B5包10層	—	—	(6.0)	内外面ナデ、凸縁1条、斜突文	弥・後期後半	
131-1226	釜	B5包10層	—	—	(5.8)	内外面ナデ、凸縁1条、斜突文	弥・後期後半	
131-1227	釜	T8底縁確認	—	—	(7.2)	外面ハケメ後ナデ、内面ナラケズリ、繩刻文(電か?)	弥・後期後半?	
131-1228	二重口縁釜	SD02中層	(24.6)	—	(6.4)	内外面横方行のナデ、繩彌波状文、口縁存文に竹管文、口縁下刻み	弥・後期後半	
131-1229	二重口縁釜	B5包10層	—	—	(4.4)	内外面ナデ、沈縫4条、繩彌波状文、腹部凸筋刻み	弥・後期後半	
131-1230	二重口縁釜	SD02上層	(28.2)	—	(4.8)	内外面ハケメ、口縁部凹形存文に竹管文、口縁内面繩彌波状文	弥・後期後半	
131-1231	釜	SD02下層	—	—	(2.5)	内外面横方行のナデ、口縁部竹管文、浮文、繩彌波状文	弥・後期後半	
131-1232	釜	SD02下層	—	—	(3.0)	外面ハケメ、内面ナデ、内形浮文	弥・後期後半	
131-1233	釜	SD03上層	—	—	(7.3)	内外面横ナデ、瓦實土質	弥生・古墳	
131-1234	釜	SD02下層	—	—	(3.1)	外面ハケメ、凸縁下ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、凸縁1条	弥・後期後半	
131-1235	釜	D5包8層	—	—	(6.1)	内外面ナデ、成痕摩擦孔	弥・後期後半	
131-1236	釜	B6包8層	—	—	(4.5)	内外面横ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1237	釜	B4包10層	—	—	(5.6)	内外面横ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1238	釜	C3包10層	—	—	(5.1)	内外面ナデ、沈縫5条、繩席文	弥・後期後半	
131-1239	釜	D4包10層	—	—	(4.2)	内外面ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1240	釜	SD02下層	—	—	(5.1)	外側ヘラテナデ後ナデ、内面ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1241	釜	SD02下層	—	—	(4.7)	内外面ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1242	釜	SX04下層	—	—	(2.8)	内外面ナデ、沈縫3条、繩席文	弥・後期後半	
131-1243	釜	SD02中層	—	—	(2.6)	内外面ナデ、沈縫3条、繩席文	弥・後期後半	
131-1244	釜	SD02下層	—	—	(5.6)	内外面ナデ、沈縫4条、繩席文	弥・後期後半	
131-1245	釜	T8底包	—	—	(4.0)	内外面ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1246	釜	SD02下層	—	—	(2.3)	内外面ナデ、沈縫2条、繩席文	弥・後期後半	
131-1247	釜	SD02下層	—	—	(3.8)	内外面ナデ、沈縫4条、繩席文	弥・後期後半	
131-1248	釜	T8底包	—	—	(6.2)	内外面ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1249	釜	SD03南面上層(下)	—	—	(6.7)	内外面ナデ、繩席文	弥・後期後半	
131-1250	釜	C5包10層	—	—	(5.4)	内外面ナデ、沈縫2条、繩席文	弥・後期後半	
131-1251	釜	D4包8層	—	—	(5.0)	外表面格子タキ、内面ナオサエ後ナデ	弥・後期後半	
131-1252	釜	D4包8層	—	—	(3.8)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1253	釜	C5包10層	—	—	(2.5)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1254	釜	D4包10層	—	—	(1.8)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1255	釜	D3包10層	—	—	(3.9)	外表面格子タキ後ヘラカキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1256	釜	SD03上層	—	—	(4.5)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1257	釜	D4包8層	—	—	(3.3)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1258	釜	D4包8層	—	—	(3.4)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1259	釜	C4包10層	—	—	(3.2)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
131-1260	釜	SD03上層	—	—	(4.8)	外表面格子タキ、内面ナデ	弥・後期後半	
132-1261	甕	C4包10層	(32.0)	—	(4.4)	外面横方行ナデ、内面ハケメ後ナデ、口縁部浮子文	弥・後期後半	
132-1262	二重口縁釜	T8底包土	(32.0)	—	(5.3)	外面ハケメ後ナデ、内面ハケメ、連続山形文	弥・後期後半	
132-1263	二重口縁釜	B5包10層	(29.7)	—	(4.1)	内外面ナデ、口縁部横方行のナデ、連続山形文	弥・後期後半	
132-1264	二重口縁釜	B5包10層	(28.6)	—	(6.0)	内外面ナデ、口縁部横方行のナデ、連続山形文	弥・後期後半	
132-1265	二重口縁釜	B5包10層	(29.5)	—	(3.9)	外面ハケメ後ナデ、内面ナデ、口縁部横方行のナデ、連続山形文	弥・後期後半	
132-1266	二重口縁釜	B5包10層	(28.1)	—	(2.5)	内外面横方行のナデ、連続山形文	弥・後期後半	
132-1267	二重口縁釜	B5包10層	—	—	(3.8)	内外面横方行のナデ、連続山形文	弥・後期後半	
132-1268	二重口縁釜	B5包10層	—	—	(2.5)	内外面横方行のナデ	弥・後期後半	
132-1269	二重口縁釜	C6包10層	—	—	(5.5)	内外面ハメ、口縁部横方行のナデ、連続山形文を継ぎて残る	弥・後期後半	
132-1270	釜	D3包10層	19.2	—	5.6	外面ハケメ、内面ナデ	弥・後期後半	
132-1271	釜	C4包10層	(15.1)	—	6.8	外面ナデ、内面ハケメ	弥・後期後半	
132-1272	二重口縁釜	C4包10層	(35.8)	—	(30.7)	外面ハケメ後ナデ、内面底部ハケメ、腹部ナデ、腹部凸筋	弥・後期後半	

Fig.No	器 形	出土遺物	底 端 (cm)	遺 物 の 特 徴		時 期	PL
				口 直	底 径		
132-1273	瓶	D2直10層	—	2.2 (7.5)	内外面ともにハケメ、内外部頭へラナデ	第・後期後半	
132-1274	瓶	C6直10層	—	3.0 (4.6)	外腹底部ヘラナデ、内面ハケメ後ナデ	第・後期後半	
132-1275	小型丸底壺	C4直10層	6.5	—	6.8 外腹ヘラミガキ、内面指おさえ後ナデ	古墳・前期初頭	
132-1276	ミニチュア壺	B3直10層	—	2.4 (4.4)	外腹ともに指おさえ、外腹側部に質造しない小穴有	第・後期後半	
132-1277	手 接 鍋	B4直10層	6.7	2.6	4.9 外腹ともに指おさえ	第・後期後半	
132-1278	手 接 鍋	D2直8層	7.3	4.0	3.5 内腹指おさえ	第・後期後半	
132-1279	手 接 鍋	D4直10層	7.0	3.7	4.5 外腹指おさえ、内腹指おさえ後ナデ	第・後期後半	
132-1280	手 接 鍋	D2直10層	4.6	2.3	3.5 外腹指おさえ、内腹ナデ	第・後期後半	41
132-1281	手 接 鍋	D2直8層	4.1	2.9	3.2 外腹ナデ、内腹指おさえ	第・後期後半	
132-1282	手 接 鍋	B6直10層	(4.2)	1.8	2.9 内外腹ともに指おさえ	第・後期後半	
132-1283	手 接 鍋	C4直10層	(4.3)	3.3	3.9 内外腹ともに指おさえ	第・後期後半	
132-1284	手 接 鍋	C4直10層	6.8	—	3.5 内外腹ともに指おさえ	第・後期後半	
132-1285	手 接 鍋	C4直10層	4.5	—	4.9 内外腹ともに指おさえ	第・後期後半	
132-1286	手 接 鍋	B6直10層	5.6	—	3.8 内外腹ともに指おさえ	第・後期後半	
132-1287	土 壁 器 体	D8直10層	10.8	—	4.8 内外腹ヘラミガキ	古墳・前期	
132-1288	土 壁 器 体	D4直10層	13.2	—	(5.2) 外腹ハケメ後ナデ、内腹ナデ	古墳・前期	
132-1289	須 変 器 類	D3直10層	(9.0)	—	(3.45) 内腹指ナデ、ロ線彫刻波状文	古墳・後期	
132-1290	須 変 器 類	D4直10層	(13.2)	—	4.4 内腹ともに指ナデ、外腹底部凹回ヘラケメリ	古墳・後期	
132-1291	須 変 器 類	D2直10層	(11.6)	—	4.8 内外腹ともに指ナデ、外腹底部凹回ヘラケメリ	古墳・後期	
133-1292	鏡 型 か?	SD02C3下層			残長4.4、残幅4.4、残厚2.3、口菱形状の型板である	第・後期後半	
133-1293	ガラス玉+墨	C6直8層			残長3.5、最大幅3.35、最大厚1.6、石井先石丸芯か、赤鉄	第・後期後半?	
133-1294	ガラス玉+墨	X11直1下層			径0.4、高さ0.4、孔径0.15、ノバルトルーペ、細かな気泡が入る	第・後期後半?	
133-1295	ガラス玉	C7直10層			径0.3、石井0.1、柱状、やや方形気味	第・後期後半?	
133-1296	劍	II区SP124			残長3.7、身段大幅0.9、身段大厚0.4、茎の両端は衝撃で歪形	第・後期後半	
133-1297	劍	SD03D7上層(下)			残長4.6、身段大幅0.1、身段大厚0.1、基部崩損、盤平な作り	第・後期後半	
133-1298	劍	SD02C3下層			全長4.3、身段大幅0.1、身段大厚0.4、軽量な作りで薄く、赤鉄色	第・後期後半	
133-1299	劍	D3直10層			全長5.0、身段大幅0.5、身段大厚0.5、茎部を2つに分けて、鋒化が激しい	第・後期後半	
133-1300	劍	SD03E7上層			残長2.6、最大幅1.7、最大厚0.3、断続線を少し網状は良い	第・後期後半	
133-1301	手 兵 壕	SD02C3下層			残長3.2、残幅2.5、最大厚0.35、端部は肥厚する、手斧の袋部分か	第・後期後半	
133-1302	鍛 造 鍔	D2直6層(下)			残長6.3、残幅4.0、最大厚0.9、鍔が進んで芯部部分が複数	第・後期後半?	
133-1303	手 兵 か?	SX08B6.7中層			残長4.9、最大幅0.3、最大厚0.4、骨董品、ノミの指部を利用した手斧か	第・後期後半?	
133-1304	骨 類 品	SD02下層			全長10.4、幅0.1、高0.1、孔径0.1、厚さ0.3、全周に水銀朱書き	第・後期後半	
134-1205	漆 手 筷	SD03E7下層			15.6.0、最大厚2.7、最小孔径0.4、部分的に映斑磨している	漆・晚期鉄火	
134-1206	漆 手 筷	SD03C6上層			径4.9、高さ3.3、最高孔径0.5、上部の笠部に腐くなる	漆・晚期鉄火	
134-1207	漆 手 筷	SD03C6下層			径4.1×4.3、高さ3.1、最小孔径0.3、内側に漆斑が高くなる、ヘリカキ	漆・晚期鉄火	
134-1208	漆 手 筷	SD03C6中層			径5.1×5.0、最大厚0.4、孔径0.3、下部の笠部にヘリカキの漆斑	漆・晚期鉄火	
134-1209	漆 手 筷	SD03E7下層			径5.1×5.0、最大厚1.3、孔径0.6、丁寧な作りでやや厚みがある	漆・晚期鉄火	
134-1210	漆 手 筷	SD03C6I1層			径5.7×5.9、最大厚1.5、孔径0.6、断面が船底形をなす	漆・後期後半	
134-1211	漆 手 筷	SD03D7上層			径5.8、最大厚1.3、孔径0.4、部分的に映斑	漆・後期後半	
134-1212	漆 手 筷	SD03上層			径6.3×5.2、最大厚0.9、孔径0.9、端部で舟形をなす	漆・後期後半	
134-1213	漆 手 筷	SX04B6上層			径4.1、最大厚1.6、孔径0.6、やや好みのあと作り	漆・後期後半	
134-1214	青盤彩土器皿	SX04上層			径6.9、最大厚0.8、最小孔径0.4、崩れ壊れ	漆・前中期後半?	
134-1215	漆 手 筷	C3直10層			径3.6×3.4、孔径0.6、厚1.1、感誠が美しい	漆・後期後半?	
134-1216	漆 手 筷	T8粘合色層			径3.3、最大厚0.9、孔径0.4、小形で粗雑な作り?	漆・後期後半	
134-1217	漆 手 筷	C7直10層下			径3.4×3.3、最大厚1.3、孔径0.6、孔の上端が盛り上がる	漆・後期後半	
134-1218	土 紙	SD03上層下			最大径5.2、最大厚1.7、口径0.9、明灰褐色角手の作り	漆・後期後半	
134-1219	漆 手 筷	SX04B6下層			径5.2、最大厚1.4、孔径0.5、断面が圓筒形を有する	漆・後期後半	
134-1220	漆 手 筷	SD03B7上層			径4.9×5.0、最大厚1.3、孔径0.8、淡褐色	漆・後期後半	
134-1221	漆 手 筷	SD03漆上層(下)			径5.1、最大厚0.9、孔径0.6、片側が中央で盛り	漆・後期後半	
134-1222	漆 手 筷	SX04B6下層			(径0.7)最大厚0.6、孔径0.5、硬質土器片を再加工したもの	漆・前中期後半	
134-1223	青盤彩土器皿	SD03南側上層			径3.6、最大厚1.4、朱生菊瓣形の局部利用、周辺研磨か	漆・前中期後半	
134-1224	青盤彩土器皿	SX12B5下層			径4.6×3.8、最大厚0.7、朱生前脚盾形局部利用	漆・前中期後半	
134-1225	青盤彩土器皿	SX04B6上層			径4.0×3.3、最大厚0.8、朱生後脚盾形利用	漆・後期後半	

Fig.No	器 形	出土遺構	法 績 (cm)			遺 物 の 特 徴	時 期	PL
			11径	底径	高さ			
134-1326	円錐形土製品	SD03E7上層				径5.1×高4.9、最大厚0.8、南朝期使用か	弥・南朝後半	
134-1327	円錐形土製品	SD02C3下層				径5.0、最大厚0.8、半折し所滅している	弥・後期後半	
134-1328	円錐形土製品	SD03J1上層				径5.5×高4.9、最大厚0.65、南朝期の使用か	弥・後期後半?	
134-1329	円錐形土製品	SD03D7上層下				径5.5、最大厚0.8、後期焼成用	弥・後期後半	
135-1330	円錐形土製品	SX12C4上層				径5.6×高4.6、最大厚1.3、外面にたき痕、後期中型焼成用か	弥・後期後半	
135-1331	円錐形土製品	SD03H7上層下				径5.4×高5.6、最大厚1.6、後期變片利用	弥・後期後半	
135-1332	円錐形土製品	SD03D7上層下				径6.7×高6.3、最大厚0.8、後期焼成用、裏にもハケメ有	弥・後期後半	
135-1333	円錐形土製品	SX08上層				径5.5×高5.3、最大厚0.7、表面に桜斑有	弥・後期後半	
135-1334	円錐形土製品	SD03H7上層下				径5.1×高3.3、最大厚1.6、後期大型体部利用	弥・後期前半	
135-1335	匙形土製品	SD09C4上層				残長8.2、最大幅3.3、把手と茎部を欠失	弥・後期後半	
135-1336	匙形土製品	SD03E7上層下				残長4.9、最大幅3.8、把手と茎部を欠失	弥・後期後半	
135-1337	匙形土製品	SD03D7上層下				残長5.2、最大幅3.8、把手と茎部を欠失	弥・後期後半	
135-1338	土 瓶	SD03F7下層				全長4.8、最大幅2.6、把手2.4、孔径0.6、肩は丸みを帯びる	弥・初期後半か?	
135-1339	土 瓶	T15下				全長5.3、幅3.0、厚1.5、孔径0.3、切口は縦縫が先	弥・前期後半	
135-1340	土 瓶	SD03B8上層				全長4.4、最大幅2.8、最大厚1.6、孔径0.5、縁辺に十字の切れ口	弥・初期後半	
135-1341	土 瓶	SD03B7上層				残長6.5、最大幅3.8、孔径0.6、口0.7、石綱を土綱で接した物	弥・後期後半	
135-1342	土 瓶	C3包10割				残長3.4、最大幅3.0、把手と茎部を欠失	弥・後期後半?	
135-1343	匁状土製品	SD03C6上層				全長2.9、体最大幅1.1、体最大厚0.9、孔径0.3、腹方向に乳突有	弥・前期後半	
135-1344	横 釜	D2包8層				長さ5.3、幅4.7、最大厚1.7、孔0.6×0.4、粗縫な作りで歪つ	古墳・前期前半	
135-1345	土 玉	D3包8層				最大径0.9、最小0.9、孔径0.1、淡灰褐色～灰黑色、胎土焼良	弥・後期後半?	
135-1346	土 玉	C7包16層下				最大径0.9、孔径0.3、最大厚0.9	弥・後期後半	
135-1347	土 玉	SD03B7上層				最大径0.7、厚0.5、孔径0.1、褐色を呈し、胎土精良	弥・後期後半	
135-1348	被 羽 口	C3包10層				残長5.2(口部部分)復元径5.0、厚1.4、先端部に岸が縮着	弥・後期後半	
136-1349	投 漆	SD03E7上層下				全長4.9、最大幅2.7、径が大きい側には両先端尖る	弥・後期後半	
136-1350	投 漆	SD03南区上層下				全長4.6、幅2.3、底色を輕く。胎土轉黄、両端に平たん面有	弥・後期後半	
136-1351	投 漆	SC05田区上層				全長4.2、最大幅2.4、褐色で胎土轉良	弥・後期後半	
136-1352	投 漆	SD09C3中層				全長4.3、幅2.7、厚2.5	弥・後期後半	
136-1353	投 漆	B4包10層				全長4.1、最大幅2.4、クラックがあり破損しかけている	弥・後期後半	
136-1354	投 漆	SD05G6南区壁面(11層)				残長4.1、最大幅2.5、發光色、一部破損	弥・後期後半	
136-1355	投 漆	SD02C3上層				全長3.7、最大幅2.1、灰色～黒色	弥・後期後半	
136-1356	投 漆					全長3.6、最大幅2.0、最大厚2.0	弥・後期後半	
136-1357	投 漆	SC05B6				全長3.7、最大幅2.3、淡灰褐色を呈し、胎土精良	弥・後期後半	
136-1358	投 漆	D3包6層上				全長3.6、最大幅2.1、後褐色、一部破損	弥・後期後半	
136-1359	投 漆	SD02C3下層				残長3.6、最大幅2.3、淡灰褐色、一部破損	弥・後期後半	
136-1360	投 漆	SD02C3下層				残長3.9、残径2.2、灰褐色、約半分残存	弥・後期後半	
136-1361	土 玉	B5包10層				全長2.9、最大幅0.6、厚2.3	弥・後期後半か	
136-1362	土 玉	B3包10層				全長3.5、幅3.3、厚3.0、一部欠損	弥・後期後半か	

2) 石器 (Fig. 137~151)

今回の調査では、コンテナ30箱ほどの多量の石器が出土しているが、今回は代表的なものを選択して図示した。石器の種類としては、磨製石鎌、磨製石剣、各種片刃石斧、蛤刃石斧、石庖丁、石鎌、砥石、磨石などの磨製石器類と、石鎌、削器、二次加工のある剝片や剥片、石核などの打製石器類がある。とくに黒曜石を主体とする剝片と石核はSD03を中心としておびただしい量が出土していたが、ここでは紹介していない。なお、出土量の計数や石器製作の構造的分析は時間の都合で割愛せざるを得なかった。

磨製石鎌 細身の柳葉形のものと平基の菱形や打製石鎌形のものがある。1369は石剣の再加工品の可能性がある。時期が判明しているものは縄文時代晚期終末に属する。

磨製石剣 すべて欠損しているが、頁岩と片岩系の石材を使用した2者がいる。ほとんどが縄文晚期終末に属する。

石庖丁 外湾刃の石庖丁である。1381のような特異な形態のものもある。また、1388は無孔の五角形の特異な形態の穂摘具である。両側端を凹形に面取りしている。石材は縄文時代晚期終末期のものが砂岩を多用するのに対し、弥生時代後期後半になると輝緑岩灰岩が使用されるようになるのが特徴である。1376は砂岩製の石庖丁の未製品である。外湾する側辺に両面から調整剝離を加えているが、研磨していない。紐通し孔も貫通していない。縄文晚期終末の資料である。1389も石庖丁の未製品の可能性がある。

石鎌 内湾刃の石鎌である。光形の1394は縄文時代晚期終末期のものであるが、他は弥生時代前期後半の資料が多い。1390は両側辺に両面から打撃によって刃部を形成しているが、研磨しておらず他の機能を果たした可能性もある。

偏平片刃石斧 (小型石斧) 肉厚の厚さ1cm以上の幅広の製品と1cm以下の幅の狭い薄手の驚刃状の製品がある。ほとんどが白色の風化面をもつ頁岩を素材としているが、まれに緑色の光沢のある頁岩を素材としたものもある。1410は肉厚幅広のタイプの製品の側辺部の破片を再利用したものである。また、1415は玄武岩製の太形蛤刃石斧から剥落した破片を再研磨して小型の石斧に仕上げている。刃は両刃である。また、1414は手ごろな板状の河原礫の一端を磨いて刃部を形成した製品で、1417も同じようにして作られている。弥生時代後期後半の遺構からの出土品もあるが、その大半は縄文時代晚期終末を中心とした時期に属する。

柱状挿入片刃石斧 時期は縄文時代晚期終末～弥生時代前期に属するものと考えられる。

蛤刃石斧 本調査地点出土の15cm以上の大型の石斧は、1423のような断面形が梢円形を呈する重厚な蛤刃石斧と1418に代表されるような幅広の刃をもち、偏平に近い薄手の蛤刃石斧に分かれる。石材は、重厚なタイプに主に表面が白色に風化し、場合によっては粉状に表面が剥落していくような玄武岩(安山岩)が使用され、偏平なタイプに暗緑色～暗青色もしくは淡緑色の玄武岩が使用されているという、石材による形態の違いが認められる。また、重厚な蛤刃石斧は敲打痕がほとんど認められないくらい研磨されているのに対し、偏平な石斧は刃部以外の部分に整形剝離や敲打の痕跡を残したものである。時期的には縄文時代晚期終末に属するものが多い。

1418は木製の柄に装着された状態で出土した製品であるが、左側辺部に着柄のために削り取った痕跡が認められる。この傷跡は後述する石斧軸用の加工工具の刃部に残される痕跡とよく似ている。

石斧再利用加工工具 石斧の破損品を再利用して、敲打もしくは削りに使用したと思われる石器である。頭部もしくは先端部の棱線が潰れて丸くなっていたり、頭部に剝離痕跡を残すものもある。また、

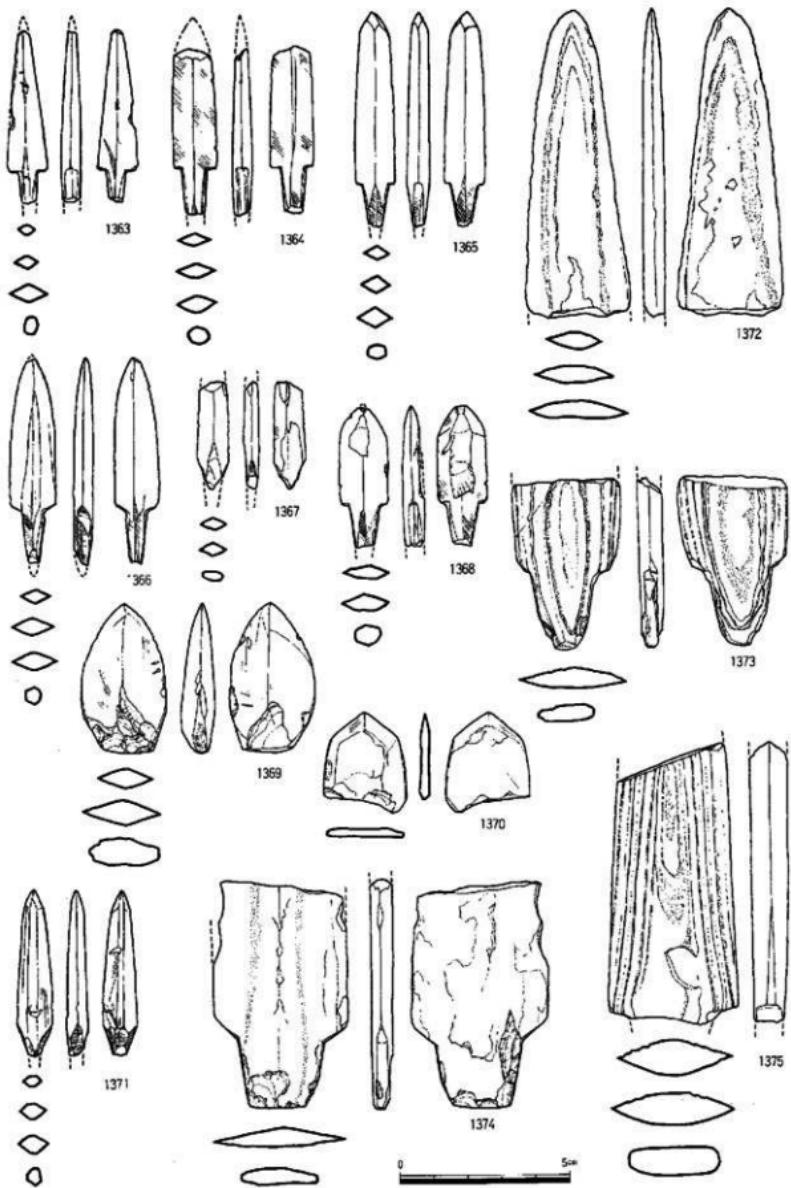


Fig.137 石器実測図①(2/3)

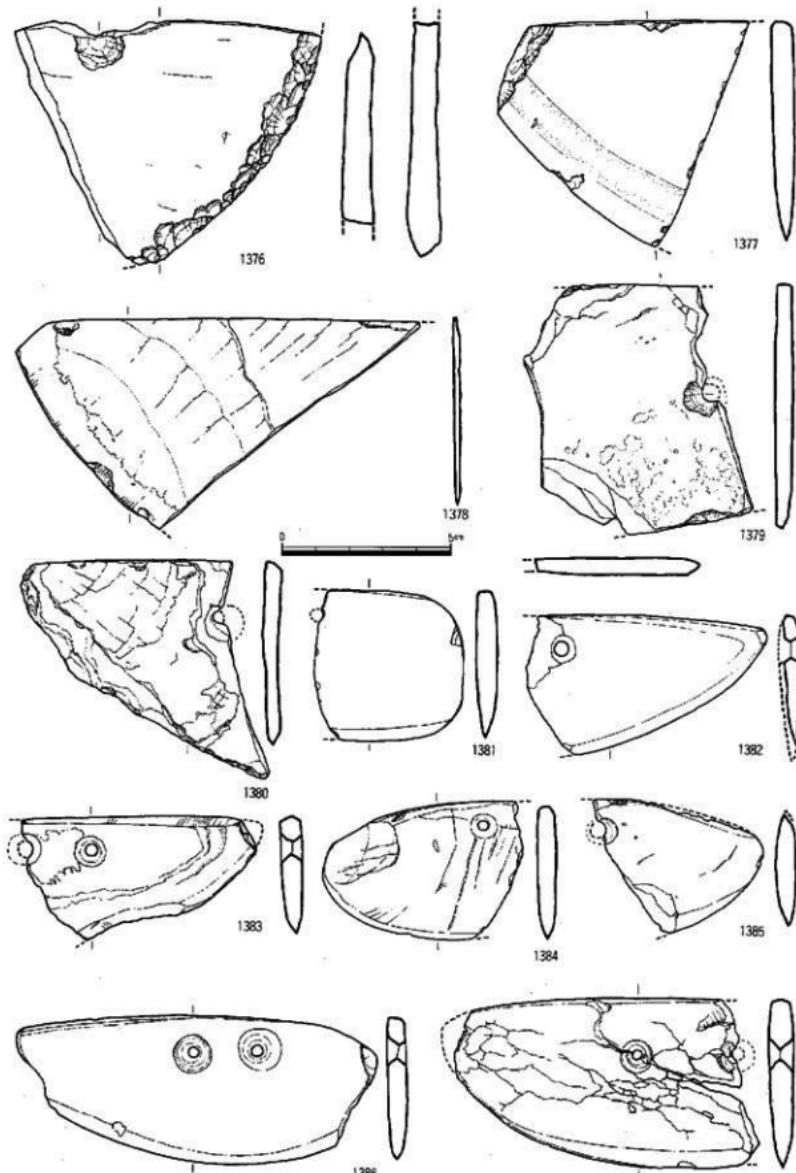


Fig. 138 石器実測図(2/3)

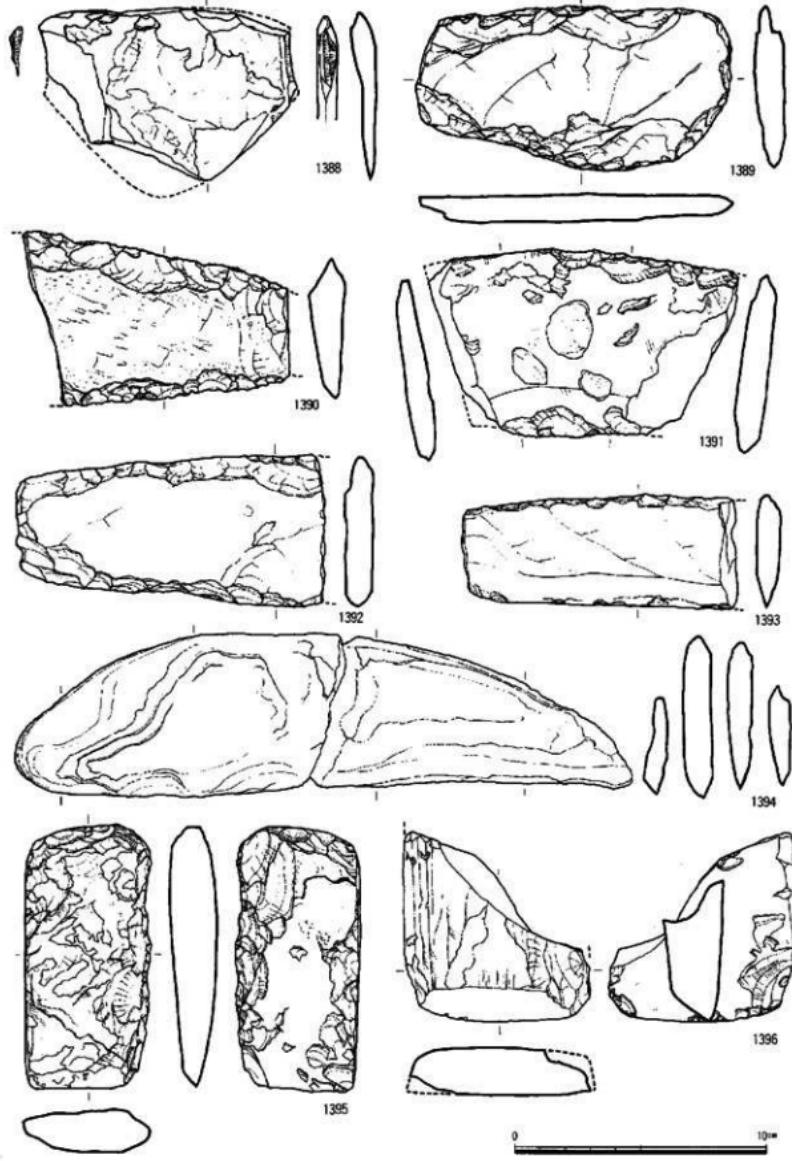


Fig.139 石器実測図③(2/3)

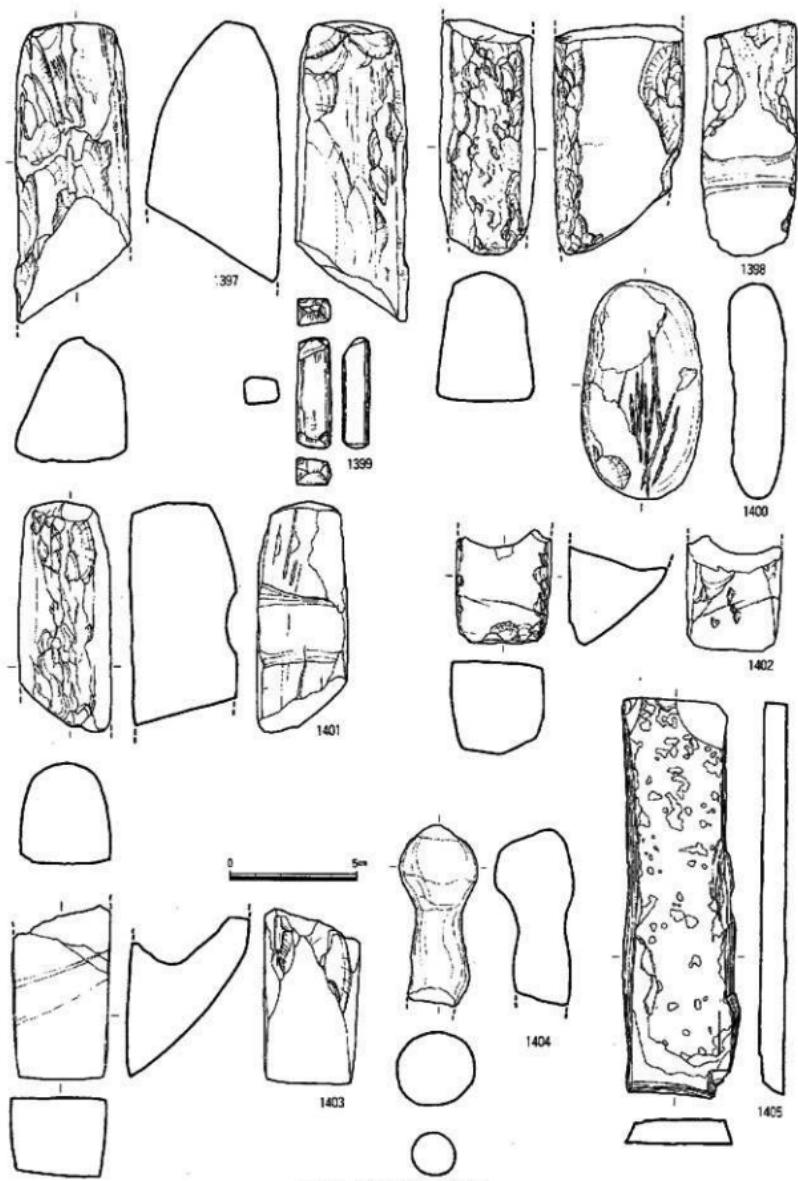


Fig.140 石器実測図④(2/3)

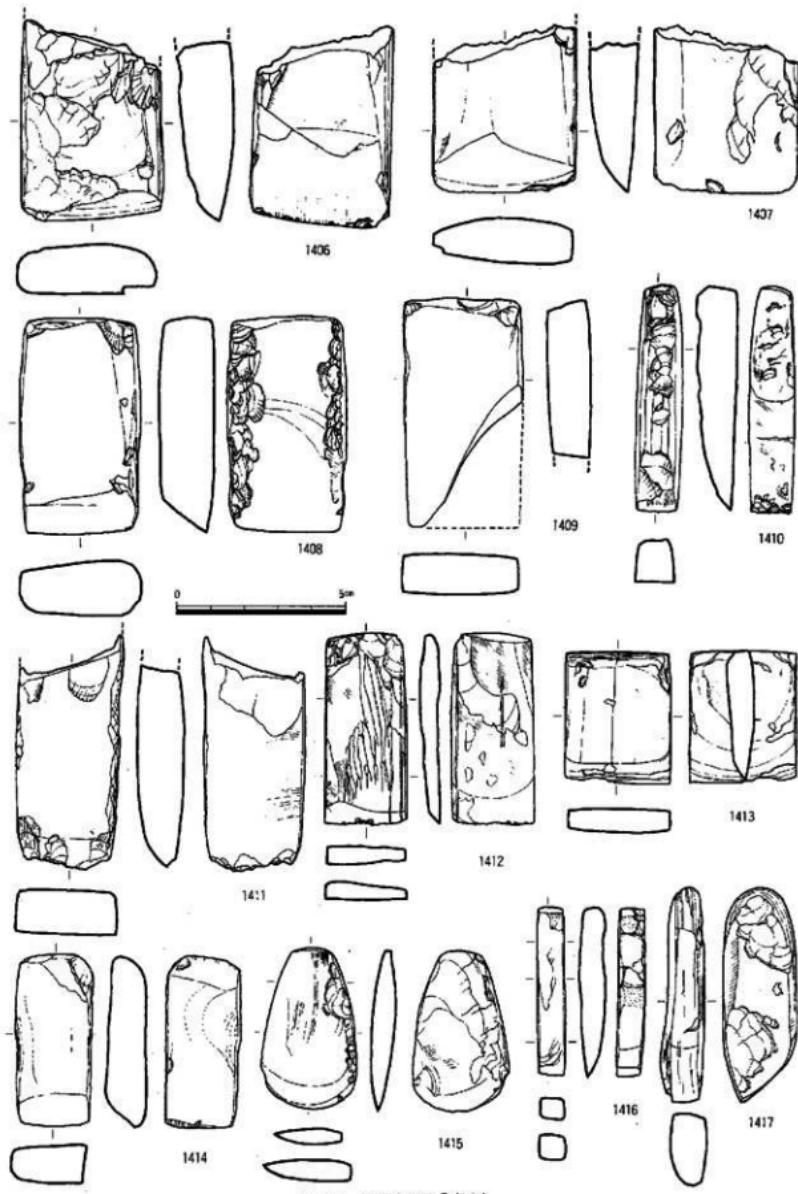


Fig.141 石器実測図⑤(2/3)

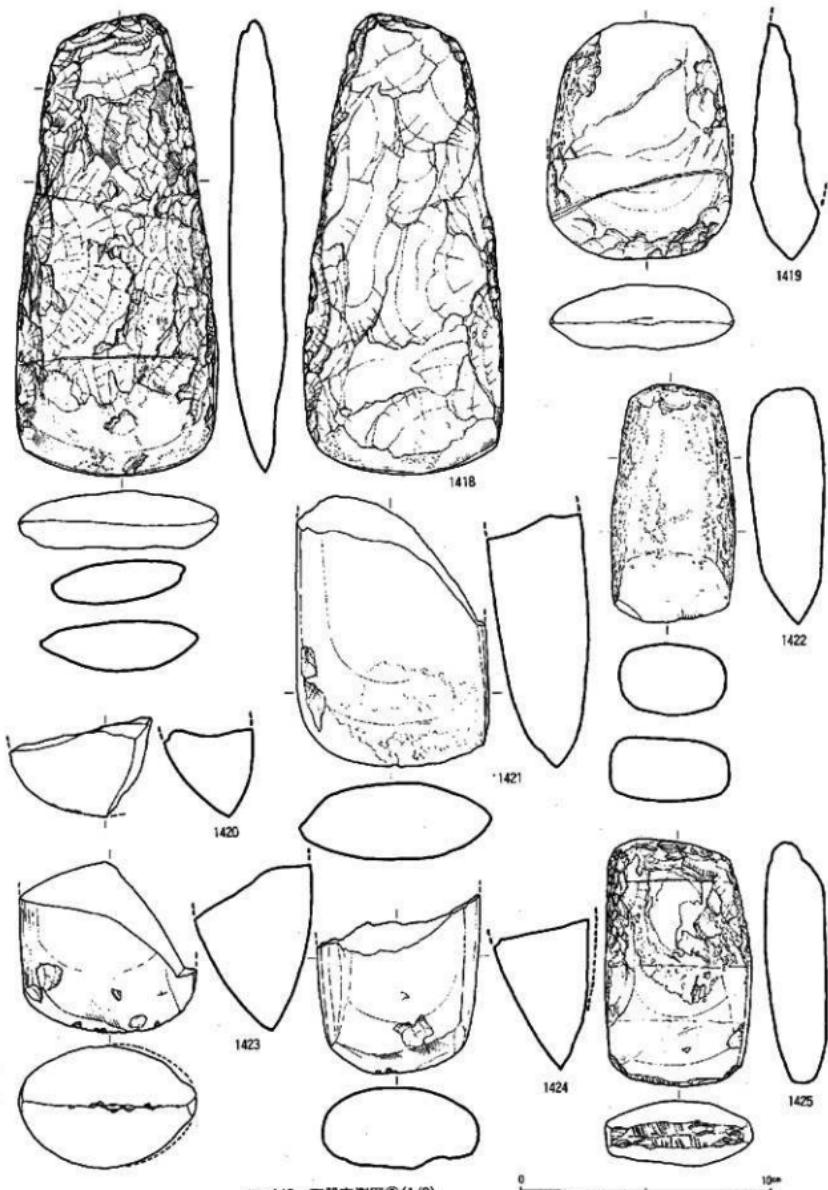


Fig.142 石器实测图⑤(1/2)

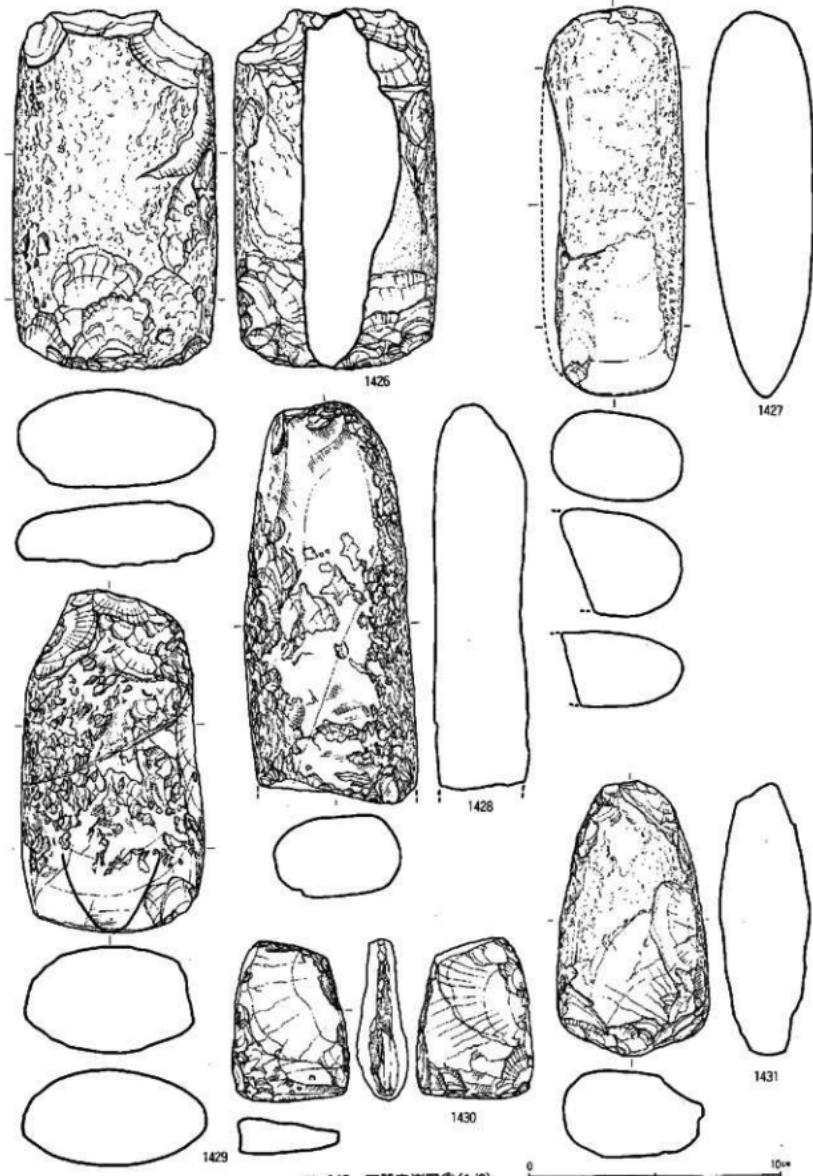


Fig. 143 石器実測図(1)(1/2)

0 10mm

1425・1433・1435のように偏平な石斧の破片を使用した両端もしくは全周に極度の丸い擦り面をもつ製品がある。この擦り面には直角方向の粗い擦痕が認められる。たがねもしくは木材などの分割に用いる楔として使用されたり、石器の敲打や皮や木製品などの加工に使用された可能性が高い。1434は先端の尖る刃部を形成している。1439は両端が丸く極度に擦れており、杵もしくは擦り具として使用された可能性が高い。1443は太形船石斧の破片の剥離面を再研磨して鋭い刃部を作り出している。時期的には縄文時代晩期終末に属するものが多い。

磨石 さほど量は多くないが、大型のものが若干出土している。図示したものは弥生時代中期前半と後期後半の資料である。

敲打具 1440は偏平礫を利用したハンマーストーンである。

凹石 1445は偏平礫を素材にした凹石である。周辺および両面に擦痕があり、擦り具としても使用されている。

手持ち砥石 粗い砂岩を素材とした雨滴形の砥石である。擦り面の断面形が楕円形もしくは隅丸方形に近く、回転穿孔具が正円に近い断面形であると異なっている。よって回転具としては機能しなかったものであることがわかる。また、手持ち部分の粗い面と擦り痕のある面とでは一つの面に片寄るように段を形成するものが多い。先端の一面がわずかに窪んでおり、このような形態の特徴は、穴の内面もしくは内湾した面をもつ被加工物を手に支持したまま研磨した結果によるものと推察される。曲線の時期は弥生時代早期から出現しており、このころに盛期があったものと考えられる。周辺の板付遺跡や比恵遺跡などからも出土しており、ほぼ弥生時代前期におさまるものである。5次調査例を加えれば40点あまりが発見されており、周辺遺跡も含めて本遺跡が最も多量に本石器を出土している。その形態の特徴から「猪形砥石」と銘名しておくが、機能や分布については今後詳細な分析と再考が必要である。

砥石 小型の板状の手持ち砥石と大型の砥石がある。溝をもつ製品を中心に図示した。

穿孔具 大型の穴をあけるために使用されたと考えられる製品（1458・1459・1507）と石庖丁などの小型の穴をあけるために使用されたと考えられる製品（1508・1509）がある。また1502のような「右錐」として表記した打製の穿孔具もある。1507は両端に擦り面があり、凹石などで押さえて使用されたものである。

石鍬 偏平な河原礫の2側邊もしくは4側邊の中央部を打ち欠いて鉤掛け用の窪みを形成している。1469のみ全面を研磨して成形している。

紡錘車 すべて半截している。ほとんどが偏平な円盤状の形態をもつが、1527は滑石製で断面形が算盤子を半切した形態をもつ。

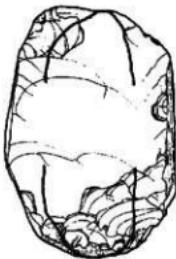
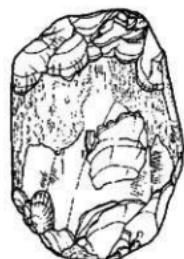
打製石鎌 すべて黒曜石製の両面加工の石鎌である。形態は二等辺三角形を基本とし基部にわずかに抉りが入る。剥片鎌（1471・1472）や局部磨製鎌（1489）などもある。1495は有茎の大型の鎌であるが、両面をわずかに研磨している。

二次加工剥片 黒曜石の剥片を使用し、周辺もしくはその一部に剥離を加えたものである。

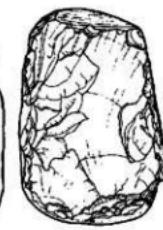
削器 ガラス質安山岩製の大型の横長削片を使用した打製の削器である。

これ以外に、図示していないが、石英岩の小礫を使用した敲打具などが目立った製品である。

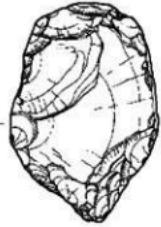
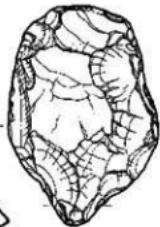
石器は後世の遺構から発見されることはあるが、縄文時代終末から弥生時代前期にかけてのものが主体を占めている。夜臼・板付I式共伴期のSD03からは磨製石鎌や石剣、磨製石斧など大陸系の磨製石器類に在来の黒曜石を主体とした剥片石器類が混在して出土している。この腰岳産の黒曜石製の剥



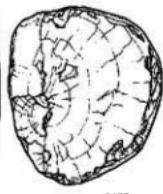
1432



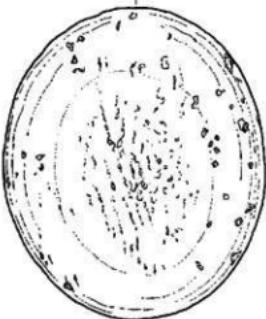
1433



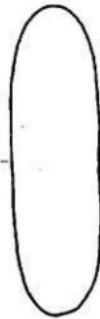
1434



1435



1436



1437

Fig.144 石器実測図⑤(1/2)

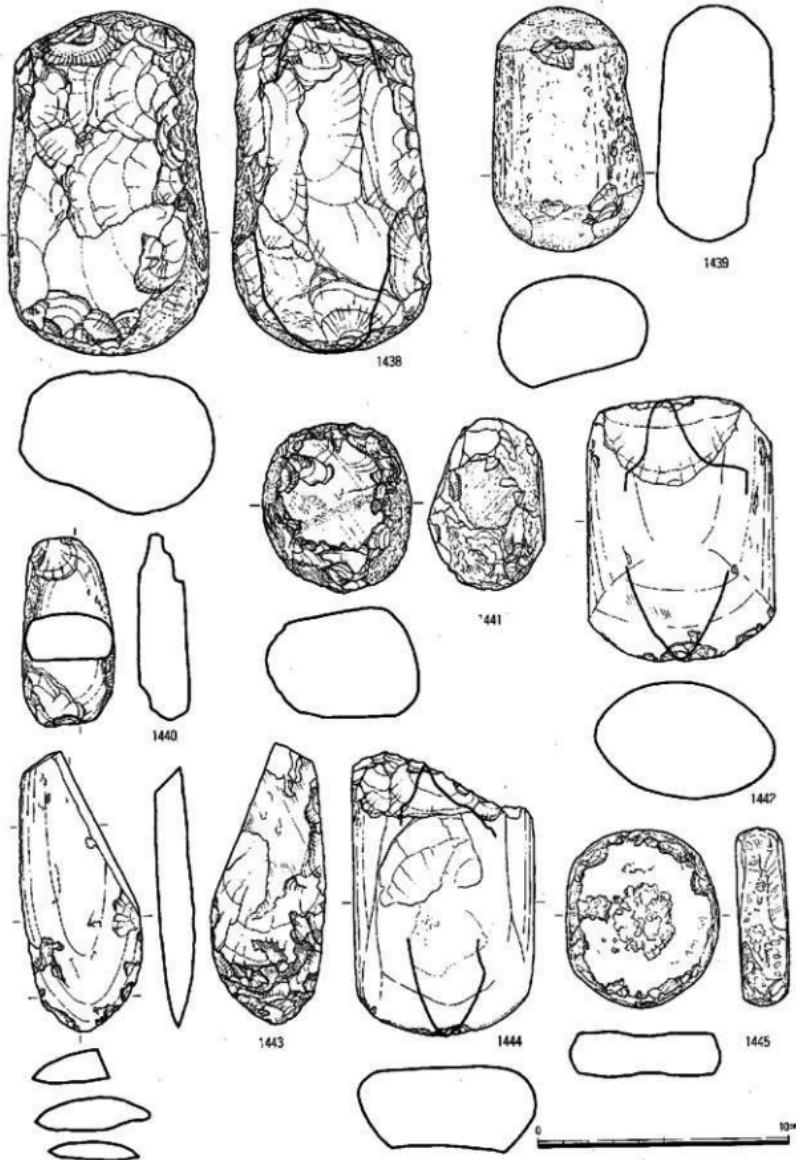


Fig.145 石器実測図⑤(1/2)

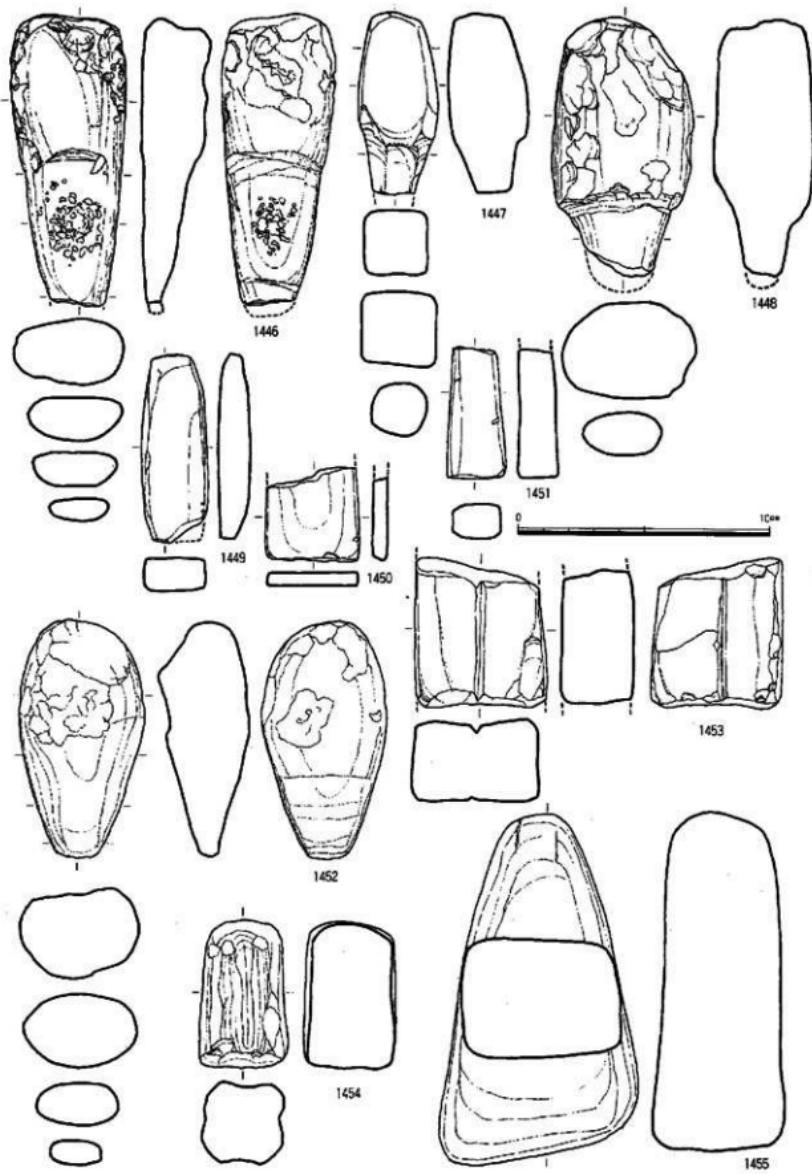


Fig.146 石器実測図⑩(1/2)

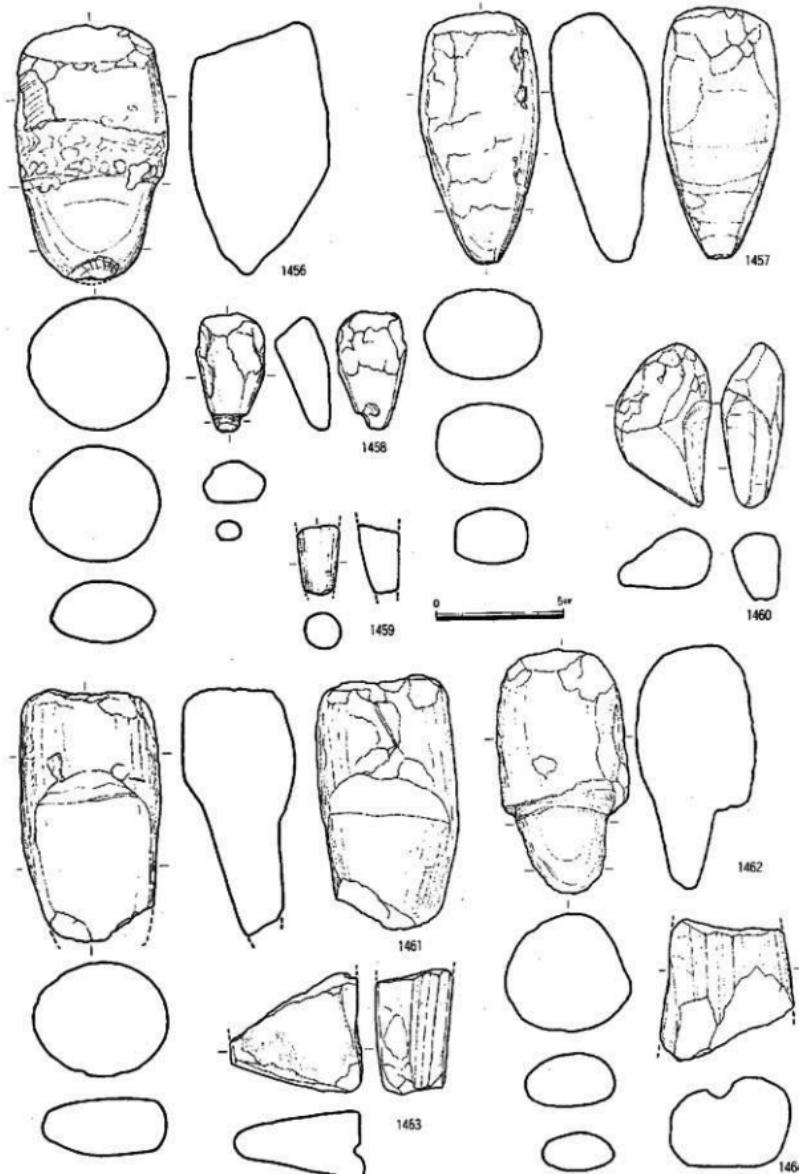


Fig.147 石器実測図①(1/2)

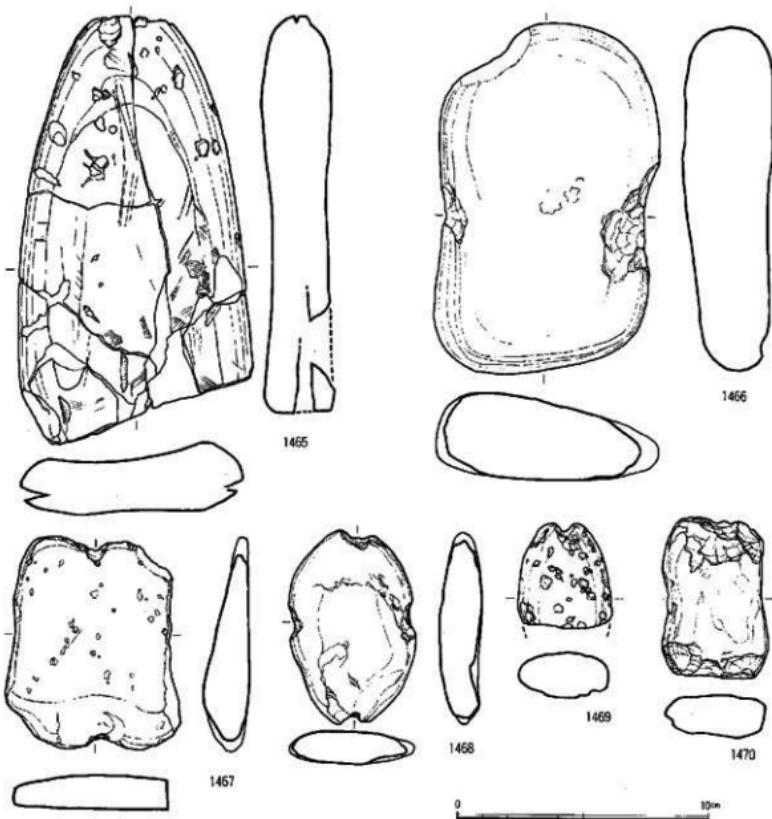


Fig.148 石器実測図(1/2)

片石器およびその素材が多量に検出される現象は、該期の北部九州の諸遺跡に通有のものである。

3) 石製品 (Fig. 151)

垂飾 1528は滑石製の有孔の垂飾品である。

管玉 2点出土している。1531は縄文晚期終末のSD03から出土している。

勾玉 1530は滑石製の勾玉で、全面に線刻による文様を描く。1536は周間に刻み目を入れる。1537はほとんど素材の形状を変えずに作られた管玉である。

有孔円盤 1535・1536は滑石製の有孔円盤で、1533はその未製品である。SD03からの出土品であるが、時期的には弥生時代後半以降に属する資料と考えられる。

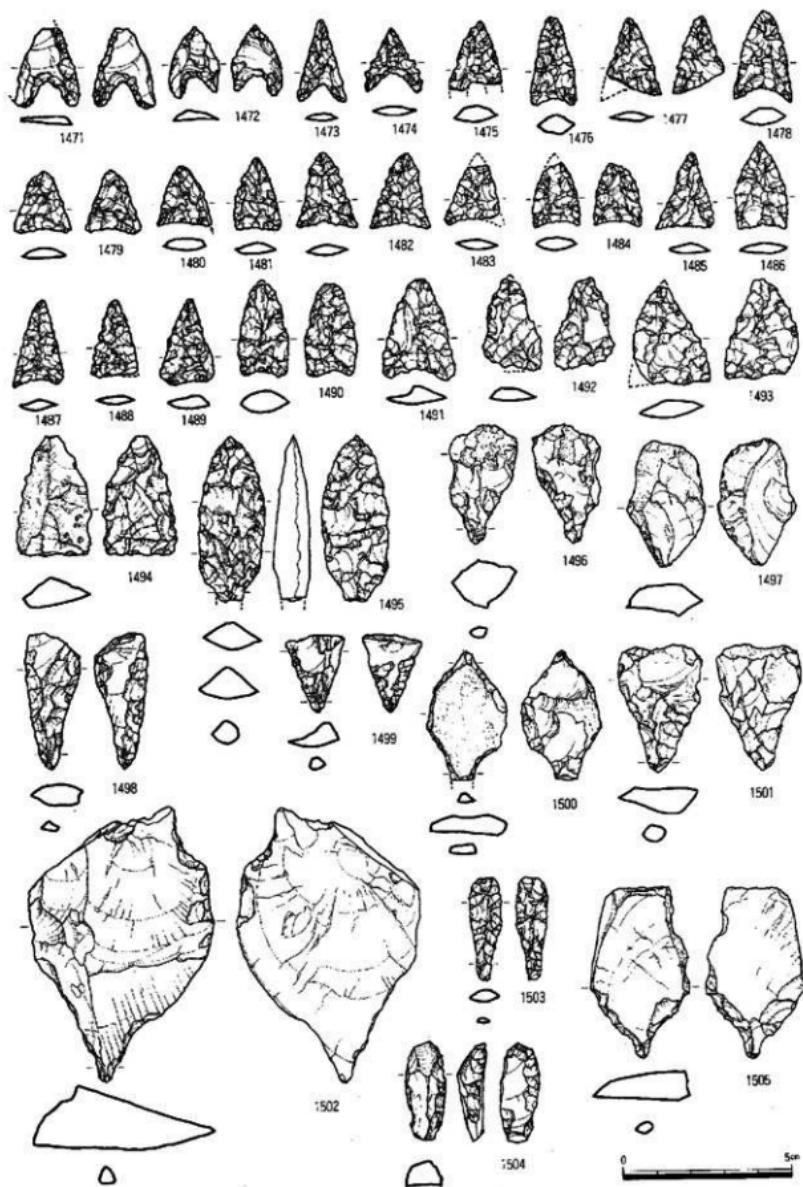


Fig.149 石器実測図③(2/3)

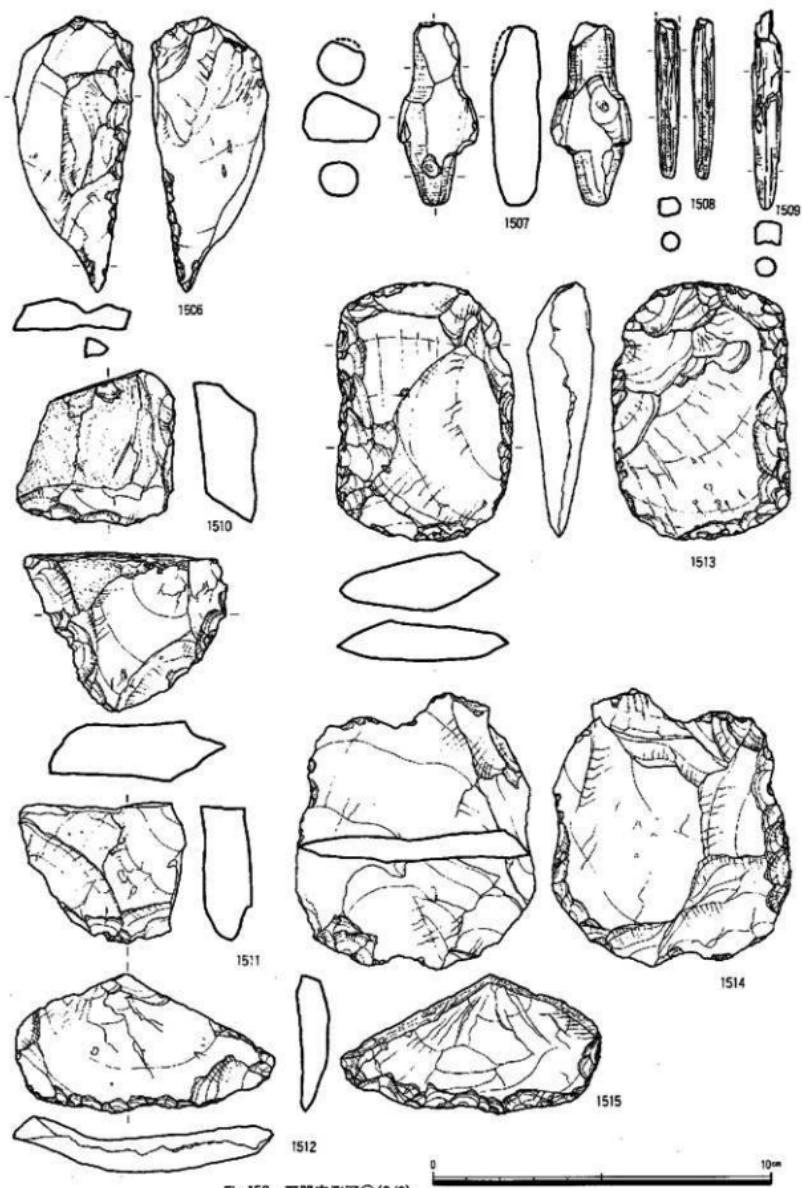


Fig.150 石器実測図③(2/3)

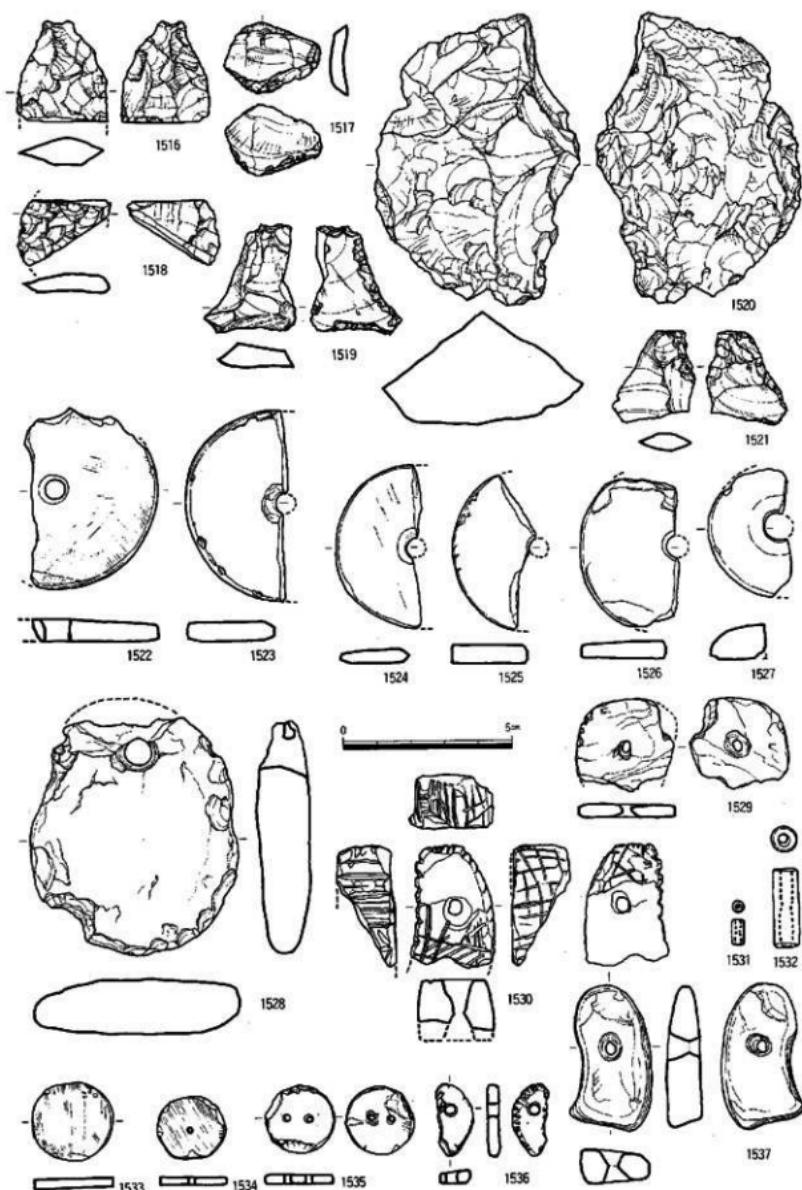


Fig.151 石器実測図⑤・石製品実測図(2/3)

Fig.	No.	器 標	区	小 区	造 構	層	石 材	折損	長さ	幅	厚さ	重さ	造構の時期	備 考	
137	1363	磨 製 石 鋸	1	C-6	SD03	上	粘 板 岩	有	5.20	1.20	0.60	2.75	晩・晚期終末		
137	1364	磨 製 石 鋸	2		SD03	上	粘 板 岩	有	5.05	1.33	0.60	4.68	晩・晚期終末		
137	1365	磨 製 石 鋸	2	DE-7	SD03	上下	粘 板 岩	有	6.45	1.20	0.65	5.95	晩・晚期終末		
137	1366	磨 製 石 鋸	1	C-6	包	10	粘 板 岩	有	6.30	1.35	0.60	5.14			
137	1367	磨 製 石 鋸	1	D-5	包	10	粘 板 岩	有	3.25	0.95	0.45	1.48			
137	1368	磨 製 石 鋸	1	C-6	SD03	中	粘 板 岩	有	4.20	1.45	0.65	3.14	晩・晚期終末		
137	1369	磨 製 石 鋸	1	C-4	包	10	粘 板 岩	有	4.05	2.50	1.00	11.40			
137	1370	磨 製 石 刀	1	E-7	SD03	上	真 岩	有	3.00	2.45	0.35	3.40	晩・晚期終末		
137	1371	磨 製 石 刀	2		SK20	上	粘 板 岩	有	5.00	0.62	1.05	3.37	赤・前期後半		
137	1372	磨 製 石 刀	1	C-6	SD03	中	蠟灰質砂岩	有	9.30	3.18	0.65	22.41	晩・晚期終末		
137	1373	磨 製 石 刀	2		SD03	上下	真 岩	有	5.15	3.25	0.75	15.47	晩・晚期終末		
137	1374	磨 製 石 刀	1	C-3	包	10	片 砂 岩	有	6.85	4.05	0.65	24.71			
137	1375	磨 製 石 刀	1	B-5	包	10	真 岩	有	8.45	3.90	1.15	53.59			
137	1376	石 底 未 製 品	2	E-7	SD03	上	蠟灰質砂岩	有	7.30	9.15	1.00	82.44	晩・晚期終末		
138	1377	石 底 丁	1		SX13	下	蠟灰質砂岩	有	7.60	6.75	0.70	58.35	赤・前期後半		
138	1378	石 底 丁	1		SD03	下	蠟灰質砂岩	有	12.0	6.30	0.25	27.80	晩・晚期終末		
138	1379	石 底 丁	C-3	SD02	下	蠟灰質砂岩	有	6.90	7.50	0.55	45.88	赤・後期後半			
138	1380	石 底 丁	1	C-3	包	10	片 砂 岩	有	7.40	6.60	0.58	33.80			
138	1381	石 底 丁	1	C 3	SD02	下	輝綠巖	有	4.50	4.50	0.70	23.33	赤・後期後半		
138	1382	石 底 丁	B-6	SX04	上	?		有	7.25	4.22	0.60	21.45	赤・後期後半		
138	1383	石 底 丁	C-3	包	10	片 砂 岩	有	7.00	3.70	0.67	24.85				
138	1384	石 底 丁	1	C-3	包	10	粘 板 岩	有	6.05	4.15	0.60	21.31			
138	1385	石 底 丁	C-3	SD02	上	輝綠巖	有	5.15	3.80	0.65	15.29	赤・後期後半			
138	1386	石 底 丁	E-7	SD03	上	蠟灰 岩	有	10.85	4.45	0.60	48.30	晩・晚期終末			
138	1387	石 底 丁	B-6 / 7	SX04	中	粘 板 岩	有	9.15	5.10	0.75	52.59	赤・前期後半			
138	1388	石 底 丁	D-5	SD02	上	輝綠巖	有	7.85	5.10	0.70	35.59	赤・後期後半			
139	1389	石 扇 未 製 品	C-6	SD03	下	玄 武 岩	有	9.50	4.90	0.90	73.86	晩・晚期終末			
139	1390	石 鏊	1		SX04	上	?	有	8.10	5.20	1.10	63.86	赤・前期後半	笠間窓	
139	1391	石 鏊	C-6 / 7	SX13	中	蠟灰 岩	有	9.35	5.75	0.90	69.23	赤・前期後半			
139	1392	石 鏊	1		SD02	上	蠟油透	片 砂 岩	有	9.30	4.60	0.90	75.20		
139	1393	石 鏊	C-3	包	10	蠟灰質砂岩	有	8.30	3.40	0.73	37.11				
139	1394	石 平 片 刀 砍	1	C-6	SD03	上	片 砂 岩	有	18.65	4.90	0.85	105.71	晩・晚期終末		
139	1395	石 平 片 刀 砍	1	C-6	SD03	下	蛇 級 砂 岩	有	8.10	3.80	1.45	77.33	晩・晚期終末		
139	1396	石 平 片 刀 砍	1	C-6	包	10	真 岩	有	5.75	5.50	1.75	69.24	赤・前期後半		
140	1397	柱状块入刃石斧	1	B-6	SX04	上	?	有	9.05	3.30	4.00	151.71	赤・前期後半		
140	1398	柱状块入刃石斧	1	D-3	SD02	上	真 岩	有	7.10	2.85	3.85	137.54	赤・後期後半		
140	1399	往状磨製石器	2		SD03	上	真 岩	?	3.30	1.00	0.80	4.99	晩・晚期終末		
140	1400	綠 脈 磨 平 破	D-3	包	6 上	安 山 岩	有	6.60	3.60	1.70	42.75				
140	1401	柱状块入刃石斧	1		SX13	上	?	有	5.75	2.45	0.60	16.63	赤・前期後半		
140	1402	柱状块入刃石斧	2		SD03	上	玄 武 岩	有	3.50	2.85	2.80	38.40	晩・晚期終末		
140	1403	柱状块入刃石斧	2	B-3		真 岩	有	5.20	2.85	3.50	63.84				
140	1404	不 明	T-8	包	試	蠟 砂 岩	有	5.40	2.33	2.30	27.20				
140	1405	真 岩 石 材	1	C-5	SD02	下	真 岩	?	12.00	3.40	0.70	69.48	赤・後期後半		
141	1406	扁 平 片 刀 砍	2	E-7	SD02	下	真 岩	有	6.05	4.20	1.65	72.11	晩・晚期終末		
141	1407	扁 平 片 刀 砍	2	D/E-7	ベルト床	玄武岩(白)	有	5.00	4.20	1.45	54.58				
141	1408	扁 平 片 刀 砍	T-8	包	試	真 岩	有	6.52	3.60	1.67	86.36				
141	1409	扁 平 片 刀 砍	1	C-4	SD03	中	真 岩	有	7.00	3.50	1.32	57.55	晩・晚期終末		
141	1410	柱状片刀石斧	1		SX11	下	真 岩	?	6.82	1.33	1.20	21.93	赤・後期後半		
141	1411	扁 平 片 刀 砍	1		SX11	下	真 岩	?	7.05	3.05	1.45	55.56	赤・後期後半		
141	1412	扁 平 片 刀 砍	1	D-2	包	6 上	真 岩	?	6.95	2.70	3.15	105.66			
141	1413	扁 平 片 刀 砍	1	C 5	包	10	真 岩	?	4.00	3.20	0.85	20.97			
141	1414	扁 平 片 刀 砍	1	C-3	SD02	下	安 山 岩	?	5.15	2.25	1.25	23.90	赤・後期後半		
141	1415	小型磨製石斧	D-2	包	8	玄 武 岩	?	4.80	2.85	0.70	14.05				
141	1416	柱状片刀石斧	2		SD03	上下	真 岩	?	5.10	0.85	0.80	6.47	晩・晚期終末		
141	1417	柱状片刀石斧	1	B-6	SC05	3区下	片 砂 岩	?	6.50	1.25	2.15	27.98	赤・後期終末		
141	1418	磨 製 石 斧	1	C-6	SD03	下上	玄 武 岩	?	18.70	8.10	2.45	505.30	晩・晚期終末		
142	1419	磨 製 石 斧	1	B-6	SX04	上	玄 武 岩	有	9.50	7.50	2.60	216.28	赤・前期後半		
142	1420	大型蛤刃石斧	1	C-4	包	10	玄武岩(白)	有	4.50	5.10	3.70	86.84			
142	1421	磨 製 石 斧	2	D-7	SD03	上下	玄武岩(白)	有	11.00	7.70	4.00	513.13	晩・晚期終末		
142	1422	磨 製 石 斧			SD03	下上	?	9.70	5.00	3.05	246.75	晩・晚期終末	S-6		

Tab. 3 石器・石製品観察表

Fig.	No	器種	区	小 区	遺構	層	石 材	折損	長さ	幅	厚さ	重 さ	遺構の時期	備 考
142	1423	太平蛤刃石斧	2	D-7	SD03	中	玄武岩(白)	有	6.90	7.00	4.90	258.30	繩-晚期終末	
142	1424	太平蛤刃石斧	1	C-3	SD02	下	玄武岩(白)	有	7.20	6.50	3.85	215.72	弥-後期後半	
142	1425	石斧軸用加工工具		T-8	包	玄武岩?		10.00	5.90	2.60	250.77			
143	1426	石斧軸用加工工具	2		SD01	下	玄武岩		14.60	8.10	3.95	756.66	弥-後期後半	
143	1427	石斧軸用加工工具	2	D-7	SD03	中	玄武岩		15.70	5.70	4.30	547.22	繩-晚期終末	
143	1428	磨 利 石 斧	1	C-6	SD03	中	玄武岩	有	16.30	6.70	3.75	762.58	繩-晚期終末	
143	1429	石斧軸用加工工具	1		SD03	上	玄武岩		13.80	7.35	4.30	721.71	繩-晚期終末	S-5
143	1430	石斧軸用加工工具	2	D-6/7	SD03	上	玄武岩		6.45	4.70	2.05	77.58	繩-後期終末	
143	1431	石斧軸用加工工具	1	C-6	SD03	下上	玄武岩		11.15	6.15	3.65	358.08	繩-晚期終末	
144	1432	石斧軸用加工工具	1	セクション	SD02	中	玄武岩(白)		10.05	6.80	3.80	470.90	弥-後期後半	
144	1433	石斧軸用加工工具		C-6	SD03	上	玄武岩		8.65	5.80	2.35	193.14	繩-晚期終末	
144	1434	石斧軸用加工工具	1	B-6	包	玄武岩(白)		8.80	5.90	2.45	162.37			
144	1435	石斧軸用加工工具	1	T-15	SD01	灰砂	玄武岩		7.10	6.10	2.20	129.93	古 代	
144	1436	磨 石	1	C-7	SX11	下	?		12.40	10.40	3.50	777.00	弥-後期後半	
144	1437	磨 石	2		SD09	?			12.10	11.50	6.90	1571.09	弥-後期後半	
145	1438	石斧軸用加工工具	1	C-5	包	10	玄武岩(白)		13.90	8.00	5.80	1078.48		
145	1439	石斧軸用加工工具	1	C-4	SD02	下	玄武岩(白)		9.80	6.05	4.00	441.52	弥-後期後半	
145	1440	敲 打 具	1	C-6	SD03	上	玄武岩		7.60	3.65	2.00	89.03	繩-晚期終末	
145	1441	石斧軸用加工工具	1	C-3	包	10	玄武岩		7.90	6.00	4.50	286.35		
145	1442	石斧軸用加工工具		T-8	包	玄武岩(白)		10.70	7.35	4.95	622.66			
145	1443	石斧軸用加工工具	1	C-5	SD02	下	玄武岩		11.40	4.60	1.40	103.67	弥-後期後半	
145	1444	石斧軸用加工工具	2	D-6/7	SD03	下	玄武岩	有	11.50	7.30	3.90	521.95	繩-晚期終末	
145	1445	磨 (鍛打具)		T-8	包	玄	?		7.20	6.15	1.90	148.30		
146	1446	手 持 砕 石		T-8	包	玄	?		11.80	4.60	2.72	183.79		
146	1447	手 持 砕 石	2		SD03	中	砂 岩	有	7.40	3.28	3.20	103.52	繩-晚期終末	
146	1448	手 持 砕 石	2		SD01	下	砂 岩	有	10.50	5.55	4.20	263.60	繩-前刷後半	
146	1449	砾 石	1	C-3	SD02	下	泥 砂 岩		7.60	2.70	1.40	47.17	米-後期後半	
146	1450	砾 石	2	E-7	SD03	上	砂 岩	有	3.80	3.80	0.60	18.44	繩-後期終末	
146	1451	砾 石			SD03	上	砂 岩	有	5.30	2.40	1.65	35.19	繩-晚期終末	
146	1452	手 持 砕 石	2	D-6	SD03	下下	砂 岩	有	9.60	5.00	3.52	173.92	繩-晚期終末	
146	1453	砾石 (有溝)	2	D-7	SD03	下下	砂 岩	有	6.10	3.25	3.40	186.90	繩-晚期終末	
146	1454	砾 石	1	B-5	SD02	上	砂 岩	有	6.00	3.55	3.30	110.15	弥-後期後半	
146	1455	砾 石	1	C-4	包	10	?		14.10	7.85	5.30	900.71		
147	1456	手 持 砕 石	1	D-3	包	8	砂 岩		10.40	6.00	5.50	381.48		
147	1457	手 持 砕 石	1	C-3	SD02	上	砂 岩		10.10	4.80	3.85	211.02	弥-後期後半	
147	1458	穿 孔 犁	1	C-5	SD02	下	砂 岩		4.70	2.80	1.85	24.65	弥-後期後半	
147	1459	穿 孔 犁	1	C-3	SD02	上	砂 岩	有	2.80	1.65	1.60	9.35	弥-後期後半	
147	1460	手 持 砕 石	1	C-4	SD02	下	砂 岩	有	6.60	3.90	2.50	61.08	弥-後期後半	
147	1461	手 持 砕 石	1	C-4	包	10	砂 岩	有	10.10	5.50	4.55	300.50		
147	1462	手 持 砕 石		C-6	包	10	砂 岩		9.80	5.15	4.80	244.79		
147	1463	砾石 (有溝)	1	C-6	SD03	下上	砂 岩	有	5.30	4.80	2.70	79.19	繩-晚期終末	
147	1464	砾石 (有溝)	1		SX11	下	砂 岩	有	5.70	5.20	3.60	133.05	弥-後期後半	
148	1465	砾 石	2		SK20	上	粘 砂 岩		17.30	9.30	2.85	589.99	弥-前刷後半	
148	1466	砾 石	1	?	SD02	上	花 鹿 岩?		14.20	8.85	3.50	737.37	弥-後期後半	
148	1467	石 锤	1	B-6	SX04	中	安 山 岩		8.55	6.90	1.85	147.35	繩-前刷後半	
148	1468	石 锤	1	D-2	包	6	安 山 岩		7.70	5.00	1.65	88.99		
148	1469	石 锤	1	C-7	包	10下	安 山 岩		4.30	3.75	1.85	32.58		
148	1470	石 锤	1	D-3	包	8	安 山 岩		6.55	4.30	1.70	86.99		
149	1471	石 锤	2			?	?		2.40	1.80	0.25	1.13		
149	1472	石 锤	1	C-3	SD02	中	黑 墙 石	有	2.20	1.50	0.35	0.83	弥-後期後半	
149	1473	石 锤	1	B-4	包	10	黑 墙 石		2.50	1.50	0.25	0.65		
149	1474	石 锤	1	C-3	包	10	黑 墙 石		1.90	1.75	0.30	0.62		
149	1475	石 锤	1	B-6	SX04	上	黑 墙 石	有	2.10	1.60	0.50	1.15	弥-前刷後半	
149	1476	石 锤	2		SP89	?	黑 墙 石	有	2.65	1.40	0.60	1.67		
149	1477	石 锤	1	C-3	包	10	黑 墙 石	有	2.40	1.60	0.30	0.93		
149	1478	石 锤	1	C-6	SD03	中	黑 墙 石		2.75	1.75	0.55	1.96	繩-晚期終末	
149	1479	石 锤	1	C-3	SD02	下	黑 墙 石		1.90	1.60	0.30	0.64	弥-後期後半	
149	1480	石 锤	1	C-6	SD03	中	黑 墙 石	有	1.80	1.60	0.40	1.10	繩-晚期終末	
149	1481	石 锤	1	C-6	SX11	上	黑 墙 石		2.20	1.40	0.35	0.94	弥-後期後半	
149	1482	石 锤	1	C-3	包	10	黑 墙 石		2.25	1.60	0.35	1.10		

Fig.	No	器種	区	小 区	遺構	層	石 材	折損	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構の時期	備考
149	1483	石 磚	2	E-7	SD03	上	下 黒 墓 石	有	1.75	1.60	0.35	1.01	繩・晚期終末	
149	1484	石 磚	2		SD03	上	下 黑 墓 石	有	1.90	1.40	0.40	1.21	繩・晚期終末	
149	1485	石 磚	1	C-3	SD02	下	黑 墓 石	有	2.30	1.60	0.30	0.89	弥・後期後半	
149	1486	石 磚	1	C-6	SD03	中	黑 墓 石	有	2.60	1.55	0.35	1.42	繩・晚期終末	
149	1487	石 磚	1	B-6	SC05	上	黑 墓 石	有	2.65	1.40	0.30	0.82	弥・後期後半	
149	1488	石 磚	1	C-5	包	10	黑 墓 石	有	2.30	1.40	0.30	0.85		
149	1489	石 磚	1	C-6	SD03	中	黑 墓 石	有	2.55	1.60	0.40	1.23	繩・晚期終末	
149	1490	石 磚	1	C-6	SD03	中	黑 墓 石	有	2.80	1.55	0.65	2.38	繩・晚期終末	
149	1491	石 磚	1	C-3	包	10	黑 墓 石	有	3.05	2.10	0.55	2.52		
149	1492	石 磚	2	E-7	SD03	上	黑 墓 石	有	2.80	1.80	0.35	1.70	繩・晚期終末	
149	1493	石 磚	2		SD03	下	黑 墓 石	有	3.00	2.20	0.50	3.42	繩・晚期終末	
149	1494	石 跡 朱 貝 品	2		SD03	上下	ガラス質安山岩	有	3.60	2.15	0.90	6.22	繩・晚期終末	
149	1495	肉身軸(尖頭部)	1	C-7	SX13		黑 墓 石	有	5.00	2.00	1.10	8.96	弥・前期後半	
149	1496	石 鏊	1	C-6	包	10	黑 墓 石	有	3.60	2.00	1.45	7.44		
149	1497	二次加工 刃片	1	C-6	包	10	黑 墓 石	有	3.80	2.40	1.00	7.27		
149	1498	石 鏊	2	C-2	包	8	ガラス質安山岩	有	4.10	1.60	0.65	3.90		
149	1499	石 鏊	2	E-7	SD03	中	黑 墓 石	有	2.30	1.75	0.70	1.77	繩・晚期終末	
149	1500	石 鏊	1	B-4	包	10	黑 墓 石	有	3.80	2.35	0.60	5.59		
149	1501	石 雜	1	C-6	包	10	ガラス質安山岩	有	3.75	2.50	0.80	9.11		
149	1502	石 雜	1	T-8	包	8	真 岩	?	8.30	5.40	1.90	70.71		
149	1503	石 雜	1	B-6/7	SX04	下	黑 墓 石	有	3.10	0.95	0.35	1.16	弥・前期後半	
149	1504	二次加工 刃片	2		SD03	下	黑 墓 石	有	2.95	1.15	0.75	2.96	繩・晚期終末	
149	1505	石 雜	1	D-4	包	6	ガラス質安山岩	有	5.15	3.00	1.00	16.43		
150	1506	削 器	1	C/D-2	SD02	上	ガラス質安山岩	有	8.30	3.45	0.96	32.18	弥・後期後半	
150	1507	穿 扎 具	1	D-3	包	8	砂 岩	有	5.50	2.40	1.40	19.57		
150	1508	穿 扎 具	1	C-4	SD02	中	蛇 植 岩	有	4.80	0.70	0.60	2.85	弥・後期後半	
150	1509	穿 扎 具	1	D-3	包	8	珪 化 木	有	6.00	0.80	0.55	5.09		
150	1510	削 器	2	D-6/7	包	中下	ガラス質安山岩	有	4.65	4.70	1.75	48.26		
150	1511	削 器	1	D-6/7	SD03	上下	ガラス質安山岩	有	6.00	4.80	1.75	52.66	繩・晚期終末	
150	1512	削 器	1	C-5	SD03	上	ガラス質安山岩	有	4.95	4.10	1.40	40.52	繩・晚期終末	
150	1513	削 器	2	T-8	包	8	ガラス質安山岩	有	7.80	5.20	1.95	79.18		
150	1514	削 器	1	C-2	SD02	上	ガラス質安山岩	有	8.30	7.10	0.80	67.07	弥・後期後半	
150	1515	削 器	2	E-7	SD03	上下	ガラス質安山岩	有	7.70	4.15	1.05	32.92	繩・晚期終末	
151	1516	加 工 石 器	1	C-4	包	10	ガラス質安山岩	有	3.05	2.60	0.85	7.22		
151	1517	二次加工 刀片	1	B-6	SX04	上	黑 墓 石	有	2.80	2.15	0.50	3.83	弥・前期後半	
151	1518	二次加工 刀片	1	C-3	SD02	下	黑 墓 石	有	2.75	1.95	0.55	3.60	弥・後期後半	
151	1519	二次加工 刀片	2		SD03	上下	黑 墓 石	有	3.25	2.80	0.70	4.95	繩・晚期終末	
151	1520	二次加工 刀片	2	C-6	SC05	上	チャーレー	有	8.80	6.10	3.40	172.70	弥・後期後半	
151	1521	二次加工 刀片	1	D-2	包	8	下 黑 墓 石	有	2.70	2.30	0.50	2.96		
151	1522	研 磨 廉 車	1	C-5	SC05	下	粘 板 岩	有	6.00	3.70	0.70	25.24	弥・後期後半	
151	1523	研 磨 廉 車	1	C-3	SD02	下	粘 板 岩	有	5.75	3.00	0.55	19.47	弥・後期後半	
151	1524	研 磨 廉 車	1		SX13	上	?	有	4.90	2.50	0.45	10.95	弥・前期後半	
151	1525	研 磨 廉 車	2	E-7	SD03	上	滑 石	有	4.70	2.50	0.60	11.10	繩・晚期終末	
151	1526	研 磨 廉 車	2	B-4	包	10	滑 石	有	4.50	3.00	0.55	12.16		
151	1527	研 磨 平(滑石製)	1	D-3	包	8 上	滑 石	有	3.80	2.40	1.00	11.89		
151	1528	垂 直	1	C-7	包	10	滑 石	有	7.20	6.15	1.60	110.91		
151	1529	有 孔 内 盆	1	B-6	SX04	中	滑 石	有	2.80	3.00	0.40	5.38	弥・前期後半	
151	1530	勾 玉	1		SX08	下	滑 石	有	3.65	2.45	1.50	16.50	弥・前期後半	
151	1531	管 玉	2		SD03	滑 玉	0.74	0.35	0.35	0.13	繩・晚期終末			
151	1532	管 玉	2			碧 玉	2.30	0.75	0.75	2.02				
151	1533	分孔円盤未製作	2	D-7	SD03	上	滑 石	有	2.30	2.40	0.30	3.99	繩・晚期終末	
151	1534	有 孔 内 盆	1	C-3	包	滑 石	2.10	1.80	0.30	2.11				
151	1535	有 孔 内 盆	1	B-5	包	10	滑 石	2.09	2.10	0.30	2.74			
151	1536	勾 玉	1	C-7	SX11	南 部 滑 石	2.20	1.05	0.35	1.36	弥・後期後半			
151	1537	勾 玉	1	C-3	SD02	下	滑 石	4.40	2.35	1.05	19.03	弥・後期後半		

鉄型？ 1292はI区SD02下層から出土した鉄型状の石製品である。残長4.4cm、残幅4.4cm、残高3.3cmを測る。石材ははっきりしないが、白い脈がはいり赤褐色の部分がある軟質の石質である。型は豆電球みたいな形状を呈しており、製品は何なのか分らない。内面は焼けていないので実際に使用されたかどうかは分らない。

小銅鏡中子 1293は小銅鏡の中子ではないかとみられる石製品で、I区の包含層8層から出土している。残長3.5cm、最大幅3.35cm、最大厚1.6cmを測る。石材は石英長石斑岩か。正式な鑑定は行なっていない。全面に強い火を受けて赤変や黒変している部分がある。底面は破断面を一部擦り削いでいる。

4) 青銅器 (Fig. 133)

銅鏡が5本出土している。1296は柱穴から出土したもので、残長3.7cm、最大幅0.9cmである。灰緑色を呈し表面は腐蝕している。身には研磨痕が残り、茎の両面も研磨で整形されている。先端部の一部と基部を欠く。茎に短い横沈線がはいる。1297はII区SD03上層出土で、残長4.6cm、最大幅1.0cm、最大厚0.1cmを測り、扁平な作りである。基部折損。地金は赤銅色を呈している。1298はI区SD02下層から出土した完形の銅鏡である。全長4.3cm、最大幅1.1cm、最大厚0.4cmを測る。身は歪つて、明瞭な研磨痕が残る。茎の左側縁は研磨調整が加えられている。粗雑な作りではあるが残りは良い。赤銅色を呈している。1299はD3区の包含層6層から出土したものである。全長5.0cm、最大幅0.6cm、最大厚0.3cmで、青灰色を呈し、表面は粉状に錆びている。雑な作りで、完形品ではあるが、本来の大きさよりも細っている。1300は、II区SD03上層から出土している。残長2.6cm、最大幅1.7cm、最大厚0.3cmを測る。平根式で、基部は折損している。暗緑色を呈し、銅質は良い。表面に研磨痕が残る。銅鏡はタイプに変化があるが、時期が明確なのはすべて弥生後期後半代である。集落内で量産された実用品であろう。

5) 鉄器 (Fig. 133)

鉄器は全部で3点出土している。低湿地なので鉄器は残存しないと考えられていたが、中には比較的の保存状態が良かったものも存在する。鉄器があれば低湿地でも残るということが分った。1301は、手斧の袋部かと推測される鉄器である。I区SD02下層から出土。残長3.2cm、残幅2.5cm、最大厚0.35cmを測る。端部は肥厚し節帶状になっている。1302は鍛造鉄斧である。I区包含層6層からの出土で時期を特定し難い。弥生後期後半代のものと推定しておきたい。残長6.3cm、残幅4.0cm、最大厚0.9cmを測る。錆が進んで芯材部分だけが残っている。1303は手斧状の刃が付いている鉄器である。SX08中層から出土している。中層は弥生前期後半から後期までの遺物を含んでいるので、新しく見積って後期後半としておくが、それよりも古い可能性もある。残長4.9cm、最大幅3.3cm、最大厚0.4cmを測る。鋳造品で中央部に型の合わせ目と型ズレが観察される。先端部に片刃の刃を付けているが、2段の節帶があり、不自然な形態である。これは破損したノミの袋部を再利用して手斧に再加工したものではなかろうか。

6) 土製品 (Fig. 134~136)

土製品には紡錘車、円盤形土製品、土製匙、土錐、I型勾玉、模造鏡、トイゴ羽口、投弾、土球などがある。1305は紡錘車形土製品で、径6.6cm、厚さ2.7cmを測り、部分的に摩滅・破損している。夜白期のものであろう。1306・1307は上部がツマミ状に盛り上がった形態を有する紡錘車形土製品である。ともに黒色から暗灰色を呈し、1307は全体にヘラミガキが施されている。SD03下層出土なので、このタイプのものは夜白期のものであろう。1308~1322は紡錘車である。1308は灰黒色を呈し、I区SD03中層出土なので夜白期のものと考えられる。孔のまわりにピッチみたいなものが付着しており、

固定用に使用されたものであろうか。1309も夜臼期に伴うもので、やや厚味はあるが丁寧な作りである。1310は、弥生後期後半のもので断面が紡錘形を呈している。1311は後期後半に属しやや厚味のある断面になっている。1312も後期後半のものである。端正な作りである。1313はやや小型で厚味のある作りになっている。後期後半のものであろう。1314は弥生前期壺を転用して作った紡錘車である。表面に壺のヘラミガキ痕が残る。1315～1317は小型の紡錘車である。小型のものは作りが粗雑である。1318～1322は半折したものである。1322はSX08下層から出土した紡錘車で、黒茶褐色を呈し壺形土器片を再加工したものである。

1323～1334は円盤形土製品である。弥生前期から後期まで出土しており用途ははっきり分らない。紡錘車の素材とも考えられるが量的に多いので別なものであろうか。1323・1324は前期後半の壺、1326・1328は前期の壺、それ以外は後期の壺を転用している。1334は後期の大壺を転用している。整形は細かな打ち欠きによってなされており、一部擦り磨いたものも存在する。

1335～1337は土製匙である。全部で10数点出土している。殆ど破損しているので図示していない。1335はI区SD02上層出土で、弥生後期後半代であろう。残長8.2cmで、把手と皿部を欠いている。把手と皿部との接合は直線的である。1336も把手と皿部を欠失するが、皿部が大きく、把手との接合に角度を持っている。1337は小型の上製匙で皿部と把手の接合は段を有している。

1338～1341は、土鍤である。1338～1340は切目石鍤を模したもの、1341も石鍤を土鍤に模したものである。1338は全長6.4cm、最大幅3.6cm、最大厚2.4cmを測る。切目は横方向が先に入れられ、その後縦方向の切り目が入れられている。II区SD03の下層から出土しているので夜臼期の可能性もあるが弥生前期のものであろう。1339はT-15下から弥生前期後半の土器と共に出土している。全長5.3cmである。十字の切目は縦線が先に入れられ、その後横線が入れられている。1340はやや小型の土鍤である。十字の切目は側縫部に入れられ縦線が先である。3点とも中央部に貫孔があり、形態的によく類似しているが、細かな点で異なっている所もある。1341は滑石の石鍤を模したもので、残長6.5cm、最大径3.8cmを測る。孔は2孔貫通し、上径が0.6cm、下径が0.7cmである。弥生後期後半に属するものである。1342・1343は土製勾玉、1344は古墳時代前期の模造鏡、1345～1347は土製小玉、1348はフイゴの羽口である。1349～1360は投弾で、弥生後期後半に属するものであろう。投弾の形態は中期後半のものと差異はほとんどない。1361・1362は土製の球である。用途は分らない。

7) ガラス製品 (Fig. 133)

ガラス玉が2点出土している。1294は弥生後期のもので、径0.4cm、高さ0.4cm、孔径0.15cmである。コバルトブルーで、細かな気泡があり歪つな形を呈している。1295は径0.3cm、孔径0.1cmを測り、緋色を呈している。やや方形気味の形となっている。弥生後期後半代のものであろう。

8) 骨製品 (Fig. 133)

1340はI区SD02下層から出土した骨製品である。全長10.4cm、幅1.0cm、高さ1.0cm、孔径0.3cm、孔と孔の間7.0cm、骨の厚さ0.3cmである。両側に細い沈線が引かれ、沈線間の幅は7.2cmである。全面に水銀朱が厚く塗られていた。用途は分らない。弥生後期後半のものである。

9) 木製品 (Fig. 152・153, PL. 48)

各時期の木製品が多量に出土しているが、整理が終了した段階で追加報告をする予定である。Fig. 152・153はII区SD03から出土した組合式案（机）の部材実測図である。法量は図に示している。木材を使用し、ナイフで割付がなされている。天板上面に細かな刃物キズが観察される。弥生後期後半のものである。PL. 48の1538・1541は平鉗、1539は斧、1540は諸手鉗未成品、1542は停泥、1543・1544は鋤、1545・1546は堅杵である。これらは全て夜臼式土器に伴って出土した。

IV 特論

1. 弥生時代後期における大型建物の建築技法

福岡市雀居（ささい）遺跡50号掘立柱建物に関して

（九州大学工学部建築学科）山本輝雄

実測調査へ

当建物跡検出の報せを福岡市より受け直ちに現地を拝見したのが、年度も押し迫った平成5年3月23日（火）である。遺跡地では、例によって佐賀県地域の有明海沿岸一帯の低平地において観察し検討を続けてきた掘立柱における立柱技法の各種の例が見られた。これらの弥生時代後期における立柱技法に関する資料に対する建築史的な検討はすでに発表済みであり、今回の福岡市雀居（ささい）遺跡の視察によって大きな学問的成果が得られるのは期待薄と私には思われた。

しかし、ただ一点気掛かりなことがあった。

それは建築技術の段階の問題である。從来から出土建築用部材を通して研究を続けてきたことだが、「直交軸の採用」が日本建築において何時より始まったかと言う問題である。これは概略的に言えば古墳時代の或る時期よりは遅ないと想定しているが、そうは言っても証拠となる「もの」を提示していないのである。

出土建築用部材の研究において出来ていないものが「建物の跡」で検討出来ないものであろうか。そもそも考え直して今まで幾つかの実例において現地で実測調査をしてみた。結果は予想通りといふか、惨憺たる有り様であって、発掘担当者から示された掘立柱建物の柱位置は「直交軸の採用」どころか、あまりにも「直交軸」から隔たってしまうのであって、「これが眞に一つの建物である」と何をもって確言したら良いか不安が付きまとひ、長い間これらの掘立柱建物についての建築技術面での問題について建築史からの發言を差し控えてきた。

今回の福岡市雀居（ささい）遺跡50号掘立柱建物の場合は、從来の掘立柱建物に比べると、建築史を考える資料が多い。それらの資料も残りが良いだけでなく、極めて立派である。礎板が揃って立派である。しかも、これらの礎板に乗る掘立柱さえ痕跡も含め幾つかは明瞭に残っている。さらに、これらの掘立柱および掘立柱の穴が同一の様式を探っていることから、これらの4個2列で計8個の掘立柱群を一つの建物とするのに殆ど躊躇しないで良い「建物の跡」であると感じられた。なお、礎板の上面の高さがほぼ同じであろうことも、一つの建物と強く感じられる理由の一つでもあった。

そして、何よりも、この50号掘立柱建物は「直交軸の採用」を期待させる様相をもっていたのである。発掘調査担当者達が作成した約六十分の一の略平面図においても「直交軸の採用」は十分に期待がもてた。しかも、この50号掘立柱建物は弥生後期頃の建物らしいとされていた。「直交軸の採用」が筆者の予測してきた古墳時代よりも遅る可能性さえある。

上記のように考えられたので、久し振りで実測調査を行ってみることにしたのである。

各地での委員会の相い聞をくぐり抜けて、実測調査は平成5年3月26日（火）午前中に行なった。久し振りの実測調査で時間が予定より大幅に掛かった。手伝ってくれる調査員の方々も慣れないこともあって、気を使い十分慎重に行ったせいであろう。

調査の結果

調査を通して、以下の幾つかの点に関して考えてみたい。

1. 建物の形式と機能の推定

2. 建築技法上の問題点

- イ. 磁板を重ねることについて
- ロ. 据立柱の柱穴
- ハ. 直交軸との関係—施工上の問題点—

1. 建物の形式と機能の推定

まず、建物の形式である。

4個2列計8個で構成されるほぼ方形に並ぶ据立柱群は、全て同じ形態の据立柱穴であり、その中に置かれる磁板も同じ形態の板であり、磁板の上面の高さもほぼ同じであり、これらの周辺には同様式の据立柱穴群が検出されていないとなれば、これら8個の据立柱穴群で所謂据立柱建物を推定することはできよう。加えて、中央にも時期を同じくすると考えられる1個の据立柱があるが、この据立柱穴のみ浅く、復元すると小さい。

以上の9個の据立柱穴群からなる据立柱建物であるが、一応巨大であることを除くと、このようなほぼ正方形に近い平面形の据立柱建物でかつ中央位置に据立柱穴を伴うものとしては、かつて検討したことのある福岡県立野遺跡における古墳時代中期頃の据立柱建物がある。そして、その据立柱建物を南西諸島における高床式の倉に類似例を探して、同じ時期における竪穴式家屋の平面および主柱4本の配置がほぼ正方形をして類似していることを指摘したことがある(注1)。ただ一つだけの特殊例として抽出された今回の建物跡を位置づける方法論を知らない筆者にとって、どうしても推定を施すとすれば、当50号据立柱建物はこの福岡県立野遺跡における高床式の倉を考えざるを得ない。

このように當てはめた場合、同じ時期すなわち弥生時代の後期においてこの据立柱建物のようにほぼ正方形の平面の竪穴式家屋の存在については、「ほぼ正方形、4本主柱」(福岡市周辺の遺跡ではベット状遺構が付くことも多い)が確認されている。

そこで、最後に残る建築構造上の問題としては、あまりに巨大すぎるのではないかとの心配である。特に、梁間(はりま)が6,835mm(約22.8尺)と大きいことが不安であるが、福岡市鶴町遺跡において検出されている弥生時代後期頃の出土建築用部材(注2)の中の投首(さす)材より梁間が約4.5m(約15尺)までは確認できている。そこで、部材を太くすることによって当50号据立柱建物のような大きな梁間の建物の存在を推定することは可能と考えられる。

2. 建築技法上の問題点

この9個の据立柱穴群で構成される据立柱建物を一つの建物と仮定するとしても、そこには幾つもの建築技術上の問題点をはらんでいる。

実測調査を経た後、その結果から考えられる問題点の幾つかについて指摘しておきたい。

イ. 磁板を重ねることについて

柱③のみが柱①～柱⑧の8本の中で2枚の磁板を重ねて据立柱の下に敷かれていたと考えられる。

そこで、これらの磁板の上面、すなわち柱の底面の高さを水準器機を用いて実測してみた。水準点

の高さは任意であった。実測結果は次の通り。

柱①	1,705mm	柱⑤	1,675mm
柱②	1,784mm	柱⑥	1,725mm
柱③上	1,618mm	柱⑦	1,675mm
柱③下	1,662mm	柱⑧	1,694mm
柱④	1,674mm		

この実測結果から判断すると、各柱の底面において最大で166mm(16.6cm)も異なっていることが判明する。建っていた当時ないしはその後の今日までの不同沈下が原因でこうした不揃いが生じたのであろうか。しかし、掘立柱穴の断面の形態からは礎板部分だけが沈下したとは考えられない発掘結果である。

そうすると、礎板を2枚重ねている柱③の場合であるが、2枚の礎板の中の下の礎板上面で既に他の7個の掘立柱穴の礎板上面より既に高いのにさらに厚さ約44mmの礎板を重ねて用いていることになる。

これをどう理解したら良いのであろうか。

掘立柱の底面を敢えて他の柱のそれよりさらに上にあげると言うことは、おそらく既にこれらの礎板に乗る柱は切り込みが終わっていたと考えざるを得ない。それ故にこそ柱立ての施工時点において柱の上方で足りない高さに気付いてさらに1枚の礎板をあてがったと推定できないだろうか。

柱③の在り方より上記のような推定を施すすれば、他の柱との礎板上面の高さの不揃いと併せて考えれば、確かに柱材は既に切り込みが終わっていたとしても、柱の長さはかなり不揃いであったと考えざるを得ないのでなかろうか。

のことから想像される柱の形態は、自然に育った樹木の形態を大いに利用した逞しい建築用部材の姿であって、きちんと幾何图形的に整形された建築用部材のイメージは浮かんでこない。

ロ. 掘立柱の柱穴

掘立柱の穴は全て大きい。しかし、その平面形は律令期における例えば大宰府史跡政府Ⅰ期における建物の掘立柱の掘り方のようにきちんとした方形を呈していない。こうした掘り方の平面形についての指摘は、建築技術上の時期の遡ることを示しているのであろう。

次に、礎板や柱の大きさに比べて、掘り方があまりにも大きいことである。掘立柱では堅固に固定するためには硬い地中ならば出来るだけ小さく掘った方が良がろう。実際、竪穴式家屋の掘立柱の場合、実に小さい掘立柱の掘り方が検出される場合も多い。しかし、この50号掘立柱建物では掘り方がみな外れて大きい。柱⑤と柱⑥とは掘立柱の掘り方が検出された面から柱が立ち直った儘で見つかっており、この掘立柱建物は掘立柱が立った儘放棄されていた。この大きな掘立柱の掘り方の底では、柱の立つ礎板が一方に偏って置かれている。それで、これらの掘り方の中で柱を立て上げる施工の際に、人がこれらの掘り方の中に入り十分に作業が可能なのである。否、そうした作業を考えなければ、このような立方体の形でのあまりに大きな掘り方の必要性は考えられない。

こうした作業を考えることによって、より丁寧な施工が行われたと推定できる。

ハ. 直交軸との関係—施工上の問題点—

そうした丁寧な施工があるとすれば、建築技術が進んでいることが考えられ、「直交軸の採用」は当然と考えられたのだが、具体的な実測結果は図-1の如くである。

梁間6,835mm（約22.8尺）、桁行9,005mm（約30.0尺）の方形は、柱①の柱の当たり痕跡は明確であるし、柱⑤は据立柱穴の中に柱が打ちて立った僅の痕跡を止めていたので、これら2つを基準として現地においてトランシットを用いて直交軸を作った。そして、この方形と各々の柱の中心ないしは礎板の中心との隔たりを図示したものが図-1である。

柱の中心が明確な柱⑥で138mmも隔たり、柱⑦でも150mmも離れ、しかもお互いの隔たりは方形の線から反対側にずれると言う始末である。その他は礎板の中心との隔たりもかなり大きいが、柱が必ずしも礎板の中心におさまるとも限らないから、それらの隔たりは参考資料と言ふことになろう。礎板の平面が大きく約80×50cm程もあるので、基準の方形の線から導かれた各々の柱中心が礎板の上面からはずれてしまうと言うことはない。

この実測調査結果では、今日の木造建築の規矩を用いた（物差しと曲尺を用いた）建物のような、墨を打ちはぞとほぞ穴を噛み合わせて組み立てるべく切り込まれる建築技術の段階は推定でき難いのではないだろうか。

おわりに

しかし、このような今日の木造建築の技術段階が從来から筆者が提案している古墳時代の或る時期から突如に出現するばかり考えるには、この50号据立柱建物のもの建築史的資料は色々なことを語ってくれる。今後も上記の問題以外にもさらに研究を深める必要がある。

（平成5年3月30日了）

- 注 1. 抽稿：「福岡県立野遺跡B・C地区発掘遺跡に見る正方形平面据立柱建物の可能性とその機能」（『九州横断道関係埋蔵文化財調査報告－2－』、昭和53年3月、福岡県教育委員会）
 2. 抽稿：「福岡市鶴町遺跡出土の建築用部材に見られる原始家屋の建築技法について」（『鶴町遺跡』、昭和51年11月、福岡市教育委員会）

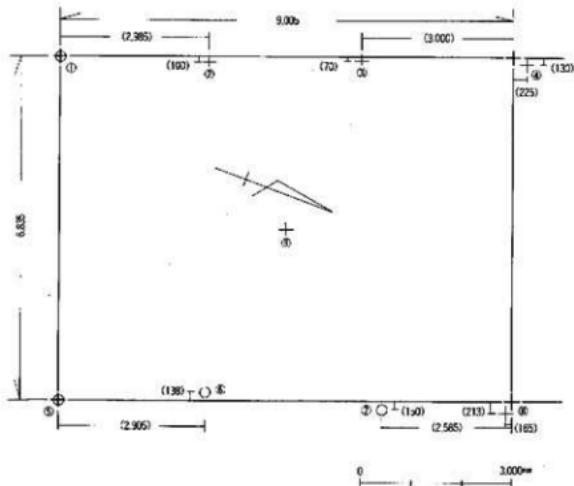


図1 鶴居遺跡50号据立柱建物柱配置図 (実測年月日 平成5年3月26日)

{ C……柱位置中心
+……礎板中心位置

2. 年輪年代法による雀居遺跡出土木製品の年代推定

奈良国立文化財研究所 光谷 拓実

年輪年代法の基本は、年代を割り出すときに基準となる長期の暦年標準パターンの作成にあることは言うまでもない。現在、もっとも進展している樹種は、ヒノキとスギである。ヒノキが現在から紀元前734年まで、スギが現在から紀元前651年までできており、その先端はいずれも縄文晩期に到達している。

九州地方においては、これまでに福岡市内に所在する3カ所の遺跡（十郎川、井相田C、博多遺跡群）から出土した木製品7点（いずれもヒノキ材）と、特別史跡大野城跡出土柱根1点（コウヤマキ材）¹⁾²⁾について応用した事例があるのみである。このように九州地方において年輪年代法の適用例が少ないので、ヒノキ材、スギ材、コウヤマキ材の出土例が少ないからである。

雀居遺跡の発掘調査では、弥生時代の木製品が大量に出土した。これらのなかから、年輪年代法が適用可能と思われるもの（樹種がヒノキ、スギ、コウヤマキかどうか、さらに木製品に約100層以上の年輪が刻まれているかどうか）を4点選定し、年輪年代を求めるとした。以下にその結果を報告する。

試料と方法

選定した試料は、わずか4点にすぎない。樹種は、いずれもスギ材でしかも心材に続く辺材（白太ともいう）が全く残存していない形状のものばかりである。木製品の種類は、机の天板が2点（試料No. 1、No. 2）、机の脚が1点（No. 3）、槽（刎貫式梁）が1点（No. 4）である。これらは、いずれも柱目板を用いていた。

年輪幅の計測は、専用の年輪読取器を使用し、試料の柾目面から非破壊でおこなった。計測した年輪データは、コンピュータに入力し、年輪バターングラフの作成やスギの暦年標準パターン（主に滋賀県下の遺跡出土木製品の年輪データで作成したもので、紀元前651年から西暦199年をカバーしている）との照合に備えた。コンピュータによる年輪バターンの照合には、相関分析手法によった。

結果と考察

試料4点の年輪バターンと暦年標準バターンとの照合の結果、いずれも成立し、それぞれの残存最外年輪の形成年を確定することができた（表-1参照）。このなかで最も新しい年輪年代を示したのは、No. 4の西暦100年である。よって、No. 4の原材料の伐採年は100年以降ということが確定した。

ここで、もう少し原材料の伐採年にこだわってみよう。樹齢200~300年の天然スギの平均辺材幅を、手元にある20点の円盤標本から導き出した数値は4.5cmである。この試料に4.5cmの辺材部があったと仮定する。計測した年輪数は133層、この平均年輪幅は1.4mmである。この平均年輪幅でもって、辺材部の年輪も推移したとすると、4.5cmのなかには33層の年輪が刻まれていたことになる。No. 4の年輪年代は西暦100年、これにさきの推算した数値、33層分を増すと西暦133年となる。これには、さらに削除されたであろう心材部の年輪や、製品に仕上げてから使用、廃棄するまでの期間等を加算することになるから、実際の遺構の年代は2世紀中頃まで降る可能性が推定できる。

ちなみに、九州地方において弥生時代の木製品の年輪年代が判明したのは、今回が初めてである。

表-1 木製品4点の年代測定結果一覧表

試料 No.	種別	材種	年輪数	年輪年代	備考
1	天板	スギ	215	87 A.D.	W-214
2	天板	スギ	263	122 B.C.	W-272
3	机の脚	スギ	114	41 A.D.	W-009
4	槽(削貢式案)	スギ	133	100 A.D.	W-255

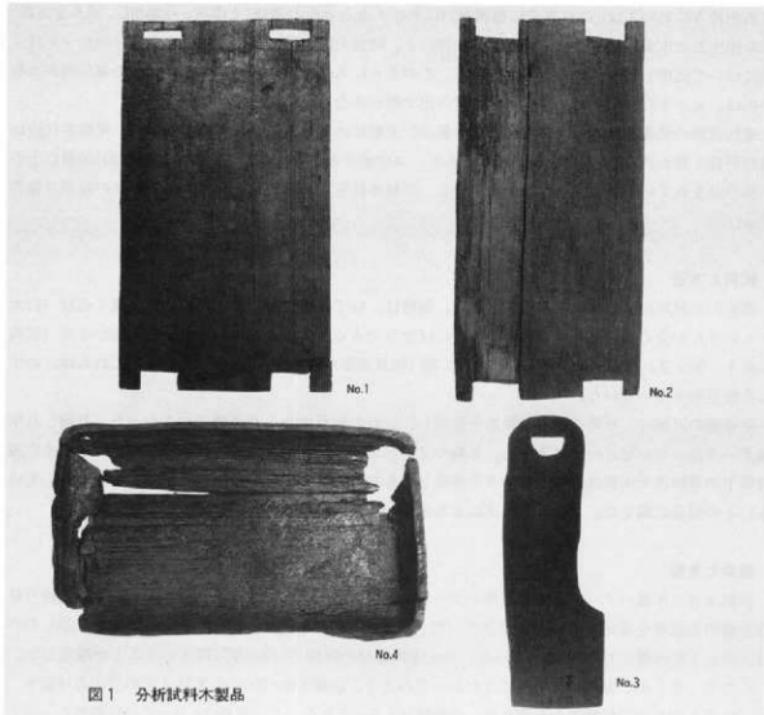


図1 分析試料木製品

文 獻

- 光谷拓実; 1988 「福岡市内に所在する3遺跡出土木製品の年輪年代測定結果について」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第204集』
- 田中 雄、光谷拓実、佐藤忠信; 1990 「年輪に歴史を読む－日本における古年輪学の成立－」『奈良国立文化財研究所学報第48冊』 同朋舎

3. 雀居遺跡第4次調査出土漆製品の塗膜について

健京都市埋蔵文化財研究所 岡田文男
福岡市埋蔵文化財センター 本田光子
宮内庁正倉院事務所 成瀬正和

はじめに

雀居遺跡第4次調査出土漆製品についてX線分析と塗膜断面構造の顕微鏡観察を行い、塗膜の状態や顔料の種類等を調査した。

塗膜断面の観察において、漆あるいは漆以外の樹脂とする判断は、理化学的な方法による分析を経たものではない。顕微鏡所見による塗膜の色調、層厚、赤色顔料の分析状態等を基に判断を行ったものである。また、塗膜層中の朱とベンガラの分類については、蛍光X線分析の結果と検鏡による赤色顔料粒子の形状から総合的に判断した。

雀居遺跡出土漆器の塗膜構造と顔料に関する若干の考察については、本遺跡第5次調査出土漆製品に認められた塗膜についての同様な調査の結果と併せて、第407集の雀居遺跡5次調査報告に記した。表に試料の一覧と調査結果を示す。

試 料

X線分析、塗膜断面の顕微鏡観察には、3 mm～5 mm角の破片を用いた。塗膜に剥離した部分がある場合はその位置から、それ以外は塗膜の端部から採取した。X線分析には採取した塗膜片をそのまま用い、測定終了後、断面観察に供した。

蛍光X線分析

赤色顔料の主成分元素の検出を目的として、蛍光X線分析を実施した。理学電機工業製蛍光X線分析装置を用い、X線管球：クロム対陰極、印加電圧：40KV、印加電流：20mA、分光結晶：フッ化リチウム、検出器：シンチレーション計数管、で測定を行った。赤色顔料の主成分元素としては、鉄と水銀の有無を表に記した。

塗膜断面の顕微鏡観察

試料を常法によりエポキシ樹脂に包埋し、数μmに研磨した薄片をプレパラートに作製した。塗膜構成の観察結果については、木地を(a)、下地を(b)、下地の上の塗層を(c)とし、その塗り重ねを($c_1, c_2 \dots$)と表記した。

No1 把手付容器 (PL. 38-(1)、巻頭図版 3 (1))

塗膜構成は下地(b)とその上の赤色顔料を含む塗層($c_1 \sim c_2$)からなる。

下地bは漆と土を混和した漆地粉層で、透明鉱物が混じる。

塗層 c_1 はベンガラを混和した赤色層で、ベンガラの密度は高い。 c_1 の上面には不自然な起伏がある。

塗層 c_2 は朱を混和した赤色層で、朱粒子の最大径は約15μmである。 c_2 の表面は平滑である。

No.	遺物	W-No.	出土位置	螢光X線		漆層(c)			巻頭図版	
				鉄	水銀	黒色	赤色	赤色顔料	遺物	塗膜
1	把手付容器	520	SD-03下層	+	-		①	朱、 ベンガラ	PL38 (1)	3-(1)
2	堅構?	134	SD-03下層	+	-		①	ベンガラ	2-(5)	3-(2)
3	弓	531	SD-03下層	+	+		②	朱	2-(2)	3-(3)
4	弓	143	SD-03下層	+	+	②	②	朱	2-(3)	3-(4), (5)
5	弓	555	SX-13	+	-	②				3-(6)
6	弓	567	SX-08下層	+	+		①	朱、 ベンガラ	2-(6)	3-(7)
7	弓	129	SX-12	+	+		②	朱	2-(1)	3-(8)
8	把頭飾	182	SX-08下層	+	+	① または②	②	朱	2-(4)	4-(9), (10)
9	漆膜のみ 容器?	562	包含層X層	+	+	②	②?	朱	2-(7)	4-(11), (12)
10	案	255	SD-03上層	+	+		③	朱	年輪 No.4	4-(13)
11	筒形容器の蓋	560	SD-03上層	+	-	②	②	ベンガラ	2-(8)	4-(14)
12	筒形容器蓋(外)	561	SD-03上層	+	-	②	②	ベンガラ	2-(9)	4-(15)
13	筒形容器蓋(内)			+	-	②			2-(9)	4-(16)

表 漆製品の一覧と塗膜構造の分析結果

No2 堅構? (巻頭図版 2-(5), 3-(2))

塗膜構成は木地(a)とその上の赤色顔料を含む漆層(c₁, c₂) からなる。

木地aの上部にはベンガラを含む漆が僅かに浸透している。

漆層c₁はベンガラを混和した赤色層で、上面には起伏がある。

漆層c₂はベンガラを混和した赤色層で、透明鉱物が多く含まれている。上面はc₁よりも平滑である。

ベンガラの密度は(c₂)よりも(c₁)の方が高い。

No3 弓 (巻頭図版 2-(2), 3-(3))

塗膜構成は下地(b)とその上の赤色顔料を含む漆層(c₁) からなる。

下地bは漆と土を混和した漆地粉層で、透明鉱物を含み、上面には起伏がある。

漆層c₁は朱を混和した赤色層で、朱以外に角張った透明鉱物が混じる。層厚にはムラがある。

No4 弓 (巻頭図版 2-(3)、3-(4)、(5))

塗膜構成は木地(a)とその上の漆層 (c₁~c₃) からなる。

木地aは塗膜下部に木材組織が僅かに付着しており、透明漆が浸透している。木地の表面は非常に平滑である。

漆層c₁は均一な厚さの漆層で、層中に僅かではあるが均一な大きさの黒色の微粒子が分布している。層厚は約10μmである。

漆層c₂は黄褐色を呈する透明な層でc₁の上に部分的に認められる。層厚は1~4μmとごく薄い。

漆層c₃は朱を混和した赤色層で、層厚は約20μmである。朱の最大粒子径は約12μmで、粒度はかなり揃っている。

No5 弓 (PL. 3-(6))

塗膜構成は木地(a)とその上の漆層 (c₁~c₃) からなる。

木地aの木材組織に漆はほとんど浸透していない。

漆層c₁は木地上面を覆う透明漆層で、淡黄褐色を呈している。塗膜の上面には起伏がある。

漆層c₂はc₁の蘊みを充積するように塗布された層で、部分的に途切れている。層中に不純物が混じる。

漆層c₃は懸濁状の微粒子質が混じる透明漆層で、表層から15μmの幅で変色している。層厚は約100μm。

No6 弓 (巻頭図版 2-(6)、3-(7))

塗膜構成は木地(a)が付着せず、赤色顔料を含む漆層 (c₁、c₂) からなる。

漆層c₁はベンガラを混和した赤色層で、いわゆるパイプ状のベンガラ粒子がごく僅かであるが認められる。層厚は6μm以下で、上面は平滑である。

漆層c₂は朱を混和した赤色層で、層厚は約40μmである。朱の最大粒子径は約10μmである。

No7 弓 (巻頭図版 2-(1)、3-(8))

塗膜構成は木地(a)と、その上の赤色顔料を含む漆層 (c₁) からなる。

木地aの表面には起伏があり、木材組織に膠着剤が浸透して褐色を呈している。

漆層c₁は朱を混和した赤色層で、朱が密に分布している。朱の最大粒子径は約5μm以下である。

No8 把頭飾 (巻頭図版 2-(4)、4-(9)、(10))

塗膜構成は木地(a)はなく、漆層 (c₁c₂) からなる。

漆層c₁は黄褐色を呈する透明漆層。層厚は約5~10μmである。

漆層c₂は朱を混和した赤色層で、層厚は約75μmである。朱の最大粒子径は約30μmである。

No9 容器 ?塗膜のみのため器種は不明 (巻頭図版 2-(7)、4-(11)、(12))

赤色部分を含まない塗膜断面で、塗膜構成は塗膜下部の木地(a)とその上の下地(b)、ついで漆層 (c₁) からなる。

木地aの木材組織に下地の漆が浸透しており、黒色の微粒子が混じる。

下地bは透過光で黒色を呈する下地層で、層厚は約8μmである。層中に直径約25μmの角張った透明鉱物が混じる。

漆層c₁は褐色を呈する漆層で、層厚は約15μm以下である。不純物が混じっている。

No10 案 (年輪No. 4、巻頭図版 4-(13))

塗膜構成は木地(a)と、木地上面に部分的に僅かな赤色顔料が凝聚している(c₁)が認められた。

木地aは針葉樹の木口面に朱の粒子が僅かに分布している。

塗層c₁は朱が凝聚した部分の最大厚は約25μmであるが、途切れがちである。明瞭な塗膜が認められず、疊着剤が塗かどうか不明である。

No11 簡形容器の蓋 (巻頭図版 2-(8)、4-04)

赤色の文様がある部分で、塗膜構成は塗膜下部の木地(a)とそれを覆う下地(b)、およびその上の塗層(c₁、c₂)からなる。

木地aは木材組織に下地の漆が浸透しており、下地中の黒色の微粒子が混じっている。

下地bは透過光で黒色を呈し、層中に透明鉱物が僅かに混じる。表面は僅かに起伏している。

塗層c₁は黄褐色を呈する透明塗層で、層厚は約45μm以下である。層中に径約3~4μmの不純物が散在している。表面は平滑である。

塗層c₂はベンガラを混和した赤色層で、ベンガラ粒子の密度は高い。層厚は約25μm以下である。

No12 簡形容器の蓋 (外面) (巻頭図版 2-(9)、4-05)

赤色の文様がある部分で、塗膜構成は塗膜下部の木地(a)とそれを覆う下地(b)、およびその上の塗層(c₁、c₂)からなる。

木地aは木材組織に下地の漆が浸透している。

下地bは透過光で黒色を呈し、層中に植物組織が認められた。層の上面はあまり平滑ではない。

塗層c₁は黄褐色を呈する透明塗層で、層厚は約40μm以下である。層中には不純物が多く混じる。上面は非常に平滑である。

塗層c₂はベンガラを混和した赤色層で、ベンガラ粒子の密度は高い。層厚は約10μm以下である。

No13 簡形容器の蓋 (内面) (巻頭図版 2-(9)、4-10)

塗膜構成は塗膜下部の木地(a)とそれを覆う下地(b)、およびその上の塗層(c₁、c₂)からなる。

木地aは木材組織に下地の漆が僅かに浸透している。

下地bは透過光で黒色を呈し、層中に角張った透明鉱物が僅かに混じる。表面は起伏する。

塗層c₁は黄褐色を呈する透明塗層で、層厚は40μm以下である。層中には不純物が多く混じる。表面から約10μmの幅で褐変している。

結果

今回の漆製品はすべて木胎漆器である。下地については、あるものとないものがある。ここでは、漆層に見られる黒色漆と赤色漆の技法および赤色顔料の種類を表に記した。現在までに調査した北部九州地方出土漆器は黒色漆と赤色漆の技法に次のようなタイプが認められる。黒色漆は①漆と木炭粉を混和した下地層の上に透明漆、②木炭粉以外の黒色物質の上に透明漆、③黒色顔料を含む層の上に透明漆、④朱を混和した漆層の上に透明漆、⑤木地との境界が判然としない茶褐色の塗膜、の5種である。赤色漆は①赤色漆の塗り重ね、②単層の赤色漆層(全面ないし文様)、③(塗かどうかわからぬ)不明顯着剤と朱の混和層、の3種である。黒色漆は、No 4、5、8、9、11~13で、②に属するものと思われる(8は①か②)。赤色漆は繩文晩期末のNo 1、2と弥生前期末から中期初頭のNo 6が①で、繩文晩期末のNo 3、4と弥生前期末から中期初頭の7、8、後期後半の9~12が②、後期後半のNo 10が③になる。以上についての考察は雀居遺跡第5次の調査報告書(第407集)を参照されたい。

V おわりに

第4次調査では、縄文晩期終末から弥生後期後半を中心とする時期の多量の遺構・遺物群が出土した。弥生後期終末から古墳時代にかけての遺物も出土するが量的には少ない。

縄文晩期終末のいわゆる夜臼式土器はSD03からまとまって出土している。II区の上坑や溝からも出土している。II区SD03から出土する夜臼式土器は北側から投げ込まれたような状態で完形に近いものや大破片のものが集中して出土している。集落はII区の掘立柱建物群が分布する地域と重複して広がっていたものと考えられる。残念ながら既に削平されてしまっており、竪穴住居址などは確認することができなかった。SD03出土の夜臼式土器は、下層に古いものが多い。深鉢は胴部が屈曲して口縁部が内傾するタイプと、逆砲弾状に口縁部から底部にかけて単純にすばまるタイプがある。副部肩曲部や口縁部には爪や工具によって丁寧な刻目突帯文が施される。外面は粗いカイガラ条痕で調整され、器色は黒味を帯びたものが多い。器形も中型から大型の深鉢がかなりの数を占める。この時期には、頸部の屈曲が明瞭で黒色研磨された鉢や浅鉢、丹塗り磨研や黒色磨研が施された大型・中型・小型の壺、大型の粗製の壺、四隅が山形に高くなる浅鉢、丹塗り磨研を中心とする大小の鉢、黒色磨研の高壺、組織痕文土器、ミニチュアの壺などが伴う。中層から上層に混入した夜臼式土器は、深鉢の胴部屈曲が弱く、屈曲部から口縁部まで長く立ち上がるものが多い。上層に混入したものは胴部に刻目突帯を有するが、胴部の屈曲が痕跡的なものも存在する。調整はカイガラ条痕で、細かなものやナデ消されたものなどがある。器形は小型化し、色調も褐色味を帯びてくる。鉢や浅鉢は屈曲などが弱くなり退化形態が日立つ。壺は口縁部の外反度が強くなる。また、下層から中層下部にかけては、口縁部が如意形に外反する深鉢は殆ど出土しなかった。中層以上やII区の上坑、溝などから出土するハケ目調整を施した副部が屈曲する深鉢は、色調が灰黒色を呈し、板付I式やII式の壺とよく類似している。時期的には最も新しくなるものであろう。

石器は、いわゆる大陸系の磨製石器と呼ばれる柱状片刀石斧、扁平片刀石斧、大型蛤刃石斧、磨製石鎌などがあり、縄文的な石器としては、両刃の磨製石斧、扁平打製石斧、打製石鎌などがある。その他、土製品としては紡錘車が出土している。胎土、焼成とも夜臼式土器によく類似している。

木製品は今回の報告では整理が追いつかず、ほとんど掲載することができなかった。別途追加報告を行うつもりであるが、簡単に概要を記しておくと、農具、工具、武具、装身具、生活用具、建築部材など多種多様のものが出土している。農具は、柄の付いた完形の平鋤、エブリ、鎌などがある。平鋤は2種あり、直角に柄が付くものとやや刃幅が狭く角度を持って柄に装着されるものがある。ともに外面の柄穴の部分は段状に盛り上がって整形されている。諸手鎌は製品、半製品、未成品、素材が出土している。量的に最も多く、集落内で製作されていたことが窺える。エブリは完形のものと未成品、素材が出土している。鎌は2種類あり、櫛状を呈するものとやや大型のものがある。農具の材はほとんどクヌギで、エブリの柄1点がアカガシ亜属であった。その他、停泥に似た加工板材がある。薄い作りで皿状に弯曲し、周囲に2箇所以上の穿孔がある。クヌギ材が使用されていた。工具には磨製石斧の柄がある。クヌギ製で、完形の縄文的な磨製石斧が装着されたままになっている。武具としては弓が3点出土している。漆塗り弓が2点、白木の丸木弓が1点である。漆塗り弓はともにヤマグワフ製で、赤漆だけを塗ったものと赤漆と黒漆を塗り分けて文様を描いたものがある。装身具は堅構の一部ではないかとみられる破片が出土している。クヌギの材に赤漆を塗ったもので凹線状の文様が描かれている。生活用具には堅杓、鉢、赤漆塗り容器把手がそれぞれ1点ずつ、把手付の槽が2点

出土している。堅杵はサカキ製ではば完形である。中央部の握り部分は鼓形になる。容器把手は把手部分のみで本体の形状は不明であるが、クスノキが素材に使われ赤漆が厚く塗られている。端部は割り貫かれ彫刻が施されている。縄文時代の石棒頭部を思わせるものである。把手付槽はイヌマキとクスノキ製である。大小ふたつのタイプがあり大型のタイプがクスノキ製である。建築部材には、上端部が二又に分かれた主柱、納穴の開いた部材、各種の板材などがある。

弥生前期から中期初頭にかけては、土器、石器、木製品が出土している。土器は甕が圧倒的に多く、壺、鉢、高坏などもある。壺と高坏には彩文を施しているものが多い。石器は、大型蛤刃石斧、抉入石斧、扁平片刃石斧、石庖丁、磨製石剣、磨製石鎌、打製石鎌などがある。大陸系の石器が中心になっている。

木製品は、農具、工具、武具、生活用具、建築部材などがある。農具には平鋤、又鋤、鎌がある。又鋤のひとつには柄が装着されている。工具には横槌がある。武具には赤漆を塗った弓2点、黒漆に桜の皮を巻いた弓1点、白木の弓1点がある。細形銅剣の把頭盤部も出土している。杏仁形を呈する鰐板で、残長8.5cm、幅3.5cm、厚さ0.5cmを測り半折している。材はサカキで赤漆が厚く塗られている。生活用具には、堅杵、脚の付いた皿、木鏟、杓子未成品などがある。堅杵は体部に2本の圓沈線をめぐらす。6脚の付いた皿はクスノキ製である。その他、権状木製品が出土している。断面が菱形を呈しており、権そのものか、剣形の儀杖具かはっきりしない。建築部材は柄を作り出した板材、納穴を掘り込んだ柱材などがある。

弥生後期中葉から後半代にかけては、環濠（SD02）に囲まれた掘立柱建物群と、環濠から出土した土器、石製品、金属器、木製品など遺跡の性格を物語るきわめて多彩な遺物が出土している。

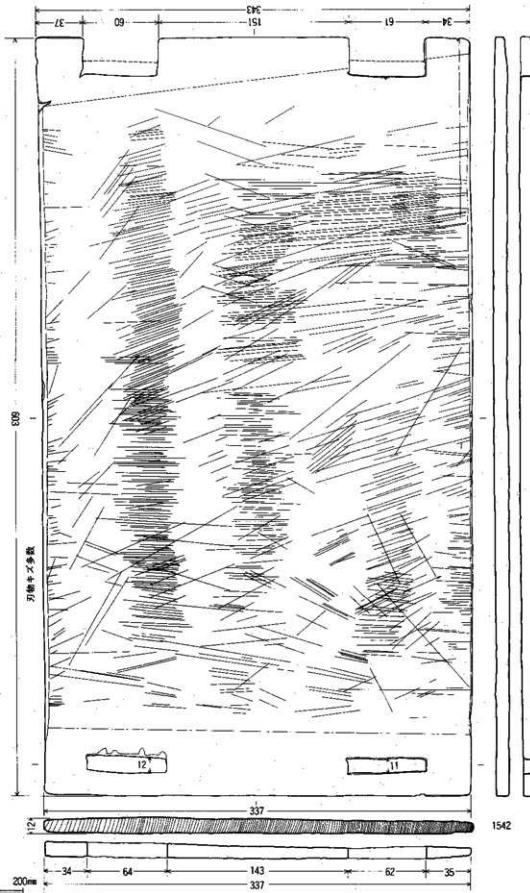
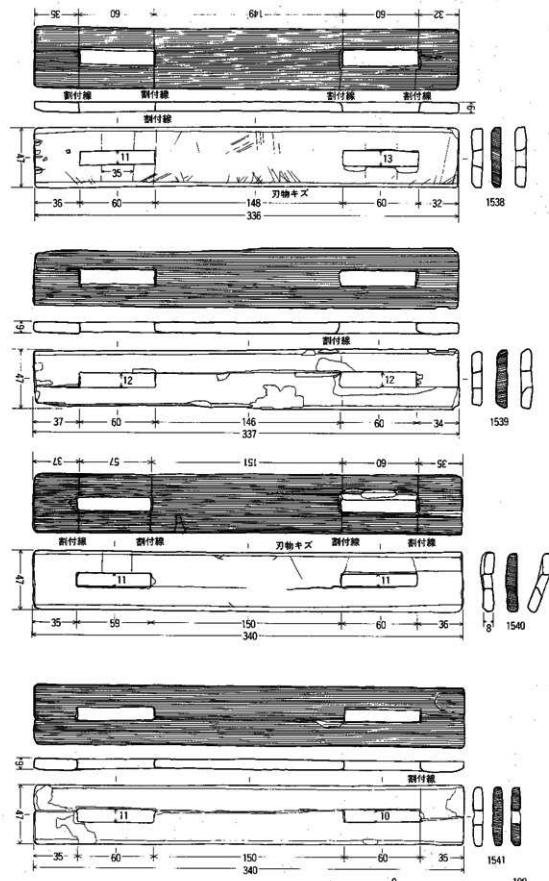
掘立柱建物は、第4次調査で26棟分検出している。梁行、桁行の柱間がそれぞれ1間×1間、1間×2間、1間×3間、2間×3間などの形態がある。柱穴の形はほとんど略方形である。II区の建物群は1間×1間と1間×2間が中心である。形の異なるSB55を除けばあとは規模が良く似ている。とともに各柱間の間隔が長く、梁行は3.6mを中心に3.3mから4.25mまである。柱に囲まれた床面積は12.5m²から22.5m²で、1間×1間の平均は12.9m²、1間×2間は18.6m²である。柱穴は0.8~1.0m四方で、基礎構造もよく残っている。各建物群は4回の切り合があり、最低4時期はあるものと考えられる。I区の建物群は、1間×1間、1間×2間、2間×3間のものがある。SB67は2間×3間で西側に柱列が並んでいる。床面積は23.6m²で、西側の建物群では中心的な建物になろう。I区も4回の切り合がある。II区の中心となるのは1間×3間の大型建物である。第5次調査では30m離れて4間×6間のさらに大型の建物が検出されている。特別な建物であることは間違いないから。掘立柱建物群は柱や基礎構造が良好に残っており、古代建築を考える上で重要であろう。

環濠内から出土した土器は、複合口縁壺・広口・長頸壺、超大型・大型・中型・小型の甕、高坏、鉢、器台など完形かそれに近いものが数百個体分出土している。下限式の古い段階から新しい段階まで含んでいると考えられ、資料的価値が高い。また肥後、豊前、瀬戸内、畿内など西日本一帯を含む外来系土器と縄席文や格子叩き文を施した壺など韓半島系の遺物も出土している。

石製品には器種不明の鋳型や小銅錠の中子、金属器には銅鏡5本と鉄斧3点がある。

木製品はきわめて出土量が多く、農具、工具、武具、祭祀具、生活用具、建築部材などがある。その中で組合式案（机）、内面に水銀朱を塗った剂貯式案、木甲、木鏟、漆塗りの筒形容器の蓋などは特に注目される。弥生後期文化の質の高さと内容の豊富さを如実に示しているものといえよう。

なお、報文中の樹種については奈良国立文化財研究所の光谷拓実先生の分析によるものである。遺物量の多さと担当者の能力不足で、本報告が概要報告に終始してしまったことをお許し願いたい。



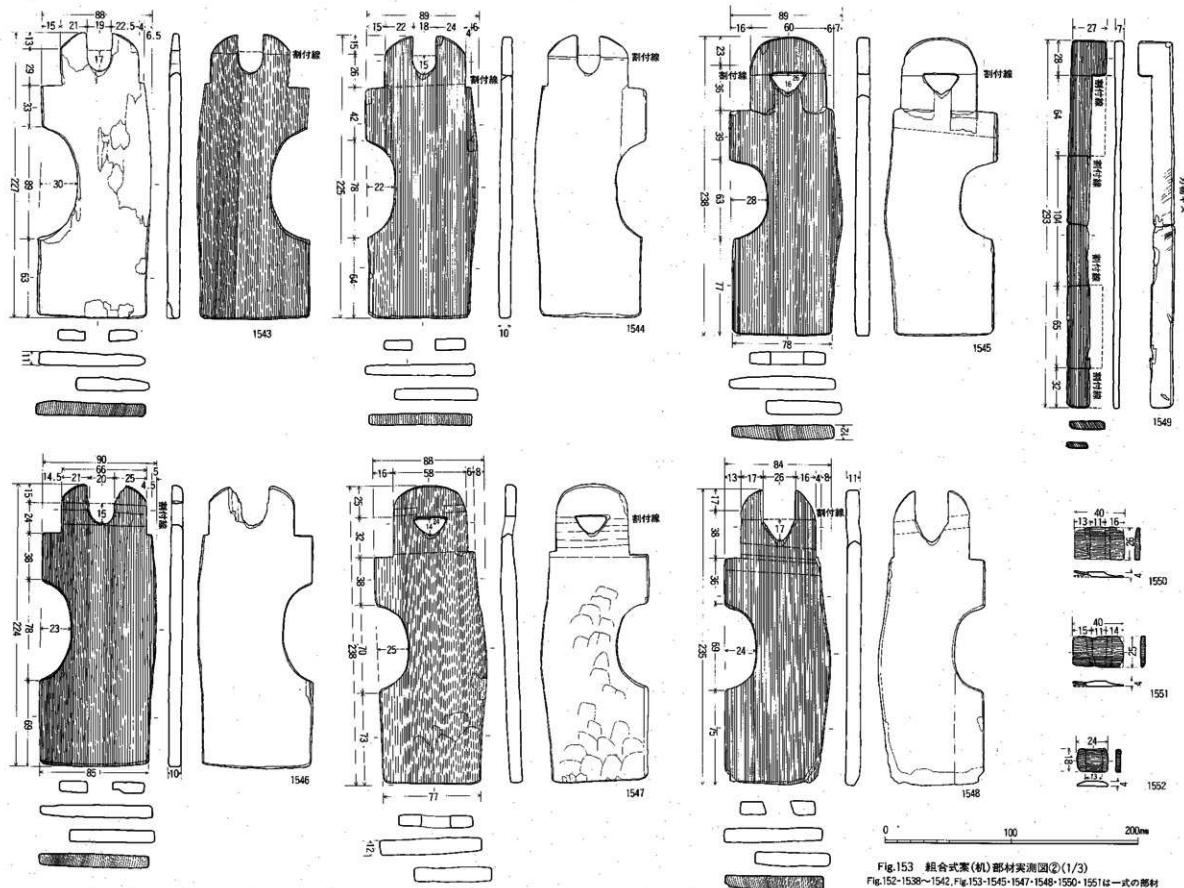


Fig.153 組合式案(机)部材実測図②(1/3)
Fig.152-1538~1542, Fig.153-1545~1547・1548・1550・1551は一式の部材

P L A T E



▲(1) 第4次調査区全景（北から） ▼(2) 第4次調査区全景（西から）





▲(1) SB50大型掘立柱建物出土状況（北から） ▼(2) SP181a (SB50) 中央柱穴出土状況（西から）





(1) SP79 (SB50) 碑板出土状况



(2) SP143 (SB50) 碑板出土状况



(3) SP80 (SB50) 碑板出土状况



(4) SP182 (SB50) 碑板・柱出土状况



(5) SP144 (SB50) 碑板出土状况



(6) SP167 (SB50) 碑板出土状况

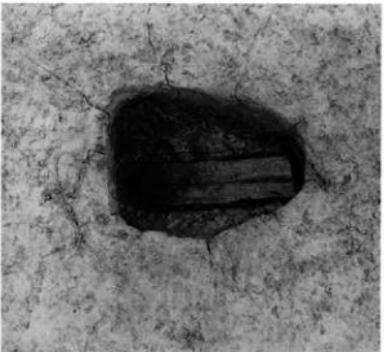


▲(1) SB67~70出土状況（北から） ▼(2) SB07出土状況（南から）





(1) SP02 (SB07) 柱出土状况



(2) SP24 (SB67) 環板出土状况



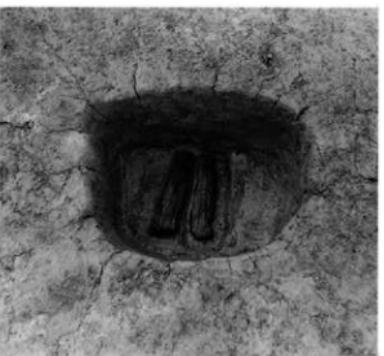
(3) SP03 (SB07) 柱出土状况



(4) SP25 (SB67) 環板出土状况



(5) SP01 (SB07) 柱出土状况



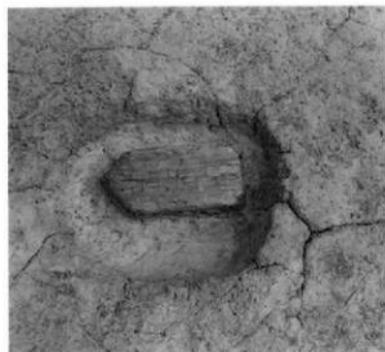
(6) SP52 (SB68) 環板出土状况



(1) SP43 (SB68) 瓦板出土状况



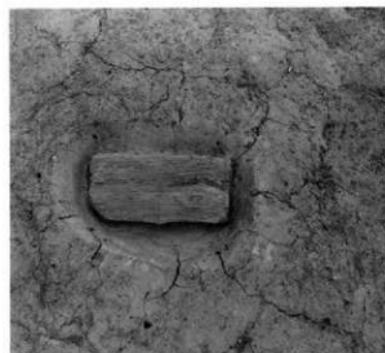
(2) SP71 (SB64) 瓦板出土状况



(3) SP42 (SB69) 瓦板出土状况



(4) SP70 (SB64) 瓦板出土状况



(5) SP78 (SB69) 瓦板出土状况



(6) SP66 (SB67) 瓦板出土状况



(1) SP16 (SB63) 碳板出土状况



(2) SP13 碳板出土状况



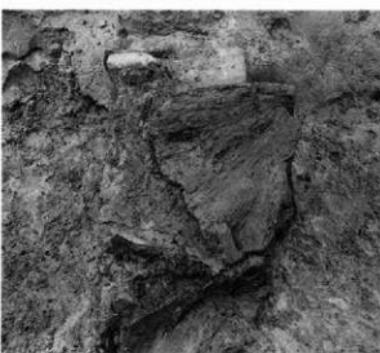
(3) SP09 (SB63) 碳板出土状况



(4) SP72 (SB65) 木屑出土状况



(5) SP64 (SB69) 碳板·柱出土状况



(6) SP506 植物纤维出土状况



▲(1) SB51出土状況（南から） ▼(2) SB54出土状況（南から）





(1) SP116 (SB51) 碑板出土状况



(2) SP128 (SB54) 碑板出土状况



(3) SP119 (SB51) 碑板出土状况



(4) SP127 (SB54) 碑板出土状况



(5) SP136 (SB51) 碑板出土状况



(6) SP126 (SB54) 碑板出土状况



▲(1) SB55・56・58出土状況（東から）

▼(2) SB55～58出土状況（東から）





(1) SP104 (SB55) 柱出土状况



(2) SP95 (SB56) 矩板出土状况



(3) SP97 (SB55) 柱出土状况



(4) SP94 (SB56) 矩板・柱出土状况



(5) SP101 (SB55) 柱出土状况



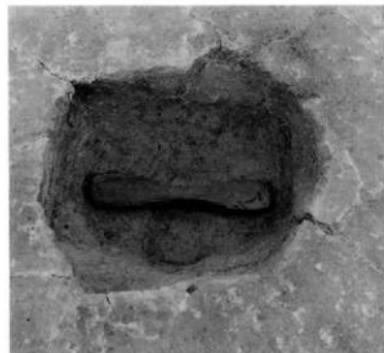
(6) SP94 (SB56) 矩板・柱出土状况



(1) SP122 (SB57) 碑板出土状况



(2) SP110 (SB58) 碑板出土状况



(3) SP270 (SB49) 碑板出土状况



(4) SP113 (SB58) 碑板出土状况



(5) SP96 (SB58) 碑板出土状况



(6) SP109 (SB58) 碑板出土状况



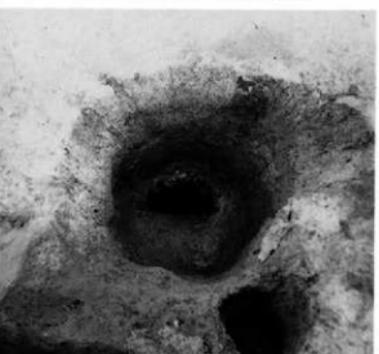
(1) SP83 (SB47) 硓板出土状况



(2) SP149 (SB48) 硓板出土状况



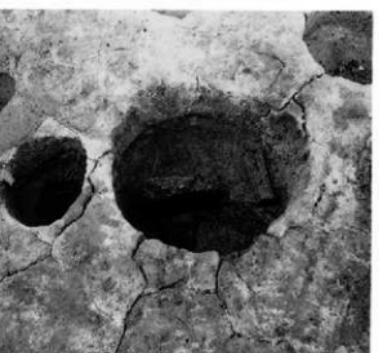
(3) SP199 (SB47) 硓板出土状况



(4) SP114 板状柱出土状况



(5) SP191 硓板·柱出土状况



(6) SP463 板状柱出土状况



▲(1) 調査区北西壁土層堆積状況 ▼(2) 調査風景－通常の日－（南から）





▲(1) SX04・08出土状況（南東から） ▼(2) SC05出土状況（北から）





▲(1) SX06出土状況（南から） ▼(2) SX04・08出土状況（西から）





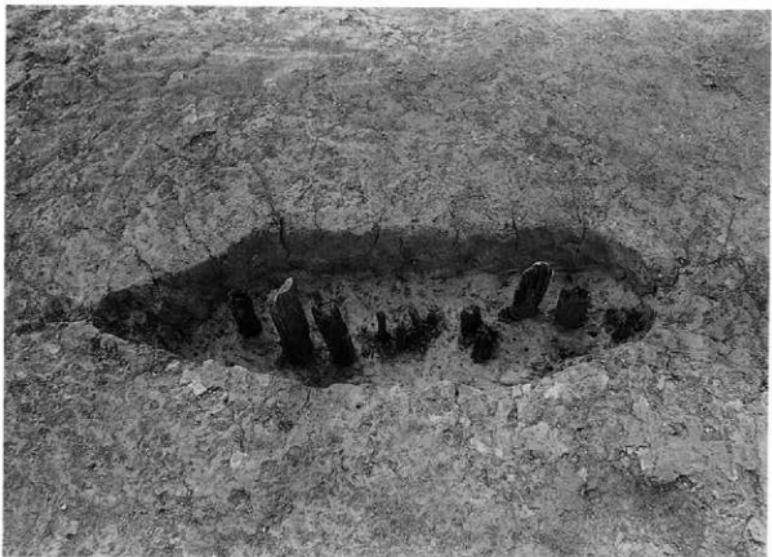
▲(1) SX11出土状況（南から） ▼(2) SX12出土状況（東から）





▲(1) SX13杭列出土状況（北西から） ▼(2) SX14出土状況（北から）



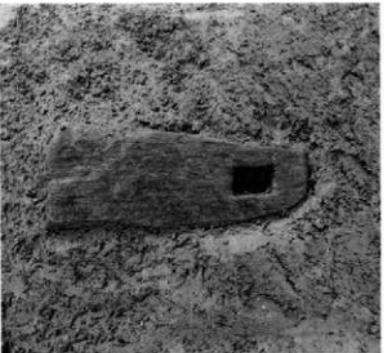


▲(1) SX16出土状況（東から） ▼(2) SK32出土状況（南から）





(1) SX04鉤出土状况



(2) SC05平櫓出土状况



(3) SX08木柱出土状况



(4) SC05組合式案（机）部材出土状况



(5) SX08三叉櫓出土状况



(6) SX11二叉櫓出土状况



(1) SX12櫛状木製品出土状況



(2) SX12鋤出土状況



(3) SX08繩形銅剣把頭飾盤部出土状況



(4) SX12建築部材出土状況



(5) SX12赤漆塗り弓出土状況



(6) SX12彩文土器出土状況

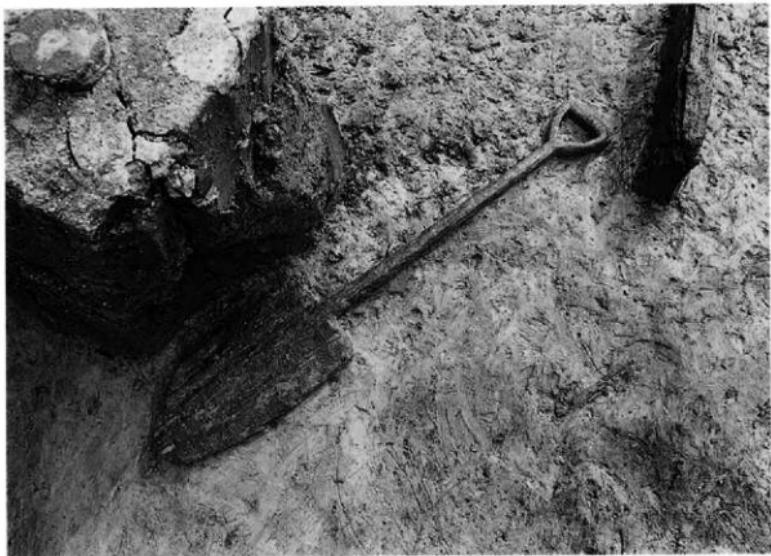


▲(1) I区SD02出土状況（北がら） ▼(2) SD02土層堆積状況（南から）





▲(1) I 区SD02下层杭列出土状况 ▼(2) I 区SD02下层築出土状况





(1) I 区SD02銅柄出土状况



(2) I 区SD02竖杆出土状况



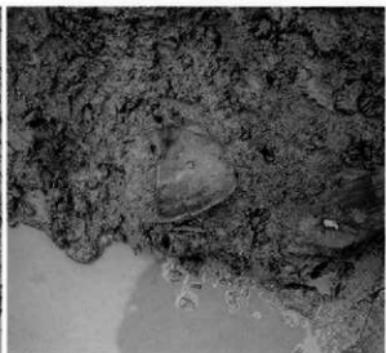
(3) I 区SD02木槌出土状况



(4) I 区SD02把手付槽出土状况



(5) I 区SD02木槌出土状况



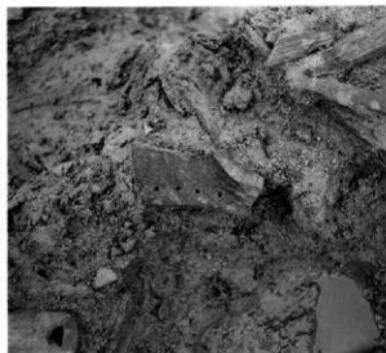
(6) I 区SD02木槌出土状况



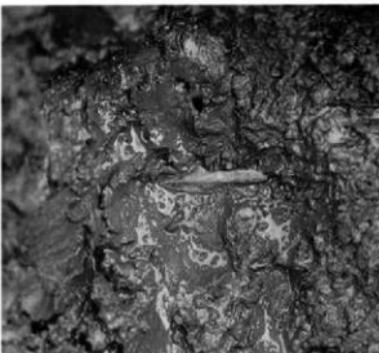
(1) I 区SD02筐出土状况



(2) I 区SD02组合式案(机)脚出土状况



(3) I 区SD02高坏脚部出土状况



(4) I 区SD01铜鎛出土状况



(5) I 区SD02容器出土状况



(6) I 区SD02编筐出土状况



▲(1) II区SD03上層下遺物出土状況（南から） ▼(2) II区SD03上層下遺物出土状況（西から）





▲(1) II区SD03上層下遺物出土状況（北から） ▼(2) II区SD03上層下木材出土状況（北から）





▲(1) II区SD03上層下組合式案（机）出土状況（北から）▼(2) II区SD03上層下刺貫式案出土状況（北から）





▲(1) II区SD03土層堆積状況（東から） ▼(2) II区SD03上層下木甲出土状況





(1) II区SD03土器出土状況



(2) II区SD03二又器出土状況



(3) II区SD03壺・容器・建築部材出土状況



(4) II区SD03二又器出土状況



(5) II区SD03平器出土状況



(6) II区SD03エブリ出土状況



(1) II区SD03エブリ出土状況



(2) II区SD03柱材出土状況



(3) II区SD03竖杆出土状況



(4) II区SD03三孔器出土状況



(5) II区SD03容器出土状況



(6) II区SD03弥生前期壺出土状況



▲(1) I 区SD03下層遺物出土状況（北東から） ▼(2) I 区SD03下層遺物出土状況（南東から）



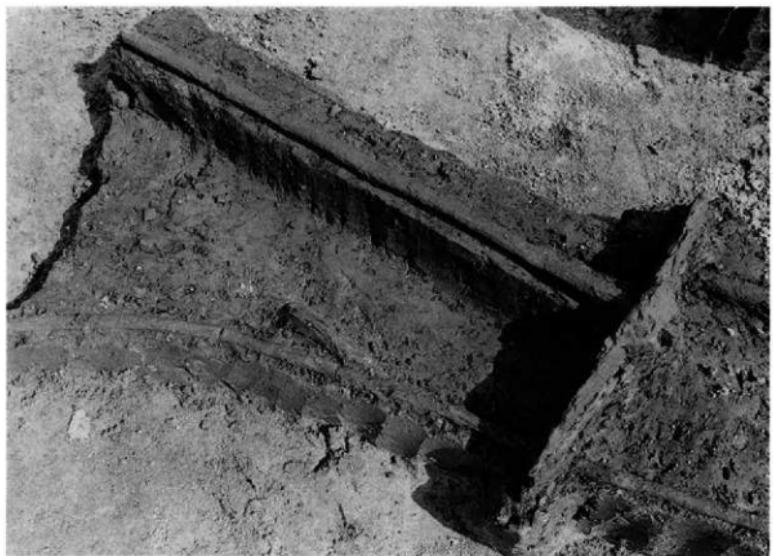


▲(1) I 区SD03下層遺物出土状況（東から） ▼(2) I 区SD03下層磨製石斧出土状況





▲(1) I区SD03下層平倣出土状況 ▼(2) I区SD03下層エブリ出土状況





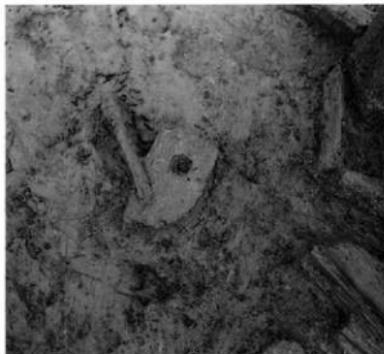
▲(1) I区SD03下層櫂状木製品（鋤）出土状況 ▼(2) I区SD03下層鋸状木製品出土状況





▲(1) I区SD03下層堅杵出土状況 ▼(2) I区SD03下層漆塗り弓出土状況





(1) I 区SD03平把出土状况



(2) I 区SD03竖杆出土状况



(3) I 区SD03把手付容器出土状况



(4) I 区SD03諸手鍤未成品出土状况



(5) I 区SD03把手槽出土状况



(6) I 区SD03建筑部材出土状况



(1) II区SD03下層漆塗り容器把手出土状況



(2) I区SD03深鉢出土状況



(3) I区SD03丹塗り臺・深鉢出土状況



(4) I区SD03臺・磨製石斧出土状況



(5) I区SD03浅鉢出土状況



(6) I区SD03イノシシ下脛骨出土状況



出土遺物 土器①





出土遺物 土器③



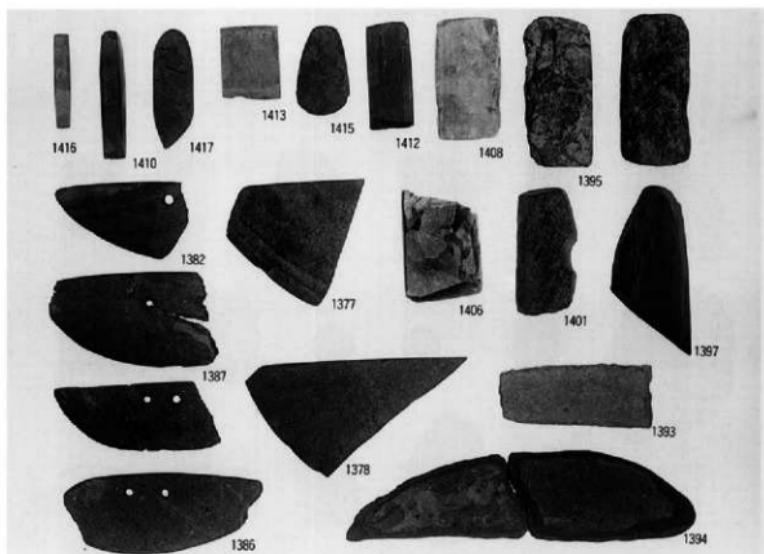
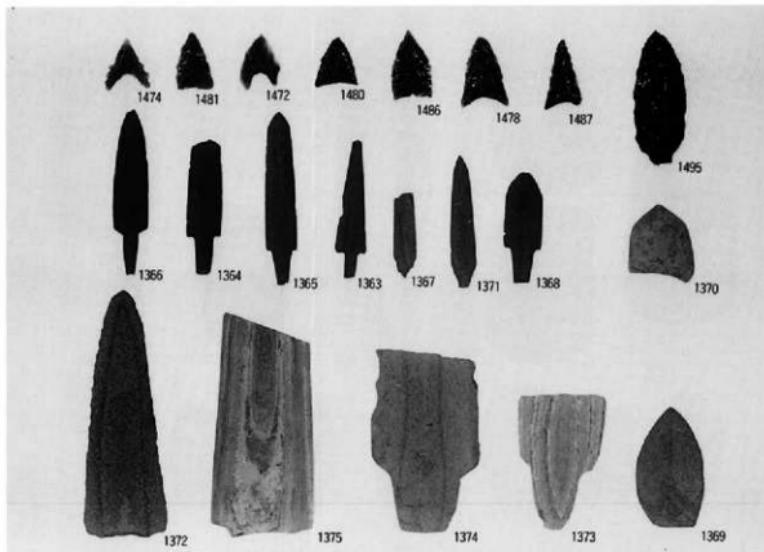
出土遺物 土器④



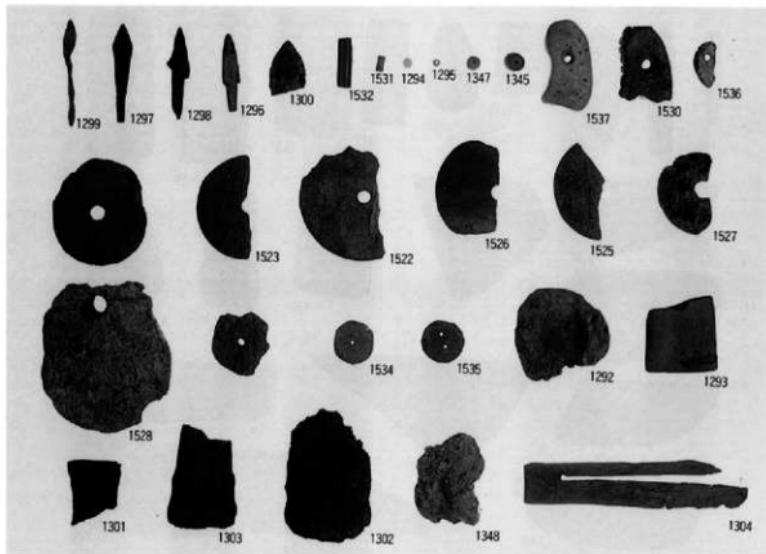
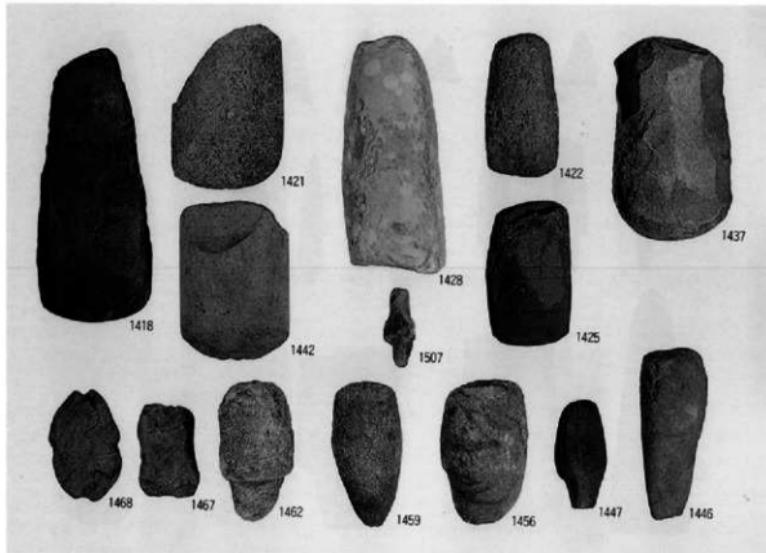
出土遺物 土器(5)



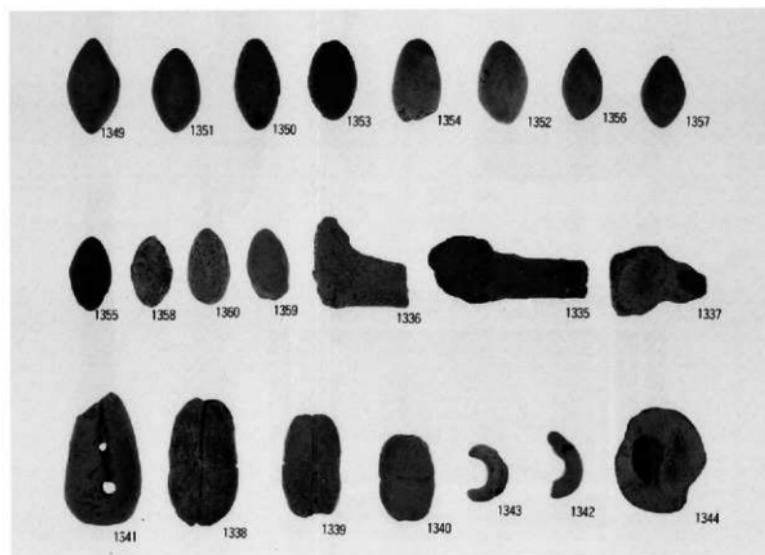
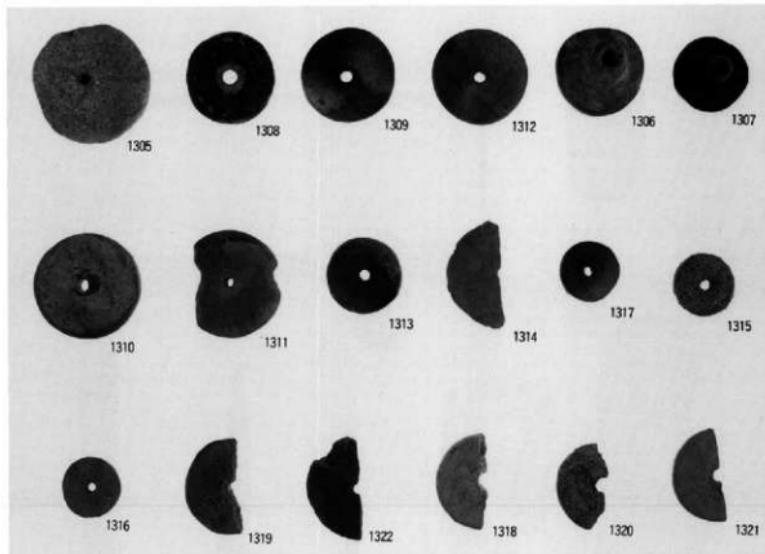
出土遺物 土器⑤



出土遺物 石器①



出土遺物 石器②・石製品・金属製品・ガラス製品・骨製品



出土遺物 土製品



出土遺物 木製品

福岡空港西側整備に伴う
埋蔵文化財調査報告
福岡市埋蔵文化財調査報告書第406集

雀居遺跡 2

1995年（平成7年）3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区大神1丁目8-1
印刷 赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8-34

